

Acronis

Acronis Files Connect

バージョン 11

目次

1	はじめに	6
2	クイックスタートガイド	6
2.1	Files Connect のシステム要件.....	7
2.2	Files Connect のインストール.....	9
2.3	最初の実行/ライセンスのインストール.....	10
2.4	共有ボリュームの初期設定	11
2.5	共有印刷キューの初期設定	15
2.6	Mac クライアント	17
2.7	Mac Finder からの接続.....	24
2.8	オプションの Files Connect Zidget™	25
2.9	追加のリソース.....	26
3	Files Connect のインストール	29
3.1	はじめに	29
3.1.1	システム要件	30
3.1.2	ヘルプの表示	32
3.2	Files Connect のインストール.....	33
3.2.1	開始する前に	33
3.2.2	Files Connect のインストール.....	34
3.3	Files Connect の最初の起動	36
3.3.1	SMB ファイル共有の自動インポート.....	37
3.3.2	Files Connect クラスターの設定.....	40
3.3.3	Kerberos の使用.....	58
3.4	Files Connect クラスターの設定.....	59
3.4.1	クラスター ワークシート.....	62
3.4.2	クラスター上での Files Connect のインストール	65
3.5	クラスター上の Files Connect の管理	78
3.6	Mac クライアントおよび Zidget アクセス用の Files Connect サーバーの構成.....	79

3.7	プライマリ サーバーへの他のサーバーの追加	81
4	Files Connect のアップグレード	82
5	Files Connect の設定	84
5.1	Files Connect ファイル サーバー	84
5.1.1	Files Connect ファイル サーバーの開始および停止	84
5.1.2	Files Connect サーバーの構成.....	84
5.1.3	Network Reshare サポートの設定.....	115
5.2	Files Connect のリモート管理.....	128
5.3	クライアント コンピューターでの Files Connect への印刷の設定.....	129
5.3.1	Files Connect Zidget.....	131
5.4	クライアントでの Zidget のインストールと構成	132
5.4.1	Zidget を使用したプリンタの追加.....	134
5.4.2	Zidget を使用した Files Connect 共有ボリュームのマウント.....	135
5.4.3	Zidget を使用した DFS 共有ボリュームのマウント	136
5.4.4	プリンタセットアップユーティリティ	137
5.4.5	プリント ダイアログでの Bonjour の使用.....	139
5.4.6	クライアントからの Print Accounting 機能の使用	143
5.5	ウェブ ページからのプリンタの追加	144
5.6	DFS サポートのための Mac クライアントの設定	146
5.6.1	Files Connect Mac クライアント.....	147
5.6.2	Files Connect Zidget オプション	148
5.7	ライセンス プロダクトキーの追加	149
6	Files Connect での検索.....	151
6.1	列挙型検索	151
6.2	カタログ検索	151
6.3	Spotlight 検索	152
6.4	検索インデックス ファイルの格納	153
7	Files Connect の使用	154
7.1	Files Connect ファイルサーバーの使用	154

7.1.1	Files Connect で使用するボリュームの作成.....	154
7.2	Files Connect ユーザー	173
7.2.1	Mac ユーザーの接続.....	175
7.2.2	Files Connect を使用して開いたファイルの表示.....	177
7.3	ログの使用	178
7.3.1	操作ログによるアクティビティの追跡	178
7.3.2	印刷ログの使用	180
7.4	Files Connect プリントサーバーの使用	182
7.4.1	プリント サーバーの動作.....	183
7.4.2	印刷キューの設定	183
7.4.3	処理方法の設定	185
7.4.4	ジョブの処理の制御	189
7.4.5	印刷キューの発行	190
7.5	Print Accounting の使用.....	191
7.5.1	Print Accounting の設定.....	192
8	バックアップとリカバリ	198
9	付録.....	200
9.1	付録 A: レジストリ キーの使用.....	200
9.1.1	切断したセッションの再接続	200
9.1.2	セッション中のパスワード期限切れ通知の送信.....	201
9.1.3	EZIPUTIL による再インデックス化のスケジュール	201
9.1.4	テキスト ファイルへの印刷ログ エントリの追加.....	202
9.1.5	Files Connect の [印刷処理ログ] の列のカスタマイズ	202
9.1.6	列.....	202
9.2	付録 B: Files Connect の監視.....	204
9.2.1	Files Connect ファイル サーバー用のカウンタ	204
9.2.2	Files Connect ファイル サーバー ユーザー用のカウンタ	206
9.2.3	Files Connect ファイル サーバー ボリューム用のカウンタ	206
9.2.4	Files Connect 印刷用のカウンタ.....	206
9.2.5	Files Connect 印刷キュー用のカウンタ.....	207
10	補足資料.....	208
10.1	TCP/IP ポート	208

10.2 Files Connect サポートツール.....	209
10.2.1 Mac サポート アプリケーションおよびツール.....	209
10.2.2 Mac のパフォーマンス テスト アプリケーション.....	210
10.2.3 Windows サポート ツールおよびスクリプト	211
10.2.4 Windows アプリケーション.....	212
10.3 Files Connect 互換性情報	213
10.4 Windows レジストリ キー	214
10.4.1 一般的なパラメータ レジストリキー - 更新不可	215
10.4.2 一般的なパラメータ レジストリキー - 更新可能	227
10.4.3 デバッグログ レジストリキー - 更新可能	245
10.4.4 デバッグログ レジストリキー - 更新不可	249
10.4.5 印刷パラメータ レジストリキー - 更新可能	250
10.4.6 印刷パラメータ レジストリキー - 更新不可	252
10.4.7 ファイル名ポリシー レジストリキー - 更新可能	253
10.4.8 HTTP 検出レジストリキー - 更新可能	257
10.4.9 Spotlight レジストリキー - 更新可能	259
10.4.10 HSM レジストリキー - 更新可能	263
10.4.11 VSS レジストリキー - 更新可能	264
10.5 Files Connect ストリーム	265
10.6 EZIPUTIL コマンドラインツール	267
10.7 ローカル SYSTEM アカウントでの Network Reshare および Kerberos 認証	278
11 Zidget ヘルプ	280
12 既知の問題	283
13 新機能	284

1 はじめに

このガイドでは、Files Connect のインストール、設定、および機能について説明します。

Files Connect について

Files Connect を使用すると、Macintosh® コンピュータから Windows® コンピュータに対して Apple Filing Protocol (AFP)ファイル共有および IP 印刷を実行できます。Files Connect は、ファイルおよび印刷のサービスを可能な限り高速に提供できるように最適化されています。また、Mac/Window で一般的なファイル共有の問題を解決し、Network Spotlight フル コンテンツ検索や Time Machine バックアップなどの Apple テクノロジをサポートします。

Files Connect には次のサービスが含まれています。

- Files Connect ファイル サーバー
- Files Connect プリント サーバー

Mac ユーザーは、Files Connect を使用することにより、ネイティブの AFP ボリュームの場合とまったく同じ方法で、Windows ファイルサーバー上のディレクトリに接続してマウントすることができます。Files Connect プリント サーバーをインストールすると、Mac ユーザーはデスクトップ プリンタを作成し、サーバーを経由して自動的に印刷ジョブをプリンタに送ることができます。Files Connect は既存のネットワークにシームレスに統合します。Mac ユーザーは、これまで常に使用してきた同じツールやアプリケーションを引き続き使用してサーバーやプリンタにアクセスできます。

2 クイックスタートガイド

セクションの内容

Files Connect のシステム要件	7
Files Connect のインストール	9

最初の実行/ライセンスのインストール	10
共有ボリュームの初期設定	11
共有印刷キューの初期設定	15
Mac クライアント	17
Mac Finder からの接続	24
オプションの Files Connect Zidget™	25
追加のリソース	26

2.1 Files Connect のシステム要件

ご使用のサーバーが Files Connect の要件を満たしていることを確認してください。インストールを開始する前に、**[サービス]** コントロール パネルをはじめとするすべての実行中のプログラムを終了することをお勧めします。

Windows サーバー プラットフォームおよび Windows Workstation プラットフォーム上の Files Connect ファイルサーバーおよびプリントサーバーのシステムの最小要件と、Mac クライアントから接続するためのシステムの最小要件は次のとおりです。最適な結果を得るには、Windows Server コンピューターで Microsoft® の最新の Service Pack が実行されている必要があります。サーバーマシンに RAM をさらに追加すると、Files Connect のパフォーマンスが大きく向上します。個々の実装やアプリケーションごとに、推奨されるシステム要件が異なる可能性があります。ご質問がある場合やサポートが必要な場合は **アクロニス テクニカルサポート** にお問い合わせください。

注意: GroupLogic AppleTalk は、Files Connect のバージョン 11.0 以降サポートされなくなりました。

オペレーティングシステム要件

Windows Server プラットフォーム

注意: 10.5 より前のバージョンの Files Connect では、旧バージョンの Windows Server がサポートされます。これには、Windows Storage Server 2008 Service Pack 2、Windows Storage Server 2003 Service Pack 2 および R2 Service Pack 2、2008 Service Pack 2、2003 Service Pack 2 および 2003 R2 Service Pack 2 が含まれます。

- 2019 Standard および Datacenter

- 2016 Standard & Datacenter & Essentials
- 2012 R2 Standard & Datacenter & Essentials
- 2012 Standard & Datacenter & Essentials
- 2008 R2 Service Pack 1
- 2011 Small Business Server Standard Update Rollup 3

注意: Windows Small Business Server 2011 Essentials はサポートされません。

- Windows Storage Server 2016
- Windows Storage Server 2012 R2
- Windows Storage Server 2012
- Windows Storage Server 2008 R2 Service Pack 1
- Windows Powered NAS

Windows ワークステーション プラットフォーム:

注意: 10.5 より前のバージョンの Files Connect では、旧バージョンの Windows (Vista や XP など) がサポートされません。

- Windows 10
- Windows 8
- Windows 7 Service Pack 1

Mac クライアント:

macOS: Mac OS X 10.7 以降。

注意: Files Connect は最新の Mac クライアントテクノロジーをサポートしています。これには Bonjour®、Kerberos®、および長いパスワードのための Apple 組み込み暗号化ログオンサポートが含まれます。

注意: Print Accounting には、Mac OS X 10.6 以降で 64 ビット モードで動作するアプリケーションとの互換性はありません。

ハードウェア要件

最小構成

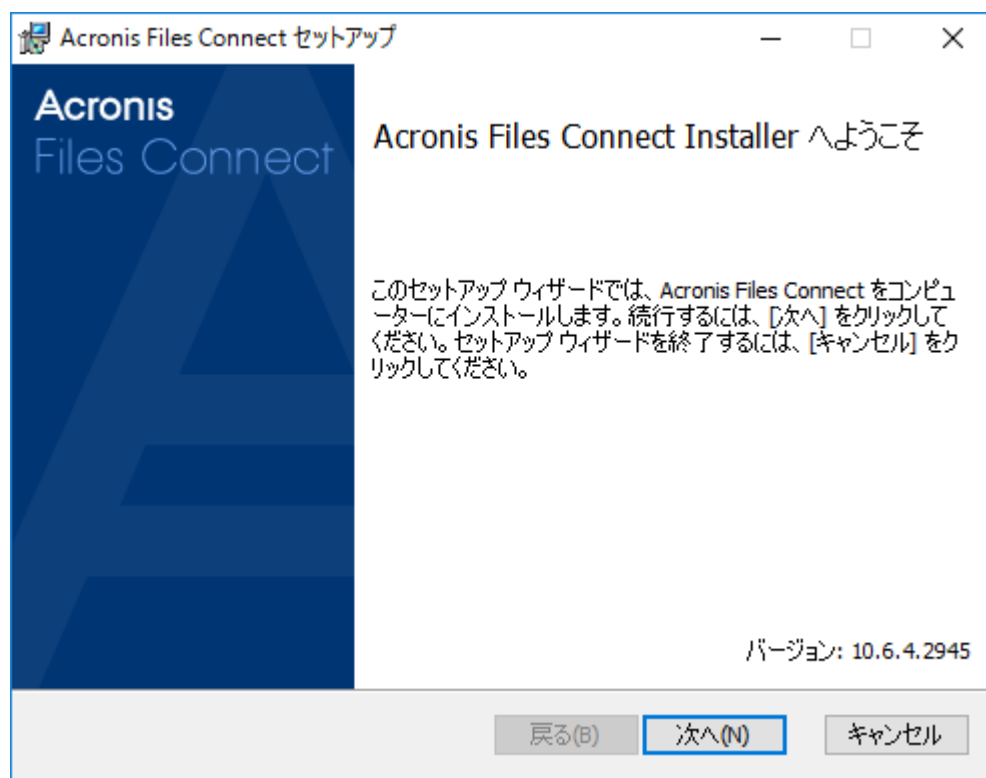
- ローカル共有 - Core クラス CPU、2 個以上のコア、RAM 4 GB
- Network Reshare - Core 'i' クラス CPU、4 個以上のコア、RAM 8 GB、デュアル非ボンディング ギガビットイーサネット NIC

注意: ボリューム数、ユーザー数、サーバー上で実行される他のアプリケーションの数に応じて、実際にはより多くのリソースが必要となる可能性があります。

2.2 Files Connect のインストール

1. **Acronis Files Connect インストーラ**を実行します。

注意: Files Connect をインストールするには、Windows に管理者権限でログインする必要があります。



2. **[次へ]** をクリックして、インストールを開始します。
3. ソフトウェア ライセンス条項に同意し、**[次へ]** をクリックします。
4. **[次へ]** をクリックして、デフォルトのインストール先フォルダをそのまま使用します。
5. **[インストール]** をクリックして、インストールを開始します。

注意: 以前のバージョンの Acronis Files Connect がインストールされている場合、新しいバージョンにアップグレードされます。既存の設定は保持されます。

6. **[終了]** をクリックして完了したインストーラを閉じると、**Acronis Files Connect Administrator** が自動的に起動します。

2.3 最初の実行/ライセンスのインストール

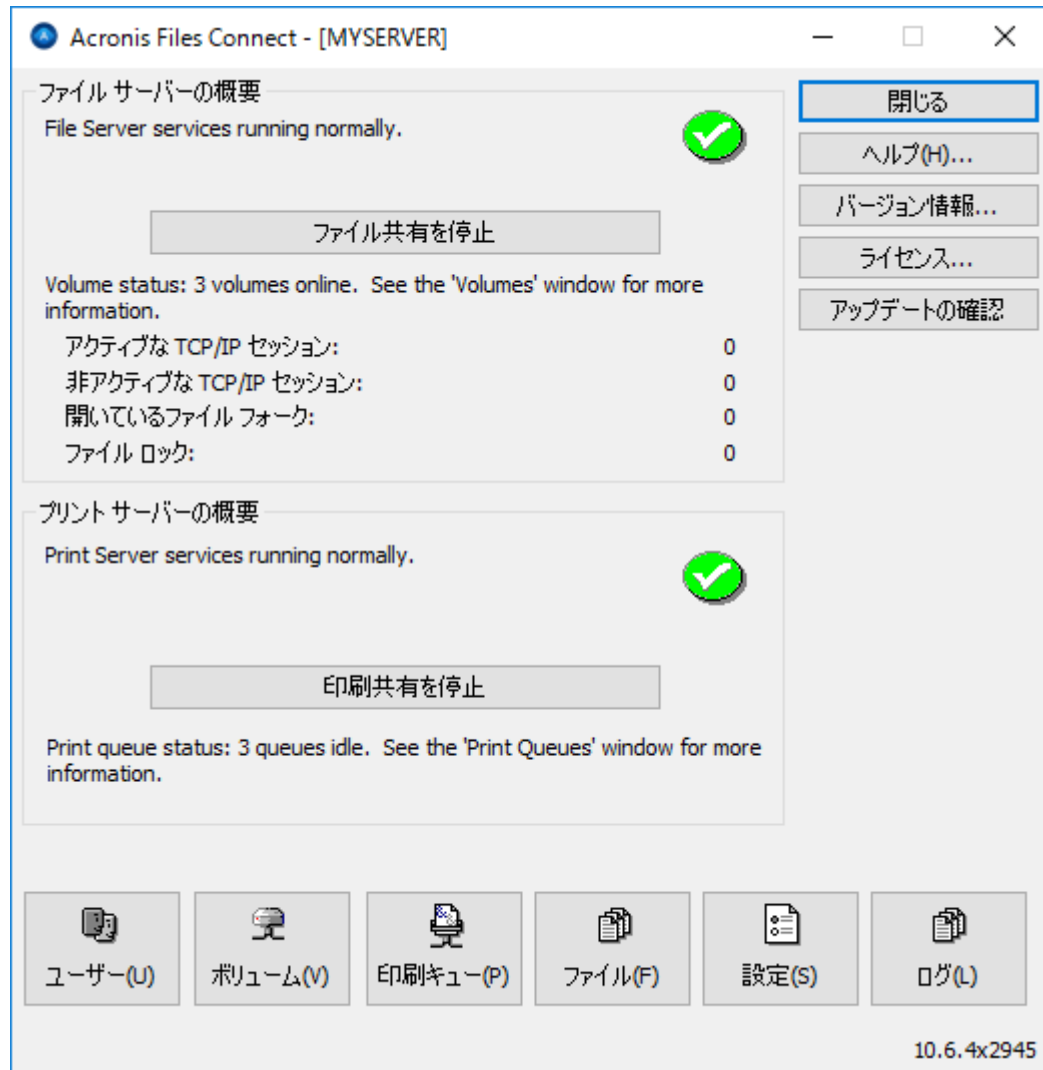
初めて Files Connect を始動するとき、**プリント サーバー**を有効化するかどうかを選択できます。

新しい Files Connect は、デフォルトでは**試用版**モードでインストールされます。Files Connect ライセンスを持っている場合、ライセンス プロダクトキーを入力します。この操作の詳細については、「ライセンス プロダクトキーの追加 『149ページ 』」を参照してください。

以前のバージョンの Files Connect をアップグレードした場合は、継続して既存のライセンス プロダクトキーが使用されます。

2.4 共有ボリュームの初期設定

1. Acronis Files Connect Administrator を開きます。

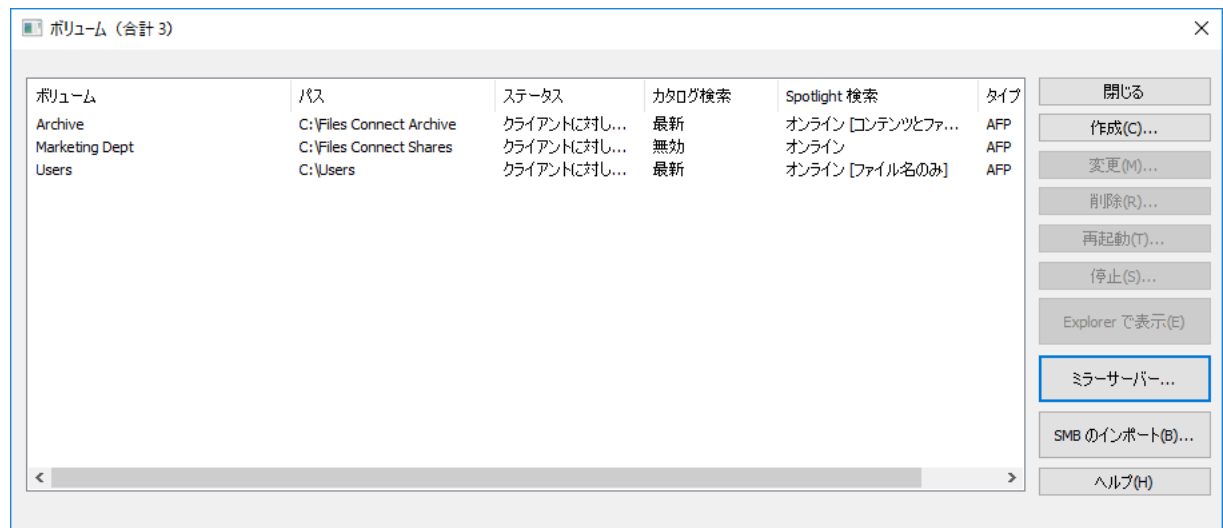


- **ファイル共有を停止** - すべてのクライアントを切断し、サーバーに新しく接続できないようにします。
- **印刷共有を停止** - すべてのプリンタを切断し、新しく接続できないようにします。
- **ユーザー** - 接続しているユーザーのリストを表示します。
- **ボリューム** - 共有ボリュームを作成または設定します。
- **印刷キュー** - **印刷キュー**を作成または管理します。
- **ファイル** - Mac クライアントによって使用される現在開いているファイルを表示します。

- **設定** – Files Connect 設定を編集します。
- **ログ** – Windows イベントビューアでの Files Connect 関連イベントを表示します。

注意: 初めて Acronis Files Connect Administrator を開くと、共有ボリュームを作成するか、既存の SMB 共有を Files Connect にインポートするよう促されます。この操作は、**[ボリューム]** ウィンドウからいつでも実行できます。

2. **[ボリューム]** をクリックします。**[ボリューム]** ウィンドウが表示されます。



- **作成:** ボリュームを作成します。
- **変更:** [ボリューム プロパティ] ウィンドウが表示されます。
- **削除:** 選択したボリュームを削除します。
- **再起動:** ボリュームを再起動します。
- **停止:** ボリュームを一時的にオフラインにして、クライアントが接続できないようにします。

注意: 停止中のボリュームは、Files Connect サービスを再起動するたびに再開されます。

- **Explorer で表示:** Windows Explorer でボリュームの親フォルダを表示します。
- **SMB のインポート...:** Windows のファイル共有 (SMB) で共有されているすべてのフォルダを Files Connect でも共有します。

3. **[作成]** をクリックして新しいボリュームを作成します。**[ボリューム プロパティ]** ウィンドウが表示されます。

ボリューム プロパティ

ボリューム名: Marketing Documents [OK]

パス: C:\Documents and Settings [...] [キャンセル]

ボリュームサービス

Apple Filing Protocol (AFP) ファイルおよび検索

検索専用 (Mac クライアントは SMB を使用して接続します)

属性

ボリュームを読み取り専用にする (R)

ゲストにボリュームの使用を許可する (G)

ボリュームをホーム ディレクトリとして使用する (D)

移動に関する権限をリセット

ファイル吊ポリシーを適用する

ボリュームで ACL をサポート

検索

Spotlight 検索をサポートする

Acronis Content Indexing

Windows Search

カタログ検索をサポートする

インデックス オプション

ArchiveConnect

明示的にオンラインにする

Time Machine

Time Machine バックアップをサポートする

カスタム クォータがないユーザーを次のサイズに制限する: 100 GB

カスタム クォータ...

- **ボリューム名** - ボリュームの名前を選択します。
- **パス** - 共有するフォルダを参照します。
- **Apple Filing Protocol (AFP)のファイルと検索:** これがデフォルトの設定で、AFPによってアクセス可能なボリュームが作成されます。このボリュームは、Files Connect Mac クライアントアプリと Mac Finder からアクセスおよび検索可能です。ファイルを開くときと作成されたボリュームを参照するときに、どちらの場合も Mac は AFP を使用して接続します。
- **検索専用 (Mac クライアントは SMB を使用して接続します):** このオプションを選択すると、ボリュームは Files Connect Mac クライアントアプリに表示されて検索可能になりますが、AFP ボリュームとして共有されることはありません。AFP を使用して Files Connect サーバーに接続する Mac には、このボリュームは表示されません。Mac は、Files Connect Mac クライアントアプリで検出された「検索専用」ボリュームとファイルに SMB を使用して自動的に接続します。この接続では、既

存の Windows または NAS SMB ファイルサーバー共有ボリュームが使用されま
す。

- **ボリュームを読み取り専用にする** - ボリュームへの書き込みを禁止します。
- **ゲストにボリュームの使用を許可する** - オンにすると、Mac ユーザーは名前とパスワードを指定せずにファイルサーバーにログインできます。
- **ボリュームをホーム ディレクトリとして使用する** - ユーザーのホームディレクトリ以外のすべてのディレクトリをフィルタで除外します。
- **移動に関する権限をリセット** - 移動したファイルとフォルダの権限をリセットし、移動先フォルダから継承します。
- **ファイル名ポリシーを適用する** - グローバル設定で定義されたファイル名ポリシーを適用します。
- **ボリュームで ACL をサポート** - ACL サポートにより、Mac クライアントは Windows アクセス制御リストを使用できるようになります。
- **Spotlight 検索をサポートする** - ファイルの属性およびコンテンツに対する Spotlight 検索を有効にします。
 - **Windows Search** - オンにすると、このボリュームでデフォルト検索エンジンとして Windows Search が使用されます。
 - **Acronis Content Indexing** - オンにすると、このボリュームでデフォルト検索エンジンとして Acronis Content Indexing が使用されます。
- **カタログ検索をサポートする** - このチェックボックスをオンにすると、このボリュームのカタログ検索が有効になります。
- **インデックスオプション** - すべてのインデックス付けオプションを構成します。
- **Time Machine バックアップをサポートする** - ボリュームを Time Machine クライアントにアドバタイズ (通知) します。

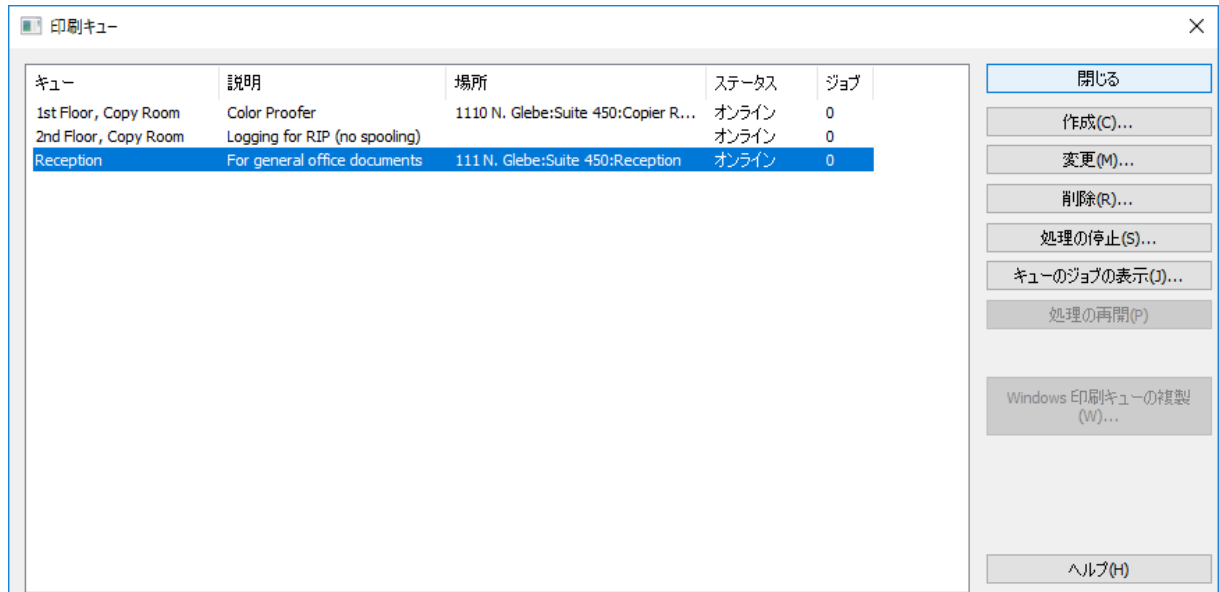
4. 共有するフォルダを参照します。

注意: リムーバブル デバイス (フラッシュ ドライブ、USB ドライブなど)をボリュームとして使用することは、サポートされていません。

5. **[OK]** をクリックし、Files Connect を使用してボリュームを共有します。

2.5 共有印刷キューの初期設定

1. **Acronis Files Connect Administrator** で **[印刷キュー]** をクリックします。 **[印刷キュー]** ウィンドウが表示されます。



- **作成** - 印刷キューを作成します。保留中のジョブのリストを表示するウィンドウが開き、印刷ジョブの開始、停止、または順序変更ができます。
- **処理の停止** - キューが停止しているとき、サーバーはジョブを受け入れますが、処理が再開されるまでプリンタには送信されません。
- **キューのジョブの表示** - 保留中のジョブのリストを表示するウィンドウが開き、印刷ジョブの開始、停止、または順序変更ができます。
- **Windows 印刷キューの複製** - 既存の Windows 印刷キューを取得し、Files Connect キューとして再発行します。

2. **[作成]** をクリックして、新しい印刷キューを作成します。

印刷キューのプロパティ

印刷キューのプロパティ

名前: Reception

説明: For general office documents (オプション)

ロケーション: 111 N. Glebe: Suite 450: Reception (オプション)

キューの公開 (Bonjour、Zidget/HTTP、AppleTalk、SLP)

出力方法

処理中: LPR 印刷キューに送信 構成...

LPR を介して次にダウンロードします: ホスト '192.168.1.100.'

直接印刷 (スプールの無効化)

PPD

ファイル: ccess\Files Connect\Print Accounting\EZIPSample.PPD 参照...

クライアントにはこの PPD の使用が必要

Print Accounting

クライアント検証コードが必要 構成...

OK キャンセル

- **名前** - Mac コンピューターの **[プリンタとスキャナ]** ウィンドウに表示される名前。
 - **キューの公開** - 印刷キューをクライアントから検出可能にするかどうかを定義します。
 - **処理中** - Files Connect で受信したジョブをどこに送信するかを指定します。
 - **ファイル** - このキューへの印刷時にクライアントによって使用される PPD を指定します。
 - **Print Accounting** - Mac クライアントに対し、このキューを印刷するたびにジョブ追跡情報を示すように要求します (詳細については、「クライアントから Print Accounting 機能を使用する 『143ページ』」および「Print Accounting を使用する 『191ページ』」を参照してください)。
3. 印刷キューの **[名前]** を入力します。
 4. **[処理]** の方法を選択し、選択した処理方法に必要な情報を入力します。

5. [OK] をクリックします。

2.6 Mac クライアント

Files Connect 10.5 で導入された Mac クライアントにより、非常に簡単にネットワークリソースに接続できます。

Mac クライアントをダウンロードする次の 2 つの方法があります。

- Files Connect が配置された Web サービス アドレスを、適切なポートを使って開く。たとえば、**https://myserver.mycompany.com:8085** とします。

注意: サーバーに接続する際に、「この接続はプライベートではありません」というメッセージが表示されることがあります。信頼される公的証明書を使って Files Connect Web サービス アプリ / HTTPS ポートがまだ構成されていない場合、これは予期される動作です。詳細については、「ポートと証明書」を参照してください。

あるいは、Safari の場合には、Files Connect で使われるデフォルト自己署名証明書を信頼するよう証明書信頼設定を調整することもできます。その設定を更新するには、[詳細を表示] をクリックし、[この Web サイトにアクセス] をクリックします。それから、[Web サイトにアクセス] をクリックしてパスワードを入力し、プロセスを完了します。

他の Web ブラウザの場合、必要な手順は異なる可能性があります。

Files Connect のアドレスをブラウザで開くと、Mac クライアントをダウンロードするためのボタンが表示されます。

- **Acronis Mac Resources** (Files Connect AFP) ボリュームにアクセスできるユーザーは、そこから Mac クライアントをダウンロードすることもできます。

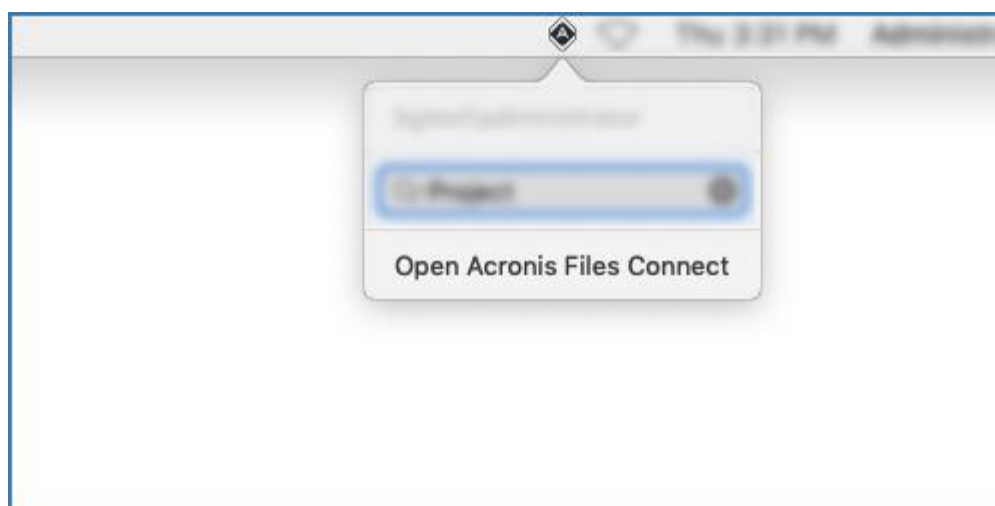
インストール

1. Acronis Files Connect アプリケーションをダウンロードしてインストールします。



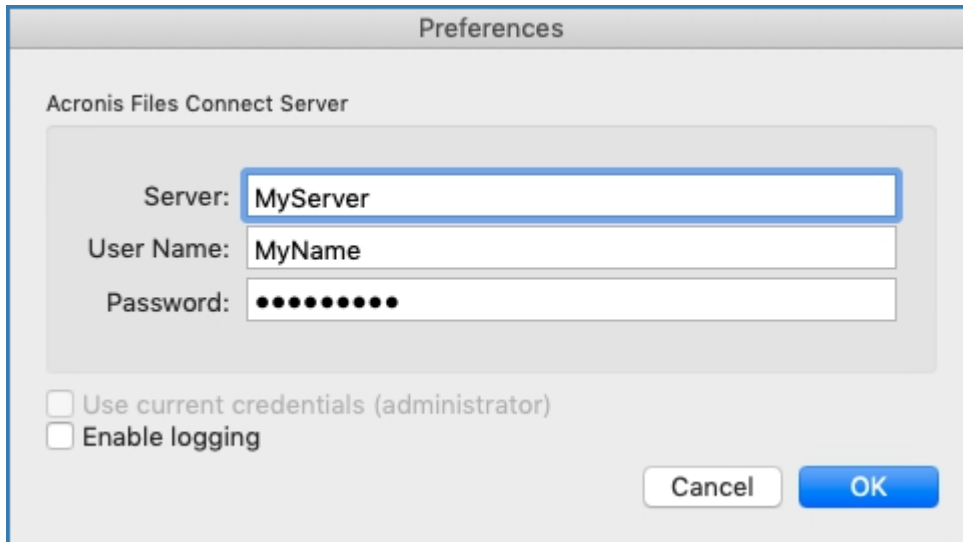
2. メニューバーに Files Connect アイコンが表示されます。
3. デフォルトで、Files Connect オプションメニューが開きます。**[設定]** を選択します。

注意: 開かない場合は、アプリ メニューをクリックすれば開きます。



4. **[サーバー]** フィールドに、FQDN またはご使用の Files Connect サーバーの短縮名を入力します。たとえば、**myserver.mycompany.com** または **myserver** とします。

複数のサーバーがある場合は、プライマリのアドレスを使用すれば、すべてのサーバーおよびボリュームにアクセスできます。



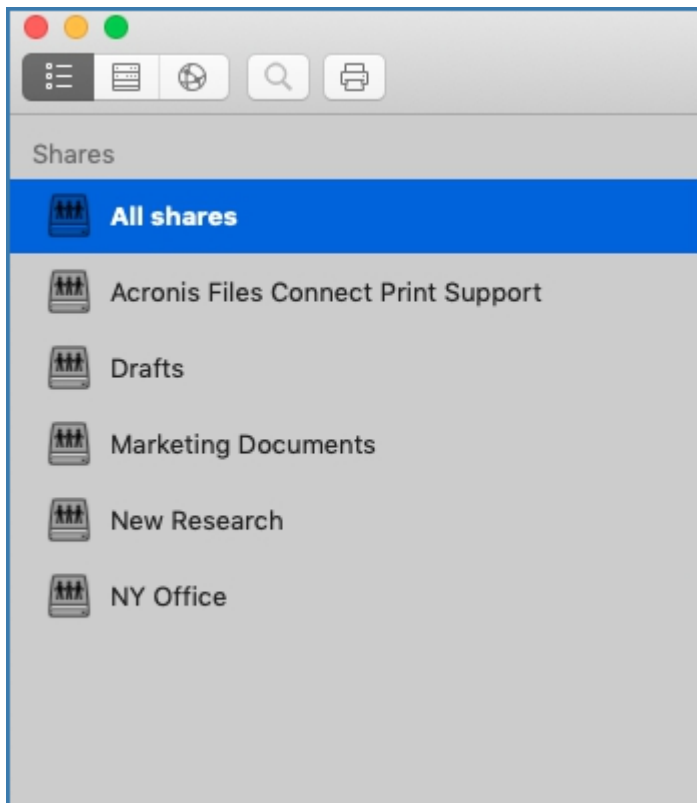
5. Files Connect のリソースへの接続に使用する資格情報を入力します。多くの場合、これは Active Directory のユーザー名とパスワードです。
6. あるいは、このコンピューターが会社のドメインにバインドされていて、使用する予定のアカウントでコンピューターにログインしている場合は、**[現在の資格情報を使用 (ユーザー名)]** を選択できます。

使用

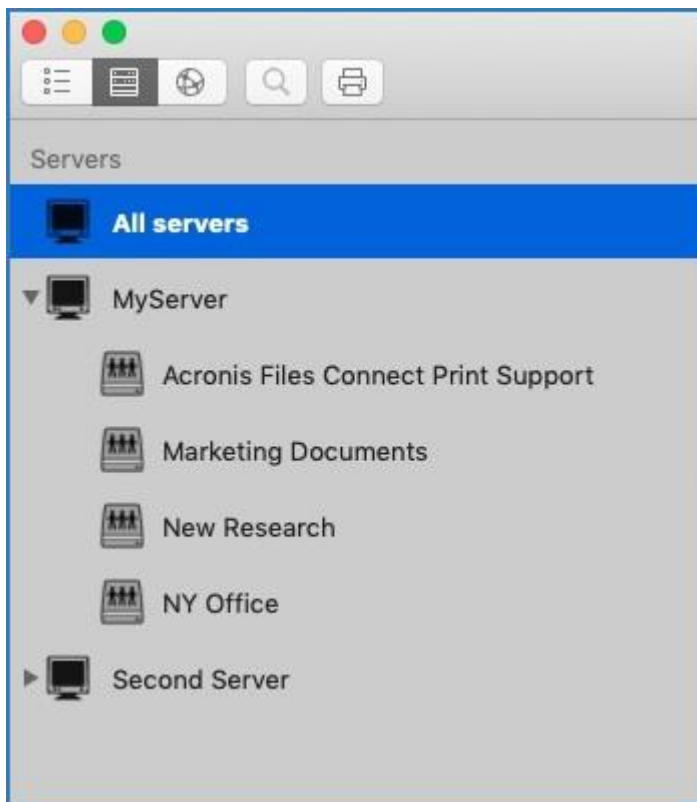
接続した後は、左上隅の 4 つのタブを使用して利用可能なリソース間を移動することができます。

各タブには、次のように、利用可能なリソースが表示されます：

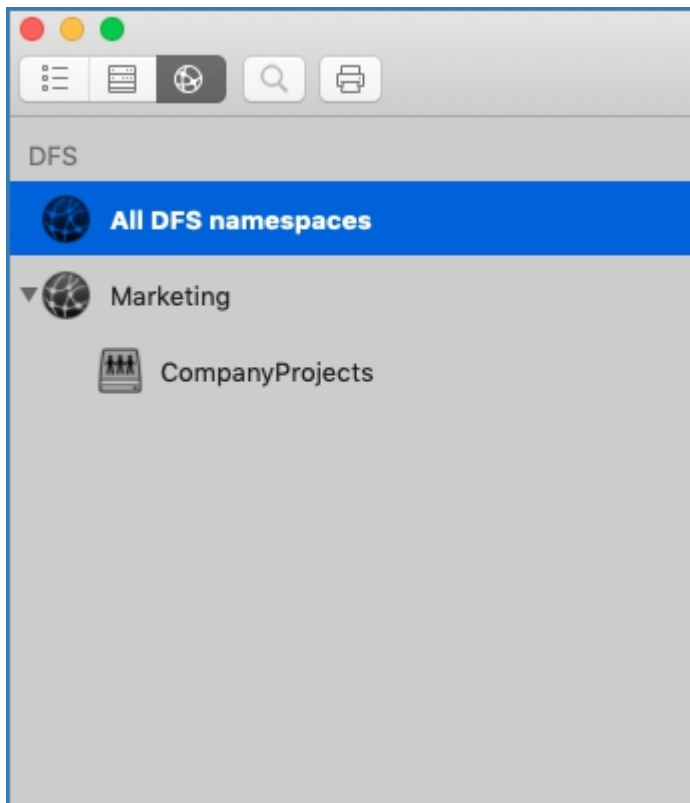
- 共有のみ:



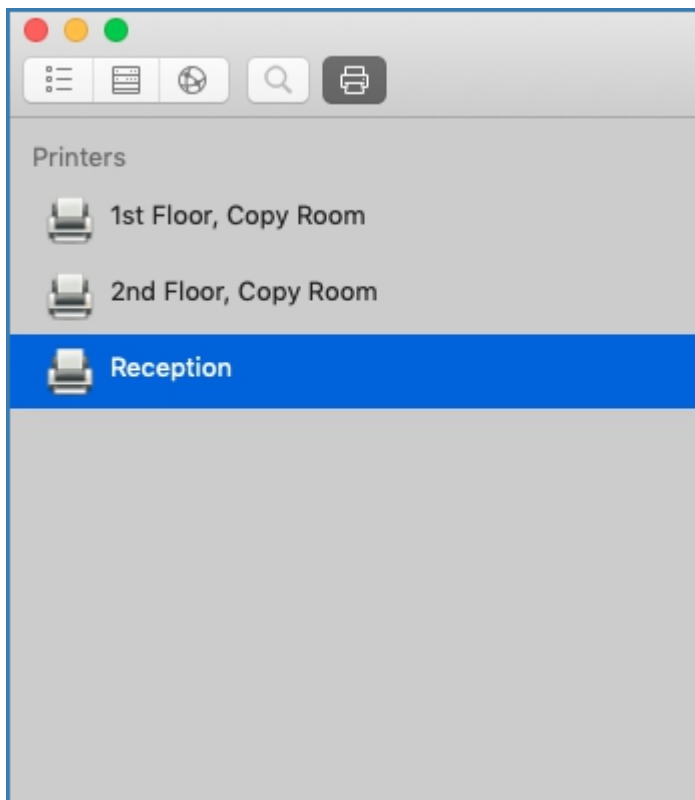
- サーバーとそれぞれの共有:



- DFS 共有:



- プリンタ:



- 共有とプリンタのリストを更新するには、メニューバーの **[表示]** をクリックして **[更新]** を選択します。 **コマンドキーを押しながら R キーを押す** こともできます。

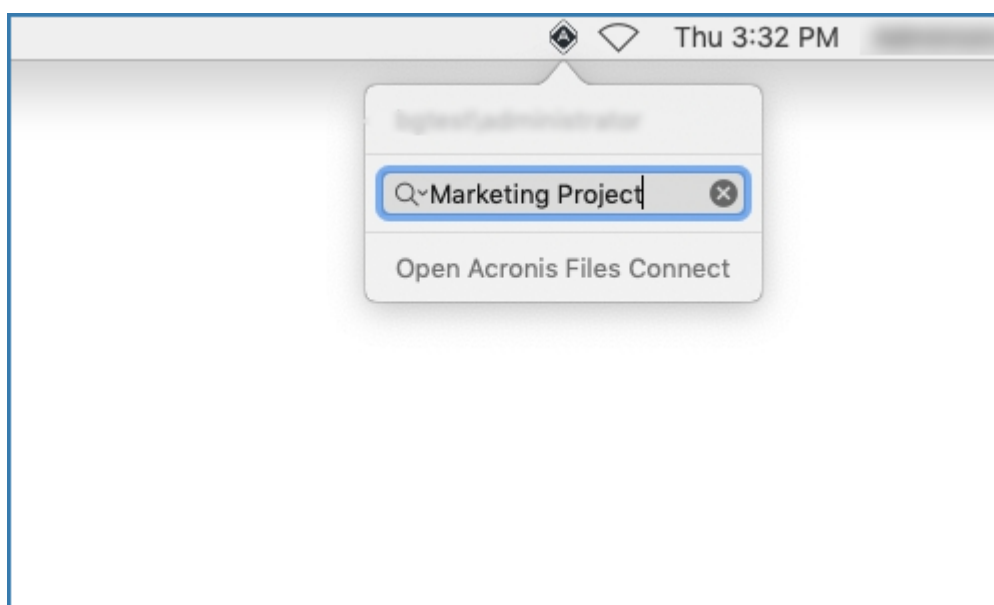
複数選択

複数の項目を選択するには、 **コマンドキーを押しながらクリック**するか**シフトキーを押しながらクリック**します。この操作は、ファイルとフォルダに対して可能です。また、**すべての共有ファイル**ではなく、2、3 の特定の共有ファイルで検索を行いたいときにも、**共有ファイルとサーバー**でこの操作が可能です。

検索

ファイルの検索には、ファイルタイプ、作成日、ファイル名、ファイルの内容など、数多くのパラメータを使用できます。検索は、選択された共有ファイルまたはサーバーに対してのみ行われます。

1. 最も速く検索するには、メニューバーの Files Connect アイコンをクリックして、検索フィールドを使用します。既にアプリを使って特定の共有を検索済みの場合を除き、デフォルトでは、使用可能なすべての共有で検索が行われます。最後の検索が新しいデフォルトになります。
 - また、虫眼鏡のアイコンをクリックして、最近の検索クエリのリストから検索パラメータを選択することもできます。



- デフォルトフィルタは、**名前**、および検索対象のボリュームでコンテンツ検索が有効化されている場合は**コンテンツ**です。
2. あるいは、アプリ自体の検索バーを使用することもできます。ここで、検索パラメータを構成することもできます。たとえば、**先頭の文字が X** で、しかもファイルの**種類が実行可能**であるファイルを検索できます。



検索フィルタ

- **先頭の語句**は、入力したパターンで始まる、文字列内の語をマッチングします。たとえば、「**alpha delta tango**」は「**先頭の語句 del**」と一致します。
- **最後の語句**は、入力したパターンで終わる、文字列内の語をマッチングします。たとえば、「**alpha delta tango**」は「**最後の語句 Ita**」と一致します。
- **含む**は、位置にかかわらず、文字列内の部分文字列をマッチングします。たとえば、「**alpha delta tango**」は「**含む ang**」と一致します。
- **語句の一致**は、文字列内の完全一致のみを検索します。たとえば、「**alpha delta tango**」は「**語句の一致 alpha delta tango**」に一致します。

注意: 単語の区切りとして扱われるのは空白のみです。文字列「**alpha_delta_tango**」と「**alphaDeltaTango**」はいずれも 1 単語と見なされ、「**先頭の語句 del**」の検索では一致しません。

注意: 主な検索フィルタでどのようなパラメータを選択した場合も、それを変更するまではそれが新しいデフォルトになります。これには、**タイプ**、**任意**などの追加のフィルタは含まれません。

最近の検索

- 頻繁に検索するファイルにすばやく簡単にアクセスするには、最近の 10 個の検索のいずれかを選ぶことができます。このリストには、メニューバーとアプリ自体の両方にある虫眼鏡アイコンからアクセスできます。

共有のマウントと Finder の統合

- 共有または見つけたファイルをダブルクリックすると、共有が自動的にマウントされて、ファイルが開きます。このような共有をアンマウントするには、名前の横に表示されるアイコンをクリックします。
- ファイルを右クリックして **[Finder で表示]** を選択すると、Finder が直接開き、ファイルの場所が表示されます。この操作は、複数選択したファイルに対しても可能です。

ブックマークと最近のファイル

- 1 つのファイルまたは複数選択されたファイルを右クリックすると、選択した項目のブックマークを作成できます。その後、これらのブックマークには Files Connect メニューバー > **[ブックマーク]** からアクセスできます。
- 最近開いた 20 個のファイルのリストに、Files Connect メニューバー > **[履歴]** からアクセスできます。

Mac クライアントの削除

1. **[アプリケーション]** フォルダを開いて、Acronis Files Connect を **[ゴミ箱]** に移動します。
2. **ターミナル**で次のように入力します。
`defaults remove com.acronis.AcronisFilesConnect`
3. `~/Library/Application Support/Acronis/` で、**Acronis Files Connect** フォルダを削除します。

2.7 Mac Finder からの接続

1. Finder で **[移動]** メニューをクリックしてから、**[サーバーへ接続]** をクリックします。
2. **afp://** に続けてサーバーの名前を入力します。たとえば、**afp://server.mycompany.com** とします。
3. マウントするボリュームを選択します。

必ず afp:// を指定して接続してください。 smb:// を指定して接続すると、Windows SMB プロトコルが使用され、Files Connect のメリットが得られなくなります。

注意: AFP ボリューム名では大文字と小文字が区別されます。接続先のボリュームを指定するとき、**Acronis Files Connect Administrator** > [ボリューム] パネルで構成したボリューム名と大文字小文字を一致させる必要があります。ボリュームを指定せずにサーバーに接続すると、使用可能なボリュームの一覧が表示されます。

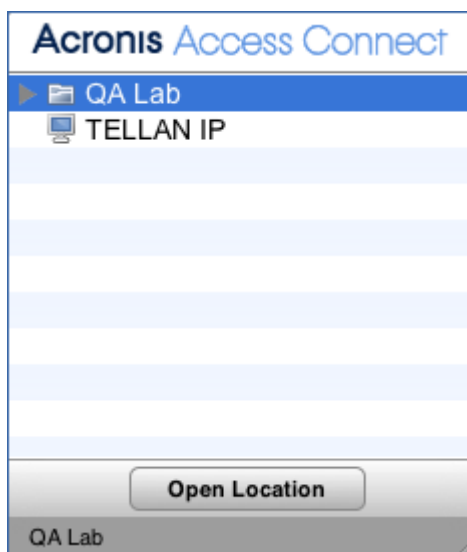
注意: [参照] ボタンをクリックしてサーバーを表示することもできます。

注意: サーバーの名前を使用して接続できない場合は、IP アドレスで試してください。たとえば、afp://10.1.5.27 のようになります。

2.8 オプションの Files Connect Zidget™

Mac ユーザーがオプションの Files Connect Zidget™ を活用できるようにするには、Files Connect サーバーを指す DNS エントリ `AccessConnectServerList.yourdomain.com` を追加する必要が生じることがあります。この操作の詳細については、「Files Connect を Zidget アクセス用に構成する 『79ページ』」を参照してください。

これでユーザーは `http://ServerList:8081` `http://ExtremeZIPServerList:8081` から Zidget をインストールして、このシンプルなダッシュボードウィジェットからプリンタとファイルサーバーを参照できるようになります。



モバイルクライアントにボリュームへの接続を許可することができます。モバイルアクセス機能を有効化するには、**Acronis Files Connect Administrator** > [設定] > [モバイル アクセス] を開いて、チェックボックスをオンにします。

モバイルアクセス機能の詳細については、「モバイルアクセスの設定 『114ページ 』」および「モバイルアクセスの使用 『171ページ 』」を参照してください。

2.9 追加のリソース

Network Reshare

「Network Reshare」の使用により、ネットワーク上の他のサーバーおよび NAS デバイスに配置されているフォルダに Files Connect 経由でアクセスできます。Mac クライアントは引き続き標準 AFP ファイル共有プロトコルを使用して Files Connect に接続します。一方、Files Connect は SMB/CIFS ファイル共有プロトコルを使用して Mac ユーザーがリモートサーバーと NAS システムから要求したファイルにアクセスします。こうすることで、Mac ユーザーは AFP ファイル共有の利点を保ちながら、以前は SMB/Windows ファイル共有を使用する場合にのみ使用できたリソースにアクセスできます。

Network Reshare の構成と使用法の詳細については、「Network Reshare の構成 『115ページ 』」を参照してください。

Network Spotlight 検索

Spotlight 検索を使用すると、ファイル名とファイル属性に加えて、コンテンツで検索してファイルを見つけることができます。有効になっている場合、Spotlight 検索が列挙型検索とカタログ検索の両方に置き換わり、ボリュームのルートおよびサブフォルダ内の両方で検索した場合の結果を提供します。

Spotlight 検索を Mac クライアントから実行できます。使用方法の詳細については、「Mac クライアント 『17ページ 』」を参照してください。Spotlight 検索の構成方法と使用方法の詳細については、「Spotlight 検索 『152ページ 』」、「Spotlight 検索操作」、および「Spotlight 検索のサポート 『100ページ 』」を参照してください。

ファイル名ポリシー

Files Connect は、Windows ファイル サーバーと Mac クライアントの間のシームレスな通信を提供するので、有効なファイル名やファイル タイプに関するポリシーを構成できます。

Files Connect では、Microsoft Explorer、または Unicode ファイル システム API をサポートしないその他のアプリケーションで「不正」と見なされる文字を含むファイルを保存（作成、名前変更、移動）しようとした Macintosh クライアントを検出して拒否することができます。

管理者は、何を許可し、何を「不正」と見なすかを構成する必要があります。リストには、以下の項目を含めることができます：

- Windows で表示できない文字
- 末尾のスペース
- デフォルトの Windows フォントで使用できない Unicode 文字
- 任意の文字指定
- "x" 文字を超える長さのファイル名
- 特定のファイル拡張子

ファイル名ポリシーは、サーバー上の既存のファイル、および Windows ファイル共有を介してコピーされたファイルには影響を与えません。

ファイル名ポリシーの構成と使用法の詳細については、「ファイル名ポリシーの設定 『104 ページ 』」を参照してください。

DFS のサポート

Mac クライアントが Microsoft 分散ファイルシステム (DFS)を使用できるように、Files Connect を構成することができます。サーバー側の構成に加えて、DFS へのアクセスを必要とする各 Mac クライアントに Files Connect Mac クライアントまたは Zidget ダッシュボードウィジェット (Mac OS X 10.4 以降用)のインストールが必要です。必要なクライアント側構成の詳細については、「Mac クライアント 『17ページ 』」および「クライアントでの Zidget のインストールと構成 『132ページ 』」を参照してください。Files Connect で分散ファイルシステムを構成して使用方法の詳細については、「DFS 『111ページ 』」を参照してください。

注意: DFS サポートには 2 つの追加的な設定が必要です。Acronis Files Connect Administrator で **[設定]** を選択して **[セキュリティ]** タブを選択します。使用する **[ディレクトリ サービス]** 資格情報を入力し、**[UNIX パーミッションと ACL のサポート]** を有効にします。

ShadowConnect

ShadowConnect は Files Connect 7.2 以降に含まれる機能であり、Microsoft のボリューム シャドウ コピー サービス (VSS)を利用して、変更または削除されたファイルの以前のバージョンを Mac ユーザーが参照および復元できるようにします。Windows ユーザーは、Windows 内蔵の機能を使用することにより、ファイルサーバーボリュームにあるファイルを右クリックして、**[以前のバージョンの復元]** オプションを選択できます。選択すると、そのファイルの以前に保存されたバージョンのリストを参照して、復元するバージョンを選択できます。ShadowConnect の導入前は、Mac ユーザーはこの技術を利用できませんでした。ShadowConnect を使用すると、Mac ユーザーは使い慣れた macOS の機能 (Cover Flow、Quick Look など)を使用して以前のバージョンのファイルやフォルダを参照できます。希望するバージョンを特定した後、Mac ユーザーはそのファイルやフォルダを元の場所に復元することも、選択した場所にコピーを作成することもできます。ShadowConnect は、以前のバージョンを復元する機能を Mac ユーザーも利用できるようにする一方で、探しているファイルをこれまでになく容易に検索できる高度な参照機能を提供します。

ShadowConnect の構成と使用法の詳細については、「ShadowConnect <https://www.acronis.com/en-us/support/documentation/ShadowConnect>」を参照してください。

3 Files Connect のインストール

セクションの内容

はじめに.....	29
Files Connect のインストール.....	33
Files Connect の最初の起動.....	36
Files Connect クラスタの設定.....	59
クラスタ上の Files Connect の管理.....	78
Mac クライアントおよび Zidget アクセス用の Files Connect サーバーの構成.....	79
プライマリ サーバーへの他のサーバーの追加.....	81

3.1 はじめに

Files Connect を使用すると、Macintosh® コンピュータから Windows® コンピュータに対して AppleShare® IP ファイル共有と IP 印刷、TCP/IP などのサービスを実行できます。Files Connect は、ファイルおよび印刷のサービスを可能な限り高速に提供できるように最適化されています。Files Connect には次のサービスが含まれています。

- Files Connect ファイル サーバー
- Files Connect プリント サーバー

Macintosh ユーザーは、Files Connect を使用することにより、ネイティブの AppleShare ボリュームの場合とまったく同じ方法で、Windows ファイルサーバー上のディレクトリに接続してマウントすることができます。Files Connect プリント サーバーをインストールすると、Macintosh ユーザーはデスクトップ プリンタを作成し、サーバーを経由して自動的に印刷ジョブをプリンタに送ることができます。Files Connect は既存のネットワークにシームレスに統合します。Macintosh ユーザーは、これまで常に使用してきた同じツールやアプリケーションを引き続き使用してサーバーやプリンタにアクセスできますが、サーバーのパフォーマンスは大幅に向上します。Files Connect Print Accounting では、サーバーでジョブを受け付ける前に、Mac クライアントがジョブ コードや従業員 ID などの追加情報を提供する必要があります。

セクションの内容

システム要件	30
ヘルプの表示	32

3.1.1 システム要件

ご使用のサーバーが Files Connect の要件を満たしていることを確認してください。インストールを開始する前に、**[サービス]** コントロール パネルをはじめとするすべての実行中のプログラムを終了することをお勧めします。

Windows サーバー プラットフォームおよび Windows Workstation プラットフォーム上の Files Connect ファイルサーバーおよびプリントサーバーのシステムの最小要件と、Mac クライアントから接続するためのシステムの最小要件は次のとおりです。最適な結果を得るには、Windows Server コンピューターで Microsoft® の最新の Service Pack が実行されている必要があります。サーバーマシンに RAM をさらに追加すると、Files Connect のパフォーマンスが大きく向上します。個々の実装やアプリケーションごとに、推奨されるシステム要件が異なる可能性があります。ご質問がある場合やサポートが必要な場合は **アクロニス テクニカルサポート** にお問い合わせください。

注意: GroupLogic AppleTalk は、Files Connect のバージョン 11.0 以降サポートされなくなりました。

オペレーティングシステム要件

Windows Server プラットフォーム

注意: 10.5 より前のバージョンの Files Connect では、旧バージョンの Windows Server がサポートされません。これには、Windows Storage Server 2008 Service Pack 2、Windows Storage Server 2003 Service Pack 2 および R2 Service Pack 2、2008 Service Pack 2、2003 Service Pack 2 および 2003 R2 Service Pack 2 が含まれます。

- 2019 Standard および Datacenter
- 2016 Standard & Datacenter & Essentials
- 2012 R2 Standard & Datacenter & Essentials
- 2012 Standard & Datacenter & Essentials
- 2008 R2 Service Pack 1
- 2011 Small Business Server Standard Update Rollup 3

注意: Windows Small Business Server 2011 Essentials はサポートされません。

- Windows Storage Server 2016
- Windows Storage Server 2012 R2
- Windows Storage Server 2012
- Windows Storage Server 2008 R2 Service Pack 1
- Windows Powered NAS

Windows ワークステーション プラットフォーム:

注意: 10.5 より前のバージョンの Files Connect では、旧バージョンの Windows (Vista や XP など) がサポートされます。

- Windows 10
- Windows 8
- Windows 7 Service Pack 1

Mac クライアント:

macOS: Mac OS X 10.7 以降。

注意: Files Connect は最新の Mac クライアントテクノロジーをサポートしています。これには Bonjour®、Kerberos®、および長いパスワードのための Apple 組み込み暗号化ログオンサポートが含まれます。

注意: Print Accounting には、Mac OS X 10.6 以降で 64 ビット モードで動作するアプリケーションとの互換性はありません。

ハードウェア要件

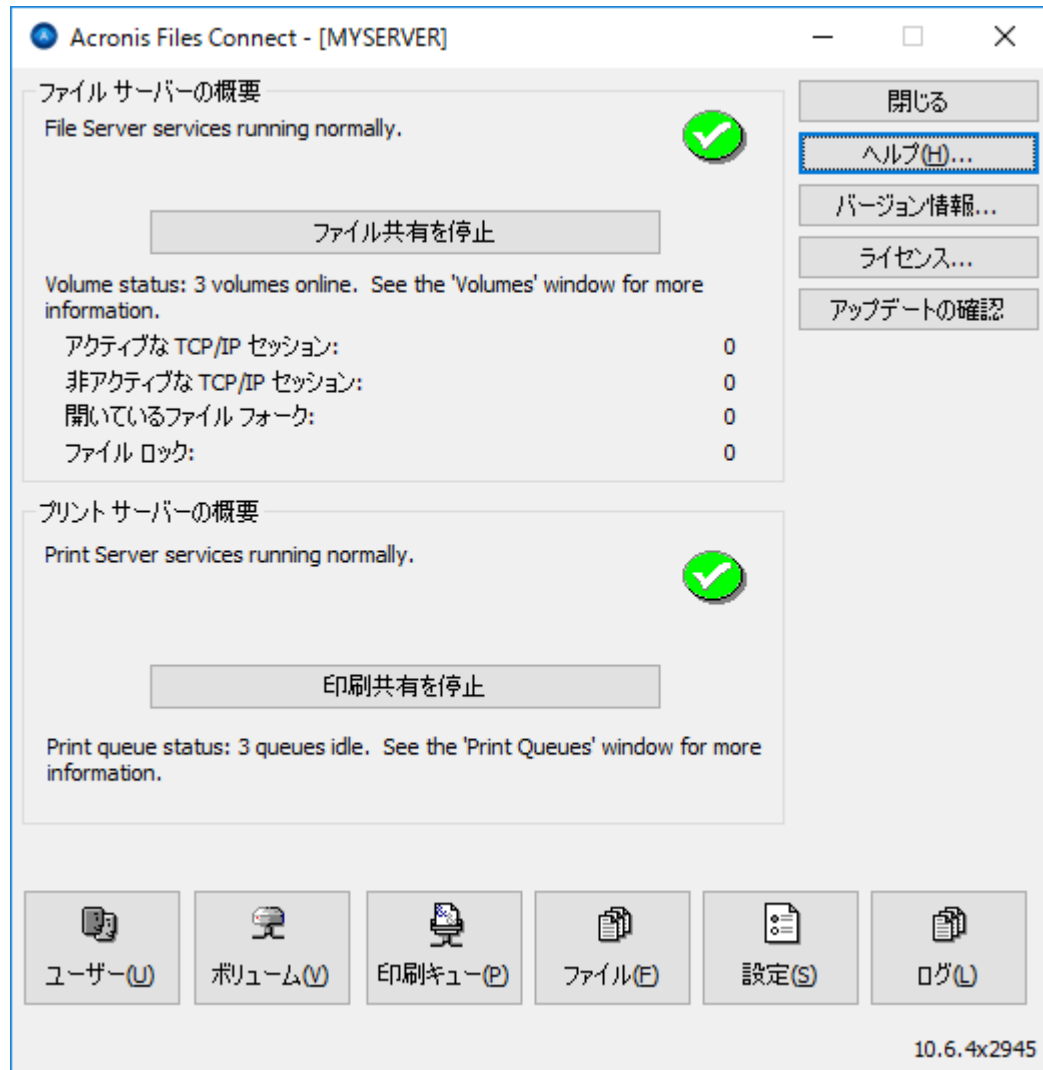
最小構成

- ローカル共有 - Core クラス CPU、2 個以上のコア、RAM 4 GB
- Network Reshare - Core 'i' クラス CPU、4 個以上のコア、RAM 8 GB、デュアル非ボンディング ギガビットイーサネット NIC

注意: ボリューム数、ユーザー数、サーバー上で実行される他のアプリケーションの数に応じて、実際にはより多くのリソースが必要となる可能性があります。

3.1.2 ヘルプの表示

1. **Files Connect Administrator** で **[ヘルプ]** をクリックします。



2. 詳細情報は、Acronis Web サイトを参照してください。
3. 最新リリースを Acronis Files Connect 最新リリースのページで確認してください。
4. Acronis ナレッジベースを検索します。

Files Connect の価格には 1 年間の無料テクニカルサポートとアップデートが含まれています。その後、延長サポートを購入できます。

テクニカルサポート サービスについては、<https://support.acronis.com/mobility> でサポートリクエストをお送りください。確認のために、お手持ちの Files Connect のプロダク

ト キーをご用意ください。詳細については、『Acronis Mobility: サポート & メンテナンスガイド』を参照してください。

3.2 Files Connect のインストール

Files Connect の主要コンポーネントは Windows サービスであり、Mac クライアントにファイルとプリンタの共有を提供します。Files Connect には GUI Administrator も含まれており、共有ボリュームや、モバイル ユーザーがボリュームに接続できるようにするためのゲートウェイサービスなどを設定できます。Files Connect を使用して接続できるクライアントの数は、ご使用のライセンスとそのクライアント数に応じて異なります。必要に応じてクライアント数をアップグレードできます。ライセンス認可のため、Files Connect では 1 つの IP アドレス上の 1 つのユーザー アカウントからの複数の接続は 1 人のユーザーと数えます。

セクションの内容

開始する前に	33
Files Connect のインストール	34

3.2.1 開始する前に

このトピックでは、Files Connect をインストールする前に必要な情報について説明します。

Domain Controller 上に Files Connect をインストールすることは、Kerberos に関して問題が生じる可能性があるため、推奨されていません。

共有ボリュームに対して必要な Windows ファイル アクセス権

Files Connect は、Windows サーバー上の SYSTEM アカウントを利用して主要な機能の多くを実行します。このため、ボリュームとして Files Connect と共有されるフォルダ階層がある場合、SYSTEM アカウントが、フォルダ階層全体に対する **[フル コントロール]** アクセス権を持っている必要があります。これらの権限は Windows OS パーティションではデフォルトとして設定されますが、Files Connect ボリュームが含まれる追加のディスク

またはパーティションについては、Files Connect が正常に機能するように SYSTEM = 「フル コントロール」を設定する必要があります。共有するすべてのボリュームにこの権限が設定されていることを確認してください。

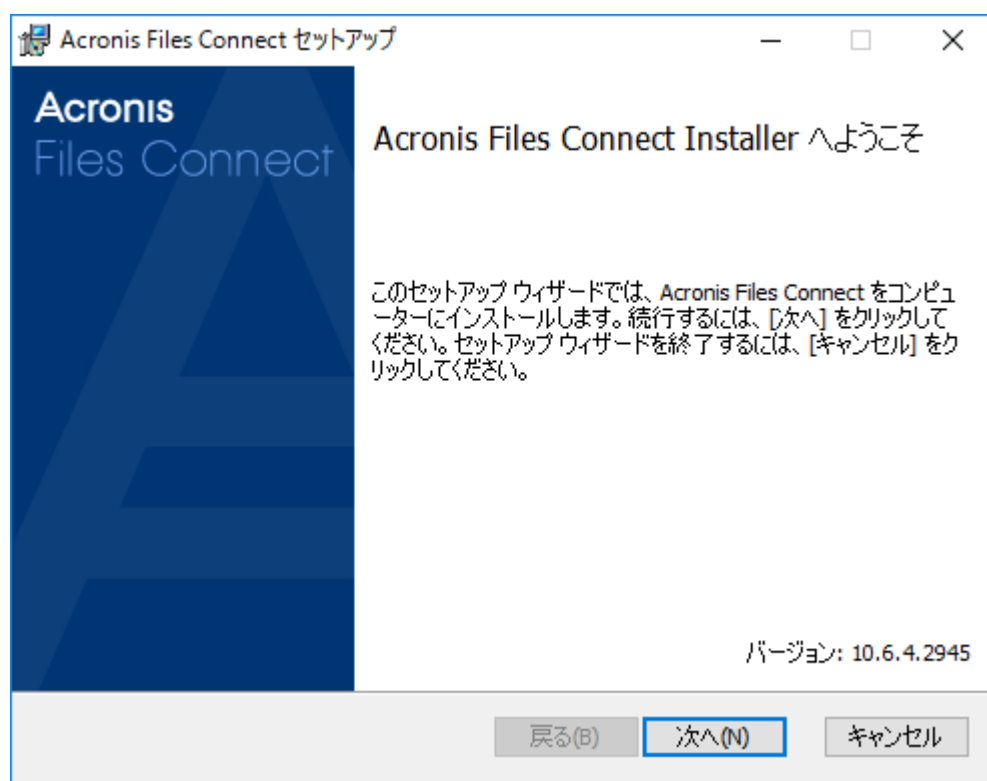
ドライブのルートの共有

Files Connect では、ドライブのルート外での共有がサポートされますが、Windows では、ファイル システムのルートと他のフォルダで権限の扱いが異なります。ドライブ文字を直接共有しないことをお勧めします。代わりに、共有ボリューム用のサブフォルダを作成する必要があります。

3.2.2 Files Connect のインストール

1. **Acronis Files Connect インストーラ**を実行します。

注意: Files Connect をインストールするには、Windows に管理者権限でログインする必要があります。



2. **[次へ]** をクリックして、インストールを開始します。
3. ソフトウェア ライセンス条項に同意し、**[次へ]** をクリックします。

4. **[次へ]** をクリックして、デフォルトのインストール先フォルダをそのまま使用します。
5. **[インストール]** をクリックして、インストールを開始します。

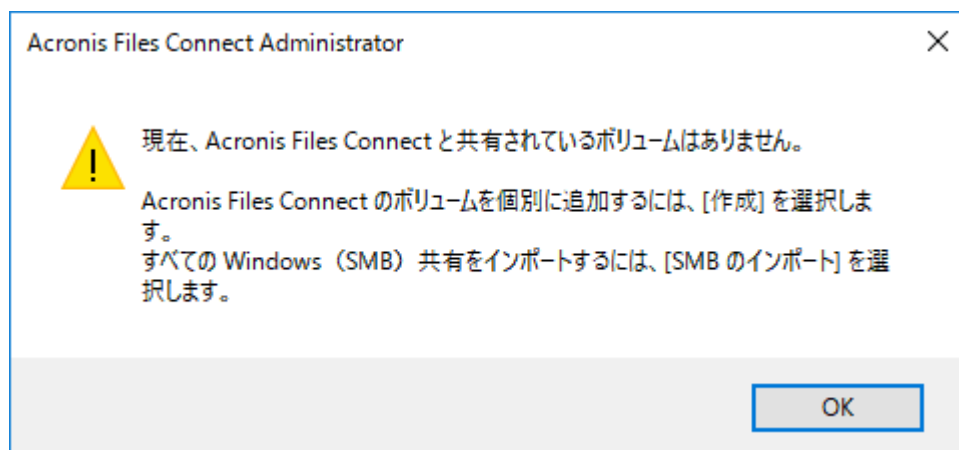
注意: 以前のバージョンの Acronis Files Connect がインストールされている場合、新しいバージョンにアップグレードされます。既存の設定は保持されます。

6. **[終了]** をクリックして完了したインストーラを閉じると、**Acronis Files Connect Administrator** が自動的に起動します。

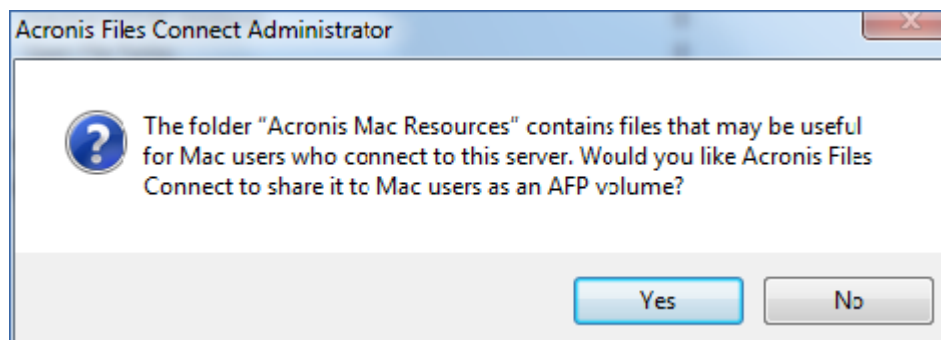
注意: 再インストールでは、Files Connect サービスによるインストールの実行が Files Connect インストーラによって停止されます。場合によっては、Files Connect サービスを停止できないため、インストールが失敗することがあります。可能性として、サービスのエラー、実行中の他のプロセスとの競合、または [サービス] コントロール パネルが開いているときにインストールしようとしたことなどが考えられます。インストールが失敗する場合は、[サービス] コントロール パネルから Files Connect サービスを手動で停止して、インストールを進めることができます。

3.3 Files Connect の最初の起動

設定済みのボリューム（共有）がない状態で初めて Files Connect Administrator を起動したときには、新しいボリュームを作成するか、既存のボリュームをインポートするように要求するメッセージが表示されます。Files Connect は、Windows ファイル共有（SMB）を使用して共有されるサーバー上の既存のボリュームをインポートすることができます。



Acronis Mac Resources ボリュームを共有するかどうか尋ねられます。



以前のバージョンからアップグレードする場合は、Files Connect の以前のバージョンと共有されていたボリュームがチェックされ、その Files Connect ボリュームが自動的に作成されます。

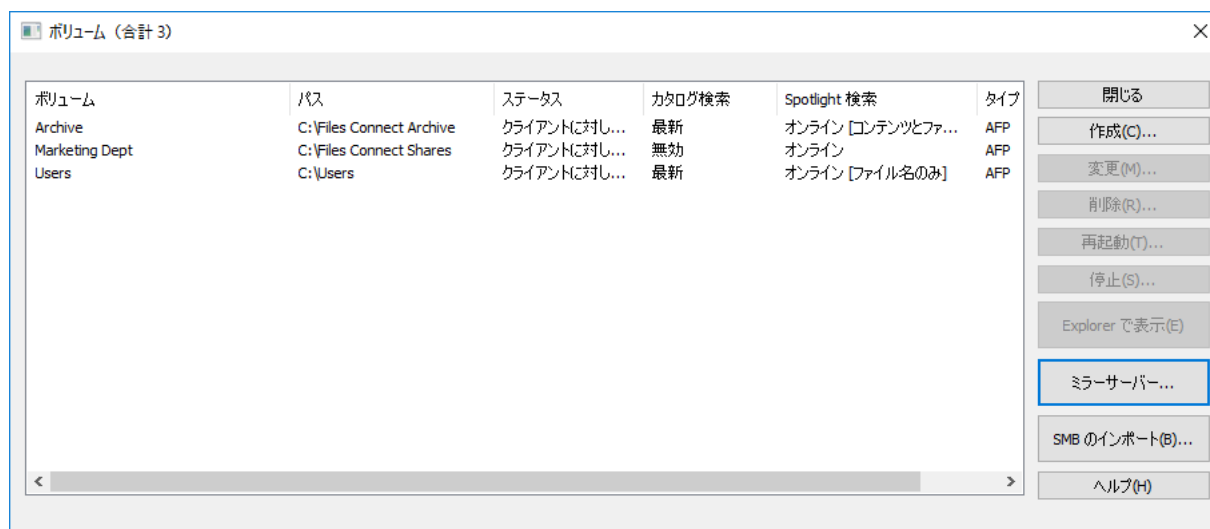
セクションの内容

SMB ファイル共有の自動インポート	37
Files Connect クラスターの設定	40
Kerberos の使用.....	58

3.3.1 SMB ファイル共有の自動インポート

注意: すべての共有は「AFP」共有としてインポートされます。

SMB ファイル共有



Files Connect Administrator を起動するたびに、Files Connect ボリュームとして共有されていない SMB ファイル共有の有無が Files Connect によって確認されます。そのようなボリュームが存在する場合は、**[ボリューム]** ダイアログの **[SMB のインポート]** ボタンが有効になります。該当する共有をインポートする場合、Files Connect によって共有用の新しい AFP ボリュームが作成されます。

Files Connect は非表示の共有（たとえば C\$）を複製しません。macOS クライアントが SMB でファイルをサーバーにコピーするとき、代替ストリームにアクセスできません。リソース フォークや Finder 情報は通常このストリームに保管されています。代わりに、リソース フォークと Finder 情報は、「ドット アンダースコア」ファイルという別個のファイルに書き込まれます。処理は Mac クライアントから見えないところで行われます。ドット アンダースコアは非表示になり、1 つのファイルのみが表示されて、リソース フォークと Finder 情報がそれに含まれるように見えます。ただし、このファイルを Windows で表示すると、ドット アンダースコア ファイルは元のデータ ファイルと関係のない単なる別の隠しファイルとなります。

Files Connect では、サーバーがリソースと Finder の情報をドット アンダースコア ファイルからファイルの代替データ ストリームに移行できるので、Mac クライアントはこれらの情報にアクセスできます。Macintosh クライアントがファイルまたはフォルダの情報を要

求すると、Files Connect では最初にそのファイルまたはフォルダの Finder 情報ストリーム (AFP_AfpInfo)から、次に、ファイルの場合はそのリソース ストリーム

(AFP_Resource)からの読み取りが試みられます。どちらかのストリームが見つからない場合は、対応するドット アンダースコア ファイルが検索されます。このファイルが存在し、必要な情報が含まれている場合は、このデータが適切なストリームに移行されます。ドット アンダースコアの移行機能はデフォルトで有効になっていますが、無効にすることもできます。この機能を無効にするには、更新可能なレジストリ

ServerMigratesDotUnderscoreFiles の値を 0 に設定し、Files Connect が実行中の場合は Administrator の [レジストリの更新] ボタンを使って新しい値を読み込みます。

さらに Files Connect にはオプション機能として、内容をデータ ファイルに移行した後でドット アンダースコア ファイルを削除できる機能があります。この機能はデフォルトで無効になっていますが、有効にすることができます。機能を有効にするには、更新可能なレジストリ ServerDeletesMigratedDotUnderscoreFiles の値を 1 に設定してレジストリを更新します。Files Connect では必要なときにのみドット アンダースコアの情報が移行されるので、Files Connect がボリュームの新しい領域を最初に検索していくにつれて、徐々にドット アンダースコアの移行が生じる可能性があります。ボリュームが初めてオンラインになったときには、この移行は一度には実行されません。ドット アンダースコア ファイルがロックされているか、対応するデータ ファイルと許可が異なる場合、情報が AFP_Resource または AFP_Info streams にコピーされない場合があります。これはログ ファイルに書き込まれます。ドット アンダースコアの移行は変遷期の機能であり、SMB と同時に使用することは想定されていません。Files Connect は SMB での書き込み中にファイルにアクセスする AFP クライアントを処理しようと試みますが、このような機能の使用方法はサポートされていません。最初の移行後に行われた、ドット アンダースコア ファイルに対するすべての変更は、Files Connect では無視されます。ドット アンダースコア ファイルよりも代替ストリームが常に「優先される」ためです。そのため、リソース フォークの情報が Files Connect によって移行された後で、ユーザーが SMB でそのリソース フォークを変更しても、その変更は移行されません。ドット アンダースコア ファイルにリソース フォークや Finder 情報以外の情報を含めることもできますが、それはデータ ファイルに移行されません。次のタイプの情報は移行されません。

- ファイル コメント
- 実フォルダ名 (ホーム ファイル システムで作成されたときのファイルの名前)

- アイコン、白黒（標準的な Macintosh の白黒アイコン）
- アイコン、カラー（Macintosh のカラー アイコン）
- ファイルの日付情報（ファイルの作成日、変更日など）
- Macintosh ファイル情報（Macintosh ファイル情報、属性など）
- Short Name（AFP の短縮名）
- ディレクトリ ID（AFP のディレクトリ ID）

注意: SMB ファイル共有は、Windows Cluster Server にインストールした Files Connect には移行されません。

セクションの内容

最初の起動後の SMB ファイル共有のインポート.....	39
SMB ボリュームの命名規則.....	39

3.3.1.1 最初の起動後の SMB ファイル共有のインポート

上記の SMB インポートのプロンプトは、Files Connect Administrator を最初に起動したときに一度だけ出されます。その後は、Files Connect Administrator の **[ボリューム]** ウィンドウにある **[SMB ファイル共有のインポート]** ボタンを使用して、ファイル共有を Files Connect ボリュームとしてインポートします。ボリュームの移行の詳細については、「ボリュームの作成 『156ページ 』」を参照してください。

3.3.1.2 SMB ボリュームの命名規則

インポートされる SMB ボリュームは、Files Connect のボリューム名の標準に準拠する必要があります。Files Connect 8.0.4 以降で、名前は UTF16 で最大 127 文字、UTF8 で最大 190 文字にすることができます。移行または複製された共有で名前が長すぎる場合、その名前は切り詰められます。移行または複製された共有の名前が現在の Files Connect ボリュームの名前に一致する場合は、ボリューム名の後に数字が追加されて「Volume (2)」のようになります。数字を追加する余裕を作るために、ボリュームの名前が切り詰められる場合があります。

3.3.2 Files Connect クラスターの設定

クラスターを使用すると、障害が発生したサーバー ノードによって提供されていたサービスを迅速にフェールオーバーして再開することができます。Files Connect クラスターは Microsoft Cluster Server (MSCS)を使用して設定されます。これらのサーバーは、Microsoft Cluster Service を実行している特別にリンクされた複数のサーバーです。1 つのサーバーに障害が発生するかオフラインになった場合、障害が発生したサーバーの操作がクラスター内の他の 1 つまたは複数のサーバーにより直ちに引き継がれます。クラスター上で実行されているアプリケーションは常に使用可能です。接続中のクライアントには複数のサーバー上で実行されているリソースが 1 つのシステムに見え、Files Connect Virtual Server として参照されます。問題発生後に正常にフェールオーバーされた場合、接続中のユーザーはサービスの中断に気づかないことがあります。Files Connect は、アクティブ/アクティブのクラスター構成で使用できるクラスター対応アプリケーションです。Files Connect の複数のインスタンスを 1 台のサーバー ノード上で実行することができます。各インスタンスには専用の IP アドレスがあり、専用の共有ボリュームを割り当てることができます。複数の仮想サーバーの構成では、サーバーの統合と負荷の管理の点でメリットが得られます。1 つのサーバー ノード上で Files Connect の複数のインスタンスを実行すると、各インスタンスが他のインスタンスから分離されて実行されるので信頼性が向上します。クラスターの構成に関するヘルプについては、次のクラスター ワークシートを参照してください。Files Connect は、クラスター化された構成で次のサービスをサポートします。

- アクティブ/アクティブ クラスター
- クラスター内のノードごとに複数の仮想サーバー
- 信頼性と可用性の向上
- Windows 2008 上の 8 つのノード クラスター
- サーバー統合が可能

クラスター化された環境で Files Connect を実行している場合、[Files Connect Administrator] ウィンドウのタイトル バーに次の情報が表示されます。

- 大文字のサーバー名
- サービスを設定したときに入力した大文字または小文字のサービスの名前

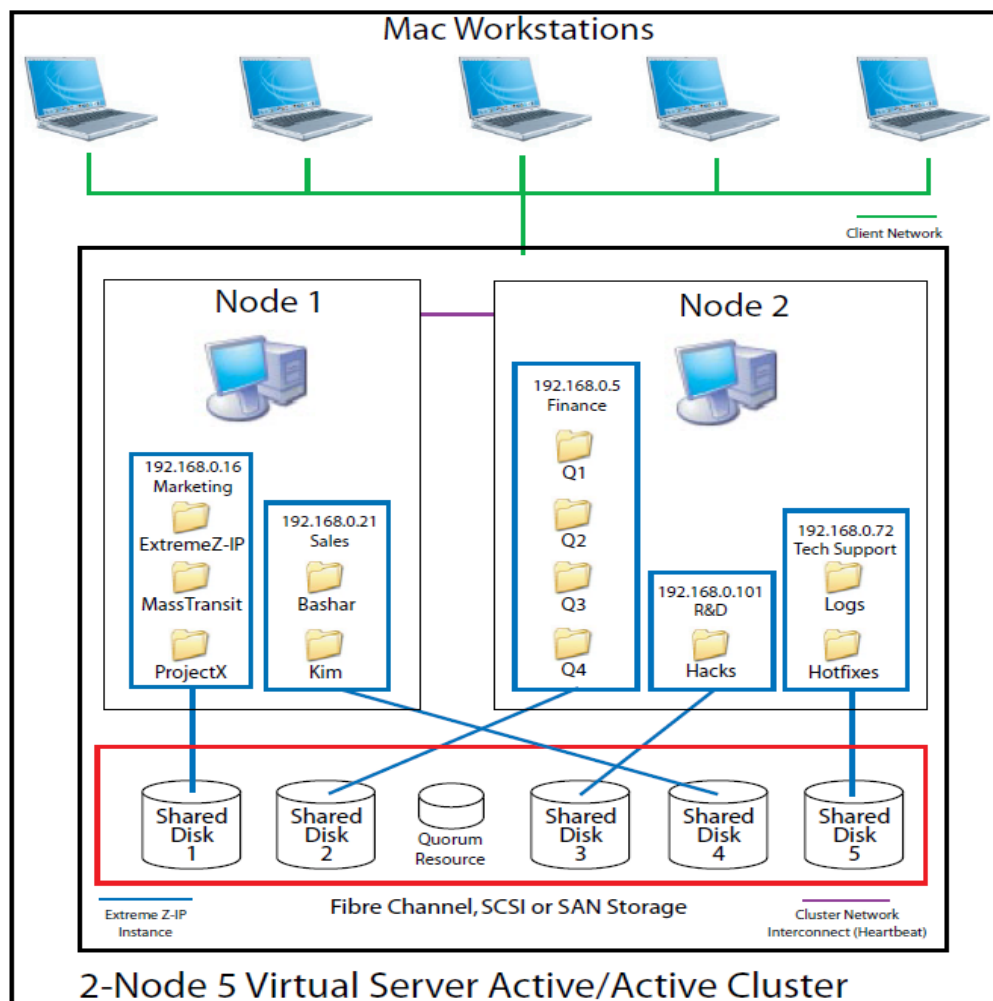
MSCS では、クラスター構成のコンポーネント パーツを説明するときに次の用語を使用します。Files Connect のインストールを続行するときにこれらの用語を混同しないようにしてください。

- **ノード**: クラスター内の 1 つのメンバー サーバー。
- **リソース** - クラスター内で実行されるハードウェアまたはソフトウェアコンポーネント。ディスク、IP アドレス、ネットワーク名、Files Connect サービスのインスタンスなどがあります。

グループ - フェールオーバーの単位として管理されるリソースの組み合わせ。グループは、リソース グループまたはフェールオーバー グループとも呼ばれます。一般的な Files Connect フェールオーバー グループは、ディスク、IP アドレス、ネットワーク名、および Files Connect のインスタンスで構成されます。

- **依存関係** - 依存するサービスを開始するために最初に使用可能になっている必要があるサービスまたは他のリソース。
- **フェールオーバー** - リソースまたはリソース グループを 1 つのサーバーから別のサーバーに移動するプロセス。フェールオーバーは、1 つのサーバーで何らかの障害が発生するか、管理者がフェールオーバーを開始したときに発生します。この用語は、Microsoft Cluster Administrator でクラスター グループを別のノードに移動する操作と同じです。
- **クォーラムリソース** - クラスター内のノードで共有されるフェールオーバー情報が含まれるディスクリソース。
- **ハートビート** - サービスが引き続き実行中であることを他のノードに知らせるクラスター ノード間の通信。
- **仮想サーバー** - 仮想サーバーは、IP アドレス、ネットワーク名、アプリケーションリソースなどの構成情報とクラスターリソースの組み合わせです。Files Connect 仮想サーバー (EVS)は固有の IP アドレスで定義されます。
- **アクティブ/アクティブ** - この用語は、稼働環境で複数のノードが Files Connect ファイルサーバーを実行している構成を意味します。
- **アクティブ/パッシブ** - この用語は、稼働環境で 1 つのノードがアクティブで、別のノードはフェールオーバーが発生するまでアイドル状態である構成を意味します。

- **共有ストレージ** - この用語は、外部 SCSI またはファイバーチャネル ストレージシステムを意味します。複数ノードのクラスターでは共有ストレージが必須です。このストレージは共有されますが、外部ストレージのリソースにアクセスできるのは一度に 1 つのノードのみです。



注意: 各サーバーが固有の IP アドレスを使用します。各仮想サーバー用に複数の共有を構成することができます。

セクションの内容

クラスター ワークシート	42
クラスター上での Files Connect のインストール.....	45

3.3.2.1 クラスター ワークシート

クラスター上で実行される各 Files Connect サービスについて、次のものがが必要です。

1. 固有の Files Connect サービスの名前（最初のインスタンスはデフォルトで作成され、
名前は ExtremeZ-IP になります）
2. 固有の IP アドレスとオプションのネットワーク名
3. 共有物理ストレージ
4. 新しい Files Connect サービスが配置されるクラスター グループ

このプロセスを簡素化するために、インストール準備用にワークシートを用意しました。追加で作成する各 Files Connect Virtual Server 用にワークシートをコピーしてください。ソフトウェアのインストールに必要な情報 Files Connect のシリアル ナンバー:

仮想サーバーごとに設定する場合、以下の項目で固有の値を持つ必要があります。

新しいサービスを作成するために必要な情報:

- **固有サービス名**
- **新しいクラスター グループを設定するために必要な情報**
- **クラスター グループ名**
- **ネットワーク名 (DNS/NetBIOS 名)**
- **固有サービス名 (上の項目で作成されたサービス名)**
- **共有するボリューム**
- **ドライブ レター**
- **ボリューム名**
- **このボリュームは Windows で共有されていますか？**

ソフトウェアのインストールに必要な情報	
Files Connect プロダクトキー	

設定する仮想サーバーごとに、以下のそれぞれの項目で固有の値を持つ必要があります。

新しいサービスの作成に必要な情報	
固有サービス名	

--	--	--	--

3.3.2.2 クラスタ上での Files Connect のインストール

新しいクラスタに Files Connect をインストールする前に、サーバー上にクラスタリングサービスをインストールし、構成しておく必要があります。Windows Server 2008 (Enterprise または Datacenter Edition)では、フェールオーバー クラスタリングの役割をインストールして構成する必要があります。さらに、次のものを用意する必要があります。

- ライセンス供与されたノードと仮想サーバーの数でエンコードされた Files Connect クラスタ対応のプロダクト キー。クラスタのすべてのノードで 1 つのプロダクト キーを使用します。
- Files Connect 共有ボリュームが置かれている 1 つまたは複数の共有ディスク。
- 作成する各 Files Connect Virtual Server の IP アドレスとネットワーク名。各 IP アドレスの DNS エントリを作成します。

注意: SMB (Windows クライアント)で共有するフォルダが、Files Connect 共有と同じ物理ディスクにある場合、DFS (分散ファイルシステム)を設定して、Windows ユーザーが 1 つの IP アドレスまたはホスト名を使用して共有ボリュームにアクセスできるようにすることをお勧めします。

セクションの内容

インストール手順の確認.....	45
Files Connect サービスの構成	46
Files Connect サービスの作成	46
クラスタに Files Connect サービスを追加する.....	48
Windows 2008 クラスタ グループの作成	48
Windows 2012 の役割の作成.....	55

インストール手順の確認

インストールは次の 4 つの部分で構成されます。番号が付いた各手順について次のセクションで説明します。

1. Acronis によって提供されるインストーラとプロダクトキーを使用して Files Connect をクラスタの各ノードにインストールします。

2. Files Connect Administrator アプリケーションを使用して、クラスタの各ノード上で必要な Files Connect サービスを設定します。
3. Windows Server 2008 に付属のフェールオーバー クラスタ管理アプリケーションを使用して、Microsoft クラスタ サービスを設定します。
4. Files Connect Administrator アプリケーションを使用して、共有フォルダと Files Connect サービスの他の機能を設定します。

Files Connect サービスの構成

Files Connect を運用するには次の 4 つのコンポーネントが必要です。

- **IP アドレス**
- **ネットワーク名**
- **物理ディスク**
- **Files Connect サービス**

コンポーネントの各セットを専用のクラスタ グループまたは Files Connect Virtual Server (EVS)に配置します。作成される EVS の数は、Files Connect と共有する必要がある物理ディスクの数が基になります。たとえば、ボリュームが 3 つの物理ディスク上にある場合は、3 つの EVS を作成します。この構成は最も柔軟性が高くなりますが、場合によっては複数の IP アドレスを避けたい場合もあります。この場合、1 つの EVS によって複数の物理ディスクを共有することができます。クラスタ ワークシート『42ページ』は、クラスタの計画を作成するために役に立ちます。

Files Connect サービスの作成

使用する各 Files Connect Virtual Server に Files Connect サービス インスタンスが必要です。これらの各 Files Connect サービスに固有のサービス名が必要です。Files Connect がクラスタ対応のサーバーにインストールされるときに、デフォルトで作成されるサービスはありません。この手順では、サービスを実行する各ノード上で新しい Files Connect サービスを各仮想サーバー用に作成します。

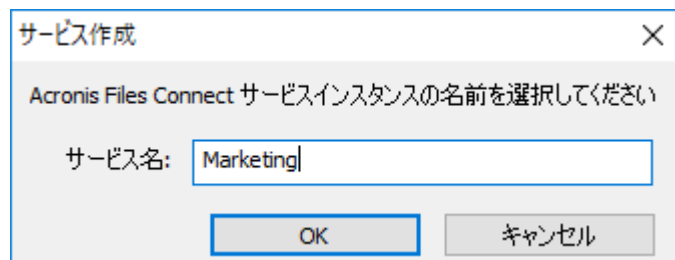
Files Connect サービスの作成

注意: Files Connect サービスを追加する前に、まずレジストリを確認して、

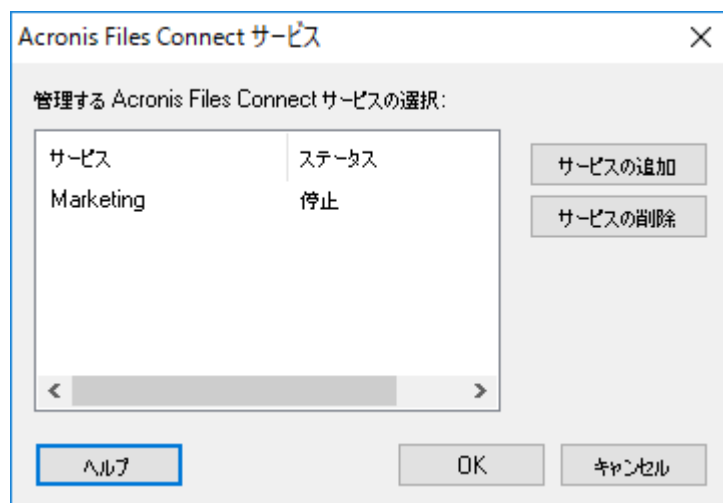
[HKEY_LOCAL_MACHINE] > [SYSTEM] > [CurrentControlSet] > [Services] にこうした

サービスが存在するかどうか調べる必要があります。こうしたサービスが存在する場合は、まずそれを削除してから新規のサービスを追加してください。

1. Files Connect インストール プロセスが完了した後、または既存の Files Connect インストールのクラスタ サーバーで、**Files Connect Administrator** アプリケーションを実行します。
2. Files Connect を初めてインストールし、サービスが存在しない場合は、サービスを作成するように要求するメッセージが表示されます。サービスの名前を入力して、[OK]を押します。この例ではサービス名は「Marketing」です。



3. 次のセクションで Microsoft クラスタを構成するときに必要なので、入力したサービス名を正確に記録しておきます。サービス名は Files Connect Administrator を開始したときに、タイトル バーにも表示されます。
4. サービスを作成すると、[Files Connect サービス] ウィンドウにサービスが表示されます。[Files Connect サービス] は、Files Connect Administrator を起動するたびに表示されます。このウィンドウは、管理するサービスを選択したり、他のサービスを追加または削除したりするために使用します。



5. これらの Files Connect サービスを実行する各クラスタ ノード上でこの手順を実行する必要があります。

クラスタに Files Connect サービスを追加する

Files Connect 用にクラスタを構成するにはいくつかの方法があります。

- クラスタ グループを既に設定している場合は、汎用サービスとして Files Connect をクラスタ グループに追加するだけです。
- 既存のクラスタ グループがない場合は、次のセクションの手順に従い、Cluster Application Wizard® を使用して、クラスタ グループを構成します。
- または、慣れている別の方法を使用することもできます。

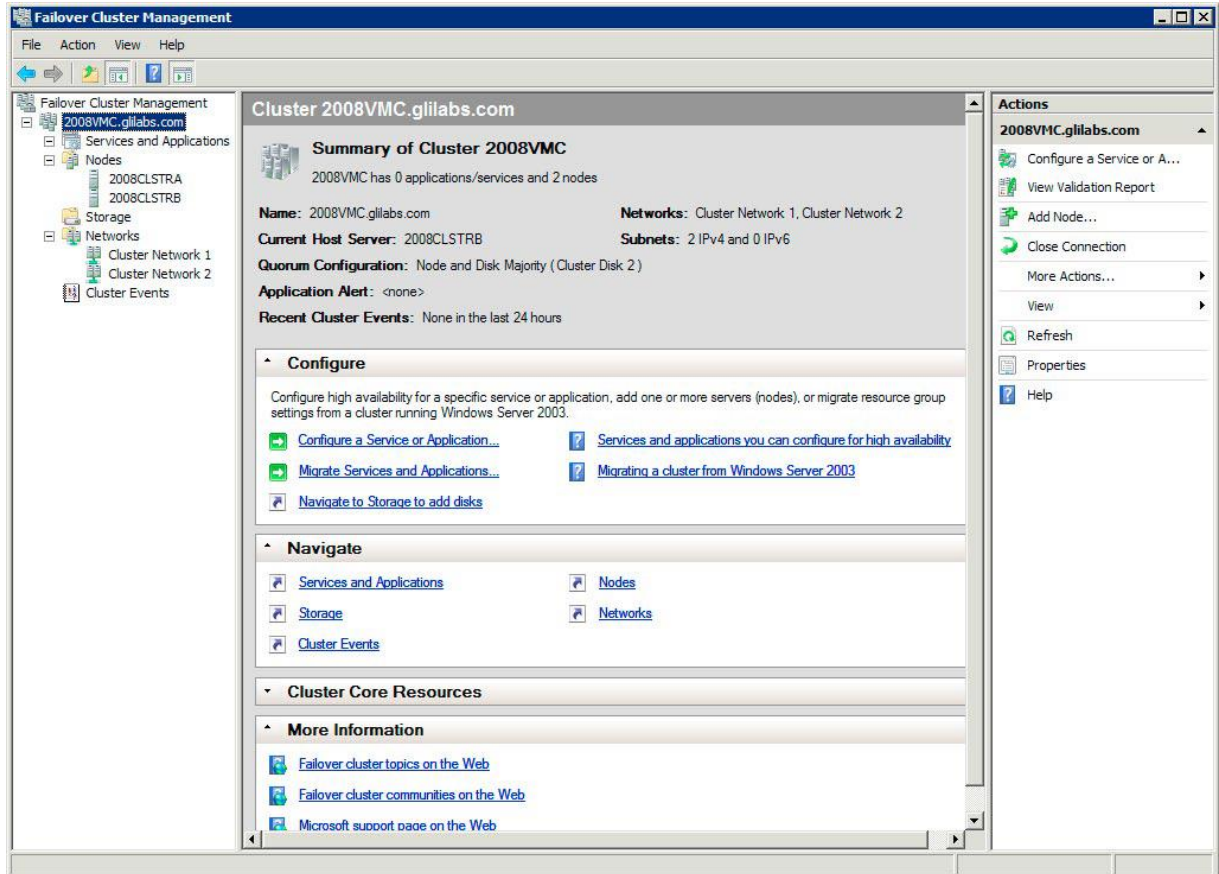
Windows クライアントが SMB で共有するフォルダが、Files Connect ボリュームと同じ物理ディスク上にある場合は、Files Connect サービスを既存のグループに追加することができます。また、Windows SMB ファイル共有でアクティブ/アクティブ構成を使用している場合は、Windows DFS (分散ファイル システム)のインストールおよび設定が必要になることがあります。DFS により、接続中のユーザーは、複数の IP や FQDN を覚えることなく、ネットワーク上の共有フォルダを簡単に見つけることができます。詳細については、Microsoft の DFS のドキュメントを参照してください。Mac クライアントでは DFS はサポートされていませんが、Files Connect に搭載されている機能により、Mac クライアントに対して DFS ボリュームが使用可能になります。

Windows 2008 クラスタ グループの作成

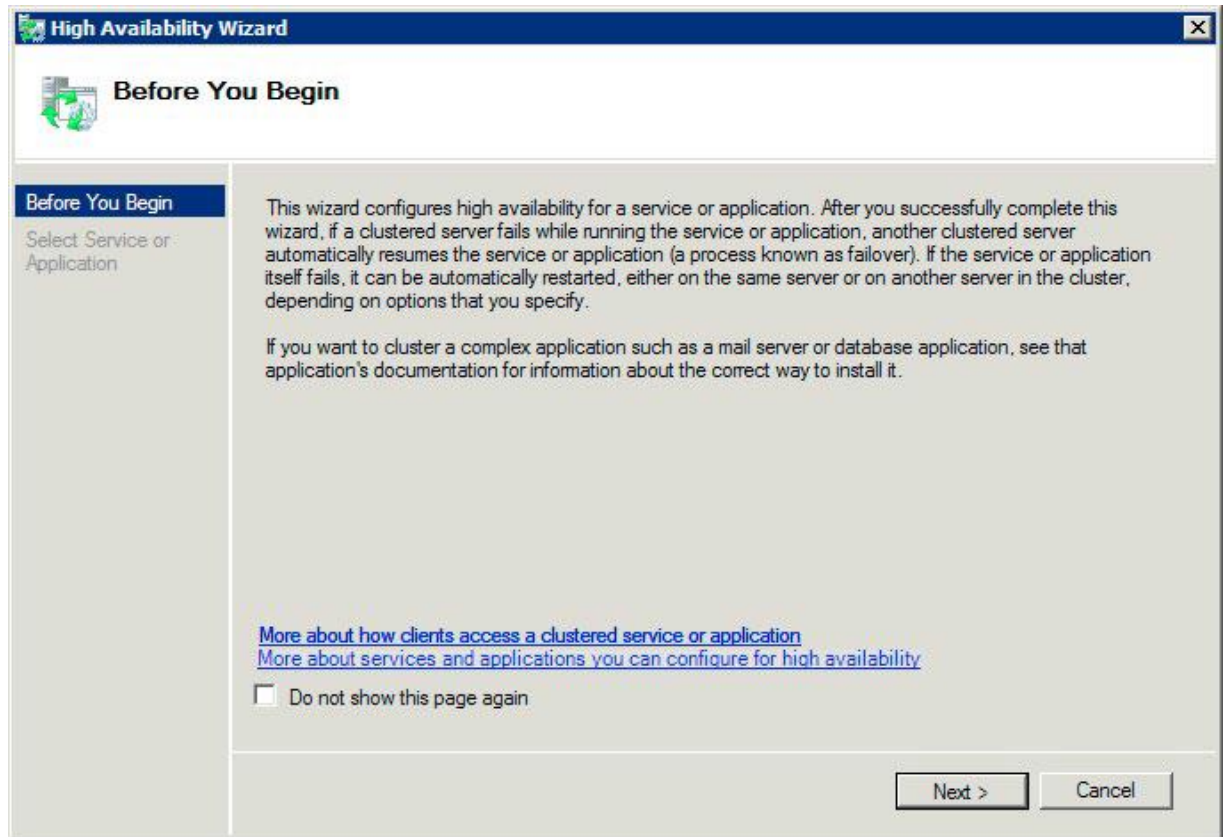
これは、Files Connect サービスが含まれる新しいクラスタ グループを作成する場合に推奨される方法です。クラスタ グループを既に構成済みの場合、Files Connect をそのグループに追加するには、クラスタ グループを右クリックし、**[リソースの追加]** → **[汎用サービス]** の順に選択します。次の手順に従って、必要な Files Connect サービスを選択します。これにより、クラスタ グループ ネットワークとストレージの設定手順をスキップします。

クラスタ グループを作成するには、次の操作を実行します。

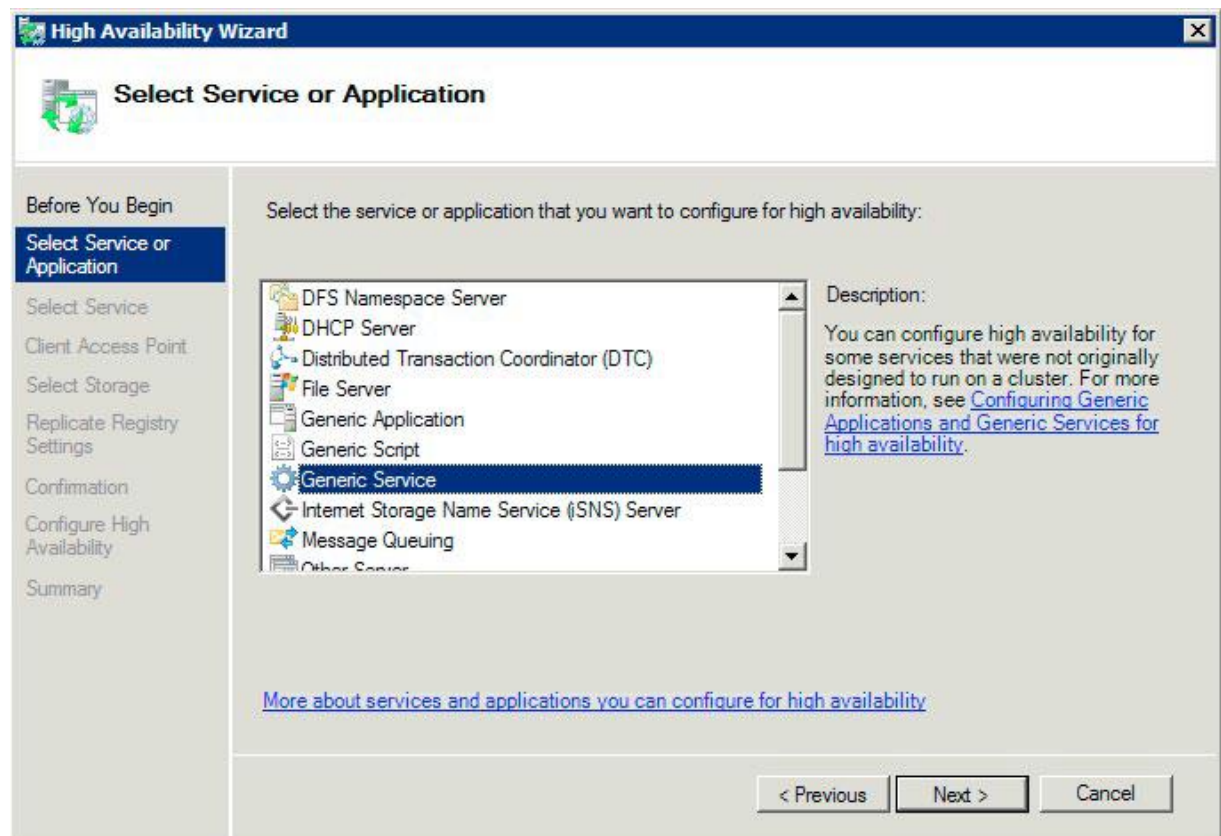
1. [管理ツール] の [フェールオーバー クラスタ管理] を開き、左側のウィンドウでクラスタを選択します。



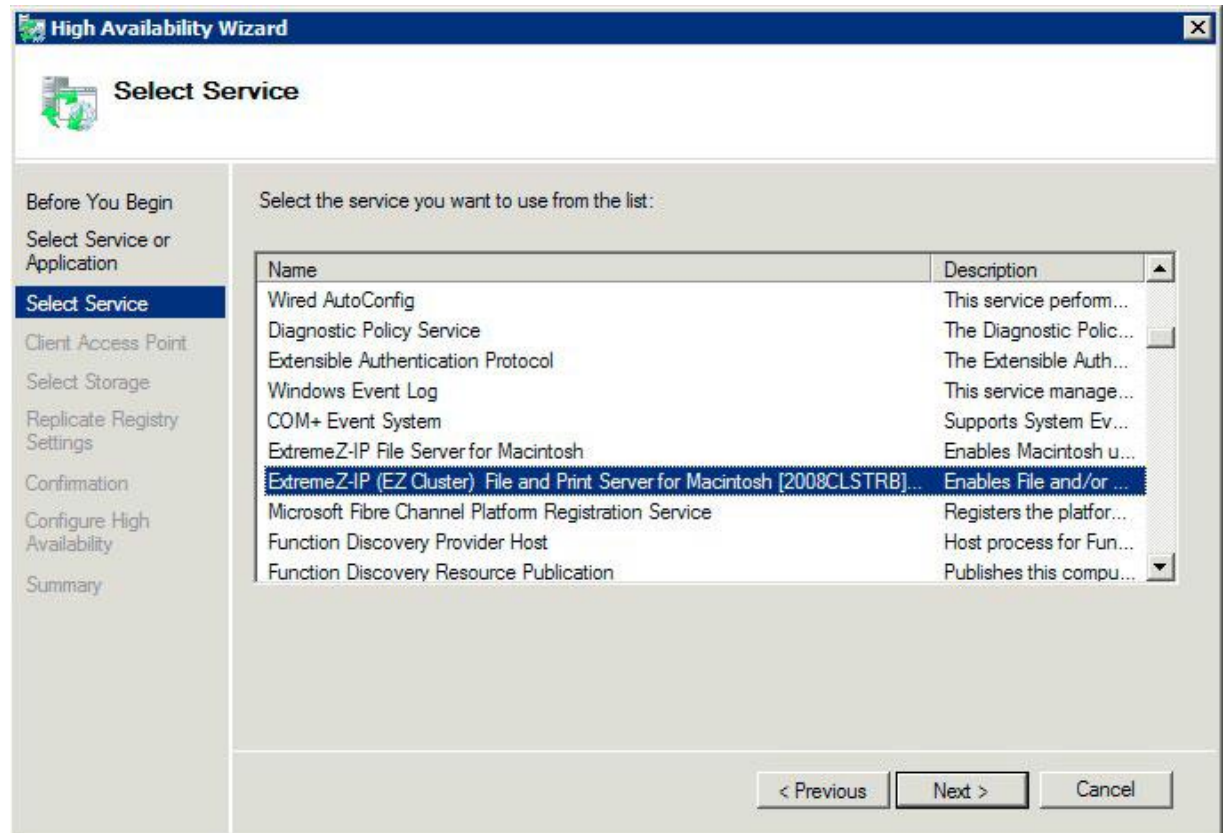
2. クラスタ名を右クリックし、[サービスまたはアプリケーションの構成] を選択します。
これにより、高可用性ウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



3. [汎用サービス] を選択し、[次へ] をクリックします。



4. 追加するサービスをここで選択する必要があります。リストには、Files Connect の複数のエントリが表示されることがあります。各エントリにはサービスが作成されたときに定義された Files Connect サービス名が表示されます。詳細については、クラスタのセクションを確認してください。構成する特定の Files Connect サービス名が含まれるエントリを選択し、[次へ] をクリックします。



5. クラスタ グループのネットワーク サービス名を入力します。これはクライアントがこのクラスタ グループに接続するために使用する FQDN を定義します。このクラスタ グループが使用するネットワークを選択し、選択した各ネットワーク上のクラスタ グループの IP アドレスを定義します。

High Availability Wizard

Client Access Point

Before You Begin

Select Service or Application

Select Service

Client Access Point

Select Storage

Replicate Registry Settings

Confirmation

Configure High Availability

Summary

Type the name that clients will use when accessing this service or application:

Name:

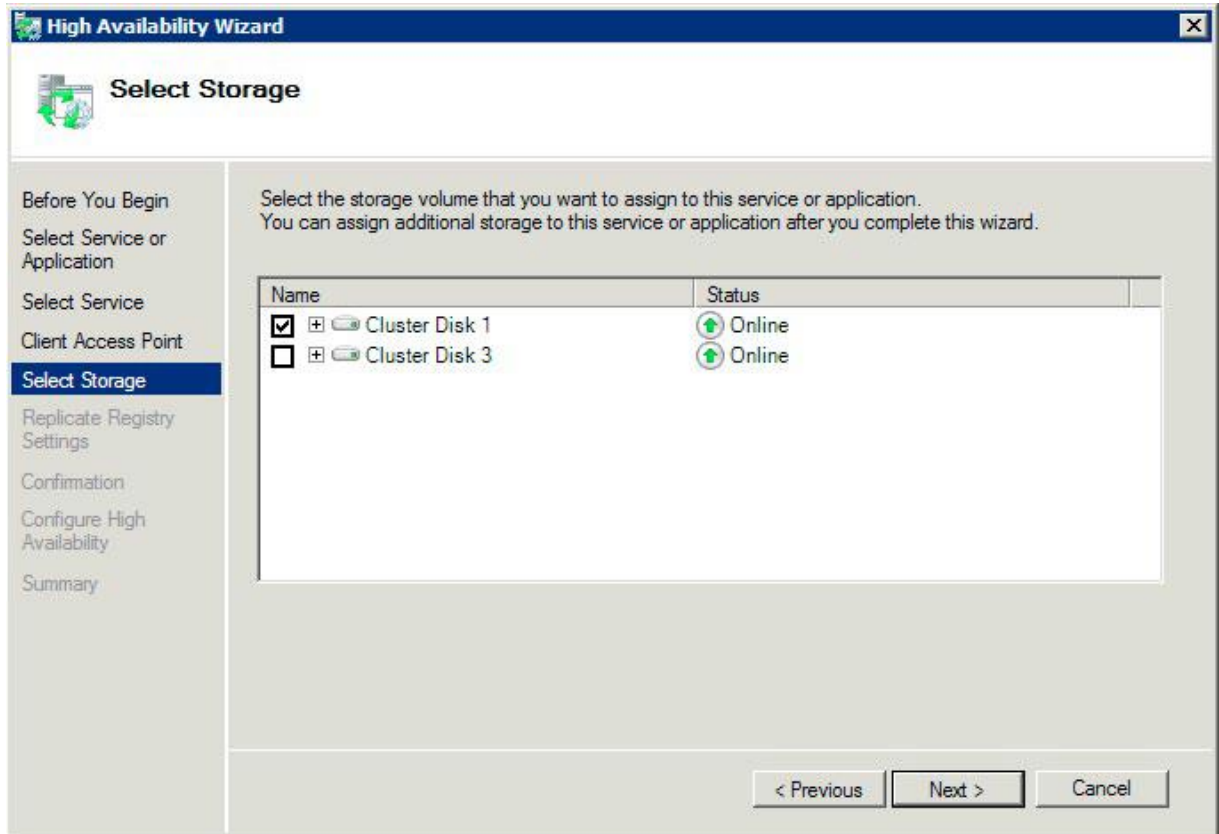
One or more IPv4 addresses could not be configured automatically. For each network to be used, make sure the network is selected, and then type an address.

	Networks	Address
<input type="checkbox"/>	192.168.1.0/24	Click here to type an address
<input checked="" type="checkbox"/>	172.27.0.0/16	172.27.200.100

[More about how clients access a clustered service or application](#)

< Previous Next > Cancel

- このクラスタ グループで使用できるようにするボリュームを選択し、[次へ] をクリックします。これらのボリュームは、Files Connect と共有するディレクトリが含まれるボリュームにする必要があります。



- [レジストリ設定のレプリケート] の手順で [次へ] をクリックします。変更は必要ありません。
- [確認] の手順で [次へ] をクリックします。

セクションの内容

クラスタ リソースの依存関係の設定	54
新しいリソースをオンラインにする	55

クラスタ リソースの依存関係の設定

クラスタ サービスを確実に正しい順序で起動させるには、**IP アドレス**、**ネットワーク名**、および**物理ディスク**に関するリソースの依存関係を設定する必要があります。

IP アドレス、**ネットワーク名**、および**クラスタ ディスク**に関するリソースの依存関係を設定するには、次の操作を実行します。

1. クラスタ グループの **[フェールオーバー クラスタ管理]** の **[その他のリソース]** で、**[Files Connect ファイル サーバーおよびプリント サーバー]** リソースを右クリックします。
2. **[プロパティ]** をクリックします。
3. **[依存関係]** タブを選択します。
4. 依存関係として **[IP アドレス]**、**[ネットワーク名]**、および **[クラスタ ディスク]** を追加します。
5. **[OK]** をクリックします。

注意: Files Connect リソースは高可用性ウィザードで作成されるので、クラスタ内のすべてのノードがリソースの所有者になります。この構成が不要な場合は、サービスをオンライン状態にする前に構成を変更することができます。リソースの所有者を変更するには、**[高度なポリシー]** タブをクリックし、必要に応じて **[実行可能な所有者]** を変更します。

新しいリソースをオンラインにする

この構成が完了した時点で、Files Connect リソースがオフラインになっている場合があります。ここで新しいリソースをオンラインにすることができます。

Files Connect リソースをオンラインにするには、次の操作を実行します。

1. **[Files Connect ファイル サーバーおよびプリント サーバー]** リソースを右クリックします。
2. **[このリソースをオンラインにする]** を選択します。

Windows 2012 の役割の作成

これは、Files Connect サービスが含まれる新しいクラスタ グループを作成する場合に推奨される方法です。役割を既に構成し、Files Connect をその役割に追加する場合は、役割を右クリックし、**[リソースの追加]** → **[汎用サービス]** の順に選択します。次の手順に従って、必要な Files Connect サービスを選択します。これにより、役割のネットワークとストレージの構成手順をスキップします。

役割を作成するには、次の操作を実行します。

1. **[管理ツール]** の **[フェールオーバー クラスタ管理]** を開き、左側のウィンドウでクラスタを選択します。
2. **[役割]** を右クリックし、**[役割の構成]** を選択します。これにより、高可用性ウィザードが起動します。**[次へ]** をクリックします。
3. **[汎用サービス]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。
4. 追加するサービスをここで選択する必要があります。リストには、Files Connect の複数のエントリが表示されることがあります。各エントリにはサービスが作成されたときに定義された Files Connect サービス名が表示されます。詳細については、クラスタのセクションを確認してください。構成する特定の Files Connect サービス名が含まれるエントリを選択し、**[次へ]** をクリックします。
5. クラスタ グループのネットワーク サービス名を入力します。これはクライアントがこのクラスタ グループに接続するために使用する FQDN を定義します。このクラスタ グループが使用するネットワークを選択し、選択した各ネットワーク上のクラスタ グループの IP アドレスを定義します。
6. このクラスタ グループで使用できるようにするボリュームを選択し、**[次へ]** をクリックします。これらのボリュームは、Files Connect と共有するディレクトリが含まれるボリュームにする必要があります。
7. **[レジストリ設定のレプリケート]** の手順で **[次へ]** をクリックします。変更は必要ありません。
8. **[確認]** の手順で **[次へ]** をクリックします。

セクションの内容

クラスタ リソースの依存関係の設定	57
新しいサービスをオンラインにする	57

クラスタ リソースの依存関係の設定

クラスタ サービスを確実に正しい順序で起動させるには、**IP アドレス**、**ネットワーク名**、および**物理ディスク**に関するリソースの依存関係を設定する必要があります。

IP アドレス、**ネットワーク名**、および**クラスタ ディスク**に関するリソースの依存関係を設定するには、次の操作を実行します。

1. 役割の **[フェールオーバー クラスタ管理]** の **[その他のリソース]** で、**[Files Connect ファイル サーバーおよびプリント サーバー]** リソースを右クリックします。
2. **[プロパティ]** をクリックします。
3. **[依存関係]** タブを選択します。
4. 依存関係として **[IP アドレス]**、**[ネットワーク名]**、および **[クラスタ ディスク]** を追加します。
5. **[OK]** をクリックします。

注意: Files Connect リソースは高可用性ウィザードで作成されるので、クラスタ内のすべてのノードがリソースの所有者になります。この構成が不要な場合は、サービスをオンライン状態にする前に構成を変更することができます。リソースの所有者を変更するには、**[高度なポリシー]** タブをクリックし、必要に応じて **[実行可能な所有者]** を変更します。

新しいサービスをオンラインにする

この構成が完了した時点で、Files Connect リソースがオフラインになっている場合があります。ここで新しいリソースをオンラインにすることができます。

Files Connect リソースをオンラインにするには、次の操作を実行します。

1. **[Files Connect ファイル サーバーおよびプリント サーバー]** リソースを右クリックします。
2. **[オンラインにする]** を選択します。

3.3.3 Kerberos の使用

マサチューセッツ工科大学は、ユーザー名/パスワード交換、ネットワーク セキュリティ、クライアント コンピュータ セキュリティ、ログインの持続などのセキュリティ問題に対処できるように Kerberos を開発しました。Kerberos とは、セキュリティで保護された認証、およびネットワーク リソースへの「シングル サインオン」のサポートを提供するプロトコルです。シングル サインオンのサポートにより、ユーザーはネットワーク ドメインに 1 回ログインして認証を受けた後は、ユーザー名とパスワードを再送信しなくても他のコンピュータ上のリソースにアクセスすることができます。Kerberos では、クライアントと認証サーバーのみが機密情報の一部を共有することを前提として機能し、共有情報がユーザーセッション全体で正確であることを確認するための方法が提供されます。クライアント コンピュータ上のユーザーがユーザー名とパスワードを入力し、その情報をサーバーに送信してログインすると、Kerberos では最初にそのユーザーが認証され、次にそのセッションのクライアントを一意に識別するチケットが発行されます。ユーザー セッション、ログイン後の他のアプリケーションや共有ボリュームへのアクセス時にこのチケットが使用されます。Kerberos では、暗号化されたキー交換が提供され、内部ネットワーク（ファイアウォールの背後）と安全でないネットワーク（インターネットなど）の両方のセキュリティが確保されます。ユーザーが認証されると、それ以降のすべての通信がプライバシーとセキュリティのために暗号化されます。

Files Connect は、AFP プロトコルでの Kerberos 拡張をサポートしており、Active Directory と直接連携して動作します。Files Connect は、Kerberos サービス プロバイダとして登録され、Mac チケットを認証できます。チケット自体は Kerberos での標準形式であるため、Files Connect は Mac からチケットを取得し、認証用として Microsoft Windows Active Directory に渡し、Active Directory でクライアントのチケットが有効であることが確認されると、Windows サーバーのリソースへのアクセスを許可します。

セクションの内容

Kerberos のトラブルシューティング 59

3.3.3.1 Kerberos のトラブルシューティング

Kerberos を Files Connect と連動できない場合は、次のトラブルシューティング手順を使用します。

- クライアント コンピュータが Kerberos チケット機関と正常に通信して Files Connect のチケットを受け取ったことを確認するには、
/System/Library/CoreServices にある Kerberos アプリケーションを実行します。アクティブな Kerberos チケットは Kerberos.app に一覧表示されます。また、Kerberos アプリケーションを使用して、既存のチケットの通常の有効期間に到達する前にそれらのチケットを破棄できます。
- クライアント コンピュータが Active Directory ドメインに正常にバインドされていること、および正しいバージョンの Kerberos モジュールが実行されていることを確認するには、**[サーバーへ接続]** ダイアログの **[サーバーアドレス]** フィールドに「smb://SERVER_NAME smb://SERVER_NAME」と入力し、**AFP** ではなく **SMB** を介して Mac からサーバーへの接続を試みます。ログインが必要な場合は、Kerberos に一般的問題があることがわかります。

3.4 Files Connect クラスターの設定

クラスターを使用すると、障害が発生したサーバー ノードによって提供されていたサービスを迅速にフェールオーバーして再開することができます。Files Connect クラスターは Microsoft Cluster Server (MSCS)を使用して設定されます。これらのサーバーは、Microsoft Cluster Service を実行している特別にリンクされた複数のサーバーです。1 つのサーバーに障害が発生するかオフラインになった場合、障害が発生したサーバーの操作がクラスター内の他の 1 つまたは複数のサーバーにより直ちに引き継がれます。クラスター上で実行されているアプリケーションは常に使用可能です。接続中のクライアントには複数のサーバー上で実行されているリソースが 1 つのシステムに見え、Files Connect Virtual Server として参照されます。問題発生後に正常にフェールオーバーされた場合、接続中のユーザーはサービスの中断に気づかないことがあります。Files Connect は、アクティブ/アクティブのクラスター構成で使用できるクラスター対応アプリケーションです。Files Connect の複数のインスタンスを 1 台のサーバー ノード上で実行することができます。各インスタンスには専用の IP アドレスがあり、専用の共有ボリュームを割り当てることができます。複数の仮想サーバーの構成では、サーバーの統合と負荷の管理の点でメリッ

トが得られます。1 つのサーバー ノード上で Files Connect の複数のインスタンスを実行すると、各インスタンスが他のインスタンスから分離されて実行されるので信頼性が向上します。クラスタの構成に関するヘルプについては、次のクラスタ ワークシートを参照してください。Files Connect は、クラスタ化された構成で次のサービスをサポートします。

- アクティブ/アクティブ クラスタ
- クラスタ内のノードごとに複数の仮想サーバー
- 信頼性と可用性の向上
- Windows 2008 上の 8 つのノード クラスタ
- サーバー統合が可能

クラスタ化された環境で Files Connect を実行している場合、[Files Connect Administrator] ウィンドウのタイトル バーに次の情報が表示されます。

- 大文字のサーバー名
- サービスを設定したときに入力した大文字または小文字のサービスの名前

MSCS では、クラスタ構成のコンポーネント パーツを説明するときに次の用語を使用します。Files Connect のインストールを続行するときにこれらの用語を混同しないようにしてください。

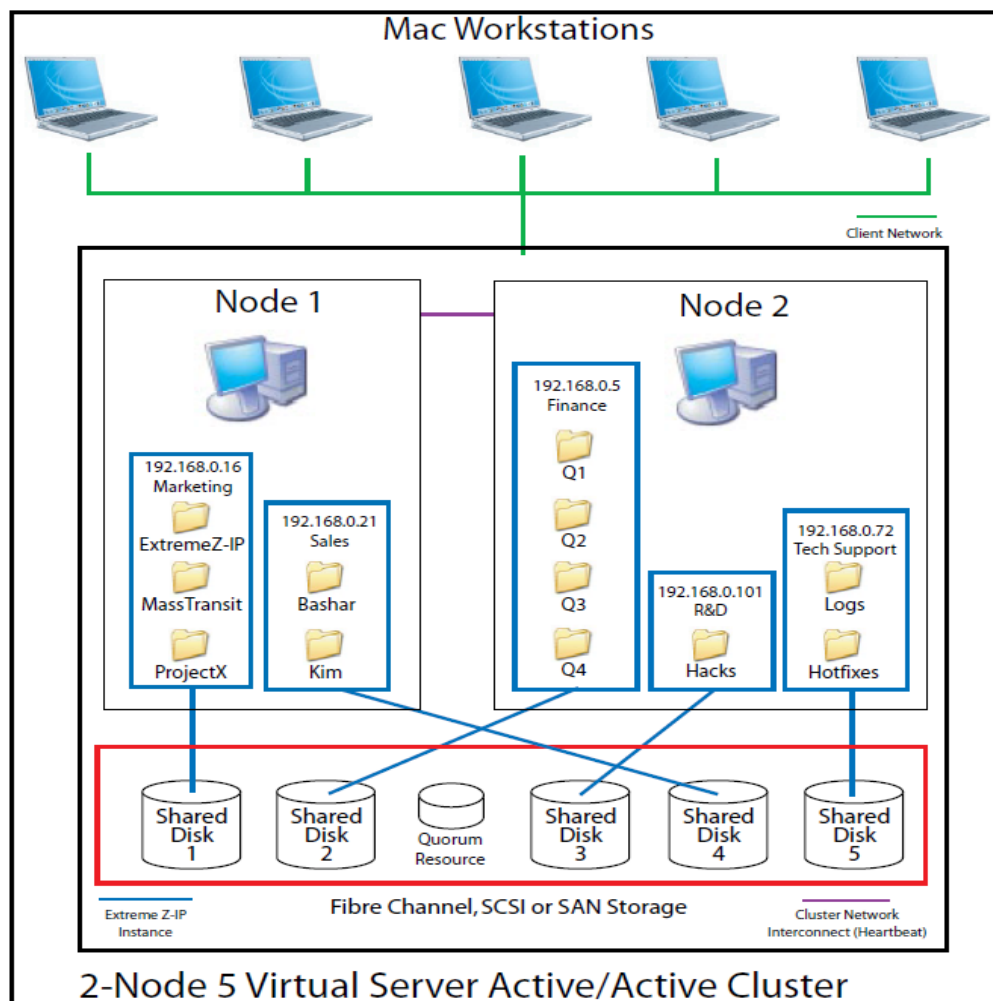
- **ノード**: クラスタ内の 1 つのメンバー サーバー。
- **リソース** - クラスタ内で実行されるハードウェアまたはソフトウェアコンポーネント。ディスク、IP アドレス、ネットワーク名、Files Connect サービスのインスタンスなどがあります。

グループ - フェールオーバーの単位として管理されるリソースの組み合わせ。グループは、リソース グループまたはフェールオーバー グループとも呼ばれます。一般的な Files Connect フェールオーバー グループは、ディスク、IP アドレス、ネットワーク名、および Files Connect のインスタンスで構成されます。

- **依存関係** - 依存するサービスを開始するために最初に使用可能になっている必要があるサービスまたは他のリソース。

- **フェールオーバー** - リソースまたはリソース グループを 1 つのサーバーから別のサーバーに移動するプロセス。フェールオーバーは、1 つのサーバーで何らかの障害が発生するか、管理者がフェールオーバーを開始したときに発生します。この用語は、Microsoft Cluster Administrator でクラスター グループを別のノードに移動する操作と同じです。
- **クォラムリソース** - クラスタ内のノードで共有されるフェールオーバー情報が含まれるディスクリソース。
- **ハートビート** - サービスが引き続き実行中であることを他のノードに知らせるクラスター ノード間の通信。
- **仮想サーバー** - 仮想サーバーは、IP アドレス、ネットワーク名、アプリケーションリソースなどの構成情報とクラスターリソースの組み合わせです。Files Connect 仮想サーバー (EVS)は固有の IP アドレスで定義されます。
- **アクティブ/アクティブ** - この用語は、稼働環境で複数のノードが Files Connect ファイルサーバーを実行している構成を意味します。
- **アクティブ/パッシブ** - この用語は、稼働環境で 1 つのノードがアクティブで、別のノードはフェールオーバーが発生するまでアイドル状態である構成を意味します。

- **共有ストレージ** - この用語は、外部 SCSI またはファイバーチャネル ストレージシステムを意味します。複数ノードのクラスターでは共有ストレージが必須です。このストレージは共有されますが、外部ストレージのリソースにアクセスできるのは一度に 1 つのノードのみです。



注意: 各サーバーが固有の IP アドレスを使用します。各仮想サーバー用に複数の共有を構成することができます。

セクションの内容

クラスター ワークシート	62
クラスター上での Files Connect のインストール.....	65

3.4.1 クラスター ワークシート

クラスター上で実行される各 Files Connect サービスについて、次のものがが必要です。

1. 固有の Files Connect サービスの名前（最初のインスタンスはデフォルトで作成され、
名前は ExtremeZ-IP になります）
2. 固有の IP アドレスとオプションのネットワーク名
3. 共有物理ストレージ
4. 新しい Files Connect サービスが配置されるクラスター グループ

このプロセスを簡素化するために、インストール準備用にワークシートを用意しました。追加で作成する各 Files Connect Virtual Server 用にワークシートをコピーしてください。ソフトウェアのインストールに必要な情報 Files Connect のシリアル ナンバー:

仮想サーバーごとに設定する場合、以下の項目で固有の値を持つ必要があります。

新しいサービスを作成するために必要な情報:

- **固有サービス名**
- **新しいクラスター グループを設定するために必要な情報**
- **クラスター グループ名**
- **ネットワーク名 (DNS/NetBIOS 名)**
- **固有サービス名 (上の項目で作成されたサービス名)**
- **共有するボリューム**
- **ドライブ レター**
- **ボリューム名**
- **このボリュームは Windows で共有されていますか？**

ソフトウェアのインストールに必要な情報	
Files Connect プロダクトキー	

設定する仮想サーバーごとに、以下のそれぞれの項目で固有の値を持つ必要があります。

新しいサービスの作成に必要な情報	
固有サービス名	

--	--	--	--

3.4.2 クラスタ上での Files Connect のインストール

新しいクラスタに Files Connect をインストールする前に、サーバー上にクラスタリングサービスをインストールし、構成しておく必要があります。Windows Server 2008

(Enterprise または Datacenter Edition)では、フェールオーバー クラスタリングの役割をインストールして構成する必要があります。さらに、次のものを用意する必要があります。

- ライセンス供与されたノードと仮想サーバーの数でエンコードされた Files Connect クラスタ対応のプロダクト キー。クラスタのすべてのノードで 1 つのプロダクト キーを使用します。
- Files Connect 共有ボリュームが置かれている 1 つまたは複数の共有ディスク。
- 作成する各 Files Connect Virtual Server の IP アドレスとネットワーク名。各 IP アドレスの DNS エントリを作成します。

注意: SMB (Windows クライアント)で共有するフォルダが、Files Connect 共有と同じ物理ディスクにある場合、DFS (分散ファイルシステム)を設定して、Windows ユーザーが 1 つの IP アドレスまたはホスト名を使用して共有ボリュームにアクセスできるようにすることをお勧めします。

セクションの内容

インストール手順の確認.....	65
Files Connect サービスの構成	66
Files Connect サービスの作成	66
クラスタに Files Connect サービスを追加する.....	68
Windows 2008 クラスタ グループの作成	68
Windows 2012 の役割の作成.....	75

3.4.2.1 インストール手順の確認

インストールは次の 4 つの部分で構成されます。番号が付いた各手順について次のセクションで説明します。

1. Acronis によって提供されるインストーラとプロダクトキーを使用して Files Connect をクラスタの各ノードにインストールします。
2. Files Connect Administrator アプリケーションを使用して、クラスタの各ノード上で必要な Files Connect サービスを設定します。
3. Windows Server 2008 に付属のフェールオーバー クラスタ管理アプリケーションを使用して、Microsoft クラスタ サービスを設定します。
4. Files Connect Administrator アプリケーションを使用して、共有フォルダと Files Connect サービスの他の機能を設定します。

3.4.2.2 Files Connect サービスの構成

Files Connect を運用するには次の 4 つのコンポーネントが必要です。

- **IP アドレス**
- **ネットワーク名**
- **物理ディスク**
- **Files Connect サービス**

コンポーネントの各セットを専用のクラスタ グループまたは Files Connect Virtual Server (EVS)に配置します。作成される EVS の数は、Files Connect と共有する必要がある物理ディスクの数が基になります。たとえば、ボリュームが 3 つの物理ディスク上にある場合は、3 つの EVS を作成します。この構成は最も柔軟性が高くなりますが、場合によっては複数の IP アドレスをを避けたい場合もあります。この場合、1 つの EVS によって複数の物理ディスクを共有することができます。クラスタ ワークシート『42ページ』は、クラスタの計画を作成するために役に立ちます。

3.4.2.3 Files Connect サービスの作成

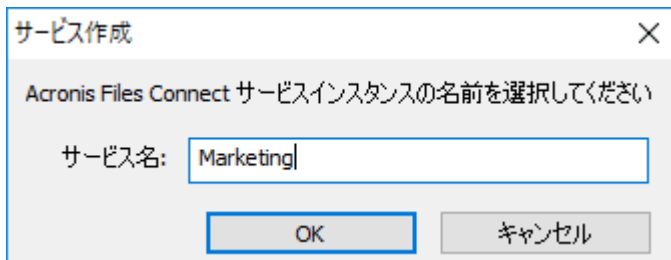
使用する各 Files Connect Virtual Server に Files Connect サービス インスタンスが必要です。これらの各 Files Connect サービスに固有のサービス名が必要です。Files Connect がクラスタ対応のサーバーにインストールされるときに、デフォルトで作成されるサービスはありません。この手順では、サービスを実行する各ノード上で新しい Files Connect サービスを各仮想サーバー用に作成します。

Files Connect サービスの作成

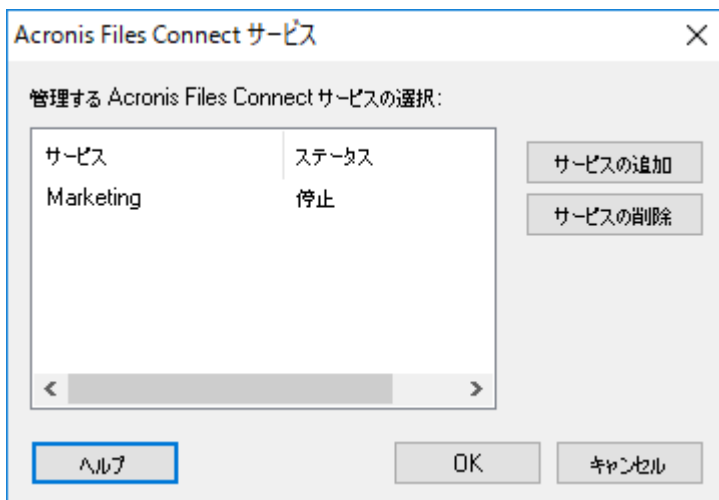
注意: Files Connect サービスを追加する前に、まずレジストリを確認して、

[HKEY_LOCAL_MACHINE] > [SYSTEM] > [CurrentControlSet] > [Services] にこうしたサービスが存在するかどうか調べる必要があります。こうしたサービスが存在する場合は、まずそれを削除してから新規のサービスを追加してください。

1. Files Connect インストール プロセスが完了した後、または既存の Files Connect インストールのクラスタ サーバーで、**Files Connect Administrator** アプリケーションを実行します。
2. Files Connect を初めてインストールし、サービスが存在しない場合は、サービスを作成するように要求するメッセージが表示されます。サービスの名前を入力して、[OK]を押します。この例ではサービス名は「Marketing」です。



3. 次のセクションで Microsoft クラスタを構成するときに必要なので、入力したサービス名を正確に記録しておきます。サービス名は Files Connect Administrator を開始したときに、タイトル バーにも表示されます。
4. サービスを作成すると、[Files Connect サービス] ウィンドウにサービスが表示されます。[Files Connect サービス] は、Files Connect Administrator を起動するたびに表示されます。このウィンドウは、管理するサービスを選択したり、他のサービスを追加または削除したりするために使用します。



5. これらの Files Connect サービスを実行する各クラスタ ノード上でこの手順を実行する必要があります。

3.4.2.4 クラスタに Files Connect サービスを追加する

Files Connect 用にクラスタを構成するにはいくつかの方法があります。

- クラスタ グループを既に設定している場合は、汎用サービスとして Files Connect をクラスタ グループに追加するだけです。
- 既存のクラスタ グループがない場合は、次のセクションの手順に従い、Cluster Application Wizard® を使用して、クラスタ グループを構成します。
- または、慣れている別の方法を使用することもできます。

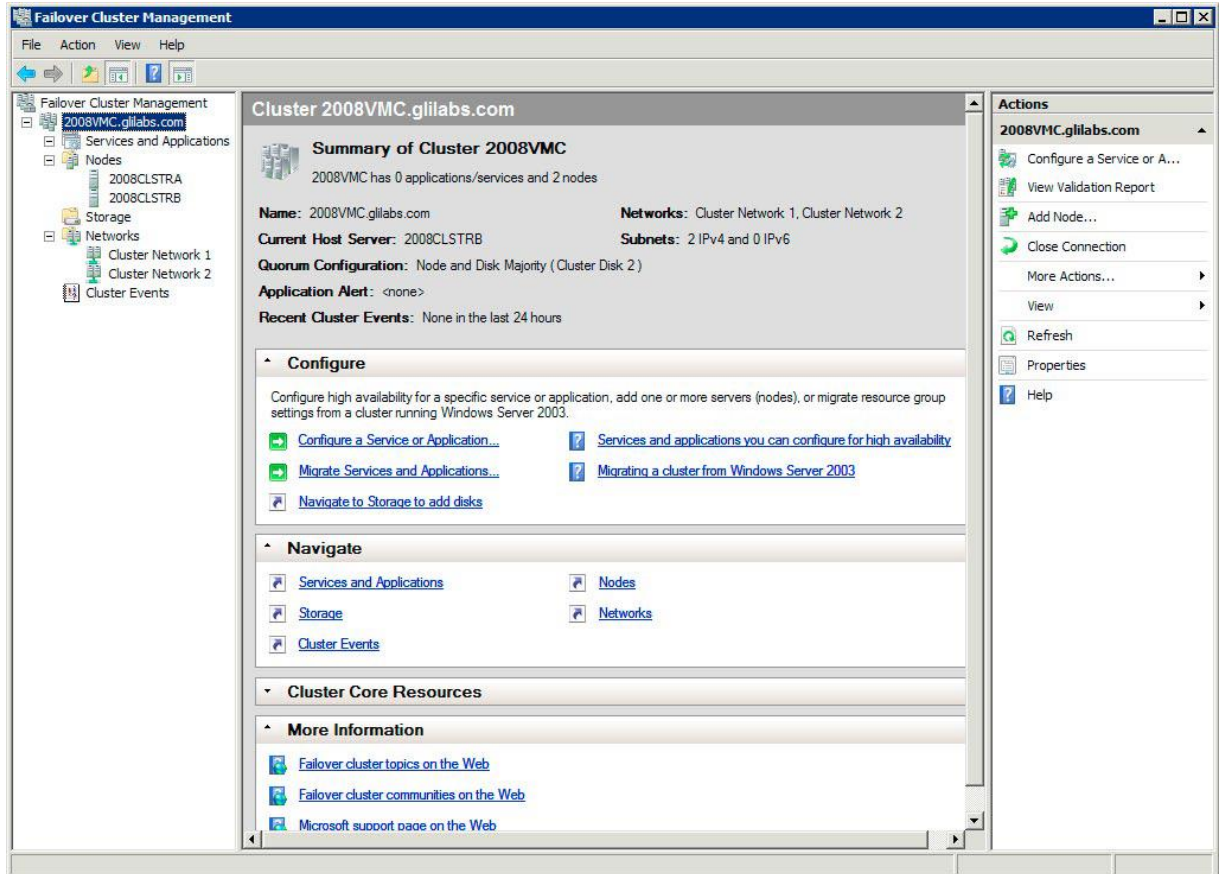
Windows クライアントが SMB で共有するフォルダが、Files Connect ボリュームと同じ物理ディスク上にある場合は、Files Connect サービスを既存のグループに追加することができます。また、Windows SMB ファイル共有でアクティブ/アクティブ構成を使用している場合は、Windows DFS (分散ファイル システム)のインストールおよび設定が必要になることがあります。DFS により、接続中のユーザーは、複数の IP や FQDN を覚えることなく、ネットワーク上の共有フォルダを簡単に見つけることができます。詳細については、Microsoft の DFS のドキュメントを参照してください。Mac クライアントでは DFS はサポートされていませんが、Files Connect に搭載されている機能により、Mac クライアントに対して DFS ボリュームが使用可能になります。

3.4.2.5 Windows 2008 クラスタ グループの作成

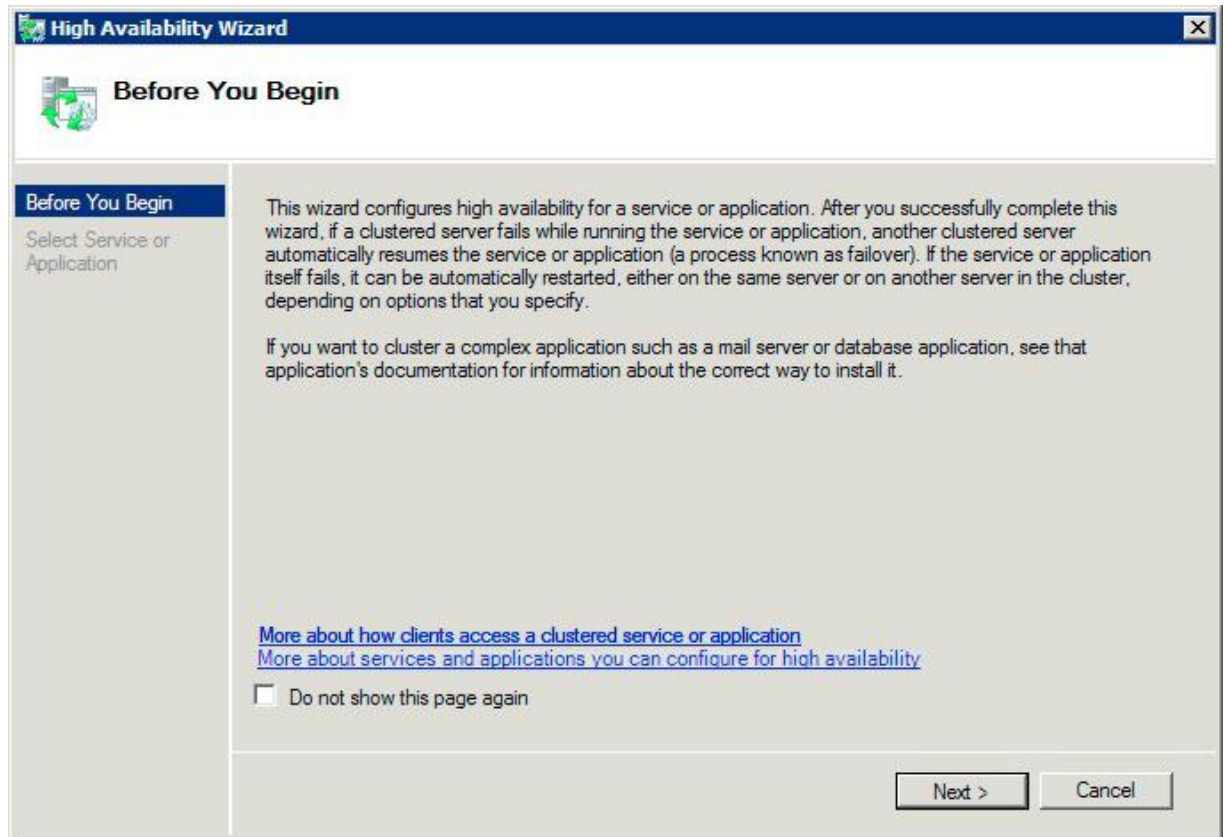
これは、Files Connect サービスが含まれる新しいクラスタ グループを作成する場合に推奨される方法です。クラスタ グループを既に構成済みの場合、Files Connect をそのグループに追加するには、クラスタ グループを右クリックし、**[リソースの追加]** → **[汎用サービス]** の順に選択します。次の手順に従って、必要な Files Connect サービスを選択します。これにより、クラスタ グループ ネットワークとストレージの設定手順をスキップします。

クラスタ グループを作成するには、次の操作を実行します。

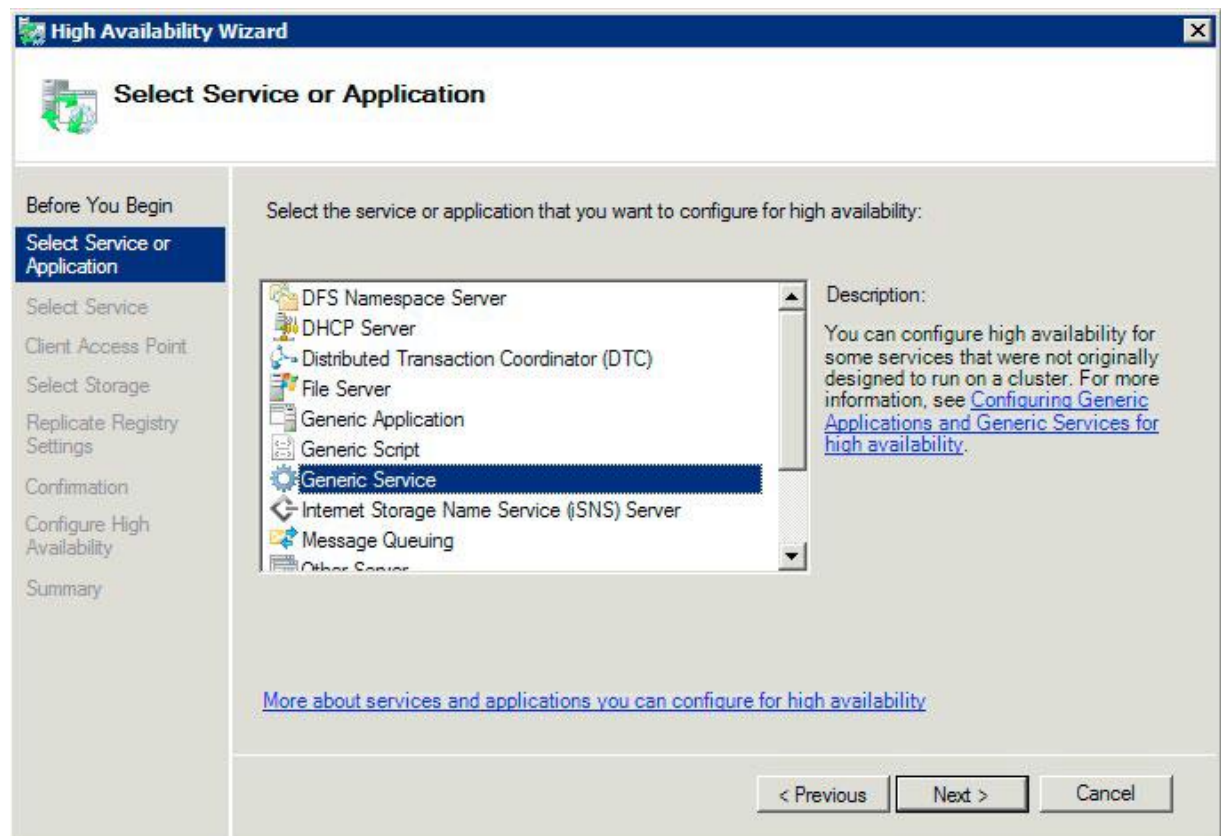
1. [管理ツール] の [フェールオーバー クラスタ管理] を開き、左側のウィンドウでクラスタを選択します。



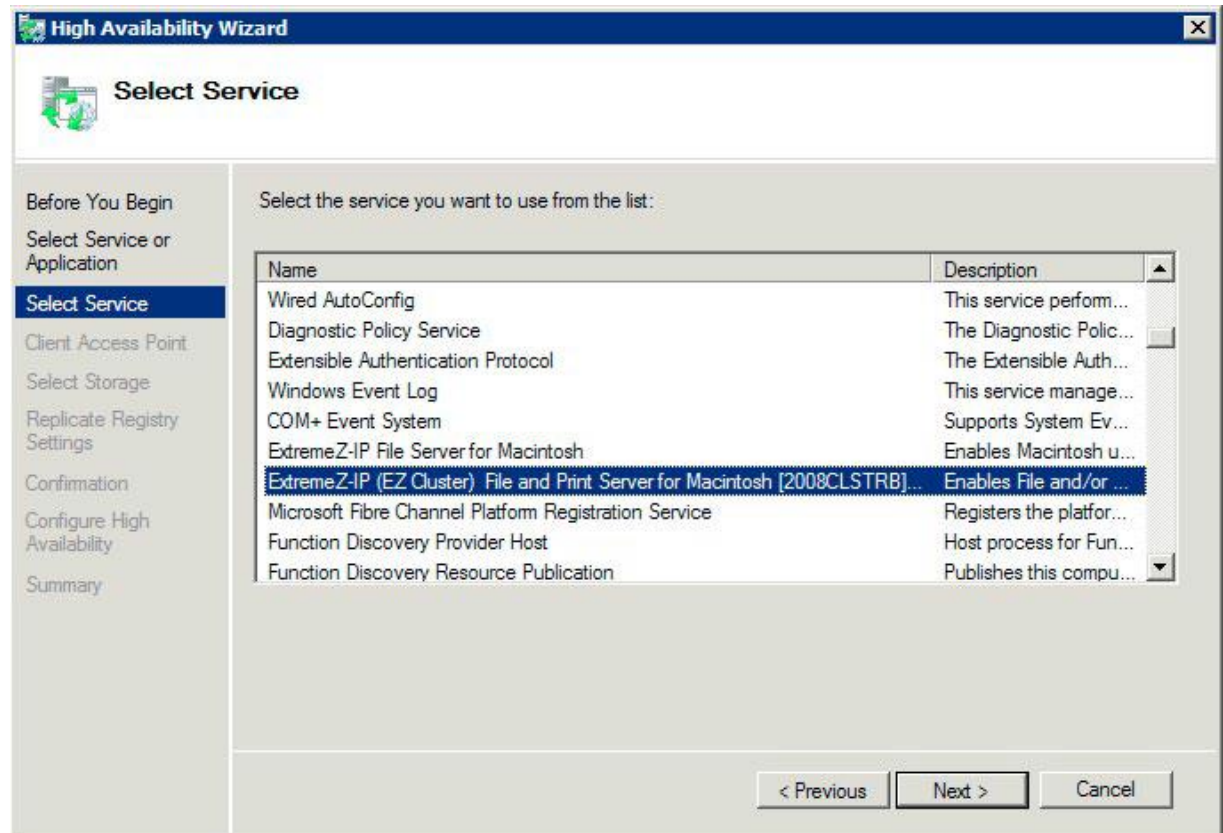
2. クラスタ名を右クリックし、[サービスまたはアプリケーションの構成] を選択します。
これにより、高可用性ウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



3. [汎用サービス] を選択し、[次へ] をクリックします。



4. 追加するサービスをここで選択する必要があります。リストには、Files Connect の複数のエントリが表示されることがあります。各エントリにはサービスが作成されたときに定義された Files Connect サービス名が表示されます。詳細については、クラスタのセクションを確認してください。構成する特定の Files Connect サービス名が含まれるエントリを選択し、[次へ] をクリックします。



5. クラスタ グループのネットワーク サービス名を入力します。これはクライアントがこのクラスタ グループに接続するために使用する FQDN を定義します。このクラスタ グループが使用するネットワークを選択し、選択した各ネットワーク上のクラスタ グループの IP アドレスを定義します。

High Availability Wizard

Client Access Point

Before You Begin

Select Service or Application

Select Service

Client Access Point

Select Storage

Replicate Registry Settings

Confirmation

Configure High Availability

Summary

Type the name that clients will use when accessing this service or application:

Name:

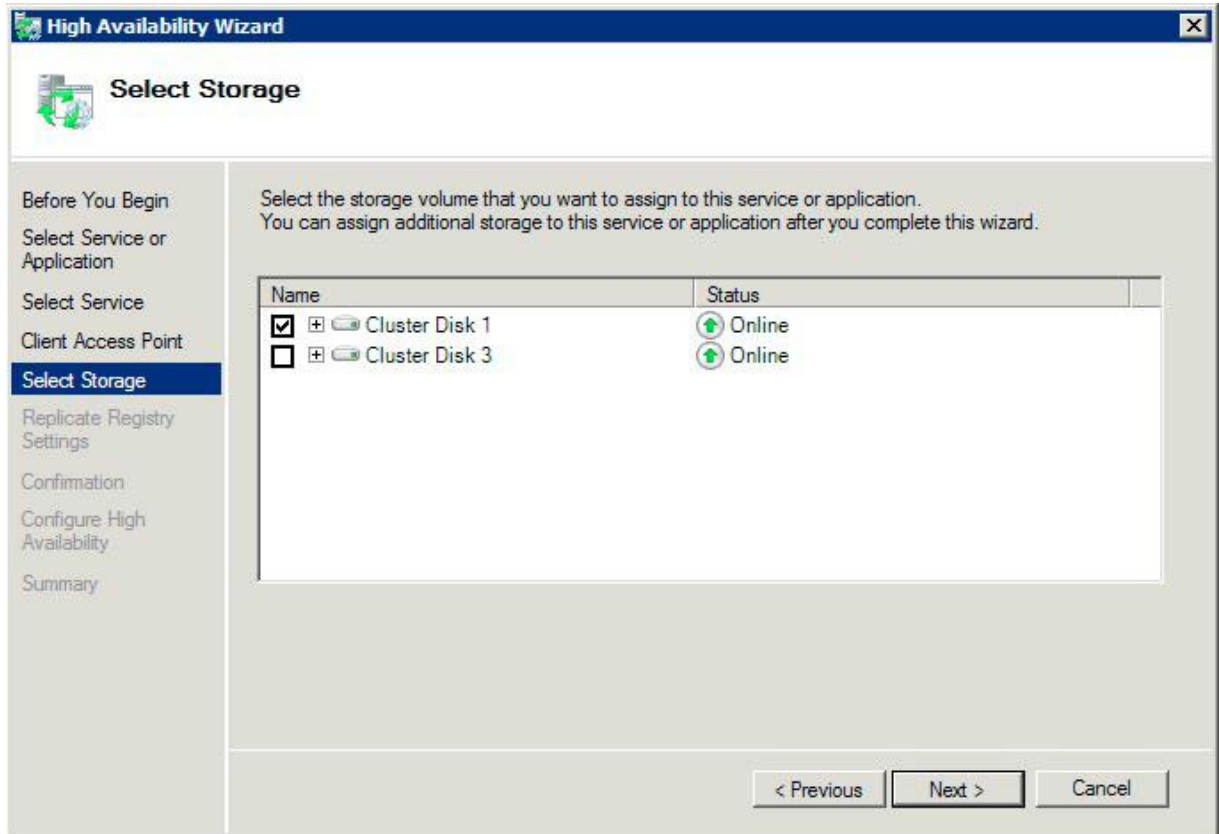
One or more IPv4 addresses could not be configured automatically. For each network to be used, make sure the network is selected, and then type an address.

	Networks	Address
<input type="checkbox"/>	192.168.1.0/24	Click here to type an address
<input checked="" type="checkbox"/>	172.27.0.0/16	172.27.200.100

[More about how clients access a clustered service or application](#)

< Previous Next > Cancel

- このクラスタ グループで使用できるようにするボリュームを選択し、[次へ] をクリックします。これらのボリュームは、Files Connect と共有するディレクトリが含まれるボリュームにする必要があります。



- [レジストリ設定のレプリケート] の手順で [次へ] をクリックします。変更は必要ありません。
- [確認] の手順で [次へ] をクリックします。

セクションの内容

クラスタ リソースの依存関係の設定	74
新しいリソースをオンラインにする	75

クラスタ リソースの依存関係の設定

クラスタ サービスを確実に正しい順序で起動させるには、**IP アドレス**、**ネットワーク名**、および**物理ディスク**に関するリソースの依存関係を設定する必要があります。

IP アドレス、**ネットワーク名**、および**クラスタ ディスク**に関するリソースの依存関係を設定するには、次の操作を実行します。

1. クラスタ グループの **[フェールオーバー クラスタ管理]** の **[その他のリソース]** で、**[Files Connect ファイル サーバーおよびプリント サーバー]** リソースを右クリックします。
2. **[プロパティ]** をクリックします。
3. **[依存関係]** タブを選択します。
4. 依存関係として **[IP アドレス]**、**[ネットワーク名]**、および **[クラスタ ディスク]** を追加します。
5. **[OK]** をクリックします。

注意: Files Connect リソースは高可用性ウィザードで作成されるので、クラスタ内のすべてのノードがリソースの所有者になります。この構成が不要な場合は、サービスをオンライン状態にする前に構成を変更することができます。リソースの所有者を変更するには、**[高度なポリシー]** タブをクリックし、必要に応じて **[実行可能な所有者]** を変更します。

新しいリソースをオンラインにする

この構成が完了した時点で、Files Connect リソースがオフラインになっている場合があります。ここで新しいリソースをオンラインにすることができます。

Files Connect リソースをオンラインにするには、次の操作を実行します。

1. **[Files Connect ファイル サーバーおよびプリント サーバー]** リソースを右クリックします。
2. **[このリソースをオンラインにする]** を選択します。

3.4.2.6 Windows 2012 の役割の作成

これは、Files Connect サービスが含まれる新しいクラスタ グループを作成する場合に推奨される方法です。役割を既に構成し、Files Connect をその役割に追加する場合は、役割を右クリックし、**[リソースの追加]** → **[汎用サービス]** の順に選択します。次の手順に従って、必要な Files Connect サービスを選択します。これにより、役割のネットワークとストレージの構成手順をスキップします。

役割を作成するには、次の操作を実行します。

1. **[管理ツール]** の **[フェールオーバー クラスタ管理]** を開き、左側のウィンドウでクラスタを選択します。
2. **[役割]** を右クリックし、**[役割の構成]** を選択します。これにより、高可用性ウィザードが起動します。**[次へ]** をクリックします。
3. **[汎用サービス]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。
4. 追加するサービスをここで選択する必要があります。リストには、Files Connect の複数のエントリが表示されることがあります。各エントリにはサービスが作成されたときに定義された Files Connect サービス名が表示されます。詳細については、クラスタのセクションを確認してください。構成する特定の Files Connect サービス名が含まれるエントリを選択し、**[次へ]** をクリックします。
5. クラスタ グループのネットワーク サービス名を入力します。これはクライアントがこのクラスタ グループに接続するために使用する FQDN を定義します。このクラスタ グループが使用するネットワークを選択し、選択した各ネットワーク上のクラスタ グループの IP アドレスを定義します。
6. このクラスタ グループで使用できるようにするボリュームを選択し、**[次へ]** をクリックします。これらのボリュームは、Files Connect と共有するディレクトリが含まれるボリュームにする必要があります。
7. **[レジストリ設定のレプリケート]** の手順で **[次へ]** をクリックします。変更は必要ありません。
8. **[確認]** の手順で **[次へ]** をクリックします。

セクションの内容

クラスタ リソースの依存関係の設定	77
新しいサービスをオンラインにする	77

クラスタ リソースの依存関係の設定

クラスタ サービスを確実に正しい順序で起動させるには、**IP アドレス**、**ネットワーク名**、および**物理ディスク**に関するリソースの依存関係を設定する必要があります。

IP アドレス、**ネットワーク名**、および**クラスタ ディスク**に関するリソースの依存関係を設定するには、次の操作を実行します。

1. 役割の **[フェールオーバー クラスタ管理]** の **[その他のリソース]** で、**[Files Connect ファイル サーバーおよびプリント サーバー]** リソースを右クリックします。
2. **[プロパティ]** をクリックします。
3. **[依存関係]** タブを選択します。
4. 依存関係として **[IP アドレス]**、**[ネットワーク名]**、および **[クラスタ ディスク]** を追加します。
5. **[OK]** をクリックします。

注意: Files Connect リソースは高可用性ウィザードで作成されるので、クラスタ内のすべてのノードがリソースの所有者になります。この構成が不要な場合は、サービスをオンライン状態にする前に構成を変更することができます。リソースの所有者を変更するには、**[高度なポリシー]** タブをクリックし、必要に応じて **[実行可能な所有者]** を変更します。

新しいサービスをオンラインにする

この構成が完了した時点で、Files Connect リソースがオフラインになっている場合があります。ここで新しいリソースをオンラインにすることができます。

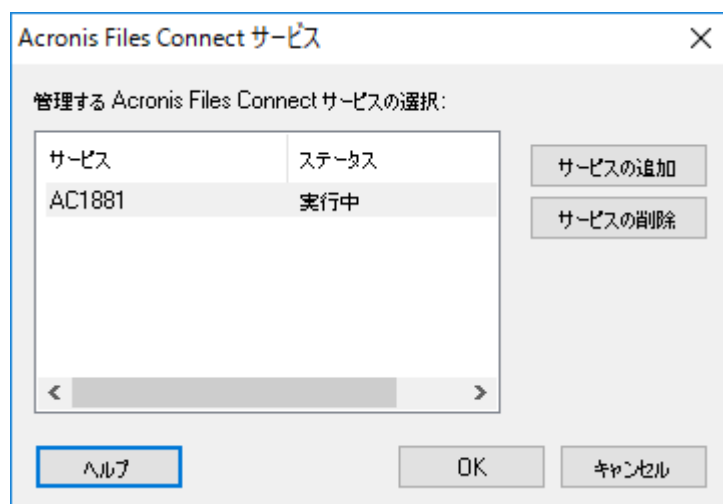
Files Connect リソースをオンラインにするには、次の操作を実行します。

1. **[Files Connect ファイル サーバーおよびプリント サーバー]** リソースを右クリックします。
2. **[オンラインにする]** を選択します。

3.5 クラスタ上の Files Connect の管理

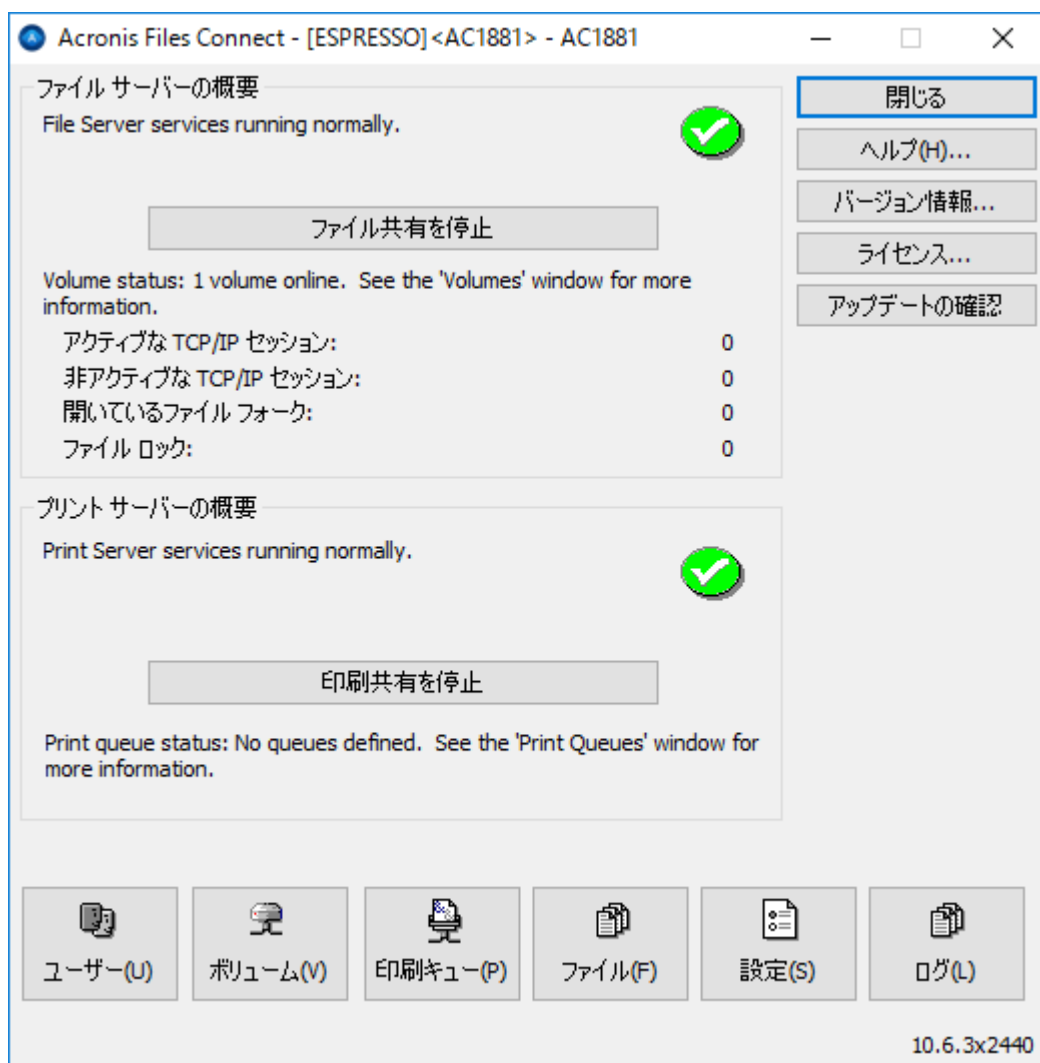
クラスタ化された環境とクラスタ化されていない環境とでは、Files Connect Administrator の動作が異なります。管理タスクは、必ず、管理対象の Files Connect Virtual Server が現在実行されているノード上で実行します。Files Connect Administrator または [サービス] コントロール パネルからのサービスの開始は、クラスタ化された構成では無効になっています。クラスタ化されたサービスは、Microsoft Cluster Administrator からのみ開始する必要があります。他の方法（アプリケーションまたは [サービス] コントロール パネル)でサービスを開始した場合、Cluster Administrator はサービスが実行されていることを認識しないので、必要な場合にフェールオーバーを管理できません。

サービスの管理は実行されているノードからのみ行ってください。その後、特定のフォルダにアクセスするボリュームを作成することができます。クラスタ上で、ノードはそのクラスタ グループ内のディスクにのみアクセスできます。**[フォルダの参照]** ダイアログ ボックスでフォルダを選択するには、物理ディスクが置かれているノード上で Files Connect Administrator を実行する必要があります。Files Connect Administrator を使用して、別のノード上にボリュームを作成できますが、パスを手動で入力する必要があります。



1. Files Connect Administrator を起動したときに、管理する Files Connect サービスを選択するように要求するメッセージが表示されます。
2. Files Connect サービスを選択して、[OK] をクリックします。

3. サービスを選択すると、Administrator が起動してそのサービスに接続します。
Administrator のタイトル バーに、「(ネットワーク名 - サービス名)」の形式で接続先のサーバーが表示されます。



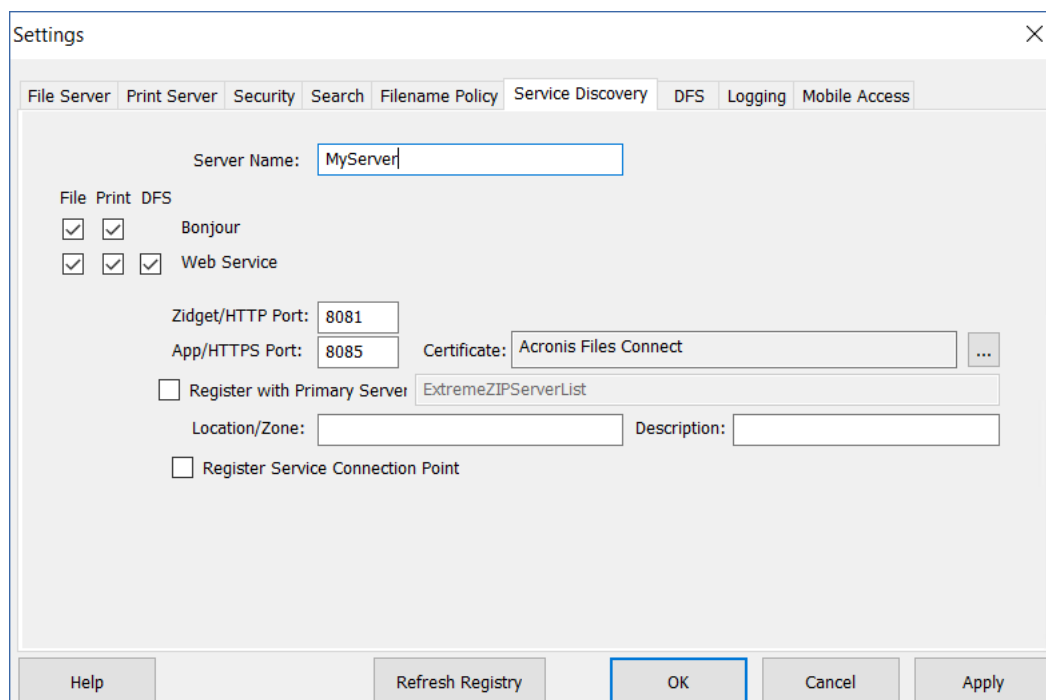
サーバーへの接続が切断された場合（クラスタ グループがフェールオーバーされた場合）、Administrator は、別のノード上にあるためそのサービスに再接続することができません。ただし、移動された先のノード上で管理することができます。元のノードにフェールバックされた場合は、そのノードに再接続することができます。

3.6 Mac クライアントおよび Zidget アクセス用の Files Connect サーバーの構成

Files Connect は、Mac クライアントと Zidget の両方を追加構成なしでサポートします。

管理者の [サービスの検出] タブで、ユーザーが Files Connect サーバーを取得して接続する方法を制御する Web サービスに関連する設定を変更できます。Files Connect サーバーは、**[プライマリ サーバーへの登録]** を有効にしてセカンダリに特に設定されていない限り、独自のプライマリ サーバーとして構成されます。プライマリ サーバーでは、このチェックボックスは **[無効]** にしておきます。

- Mac クライアントを配置するには、Files Connect プライマリ サーバーのアドレス、有効なユーザー名およびパスワードを入力します。
- Zidget は、Files Connect サーバーの ExtremeZIPServerList.yourdomain.com の DNS CNAME レコードを作成すれば、それ以外の追加構成なしで、ほとんどの環境に配置できます。



The screenshot shows the 'Settings' dialog box with the 'Service Discovery' tab selected. The 'Server Name' field contains 'MyServer'. Under the 'File Print DFS' section, the 'Bonjour' and 'Web Service' checkboxes are checked. The 'Zidget/HTTP Port' is set to 8081 and the 'App/HTTPS Port' is set to 8085. The 'Certificate' field contains 'Acronis Files Connect'. The 'Register with Primary Server' checkbox is unchecked, and the 'Location/Zone' field contains 'ExtremeZIPServerList'. The 'Register Service Connection Point' checkbox is also unchecked. The 'OK' button is highlighted.

必要な場合は、サーバーを特定のロケーションに割り当てることもできます。ロケーションは、Zidget が表示するために使用するゾーン/ロケーションの階層を含む、コロンで区切られたロケーションで構成されます。

単一レベルのゾーンの例は「GLIHQ」で、複数レベルのロケーションは

「Virginia:Arlington:1st Floor」のようになります。印刷キューまたはファイル サーバーのロケーション プロパティに加えて、管理者は説明を割り当てることもできます。キューが選択された場合は、Zidget のステータス領域に、管理者がそのキューに設定した説明が表示されます。ただし、ロケーションと説明は任意指定です。

- ロケーションが割り当てられているサーバーや印刷キューがない場合、サーバーや印刷キューはすべて追加階層のないリストとして Zidget に表示されます。
- 一部のサーバーのみにロケーションが割り当てられている場合、それらのサーバーはロケーションの下でのリストの最後に表示されます。

3.7 プライマリ サーバーへの他のサーバーの追加

複数の Files Connect サーバーがある場合は、Mac クライアントおよび Zidget がネットワーク上の他の Files Connect サーバーを検出するために接続するプライマリ サーバーとして 1 つのサーバーを指定します。

セカンダリの **[プライマリ サーバーへの登録]** 設定を有効にし、プライマリ サーバーのアドレスを入力すると、すべてのセカンダリ サーバーが自動的にプライマリ サーバーに登録されます。

4 Files Connect のアップグレード

新しいバージョンの Files Connect へのアップグレードは簡単に行うことができます。

Files Connect インストーラにより既存のバージョンが自動的に検出され、新しいバージョンにアップグレードされます。新しいバージョンをインストールするために前のバージョンをアンインストールする必要はありません。

注意: サービスを停止できなかった、またはファイルを削除できなかったことを示すエラー メッセージを受け取ることがあります。このようなエラーが表示された場合は、Files Connect サービスを最初に手動で停止してから、インストーラを再実行することをお勧めします。

バックアップとリカバリ 『198ページ』 ガイドラインを確認し、先へ進む前にデプロイメントのバックアップを実行します。

新しいバージョンの Files Connect へのアップグレード

注意: ExtremeZ-IP から Files Connect へのアップグレードに特別な設定は必要ありません。Files Connect インストーラを起動して、以下の手順を実行します。

1. Files Connect インストーラを開始します。
2. **[次へ]** を押します。
3. 使用許諾契約に同意してから、**[次へ]** を押します。
4. **[インストール]** を押します。
5. インストール手順が完了したら、**[完了]** を押します。

注意: 新しいリリースのいくつかの利点を活用するには、Acronis Content Indexing 検索インデックスを再ビルドする必要が生じる場合があります。特定のリリースでこの手順が推奨されるかどうかを、Files Connect のリリース履歴で確認してください。

Microsoft フェールオーバー クラスタ上での新しいバージョンの Files Connect へのアップグレード

クラスタ上で Files Connect をアップグレードするには、非アクティブなノードを 1 つずつアップグレードし、最後に残りをフェールオーバーして、それらも同様にアップグレードされるようにします。

1. クラスタ構成に問題がないことを確認してください。それを行うには、Microsoft Failover Cluster Manager でクラスタ上を右クリックして、**[クラスタの検証]** を選択します。ウィザードに従ってすべてを検証し、エラーがないことを確認してください。エラーが見つかった場合には、アップグレードを続行する前に、すべてのエラーを修正する必要があります。
2. 非アクティブなクラスタ化されたインスタンスの 1 つを選択します。
3. Files Connect インストーラを開始します。
4. **[次へ]** を押します。
5. 使用許諾契約に同意してから、**[次へ]** を押します。
6. **[インストール]** を押します。
7. インストール手順が完了したら、**[完了]** を押します。
8. 上記の手順を繰り返して、すべての**非アクティブ**なインスタンスをアップグレードします。
9. **アクティブ**なインスタンスを、アップグレードされたインスタンスのいずれかにフェールオーバーします。アクティブなインスタンスが非アクティブになったら、前述のようにアップグレードします。
10. Files Connect が正しく動作することを確認します。

5 Files Connect の設定

セクションの内容

Files Connect ファイル サーバー	84
Files Connect のリモート管理	128
クライアント コンピューターでの Files Connect への印刷の設定	129
クライアントでの Zidget のインストールと構成	132
ウェブ ページからのプリンタの追加	144
DFS サポートのための Mac クライアントの設定	146
ライセンス プロダクトキーの追加	149

5.1 Files Connect ファイル サーバー

セクションの内容

Files Connect ファイル サーバーの開始および停止	84
Files Connect サーバーの構成	84
Network Reshare サポートの設定	115

5.1.1 Files Connect ファイル サーバーの開始および停止

Files Connect ファイル サーバーを開始するには、Windows に管理者権限でログインし、Files Connect Administrator を開始します。Files Connect サービスがまだ開始されていない場合、Files Connect Administrator によって、サービスを開始するかどうか尋ねられます。また、スタンドアロン サーバー上のサービス コントロール パネル、またはクラスタ サーバー上の Cluster Administrator からサービスを開始および停止することもできます。

5.1.2 Files Connect サーバーの構成

このセクションでは、Files Connect サービス構成の概要について説明します。Files Connect Administrator を使用して、接続されたユーザーの表示や切断、接続されたユーザーへのメッセージ送信、共有ボリュームの作成、特定のコンピュータ設定の調整を行うこ

とができます。管理者権限を持っていれば、Files Connect がインストールされているローカル コンピュータまたはリモート コンピュータを構成することができます。

使用しているコンピュータ上で Files Connect を設定するには、Windows の **[スタート]** メニューから、**[プログラム]** → **[Files Connect]** の順に移動し、**[Files Connect Administrator]** を選択します。

注意: また、EZIPUTIL.EXE を使用してコマンド ラインで Files Connect を構成することもできます。詳しくは、EZIPUTIL コマンド ライン ツール 『267ページ』を参照してください。

セクションの内容

Files Connect の設定.....	85
ファイル サーバー オプションの設定	87
プリント サーバー オプションの設定	91
セキュリティ オプションの設定.....	93
検索オプションの設定	97
ファイル名ポリシーの設定.....	104
サービスの検出	108
DFS.....	111
ログ	113
モバイルアクセスの設定.....	114

5.1.2.1 Files Connect の設定

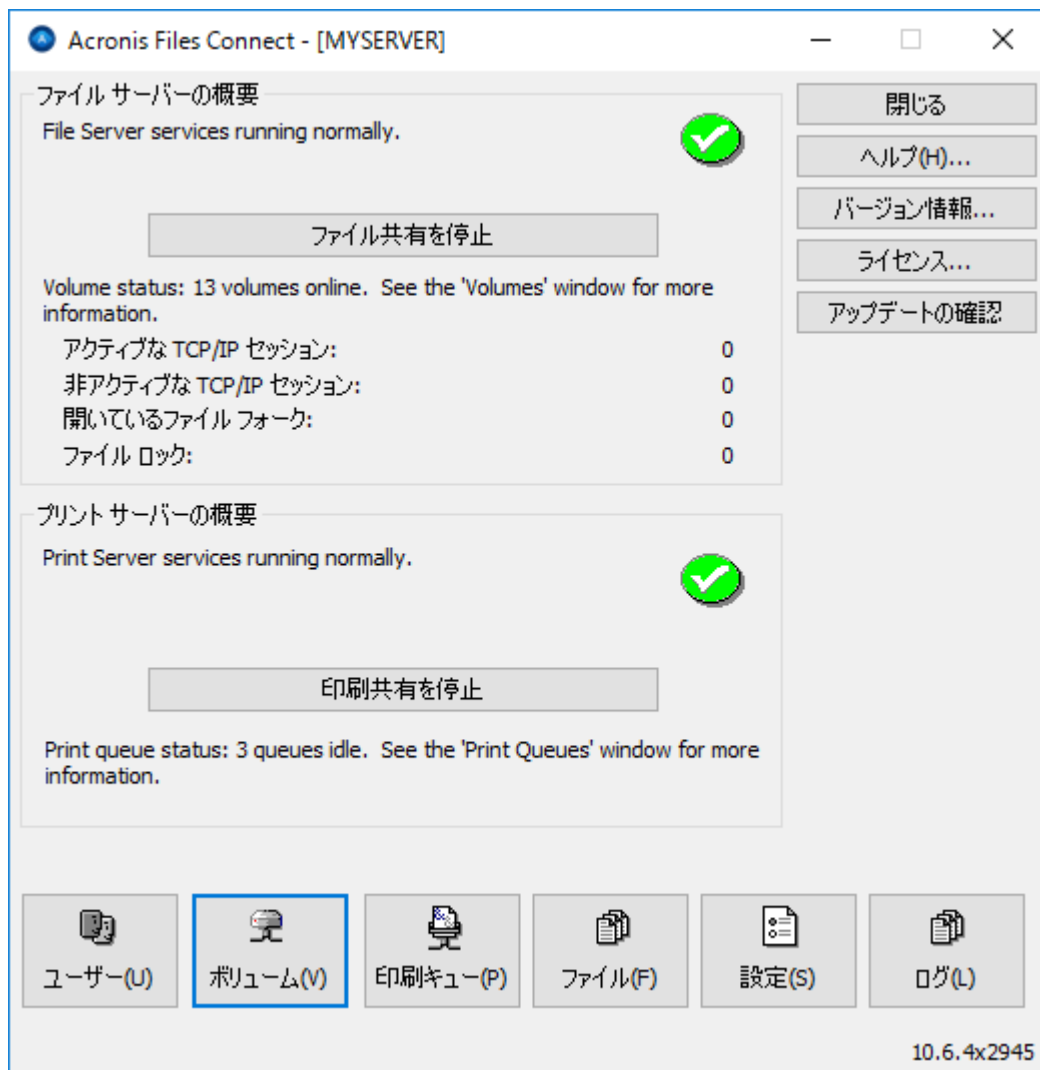
Files Connect を使用する前にデフォルト設定を確認し、その時点でも後でも、変更することができます。

[設定] ダイアログ ボックスのタブには、**[ファイル サーバー]**、**[プリント サーバー]**、**[セキュリティ]**、**[検索]**、**[ファイル名ポリシー]**、**[サービスの検出]**、**[DFS]**、**[ロギング]**、および **[モバイル アクセス]** タブがあります。

設定を変更するには、次の操作を実行します。

1. **[Files Connect Administrator]** ウィンドウにアクセスします。
2. **[設定]** をクリックします。

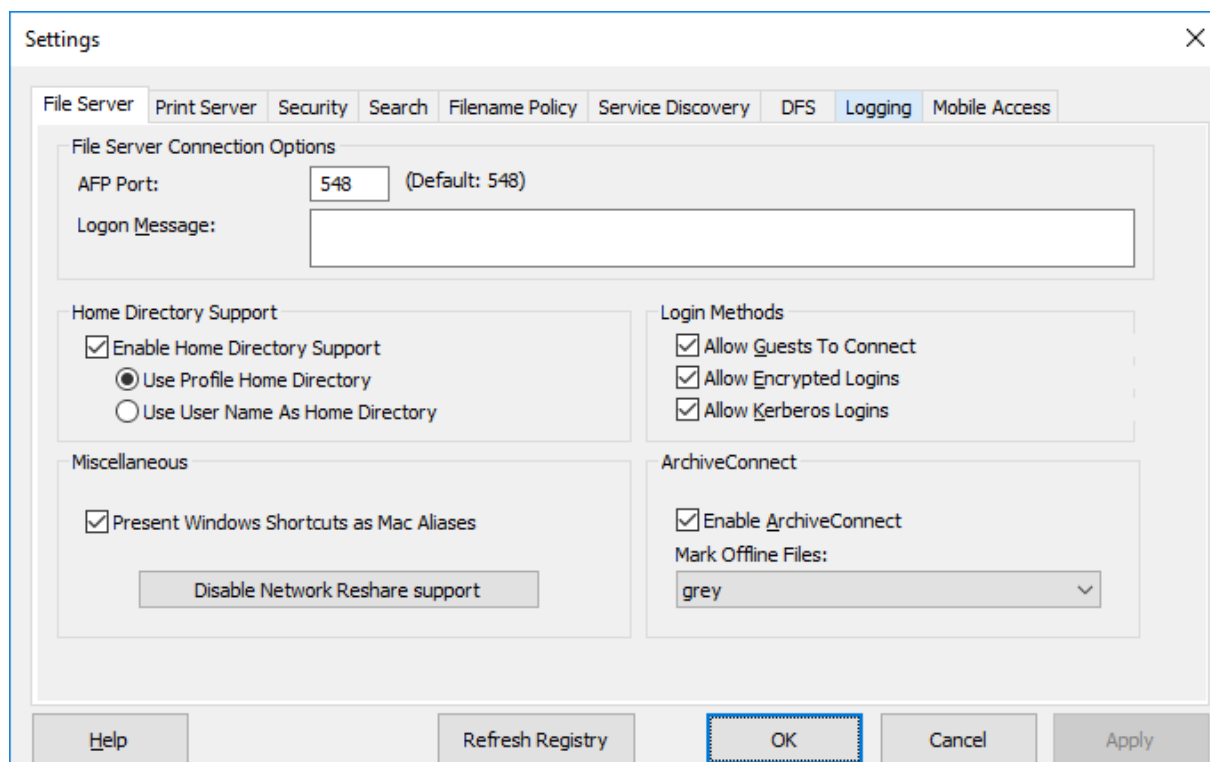
3. 使用方法に適した設定を選択してから、**[OK]** をクリックして **[Files Connect Administrator]** ウィンドウに戻ります。



- **ファイル共有を停止:** ファイル共有サービスを開始/停止します。
- **ログ:** Files Connect アクティビティのログを表示します。
- **ユーザー:** 接続されているユーザーを表示したり、ユーザーを切断したり、メッセージを送信したりします。
- **ボリューム:** 共有するボリュームを設定します。
- **ファイル:** ユーザーの Mac クライアントで開かれたファイルを表示します。アクティブ TCP/IP セッション、オープン ファイル フォーク、およびファイル ロックを表示します。
- **ライセンス:** プロダクト キーを追加します。
- **アップデートの確認:** ウェブ サイトでアップデートを確認します。

5.1.2.2 ファイル サーバー オプションの設定

[ファイルサーバーの設定] タブを使用して、Files Connect がファイル共有サービスを提供するときに Mac クライアントとやり取りする方法を変更します。



セクションの内容

AFP ポート	88
ログオン メッセージ	88
ホーム ディレクトリ サポートの有効化	88
Windows ショートカットを Mac エイリアスとして表示する	89
Network Reshare サポートの有効化	89
Guests に接続を許可	90
暗号化ログインの許可	90
Kerberos ログインの許可	90
ArchiveConnect の有効化	90
オフライン ファイルへのマーク	91

AFP ポート

接続が必要な場合は、**AFP ポート**に変更を加えます。必要となることはまれですが、ファイル サーバーが使用する TCP/IP ポートに新しいポート番号を入力できます（デフォルトは 548 です）。

注意: Mac クライアントがサーバーに接続できない場合、Files Connect がデフォルト以外のポートで実行されている可能性があります。この場合、Files Connect では、デフォルト以外のポートを選択していることを警告するメッセージが [Files Connect Administrator] ウィンドウに表示されます。

ログオン メッセージ

ログインが成功すると、Mac ユーザーのコンピューターにログオンメッセージが表示されます。クライアントがログインしたときにメッセージを受け取らないようにする場合は、メッセージを空白のままにします。このメッセージの最大文字数を増やすには、レジストリキー **LoginMsgW** を使用します。このキーの詳細については、「一般パラメータレジストリキー - 更新可能 『227ページ』」を参照してください。500 文字まで使用できます。

注意: OS X 10.9 以降では、メッセージの送信はサポートされていません。

ホーム ディレクトリ サポートの有効化

一部の Files Connect ボリュームをホームディレクトリ専用を使用する場合、**[ホーム ディレクトリのサポートを有効にする]** をオンにします。また、ボリュームを設定するときに個々のボリュームのホーム ディレクトリ サポートを有効化する必要があります。[ボリューム プロパティ] 『159ページ』のダイアログ ボックスを参照してください。この設定により、ユーザーがボリュームの内容の参照を求めたときに、ユーザーのホーム ディレクトリを除き、すべてのディレクトリをフィルタで除外できます。

ユーザーには、自分のホーム ディレクトリが含まれていないホーム ディレクトリ ボリュームは表示されません。

- ユーザーのホームディレクトリの場所が Microsoft Active Directory プロファイルで指定される場合は、**[AD のプロファイル上のホーム ディレクトリを使用する]** を選択します。

- ユーザーのホームディレクトリにユーザー名と同じ名前が付けられる場合は、**[ユーザー名をホームディレクトリとして使用する]** を選択します。

ナレッジベースの記事 <https://support.grouplogic.com/?p=1681>

<http://www.grouplogic.com/knowledge/index.cfm/fuseaction/view/docID/210> を参照してください。

Windows ショートカットを Mac エイリアスとして表示する

この機能により、Files Connect は Windows ショートカット(AFP 共有に保存される .lnk ファイル)をシンボリックリンク (Mac エイリアスに類似したもの)として表せるので、Mac クライアントはそれらを使用できます。

この機能の前提条件:

- Mac クライアントは、ターゲットを含む Files Connect の AFP 共有にアクセスできる必要があります。
- ショートカットファイルの拡張子は .lnk である必要があります。
- リンクとターゲットは両方とも、同じ Files Connect AFP ボリューム内に存在する必要があります。

注意: Files Connect で共有されるボリューム内にターゲットが存在しないショートカットは解決されません。警告項目がログに書き込まれます。

注意: 解決されないショートカットがボリューム内に多数あると、パフォーマンスの問題が生じる可能性があります。

Network Reshare サポートの有効化

Network Reshare を使用すると、Files Connect AFP ファイル ボリュームはネットワーク上の他のサーバーおよび NAS デバイスに配置されているフォルダへのアクセスを付与できます。Mac クライアントは標準の AFP ファイル共有プロトコルを使用して Files Connect に接続する一方で、Files Connect は、SMB/CIFS ファイル共有プロトコルを利用して、Mac ユーザーから要求されたリモート サーバーおよび NAS システムのファイルにアクセスします。そのようにすることで、Mac ユーザーは、AFP ファイル共有のすべてのメリットも活用しながら、従来は SMB/Windows ファイル共有を介してのみ使用可能で

あったリソースにアクセスすることができます。Network Reshare の詳細については、「Network Reshare サポートの設定 『115ページ 』」セクションを参照してください。

Guests に接続を許可

ゲストに接続を許可した場合、Mac ユーザーは名前とパスワードを指定しなくてもファイル サーバーにログインできます。接続を許可しても、Macintosh クライアントにコンピュータ全体へのアクセス権を付与することにはなりません。Mac クライアントと共有するコンピュータ上のボリュームを指定します。「ボリュームの作成 『156ページ 』」を参照してください。このセッション中のユーザーの権限は、Windows での **Everyone** グループに通常付与される権限に限定されます。

注意: ゲストがサーバーにアクセスできるように Windows XP および以降の Windows システムに設定を加える必要があります。付録 D「Windows XP 以降でのゲスト アクセスの構成」を参照してください。

暗号化ログインの許可

このオプションを選択すると、Mac ユーザーはパスワードを暗号化してからネットワーク上で送信できます。暗号化により、ユーザーにとってセキュリティが向上します。また、長いパスワードを使用できます。

Kerberos ログインの許可

このオプションでは、ネットワーク リソースへの「シングル サインオン」がサポートされます。詳細については、「Kerberos の使用 『58ページ 』」を参照してください。

ArchiveConnect の有効化

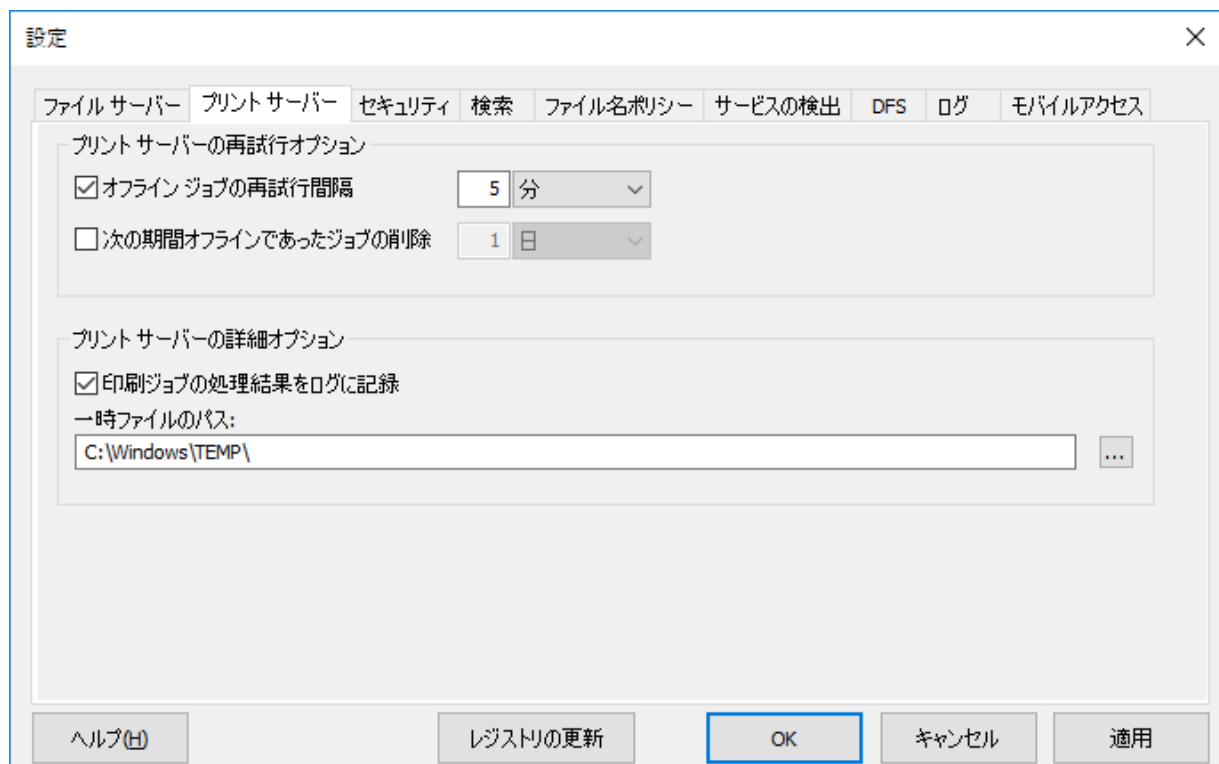
このオプションにより、Files Connect と共有されるすべてのファイル アーカイブ ボリュームに対する高度な ArchiveConnect サポートが有効になります。ArchiveConnect は Mac クライアント側の別個のアプリケーションです。これを使用すると macOS クライアントはオフライン ファイルを取得せずにファイル アーカイブにアクセスできます。

オフライン ファイルへのマーク

macOS Finder 内のオフライン ファイルのハイライト表示に使用するカスタム ラベル カラーを選択します。

5.1.2.3 プリント サーバー オプションの設定

プリント サーバーの設定に変更を加えるには、**[Files Connect Administrator]** ウィンドウで **[設定]** をクリックし、**[プリント サーバー]** タブをクリックします。プリント サーバーの設定に加えた変更は、**[適用]** または **[OK]** ボタンをクリックすると、直ちに反映されます。



- **オフライン ジョブの再試行間隔:** ジョブを再試行する待機時間を変更します。
- **次の期間オフラインであったジョブの削除:** オフライン ジョブを削除します。
- **印刷ジョブの処理結果をログに記録:** サーバーが印刷ジョブの処理結果をログに記録するかどうかを制御します。

セクションの内容

印刷ジョブの自動再試行.....	92
オフライン ジョブの削除	92

印刷ジョブの自動再試行

LPR エラー コード、TCP 接続の終了、Windows 印刷キューのエラーなど、何らかの理由でジョブが失敗した場合、そのジョブ ステータスは [オフライン] に設定され、キューの最後に送られます。[**プリント サーバー**] タブを使用して、サーバーが印刷ジョブを再試行するまでに経過する時間間隔を構成します。

デフォルトでは、Files Connect は印刷ジョブが成功するまで、5 分ごとにオフライン ジョブを自動的に再試行します。この機能を無効にするには、[**オフラインジョブの再試行間隔...**] チェックボックスをオフにします。入力できる自動再試行間隔は 1 つだけで、これがすべてのオフラインジョブに適用されます。

オフライン ジョブの削除

Files Connect は、指定した期間オフラインであったジョブを自動的に削除することもできます。この機能はデフォルトで無効になっており、有効にした場合、デフォルト設定は 1 日です。この機能を有効にするには、[**次の期間オフラインであったジョブの削除...**] チェックボックスをオンにします。

注意: キュー全体の問題 (ネットワークの問題、プリンタの電源オフなど)が原因でジョブが自動的に削除されることがないようにするため、Files Connect は、ジョブがオフラインになってから少なくとも 2 つの他のジョブが正常に印刷されている場合を除き、設定された時間が経過してもジョブを自動的に削除しません。

パフォーマンスカウンタの目的上、複数のオフラインジョブが含まれ、最後のジョブがオフラインになってから正常に処理されていないキューは、オフラインキューと見なされます。単一のオフラインジョブによってキューがオフラインになるわけではなく、それは単なる不適切なジョブである可能性があります。複数のオフラインジョブがあり、最近成功したジョブがない場合は、キュー全体の問題を示唆しています。オフラインのキューは、処理の観点ではオンラインキューと違いはなく、パフォーマンスカウンタでの報告方法が異なるだけです。

プリント サーバーの詳細オプション

各印刷ジョブを Windows イベント ログに記録する場合は、[印刷ジョブの処理結果をログに記録] チェックボックスをオンにします。一時ファイルを格納するロケーションを入力することができます。デフォルトでは、Files Connect はデフォルトの一時ディレクトリを使用します。

5.1.2.4 セキュリティ オプションの設定

[**セキュリティの設定**] タブで、適切なチェックボックスをオンにして、アクセス許可やその他のオプションを変更します。適切なテキスト ボックスに**ディレクトリ サービス**の情報を入力します。

設定

ファイルサーバー プrintサーバー **セキュリティ** 検索 ファイル名ポリシー サービスの検出 DFS ログ モバイルアクセス

権限

- Mac クライアントへのアクセス権変更の許可
- 移動に関する権限をリセットする(グローバル)
- UNIX パーミッションと ACL のサポート
 - すべてのボリュームでの ACL のサポート(グローバル)

アクセス可能な場合のみ表示:

- フォルダ ファイル

その他のオプション

- サーバーのリモート管理の許可
- ワークステーションへのパスワードの保存の許可(OS 9 のみ)
- 次のときにパスワードの期限切れを Mac クライアントに通知する: 14 日前
- IPv6 の有効化

ディレクトリ サービス

UNIX パーミッションおよび ACL サポート用の Active Directory ドメイン アカウント資格情報を検証するために必要

使用 グローバルカタログ SSL

アカウント

パスワード

ドメイン

追加のディレクトリ検索条件

アカウントの検証

ヘルプ(H) レジストリの更新 **OK** キャンセル 適用

セクションの内容

Mac クライアントへのアクセス権変更の許可.....	94
移動に関する権限をリセットする	94
UNIX パーミッションと ACL のサポート.....	94
すべてのボリュームでの ACL のサポート (グローバル).....	95
アクセス可能な場合のみ表示: フォルダ、ファイル	95
サーバーのリモート管理の許可	95

パスワードの期限切れを Mac クライアントに通知する.....	95
IPv6 の有効化.....	95
ディレクトリ サービスの確認	96

Mac クライアントへのアクセス権変更の許可

このオプションを選択すると、Mac クライアントはファイルとフォルダのアクセス権を変更できます。このオプションを無効にすると、Mac クライアントは、Windows 管理者がサーバーで設定したアクセス権を変更できなくなります。多くの Mac アプリケーションが、予期しないアクセス権をユーザーの介入なしに設定します。信頼性の向上のため、この機能が特定のワークフローで必要な場合を除き、Mac クライアントにアクセス権の変更を許可しないことをお勧めします。

移動に関する権限をリセットする

このオプションを選択すると、フォルダやファイルの移動時に、それらのアクセス権が新しい親フォルダのアクセス権に変更されるように、移動処理の動作が変更されます。

UNIX パーミッションと ACL のサポート

UNIX パーミッションおよびアクセス制御リスト (ACL) では、Files Connect サービスが、SID、UUID、UID、および名前マッピングを解決するために Active Directory のユーザーのリストにアクセスできる必要があります。UNIX パーミッションの場合、Mac クライアントは UID の名前マッピングを要求します。ただし、「ls」コマンドの場合、Mac は AD を使用し、名前マッピングを内部で実行します。そのため、Mac は Files Connect に名前要求を行いません。Files Connect が提供する UID が、Active Directory から取得されたユーザーの UID と一致しない場合、Mac は UNIX パーミッションの変更をユーザーに許可しません。また、クライアントは、ユーザーのグループ メンバーシップ、またはユーザーが所有者であるかどうかを特定できません。

アカウントを確認するには、要求された情報を **[ディレクトリ サービス]** テキスト フィールドに入力します。このアカウントを使用して、アカウント ID を解決するために Active Directory が検索されます。デフォルトでは、Files Connect はセキュリティ資格情報を確認するために Active Directory フォレスト全体を検索します。Files Connect が指定した

ドメインのみを検索するようにするには、**[グローバル カタログの使用]** オプションをオフにします。必要に応じて、他の検索条件を追加して、**[アカウントの検証]** をクリックします。資格情報が無効な場合、サービスは Active Directory にアクセスできず、UNIX パーミッションは無効になります。Files Connect DFS サポートでは、このオプションが有効になっていること、および有効なディレクトリ サービス資格情報が入力されることが必要です。

すべてのボリュームでの ACL のサポート (グローバル)

すべてのボリュームで ACL をサポートするには、このボックスをオンにします。

アクセス可能な場合のみ表示: フォルダ、ファイル

[フォルダ] オプションをオンにした場合、ユーザーにはアクセス可能なフォルダのみが表示されます。[ファイル] オプションをオンにした場合、ユーザーにはアクセス可能なファイルのみが表示されます。

サーバーのリモート管理の許可

このオプションにより、管理者権限を持つ Windows ユーザーは、Files Connect のリモート管理機能を使用して、サーバーをリモートで構成できます。「Files Connect のリモート管理 『128ページ 』」を参照してください。

パスワードの期限切れを Mac クライアントに通知する

Active Directory ユーザーが指定した時間後にサインオン パスワードを変更するように要求できます。このテキストボックスを使用すると、古いパスワードの期限切れが近づいていることを Mac ユーザーに通知し、新しいパスワードを作成するよう求めることができます。

IPv6 の有効化

IPv6 を使用する必要がある場合は、**[IPv6 の有効化]** チェックボックスをオンにします。一部のバージョンの Windows では、Files Connect などのサービスが IPv6 を使用する前に、IPv6 を手動でインストールする必要があります。

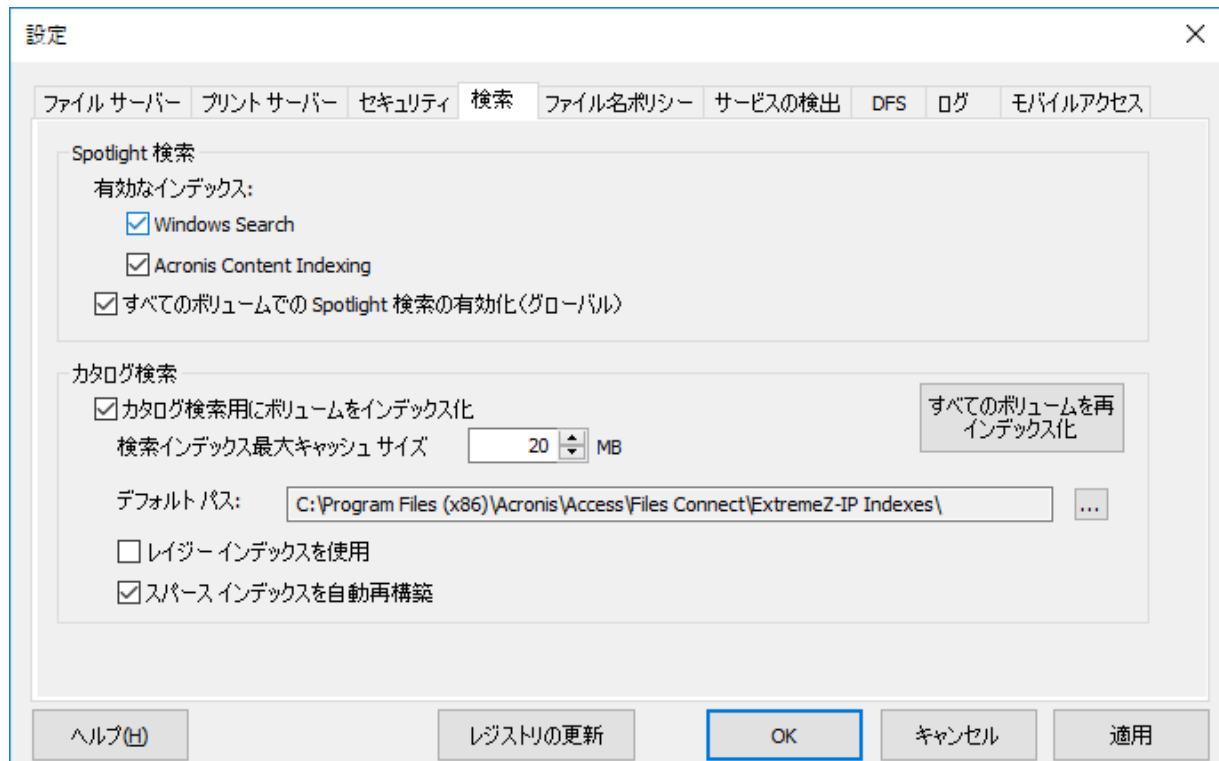
ディレクトリ サービスの確認

UNIX パーミッションおよび ACL には、SID、UUID、UID、および名前マッピングを解決するために Active Directory へのアクセスが必要です。UNIX パーミッションの場合、Finder は UID の名前マッピングを要求します。ただし、ACL の場合は、Mac は AD を使用して、名前マッピングを内部で実行します。そのため、Mac は Files Connect に名前要求を行いません。Files Connect が提供する UID が、Active Directory から取得されたユーザーの UID と一致しない場合、ソフトウェアは UNIX パーMISSIONの変更をユーザーに許可しません。また、クライアントは、ユーザーのグループ メンバーシップ、またはユーザーが所有者であるかどうかを特定できません。

アカウントを確認するには、要求された情報を **[ディレクトリ サービス]** テキスト フィールドに入力します。必要に応じて、他の検索条件を追加して、**[アカウントの検証]** をクリックします。**[SSL]** オプションを選択して、Active Directory とのセキュリティで保護された SSL 通信を有効にすることができます。アカウントが有効でない場合は、Active Directory にアクセスできない可能性があり、UNIX パーMISSION サポートは有効になりません。また、DFS サポートは機能しません。

5.1.2.5 検索オプションの設定

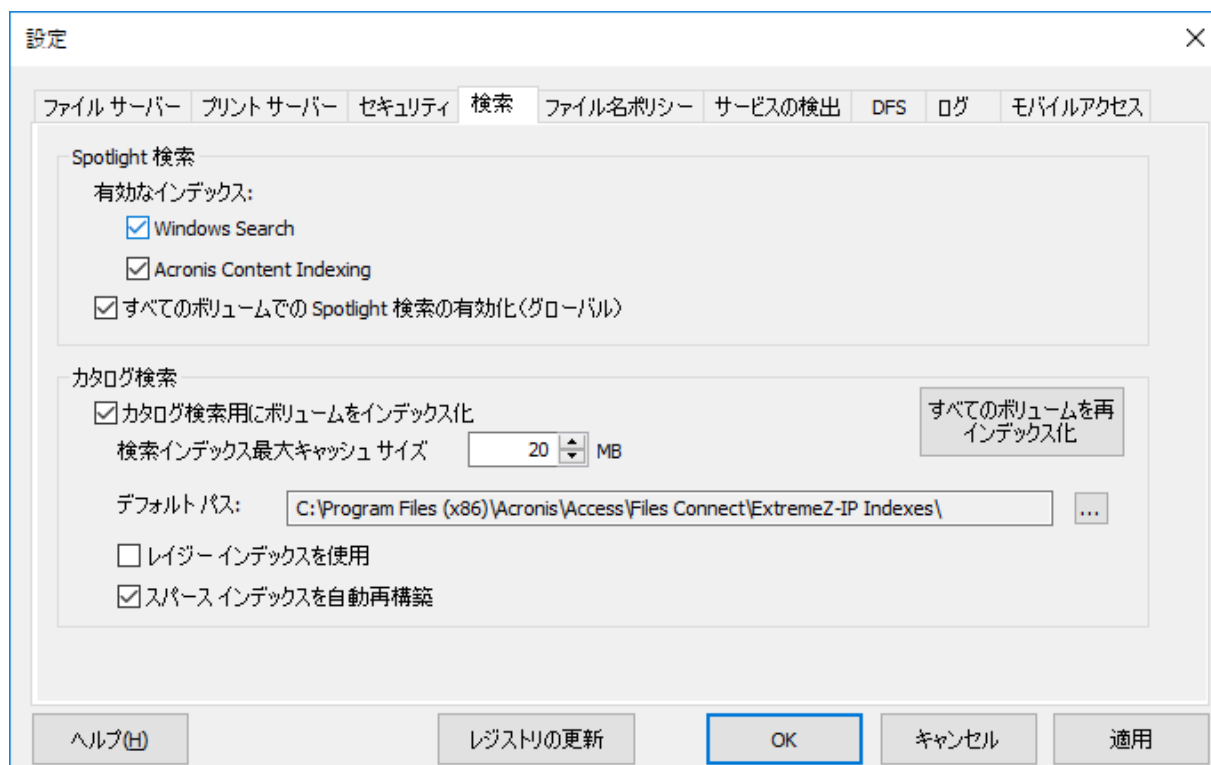
検索オプションを設定するには、該当するボックスをチェックし、適切な情報を入力します。



セクションの内容

Spotlight 検索.....	98
カタログ検索.....	101

Spotlight 検索



セクションの内容

Acronis Content Indexing	98
Windows Search	99
すべてのボリューム (グローバル)での Spotlight 検索の有効化.....	100

Acronis Content Indexing

Acronis Content Indexing は、ネットワーク接続ストレージ (NAS)などの非 Windows マシン上の再共有ボリュームや StorNext のボリュームに Network Spotlight サポートを提供するデフォルトの機能です。また、インデックス化するファイルの数とインデックス化するファイルの内容が Windows Search よりも多いため、検索が簡単になります。

このチェックボックスをオンにすると、Acronis Content Indexing を使用したインデックス化が可能になります。

Acronis Content Indexing ではアーカイブのスタブファイルのインデックス化をスキップするようになったため、階層型ストレージ管理ソフトウェア (HSM)システムでアーカイブしたボリュームにもこのインデックスを使用できるようになりました。

Files Connect 10.5 以降では、ローカル共有とネットワーク再共有の変更内容が継続的に監視され、インデックスが即時に更新されます。

注意: 個々のボリュームの **[ボリューム プロパティ]** ダイアログで、ボリュームごとに Spotlight 検索を有効化または無効化できます。「ボリューム プロパティ 『159ページ 』」の資料を参照してください。このプロパティは、最初にボリュームを作成するときでも、ボリュームを作成した後でも設定できます。この設定を有効にすると、そのボリュームを使用するすべての新しいセッションに反映されます。

Windows Search

最新のすべての Windows オペレーティング システムには Windows Search が組み込まれています (例外については下記を参照)。Windows Search を使用すると、変更が生じるたびにインデックスが更新され、インデックスが自動的に最新の状態に維持されます。

Windows Search の欠点は主に、Windows 以外のコンピューター上の再共有ボリュームをサポートしないこと、およびインデックス化されたファイル数が数百万を超える場合の処理に問題があることです。

このチェックボックスをオンにすると、組み込みの Windows Search を使用したインデックス化が可能になります。Spotlight 検索には、この設定を有効にすることに加えて、Microsoft Windows Search アプリケーションが Files Connect サーバーにインストールされており、Spotlight 検索が有効になっているボリュームがインデックス化されるように設定されている必要があります。

Files Connect 10.5 以降、Windows Search では Windows または Mac のファイルタグによる検索がサポートされていますが、アドオンをインストールする必要があります。インストールするには、次の操作を実行します:

1. コマンド プロンプトを管理者として実行して **AppleTagAddOn** フォルダに移動します。これは Files Connect インストール フォルダ内にあります。

例:`cd C:\Program Files (x86)\Acronis\Access\Files Connect\AppleTagAddOn`

注意: デフォルトでは **AppleTagAddOn** は **C:\Program Files (x86)\Acronis\Access\Files Connect** に配置されています。以前のバージョンからアップグレードする場合や、カスタム インストールを実行する場合には、パスが異なる可能性があります。プログラムの実行可能ファイル フォルダへのパスを見つけるには、Windows サービスの Files Connect エントリを確認できます。

2. コマンドプロンプトで **AppleTagAddOn** フォルダにある **regHandler.bat** ファイルを実行します。
3. ダイアログ メッセージで「AppleTagAddOn.dll で DllRegisterServer が成功しました」と表示されることを確認します。
4. Windows Search を実行しているコンピューターを再起動することをお勧めします。
5. 必要なボリュームのインデックスを再構築します。これを実行するには:
 - Files Connect Administrator で **[ボリューム]** を選択します。
 - 該当するボリュームを右クリックして、**[インデックス付けオプション]** ボタンを押します。
 - ダイアログボックスが開いたら **[再インデックス]** を押します。

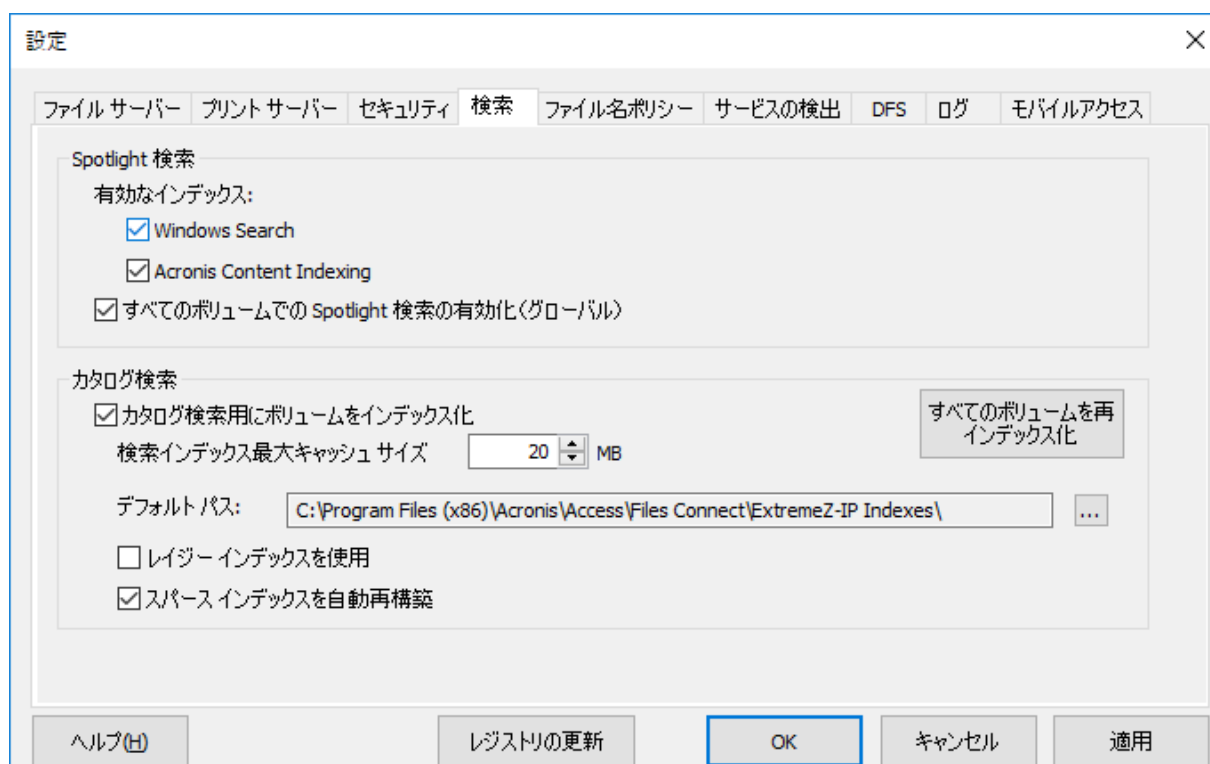
あるいは、組み込み Windows 機能である **[インデックス付けオプション]** を使用することもできます。

注意: 個々のボリュームの **[ボリューム プロパティ]** ダイアログで、ボリュームごとに Spotlight 検索を有効化または無効化できます。「ボリューム プロパティ 『159ページ 』」の資料を参照してください。このプロパティは、最初にボリュームを作成するときでも、ボリュームを作成した後も設定できます。この設定を有効にすると、そのボリュームを使用するすべての新しいセッションに反映されます。

すべてのボリューム (グローバル)での Spotlight 検索の有効化

すべてのボリュームで Spotlight 検索 『152ページ 』をサポートするには、このボックスをオンにします。この機能を有効にすると、すべてのボリューム (Windows Search の使用が既に設定されているボリュームを除く)に対して Acronis Content Indexing のプロセスがすぐに開始されます。

カタログ検索



セクションの内容

カタログ検索用にボリュームをインデックス化.....	101
検索インデックス最大キャッシュ サイズ.....	102
デフォルト パス.....	102
レイジー インデックスを使用	102
スパース インデックスを自動再構築.....	103

カタログ検索用にボリュームをインデックス化

デフォルトでは、すべての既存ボリュームおよび新規作成されたボリュームでインデックス検索が有効になっています。**Files Connect Administrator** での個々のボリュームの **[ボリューム プロパティ]** ダイアログで、ボリュームごとにインデックス検索を無効化または有効化することができます。「[ボリューム] ウィンドウの表示 『155ページ 』」を参照してください。このプロパティは、最初にボリュームを作成するときでも、ボリュームを作成した後でも設定できます。この設定に対する変更を反映するには、[Macintosh 用 Files Connect ファイル サービス] サービスを停止して再開する必要があります。

検索インデックス最大キャッシュ サイズ

このキャッシュは、デフォルトで、最大サイズの 20 MB に設定されます。このキャッシュサイズを変更することは推奨されません。250,000 個のファイルが格納されているインデックス ファイルのサイズは、わずか約 8 MB です。デフォルト設定におけるキャッシュサイズの制限をそのままにしておけば、ほとんどの場合十分なパフォーマンスが得られます。ディスク上のインデックス ファイルが検索インデックス キャッシュ サイズより大きい場合、ファイルはクライアントが検索を実行するときにディスクから読み込まれますが、多くの場合、Windows ファイル システム キャッシュに格納されるので、性能に与える影響は最小限に抑えられます。物理メモリが制限された状態でサーバーが実行されている場合、キャッシュ サイズは、8 MB まで縮小する場合があります。

デフォルト パス

スタンドアロン サーバーでは、Files Connect は Files Connect アプリケーション フォルダ内の Files Connect インデックス ディレクトリにデフォルトでインデックス ファイルを保存します。別のロケーションのインデックス ファイルを保存する場合は、**[参照]** をクリックして、新しいフォルダを選択します。

注意: Files Connect の実行中にデフォルト パスを変更すると、個々のカスタム パスを持たないボリュームのすべてのインデックス ファイルは、新しいロケーションに作成されます。

管理者は、個々のボリュームに対して、カスタム インデックス ファイル パスを指定することもできます。この設定は、グローバル デフォルト パス設定より優先されます。

注意: クラスタ化された環境では、デフォルト パスを共有ディスク上のロケーションに設定することをお勧めします。

レイジー インデックスを使用

デフォルトでは、インデックス検索は、利用可能なシステム リソースをすべて使用してインデックスを最新の状態に保ち、他のシステム プロセスと連携します。これによりシステム パフォーマンス全体が悪影響を受けることはまずありません。しかし、サーバーが高い負荷を受けたり、多数の異なるサービスを同時に実行したりする場合、**[レイジー インデックスを使用]** チェックボックスを有効にすることによって、検索インデックスで使われるシステム リソースを制限できます。この設定は直ちに反映されます。

スペース インデックスを自動再構築

ランタイム パフォーマンスを最適化するため、ボリュームから削除または移動されたファイルの Files Connect インデックス ファイル エントリは、実際のファイルが削除された時点では、インデックス ファイルから物理的に削除されません。インデックス検索サービスは、検索結果を正確に保つために、これらの削除されたエントリを無視します。しかし、ファイルが大きくなると共にインデックス ファイルも徐々に大きくなり、検索速度がわずかに低下します。インデックス ファイルが大きくなる速さは、ファイル サーバー上で追加、移動、および削除されるファイルの数によって異なります。Files Connect の検索速度を適切なレベルに保つため、ボリュームのインデックスは定期的に再インデックス化およびコンパクト化されます。この処理が行われる間隔は、インデックス内の有効なエントリに対する削除された（古くなった）レコードの比率によって決まります。デフォルトでは、ボリュームのインデックス ファイル レコードの約 3 分の 1 が削除されたとき、つまり古いレコードになったときに、Files Connect 検索サービスによって個々のボリュームが再インデックス化されます。

メンテナンスは、ボリュームごとに、また、再インデックス化が必要なボリュームに対してのみ実行されます。再インデックス化中でも、ボリュームの既存の検索インデックスは最新の状態に保たれ、100 パーセント正確な検索結果が得られます。再インデックス化の実行中に、他のサーバー プロセスが悪影響を受けることはありません。Files Connect が個々のボリュームを再インデックス化している間、「再インデックス中」のステータスが、Files Connect Administrator の **[ボリューム]** ダイアログに表示されます。必要な場合は、勤務時間外に設定したスケジュールで再インデックス化を実行できます。付録 『200ページ』 ページで説明されている EZIPUTIL コマンドを使用できます（このコマンドは、バッチ ファイルまたはスクリプトで使用され、選択したスケジューリング サービスで開始されます）。この方法、つまりスケジュールされた再インデックス化)を選択する場合は、**[スペース インデックスを自動再構築]** チェックボックスをオフにして、自動再インデックス化を無効にします。

5.1.2.6 ファイル名ポリシーの設定

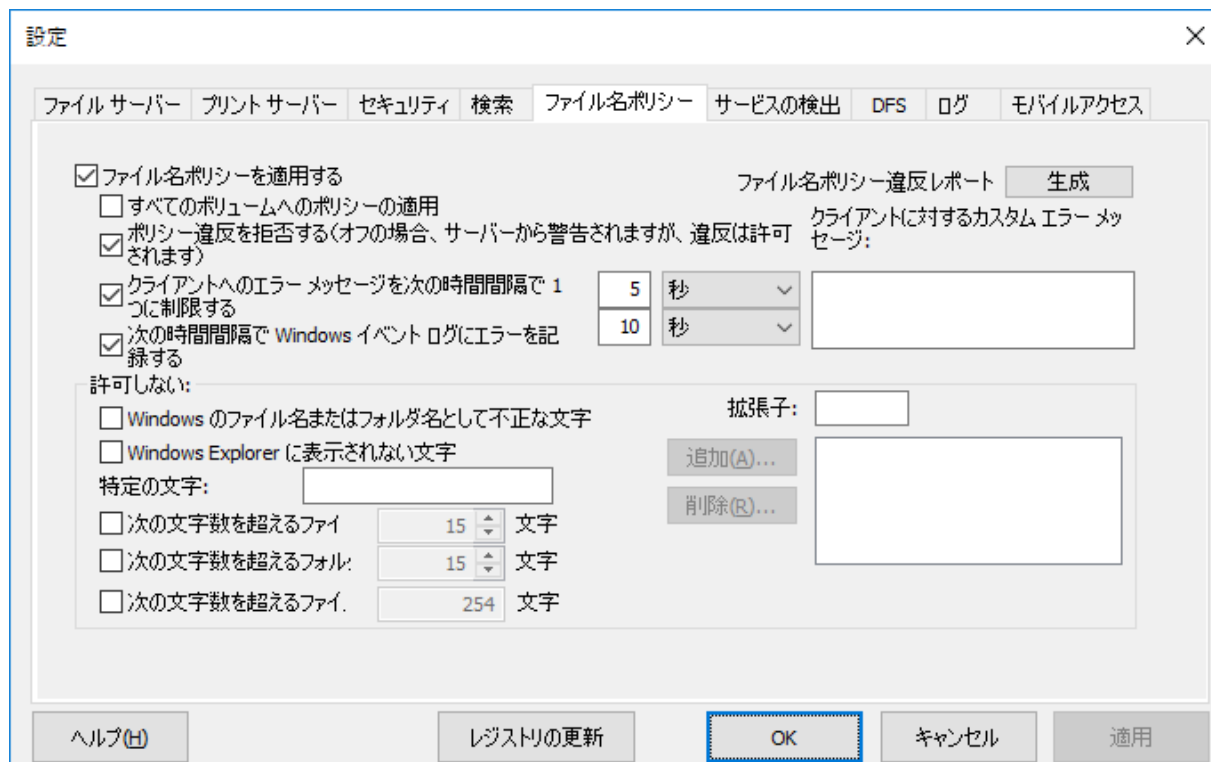
Files Connect は、Windows ファイル サーバーと Mac クライアントの間のシームレスな通信を提供するので、有効なファイル名やファイル タイプに関するポリシーを構成できます。

Files Connect では、Microsoft Explorer、または Unicode ファイル システム API をサポートしていないその他のアプリケーションにおける「不正な」文字が含まれたファイルの保存（作成、名前変更、移動）を試みた Mac クライアントを検出して拒否することができます。

管理者は、何を許可し、何を「不正」と見なすかを構成する必要があります。リストには、以下の項目を含めることができます：

- Windows 上で表示できない文字。
- 末尾のスペース
- デフォルトの Windows フォントで使用できない Unicode 文字
- 任意の特定の文字
- "x" 文字を超える長さのファイル名
- 特定のファイル拡張子

ファイル名ポリシーは、サーバー上の既存のファイル、および Windows ファイル共有を介してコピーされたファイルには影響しません。



セクションの内容

ファイル名ポリシーを適用する	105
ファイル名ポリシー違反レポート	105
すべてのボリュームへのポリシーの適用.....	106
クライアントへのエラー メッセージ次の時間ごとに 1 つに制限する	106
次の時間間隔で Windows イベント ログにエラーを記録する	106
クライアントへのカスタム エラー メッセージ	106
許可しない.....	107

ファイル名ポリシーを適用する

この設定をオンにすると、Files Connect で設定したファイル名ポリシーを適用できます。

ファイル名ポリシー違反レポート

現在構成されているファイル名ポリシーに違反している既存のファイルとフォルダを一覧表示するレポートを作成するには、**[生成]** ボタンをクリックします。確認のダイアログ ボツ

クスが表示され、レポートの出力が含まれるフォルダにアクセスできます。このフォルダには、レポート概要テキスト ファイル、およびサーバー上の各 Files Connect ボリュームに関する個別のカンマ区切り概要ファイルが含まれます。これらの CSV ファイルは、スプレッドシート アプリケーションまたはテキスト エディタで表示できます。

バージョン 10.6.3 以降、ファイル名ポリシー違反レポート機能を使用するには Spotlight 検索機能 『152ページ』が有効になっている必要があります。Spotlight 検索が有効になっていないと、ボリュームについての違反は報告されません。

デフォルトで、ファイル名ポリシー違反レポートではボリュームごとに 20,000 個までの違反が表示されます。MaxViolationsReported Windows レジストリ キー 『253ページ』で設定を変更することにより、これを変更できます。

すべてのボリュームへのポリシーの適用

ファイル名ポリシーを、すべての Files Connect AFP ボリュームに対して、または個々のボリュームに対して適用できます。[すべてのボリュームへのポリシーの適用] チェックボックスをオンにすると、この機能がすべての Files Connect AFP ボリュームにわたって適用され、個々のボリューム ポリシー設定よりも優先されます。

クライアントへのエラー メッセージ次の時間ごとに 1 つに制限する

注意: OS X 10.9 以降では、サーバーから送信されるメッセージの表示はサポートされていません。

この設定をオンにすると、指定された時間間隔でのエラー メッセージの数がクライアントごとに 1 つに制限されます。この時間間隔は設定できます。

次の時間間隔で Windows イベント ログにエラーを記録する

この設定をオンにした場合、サーバーは指定された時間間隔で Windows アプリケーション イベント ログにエラーを記録します。

クライアントへのカスタム エラー メッセージ

注意: OS X 10.9 以降では、サーバーから送信されるメッセージの表示はサポートされていません。

標準のファイル名ポリシー エラー メッセージに付加するカスタム メッセージを指定できます。たとえば、「このアクションは、ファイル名に関する会社のポリシーに違反しています。」というメッセージの場合、ユーザーへの送信メッセージに「' mp3' 拡張子は許可されていないため、ファイル ' foo.mp3' を作成することはできません。このアクションはファイル名に関する会社のポリシーに違反しています。」のようにつなげることができます。

許可しない

このセクションでは、Mac ユーザーがファイル サーバーに保存できない文字、ファイル名、および拡張子を設定します。

- **Windows ファイル名またはフォルダ名として不正な文字:** この設定をオンにすると、ユーザーは Windows における不正な文字を含む名前を使用したファイルを保存できません。使用できない文字は / ? < > ¥ : * | および末尾のスペースと末尾のピリオドです。
- **Windows Explorer で表示できない文字:** この設定をオンにすると、ユーザーは Windows Explorer で使用されるフォント (デフォルトは Tahoma) で表示できない文字を含む名前を使用したファイルを保存できません。
- **カスタムエラーメッセージ:** 各エラーの組み込みの説明に追加されるカスタムメッセージ。
- **特定の文字:** ユーザーがファイル名に含めることを禁止する追加の文字を指定できます。このフィールドに区切りなしで文字を入力します。
- **ファイル名の上限:** ファイル名を、指定した文字数までに制限できます。
- **フォルダ名の上限:** フォルダ名を、指定した文字数までに制限できます。
- **次の文字数を超えるファイルパス:** パスの長さを、指定した文字数までに制限できます。

注意: ファイルパスはサーバー上にあるため、この制限は Windows ファイルパス全体に対するものとなります。Mac クライアントに表示されるファイルパスは、もう少し短くなる場合があります。

- **拡張子:** 先行ドット (.) を含めずに特定のファイル拡張子 (mp3、mov、wav など) を入力して **[追加]** をクリックすると、その拡張子をユーザーが保存できなくなります。リ

ストから拡張子を削除するには、拡張子をハイライト表示して **[削除]** をクリックします。

5.1.2.7 サービスの検出

Mac クライアントは、使用されているオペレーティングシステム、および管理者がサーバーを構成した方法に応じて、複数の異なるプロトコルを使用して Files Connect サーバーを検出できます。適切なチェックボックスをオンにして、サーバーが登録に使用するネットワーク プロトコル (Bonjour、Zidget/HTTP) を選択します。ファイル、印刷、および DFS リソースの検出に使用可能なプロトコルを別々に構成できます。

The screenshot shows the 'Settings' dialog box with the 'Service Discovery' tab selected. The 'Server Name' field is set to 'MyServer'. Under the 'File', 'Print', and 'DFS' sections, the 'Bonjour' and 'Web Service' checkboxes are checked. The 'Zidget/HTTP Port' is set to 8081 and the 'App/HTTPS Port' is set to 8085. The 'Certificate' field is set to 'Acronis Files Connect'. There are also fields for 'Register with Primary Server' (unchecked), 'Location/Zone', 'Description', and 'Register Service Connection Point' (unchecked). The bottom of the dialog has buttons for 'Help', 'Refresh Registry', 'OK', 'Cancel', and 'Apply'.

セクションの内容

サーバー名.....	109
Bonjour	109
Web サービス.....	109
ポート.....	110
プライマリ サーバーへの登録	110
ロケーション.....	110
説明	110

サービス接続ポイントの登録	111
---------------------	-----

サーバー名

サーバー名は、Mac ユーザーがサーバーに接続するときには常にログイン ウィンドウに表示されます。さらにこの名前は macOS の **[サーバーへ接続]** ダイアログに、および以前の Mac OS システムの **Chooser** に、そして Mac ユーザーがネットワークを参照する場合は **ネットワーク ブラウザ**にも表示されます。名前は変更できます。大文字と小文字のテキストを使用します。

Bonjour

Bonjour を使用すると、Mac OS X ユーザーには、**[サーバーへ接続]** ダイアログにボリュームが表示され、**[プリント センター]** に印刷キューが表示されます。

Web サービス

Mac クライアントと Files Connect Zidget はどちらも、Web サービスのアドレスを使って機能します。

Mac クライアントは Files Connect の新しいアプリケーションです。ユーザーはこれを使用して必要なすべてのリソースに簡単に接続でき、強力な検索エンジンも利用できます。

Zidget は、Bonjour Service となるもので、ルーターを構成しなくてもサブネット全体で機能します。Zidget は XML over HTTP を使用して、Files Connect サーバーとそれらの印刷キューのリストを Files Connect プライマリ サーバーから取得します。

ExtremeZIPServerList のデフォルト ドメインに DNS エントリがある場合、Zidget はそのサーバーにネットワーク上のすべての Files Connect サーバーのリストを要求します。次に、各サーバーにそのデフォルトのゾーンやロケーション、およびホストしている印刷キューを個別に問い合わせます。

Files Connect Zidget は標準の HTML および XML を使用するため、管理者はこのプロトコルを使用して、独自のウェブ インターフェイスも作成できます。この実行方法の詳細については、マニュアルの Zidget セクションを参照してください。

ポート

サーバーおよび Zidget と Print Accounting 間のクライアント サーバー通信に使用するポートを入力します。

注意: [Zidget/HTTP] をオフにしても、Files Connect は依然としてこのポートを使用して、従来の Files Connect の印刷コンポーネントと Print Accounting をサポートします。新しい機能のみが無効になります。

プライマリ サーバーへの登録

この設定は、プライマリ サーバーに登録するため**セカンダリ** サーバーのみで有効にする必要があります。

[プライマリ サーバーに登録] チェックボックスをオンにすると、このサーバーは、アドレスを入力したサーバーに対して**セカンダリ**になります。プライマリ サーバーでは、このようにして登録されたセカンダリ サーバーをそれぞれ自動的にサーバーのテーブルに読み込みます。

Mac クライアントと Zidget は、ネットワーク上の他の Files Connect サーバーを検出するために、単一のプライマリ サーバーへの接続をサポートしています。

ロケーション

このフィールドでは、サーバーのロケーションを指定します。ロケーションは、サーバー上の印刷キューのデフォルト ロケーションでもありますが、キューごとに異なるロケーションをキューに割り当てることができます。Zidget は、ロケーションに基づいて AFP サーバーおよび印刷キュー表示をグループ化します。ロケーションの階層 (1100 N. Glebe RD, Arlington, Virginia など)を使用する必要がある場合は、ロケーションをコロンで区切って入力します (「Virginia:Arlington:1100 N. Glebe RD」)。

説明

サーバーに関するオプションの説明です。Zidget は、ユーザーがファイル サーバーを選択したときにこの説明を表示します。

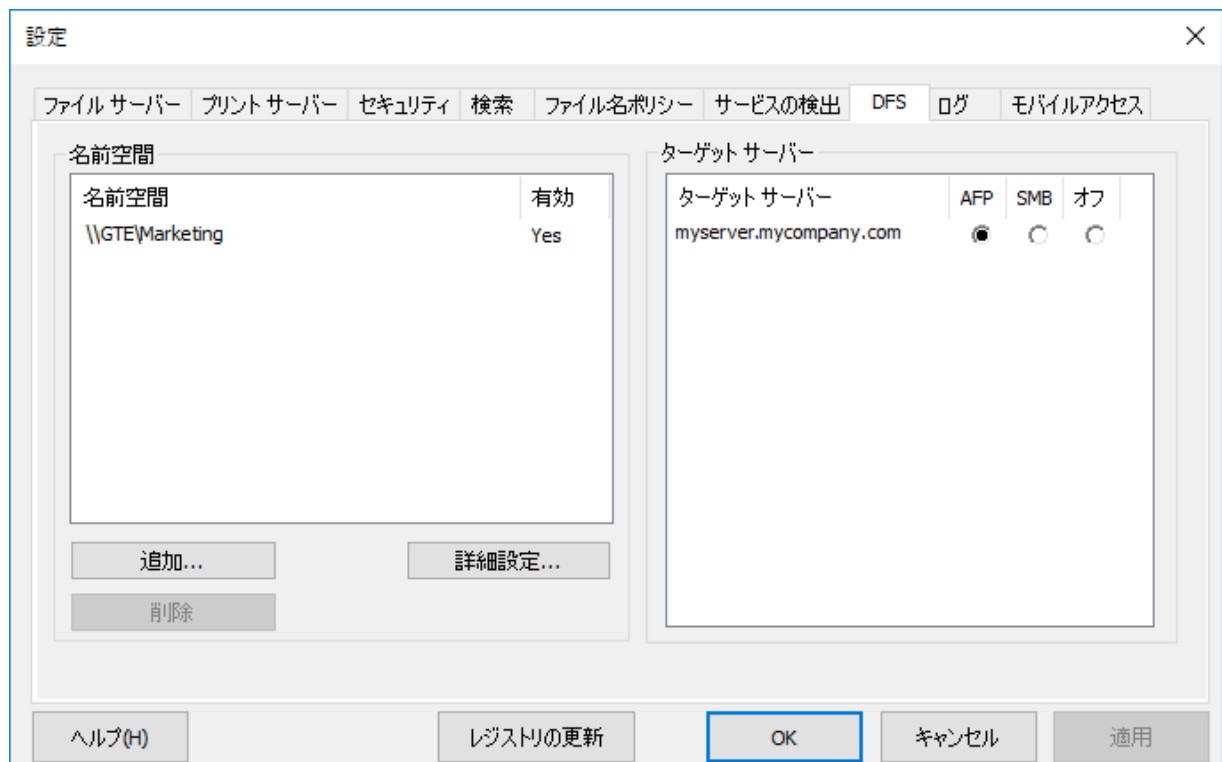
サービス接続ポイントの登録

このオプションを使用すると、Files Connect は Microsoft サービス接続ポイント (SCP) を使用してその存在をパブリッシュできます。このテクノロジーは、Active Directory 内の他の Files Connect サーバーを検出して接続するために使用されます。

5.1.2.8 DFS

Mac クライアントが Microsoft 分散ファイルシステム (DFS)を使用できるように、Files Connect を構成することができます。サーバー側の構成に加え、Files Connect Mac クライアントまたは Zidget ダッシュボードウィジェット (Mac OS X 10.4 以降用)のインストールと構成が必要になる場合もあります。この方法の詳細については、「Mac クライアント『17ページ』」および「クライアントでの Zidget のインストールと構成『132ページ』」を参照してください。

DFS サポートでは **[設定]** ダイアログの **[セキュリティ]** タブで 2 つの設定も必要です。DFS を機能させるために、有効な**ディレクトリサービス**資格情報を入力し、**[UNIX パーミッションと ACL のサポート]** を有効にする必要があります。



セクションの内容

名前空間.....	112
ターゲットサーバー	112

名前空間

注意: Files Connect をインストールしたサーバーで名前空間を表示可能な場合にのみ、その名前空間を追加できます。このサーバーでは **DFS 名前空間**の役割を有効にする必要があります。

名前空間を追加するには、**[追加]** ボタンをクリックします。DFS 名前空間のパスを入力するように要求するメッセージが表示されます。Files Connect は、入力された DFS 名前空間が有効であることを確認しようとします。有効でない場合、DFS 名前空間のパスを修正するように要求するメッセージが表示されます。

Files Connect により、DFS 仮想ルート ボリュームが、Files Connect プログラム ディレクトリにある「Files Connect DFS Volumes」フォルダに自動的に作成されます。このボリュームには、DFS 名前空間内のターゲット サーバーへのリンクが含まれ、DFS ドメインまたはホスト サーバー名と一致するボリューム名を持つ共有ボリュームとして追加されます。DFS 仮想ルートボリュームが作成されるロケーションは、**[DFS]** 設定タブの **[詳細設定]** を選択して変更できます。

新たに追加された名前空間の情報が反映された **[DFS]** タブに戻ります。左に名前空間が一覧表示され、その名前空間内のターゲット サーバーが右に表示されます。**[名前空間]** リスト内の **[有効]** 列は、名前空間が正常に検証されたかどうかを示します。DFS 名前空間を後で削除する場合は、その名前空間を選択し、**[削除]** ボタンをクリックします。

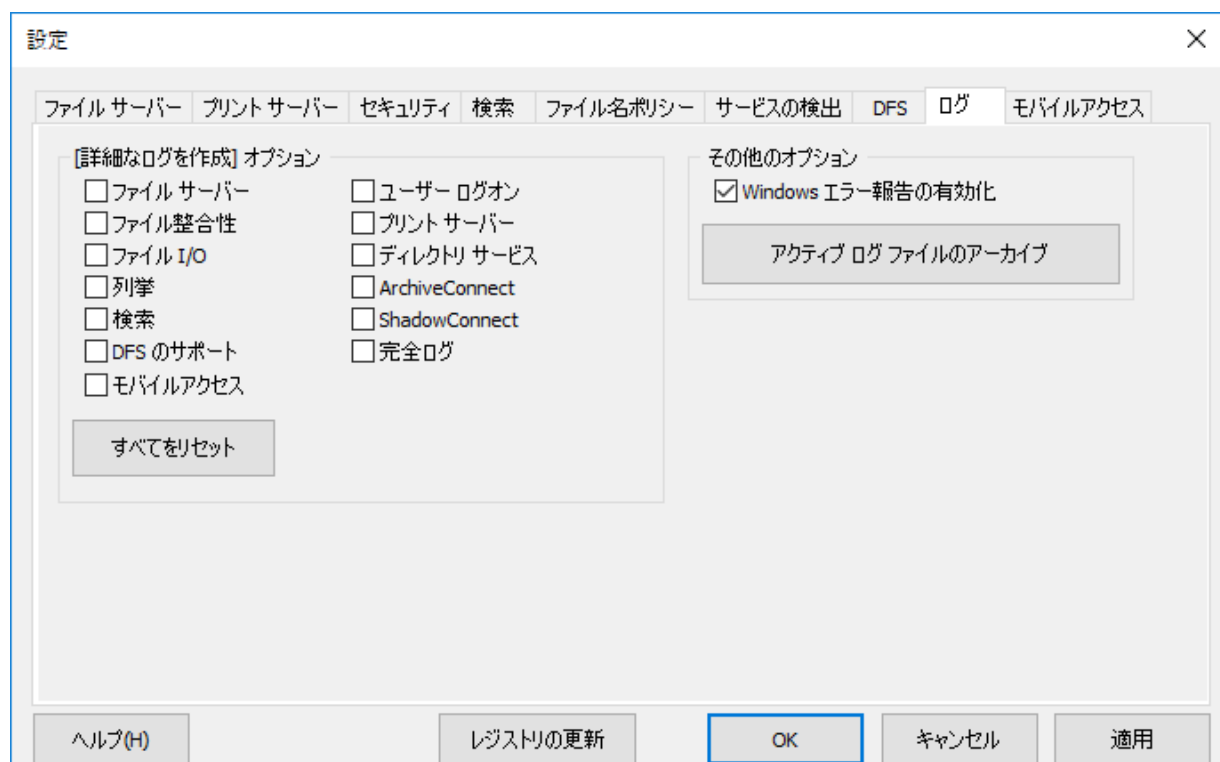
ターゲットサーバー

各ターゲットサーバーへの接続に Mac クライアントが使用するプロトコルは、ターゲットサーバーごとに構成できます。名前空間が初めて追加されると、Files Connect はその名前空間の各ターゲットサーバーに関して、AFP プロトコルをサポートしているかどうかを検出しようとします。AFP がサポートされている場合、ターゲットサーバーはデフォルトで **[AFP]** に設定されます。AFP サポートを確認できない場合、ターゲットサーバーは **[オフ]** に設定されます。**[オフ]** に設定されたターゲットサーバーへのリンクは、Mac クライアントの DFS ボリュームには表示されません。Mac クライアントが SMB を使用してターゲ

ットサーバーに接続するようにする場合は、個々のサーバーに **[SMB]** オプションを選択できます。ターゲットサーバーに後で Files Connect をインストールする場合は、[DFS] 設定タブに戻り、そのサーバーに **[AFP]** を選択できます。

5.1.2.9 ログ

Files Connect を使用すると、そのログ機能、および Windows エラー報告の生成機能をカスタマイズおよび構成できます。



セクションの内容

[詳細なログを作成] オプション	113
Windows エラー報告の有効化	114
アクティブログファイルのアーカイブ	114

[詳細なログを作成] オプション

詳細ログの作成を有効にするとパフォーマンスに影響を与える場合があります。Acronis テクニカルサポートから指示があった場合にのみ使用してください。

有効にした場合、これらのログオプションによって、Files Connect ログファイルに記録される情報の詳細レベルが上がります。オプションは、Files Connect 操作のさまざまな面で

使用できます。[すべてをリセット] ボタンにより、すべての Files Connect ログ作成がデフォルト設定に戻ります。

Windows エラー報告の有効化

有効にした場合、Windows で、問題の発生時にエラー レポートを送信するオプションが使用可能になります。Acronis ではこれらのエラー レポートを使用して、潜在的な問題を特定し、対処することができます。

アクティブログファイルのアーカイブ

このボタンをクリックすると、現行の Files Connect ログファイルが ZIP 形式でアーカイブされ、新しいログファイルが開始されます。この機能を使用して、アーカイブするために既存のログファイルのサイズを縮小したり、Acronis テクニカルサポートに送るためにログファイルをパッケージングしたりすることができます。ログファイルはデフォルトでシステムドライブの `\Program Files\Group Logic\Files Connect\Logs\Files Connect\` フォルダに配置されます。

5.1.2.10 モバイルアクセスの設定

モバイルアクセス機能により、Acronis Access のモバイルユーザーは、Acronis Access モバイルアプリから Files Connect ボリュームにアクセスして、ファイルを参照、アップロード、同期、注釈付け、および編集することができます。

注意: この機能は Files Connect のクラスタバージョンではまだサポートされていません。

注意: Time Machine ボリュームとして定義されているボリューム、および AFP のホームディレクトリとして設定されているボリュームは、モバイルアクセスゲートウェイで共有されません。

Acronis Access モバイルアプリからボリュームへのアクセスを有効にする: 有効にすると、Acronis Access モバイルクライアントで Files Connect ボリュームの移動およびアクセスが可能になります。この設定はすべてのボリュームに適用されます。

モバイルゲートウェイ接続のオプション

アドレス: モバイルアクセスゲートウェイサービスのネットワーク IP アドレス。これはモバイルクライアントの接続先アドレスでもあります。

ポート: モバイルアクセスゲートウェイサービスが動作するネットワークポート。デフォルトのポートは 443 です。ポートを変更した場合、モバイルデバイスからの接続時にゲートウェイアドレスの末尾にポート番号を入力する必要があります。

証明書: モバイルアクセスゲートウェイサービスで使用する SSL または自己署名証明書を選択します。Microsoft Windows 証明書ストアから証明書を選択できます。

5.1.3 Network Reshare サポートの設定

セクションの内容

はじめに.....	115
一般的なユース ケース: NAS ストレージへの AFP アクセス.....	116
要件	116
推奨事項.....	117
制限事項.....	118
Network Reshare の初期構成	119
Network Reshare および Kerberos 認証	123
Network Reshare ボリュームの構成.....	126
ファイルサーバーのミラーリングと SMB 共有.....	127

5.1.3.1 はじめに

Files Connect には、従来、Files Connect がインストールされている Windows サーバー上、またはそのサーバーに直接接続されているストレージ上に配置されているファイルとフォルダを共有する機能のみが含まれていました。このローカルストレージ内のフォルダは、Files Connect ボリュームとして選択でき、標準の Mac AFP ファイル共有として Mac ユーザーが使用できるようにすることが可能です。

バージョン 8.0 での「**Network Reshare**」の使用により、ネットワーク上の他のサーバーおよび NAS デバイスに配置されているフォルダに Files Connect 経由でアクセスできます。Mac クライアントは標準の AFP ファイル共有プロトコルを使用して Files Connect に接続する一方で、Files Connect は、SMB/CIFS ファイル共有プロトコルを利用して、

Mac ユーザーから要求されたリモート サーバーおよび NAS システムのファイルにアクセスします。そのようにすることで、Mac ユーザーは、AFP ファイル共有のすべてのメリットも活用しながら、従来は SMB/Windows ファイル共有を介してのみ使用可能であったリソースにアクセスすることができます。

Files Connect Network Reshare を使用すると、標準 SMB/CIFS ファイル共有と分散ファイルシステム (DFS) ファイル共有の両方にアクセスすることができます。DFS リソースの Network Reshare の詳細については、ナレッジベースの資料 (ここ) を参照してください。

5.1.3.2 一般的なユース ケース: NAS ストレージへの AFP アクセス

実際の一般的な Network Reshare ユース ケースでは、Mac が NetApp NAS システムなどの NAS ストレージアクセスします。ほとんどの NAS システムでは、AFP ファイル共有をホストする機能は含まれていません。Mac ユーザーは、ネイティブ OS X SMB クライアントを使用して NAS ファイル共有に接続する以外の選択肢はありません。この結果として、通常、ファイルの参照、転送、および検索パフォーマンスは不十分で、Mac アプリケーションの非互換性、ファイル名の問題、ファイルの破損などが頻繁に発生します。

Network Reshare を使用すると、NAS システムでのファイル共有が、Files Connect を実行している Windows サーバーを介して Mac で使用可能になります。Mac は Files Connect AFP ファイル共有に接続し、Files Connect は NAS の既存の SMB/CIFS ファイル共有を介して NAS システムとやり取りします。このように、Mac 側の非互換性および問題に、ネイティブ AFP アクセスを許可すること、および Files Connect が Windows サーバー側 SMB アクセスを使用して NAS ストレージにアクセスすることで対処します。これにより、Mac SMB クライアント アクセスに比べてパフォーマンスおよびスループットが向上します。結果として、NAS ストレージへの Files Connect を介した Mac AFP ファイル共有アクセスのパフォーマンスは、ほとんどの場合、同じ NAS システムに SMB で直接同じ Mac にアクセスするよりも向上します。

5.1.3.3 要件

Network Reshare 機能により、単一の Files Connect サーバーは、他の多数のファイルサーバーや NAS システムへの AFP ファイルアクセス権を付与できます。

この機能は Files Connect 試用版

<http://www.grouplogic.com/enterprise-file-sharing/mac-windows-file-sharing/free-trial.html>および Files Connect エンタープライズ ライセンス プログラム

<http://www.grouplogic.com/enterprise-file-sharing/mac-windows-file-sharing/pricing-options.html> (ELP) 年間サブスクリプション ライセンスでのみ有効です。このライセンスオプションを使用すると、Files Connect を企業内の任意の数（無制限）のサーバーにインストールし、さらに Network Reshare ボリュームも作成できます。

サポートされるオペレーティングシステムおよび具体的なハードウェア要件については、「システム要件 『30ページ 』」を参照してください。

5.1.3.4 推奨事項

Files Connect サーバーネットワークインターフェイスカードのパフォーマンス

Network Reshare は、Files Connect がインストールされている Windows サーバーを介した、Mac クライアントとファイルサーバーや NAS ストレージとの間のすべての通信をルーティングします。入手可能な最速の NIC と、理想的には共有されるサーバーや NAS との通信専用の 1 つ以上の NIC を搭載したサーバー上に Files Connect をインストールすると、最高レベルのパフォーマンスを得ることができます。

Windows 2008 および SMB v2

Windows 2008 でサポートされる SMB v2 プロトコルは一貫してハイレベルのパフォーマンスを示しています。Files Connect を Windows 2008 サーバーにインストールし、Windows 2008 または SMB v2 プロトコルをサポートする NAS オペレーティングシステムを実行しているリモートストレージを使用することにより、Mac ユーザーにとって最高のファイル共有スループットを実現できます。

Files Connect Network Reshare 用の Kerberos

Kerberos ログインをサポートするには、「委任でこのコンピュータを信頼する」ように Active Directory を構成する必要があります。詳細については、「Network Reshare および Kerberos 認証 『123ページ 』」の資料を参照してください。

5.1.3.5 制限事項

- インデックスが作成されたファイル名検索をサポートするために、Files Connect では、ファイルの変更時に検索用インデックスの最新の状態を維持するために、Windows が提供するファイルシステム通知が必要です。これらの通知は、再共有されるファイルサーバーおよび NAS システムへのアクセスに Files Connect が使用する SMB 接続では使用できません。このため、従来のファイル名のインデックスベースの検索は Network Reshare ボリュームでは無効になっています。**Files Connect 9.0** では、新しい Acronis Content Indexing オプションが導入されました。このインデックスは、リアルタイムの変更を追跡するのではなく、定義済みのスケジュールに基づいて実行されます。このオプションを有効にすると、ユーザーは高速インデックスファイル名検索を利用できるようになります。
- フルコンテンツ Network Spotlight 検索をサポートするために、Files Connect では、Files Connect がインストールされているサーバー上の Windows Search サービスにより保持されている Window Search インデックスまたは Acronis Content Indexing サービスを利用します。Windows Search は、Windows Search がインストールされていて、インデックスが作成されている Windows Server でホストされているリモート共有をインデックス化するように設定できます。Acronis Content Indexing は、Windows 以外のサーバー上や NAS 上に存在するものを含め、あらゆるリモート共有をインデックス化するように設定できます。
- Windows Search または Acronis Content Indexing のいずれかを使用する Network Spotlight 検索が有効になっていない場合、Mac による Files Connect Network Reshare ボリュームの検索では、ファイル名に基づく検索結果を受け取りますが、インデックスが作成されたローカルボリュームの検索に比べて、検索の完了にはより多くの時間がかかります。
- Files Connect のサービスアカウントには、ファイルとそのメタデータ（セキュリティ記述子を含む）を適切に操作するために必要なため、ファイルシステムに対する無制限の権限が必要です。必要な権限が付与されていないと、「ERROR_INVALID_OWNER」エラーが発生することがあります。
- 複数の Active Directory サーバーを使用していて、Files Connect をドメインコントローラにインストールしている場合、Network Reshare と Kerberos 認証ステップの後、AD レプリケーションで問題が発生します。

- Files Connect Reshare 機能を使用して DFS 名前空間を公開するとき、DFS 名前空間ターゲットにコピー可能な最大ファイルサイズは DFS 名前空間ルートエミュレータボリュームをホストするボリュームで使用可能な空き領域の量によって制限されます。DFS 名前空間ターゲット自体で使用可能な空き領域とは関係なく、Files Connect は Mac クライアントに自分の空き領域を報告します。

5.1.3.6 Network Reshare の初期構成

注意: Network Reshare サポートは Files Connect バージョン 8 以降のみで使用できます。

Files Connect は、インストールされている Windows サーバー上の標準の Windows サービスとして実行されます。デフォルトでは、Files Connect サービスは Windows ローカル SYSTEM アカウントのコンテキストで実行されます。このアカウントとして実行されることで、Files Connect はサーバーのストレージ上に直接配置されている Files Connect ボリュームのファイルとフォルダにアクセスできます。

Network Reshare ボリュームを使用するには、Files Connect サービスから、再共有されるリモートファイルサーバーおよび NAS デバイス上のファイルとフォルダにアクセスする必要があります。これらのファイルにアクセスできるようにするには、Files Connect サービスがローカル Windows サーバーに対する管理者アクセス権、および再共有されるリモートサーバーや NAS システム上に存在する必要なすべてのファイル共有に対するフルコントロールアクセス権を持っている Active Directory (AD) ユーザーアカウントのコンテキストで実行されるように Files Connect サービスを再構成する必要があります。

注意: Files Connect サービスを実行しているコンピューターでは、Files Connect サービスで 사용되는 Active Directory アカウントと同じ名前およびパスワードを持つローカル アカウントを使用することができません。

注意: Windows 2008 R2 を使用している場合は、次の Microsoft Hotfix を必ずインストールしてください。Files Connect Network Reshare で使用される Windows 機能に直接関連する問題に対処しています。Hotfix のリンク: <http://support.microsoft.com/kb/2647452>

<http://support.microsoft.com/kb/2647452/ja>

注意: Network Reshare ボリュームに、専用 Active Directory ユーザーアカウントではなく、Windows のローカル SYSTEM アカウントで動作している Files Connect サービスからアクセスできるように Files Connect を設定することもできます。このようなセットアップは最高基準のセキュリティ標準を満たさないため、実運用環境にはお勧めしません。ただし、厳密にこのタイプの構成

が必要な場合は、「ローカル SYSTEM アカウントでの Network Reshare および Kerberos 認証『278ページ』」を参照してください。

Network Reshare を設定するには:

1. 少なくとも 1 回 Files Connect Administrator アプリケーションを起動し、Files Connect サービスのスタートアップを許可したことを確認してください。
2. Files Connect の認証を処理する Active Directory アカウントを設定します。
 - a. **Active Directory で:** Files Connect の認証を処理する AD ユーザーアカウントを作成するか特定します。使用する AD アカウントについて次の点を確認します:
 - この Files Connect サーバー専用であること
 - 固定パスワードが指定されていること
 - パスワード期限切れのグループポリシーの対象になっていないこと
 - 「オペレーティングシステムの一部として機能」および「サービスとしてログオン」の権利を付与するために必要ないずれかのドメイングループポリシーの対象であること

- b. **Files Connect サーバマシンで:** ローカル Windows サーバーの Administrators グループに専用 AD ユーザーアカウントを追加します。これを行うため、Windows の [スタート] メニューの Windows [管理ツール] から [コンピューターの管理] > [ローカルユーザーとグループ] > [グループ] > [Administrators] > [プロパティ] > [追加] に移動します。このユーザーアカウントには C:\Program Files (x86)\Acronis\Access\Files Connect フォルダおよびローカルの共有ボリュームに対するフルコントロール権限が必要です。

注意: 旧バージョンの Files Connect では、このパスは C:\Program Files (x86)\Group Logic\Files Connect である場合があります。

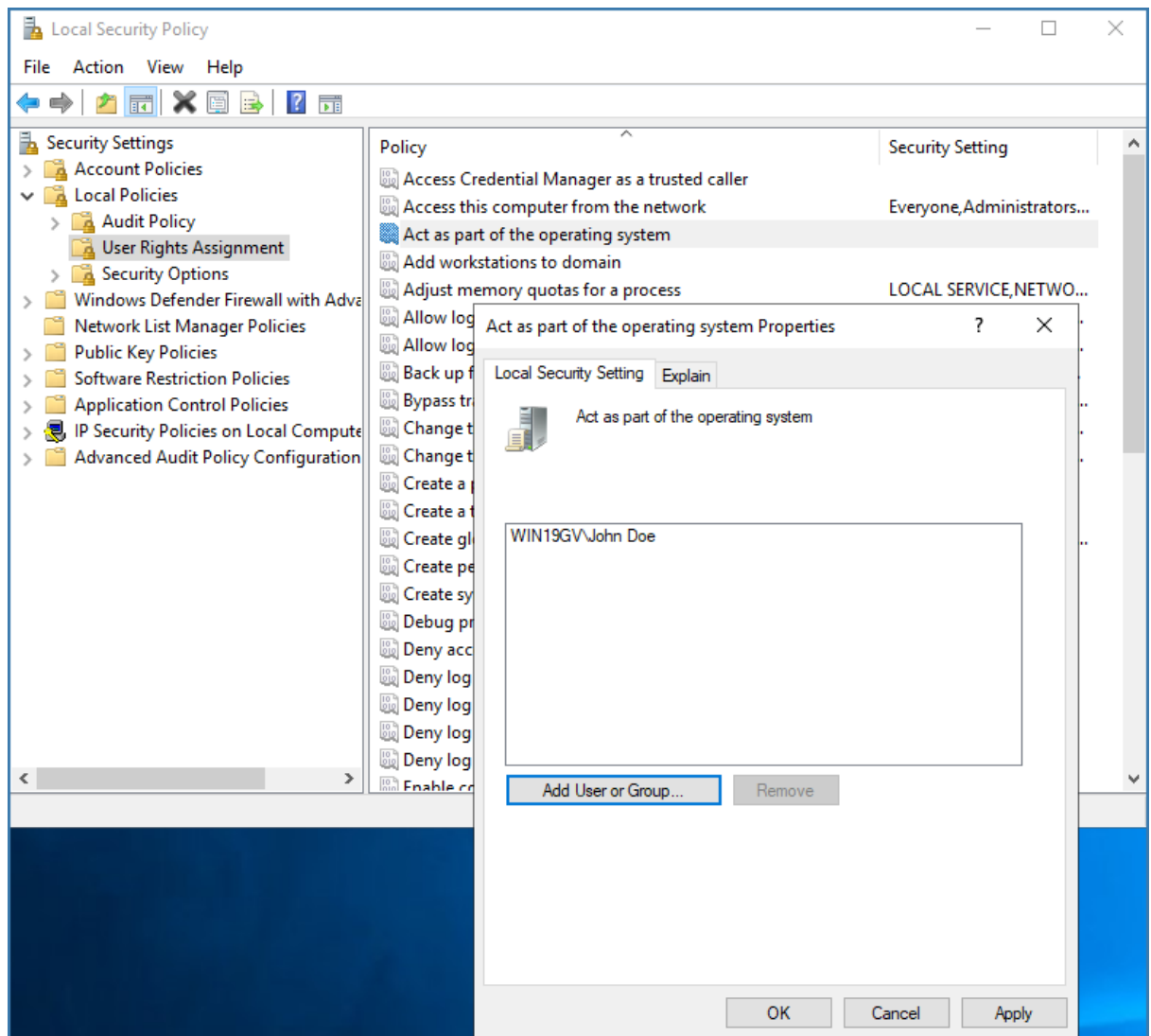
- c. **リモート SMB 共有サーバーで:** 専用の Files Connect アカウントには、NTFS または NAS デバイスアクセス許可で定義されているようにリモート共有ボリュームに対するフルコントロール アクセス権が必要です。

注意: EMC Isilon で真の「フルコントロール」を付与するには、専用アカウントに Isilon の権利 Run as root を付与する必要があります。

注意: NetApp で真の「フルコントロール」を付与するには、専用アカウントを NetApp の Administrators グループのメンバーにする必要があります。

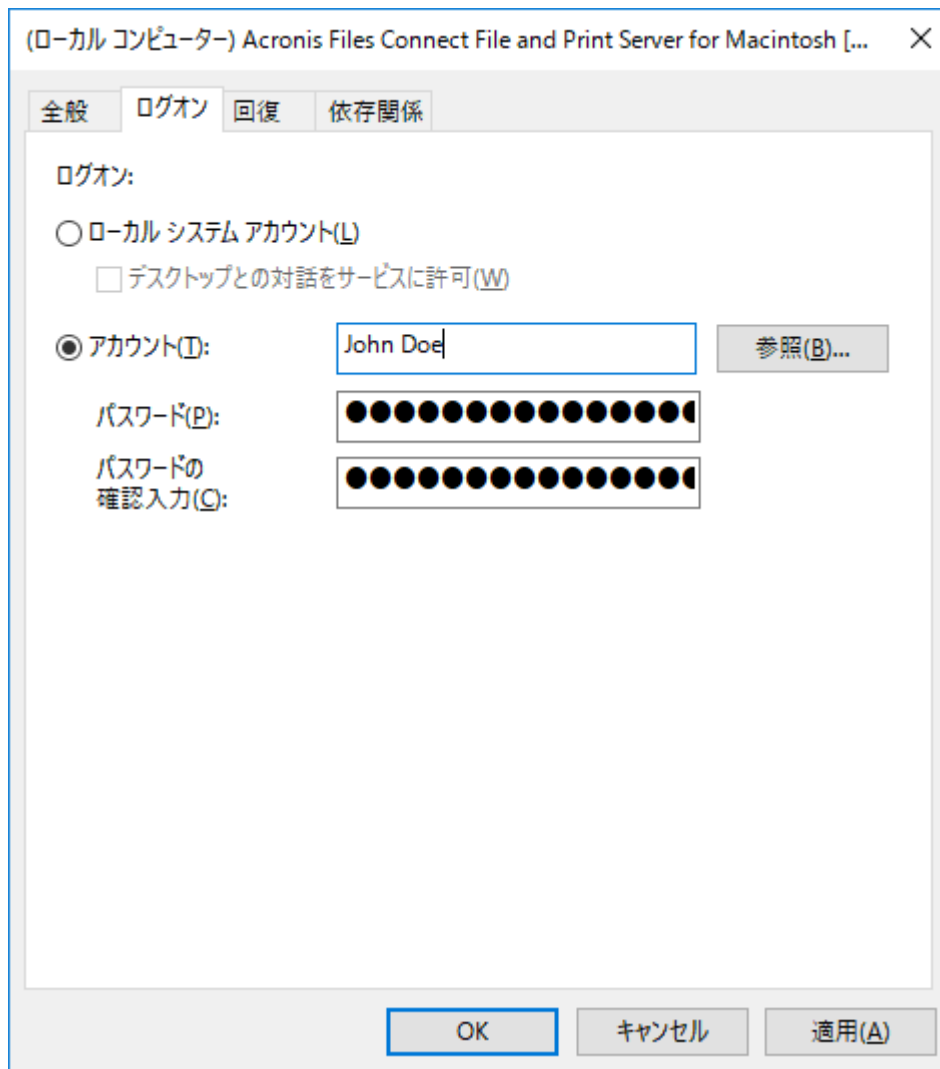
注意: Windows サーバーでは、専用アカウントを Windows ローカル Administrators グループに追加する必要があります。

3. **Files Connect サーバーマシン**で、選択されたユーザーを Windows サーバーのローカルセキュリティポリシーに追加します:
 - a. **Windows の [スタート] メニューの [Windows 管理ツール]** で、**[ローカル セキュリティポリシー]** を開きます。このポリシーを見つけるには、**[セキュリティ設定] > [ローカル ポリシー] > [ユーザー権利の割り当て]** セクションの順に選択します。
 - b. **[オペレーティングシステムの一部として機能]** をダブルクリックして、選択したユーザーを追加します。この設定を反映するために Windows を再起動する必要がある場合があります。



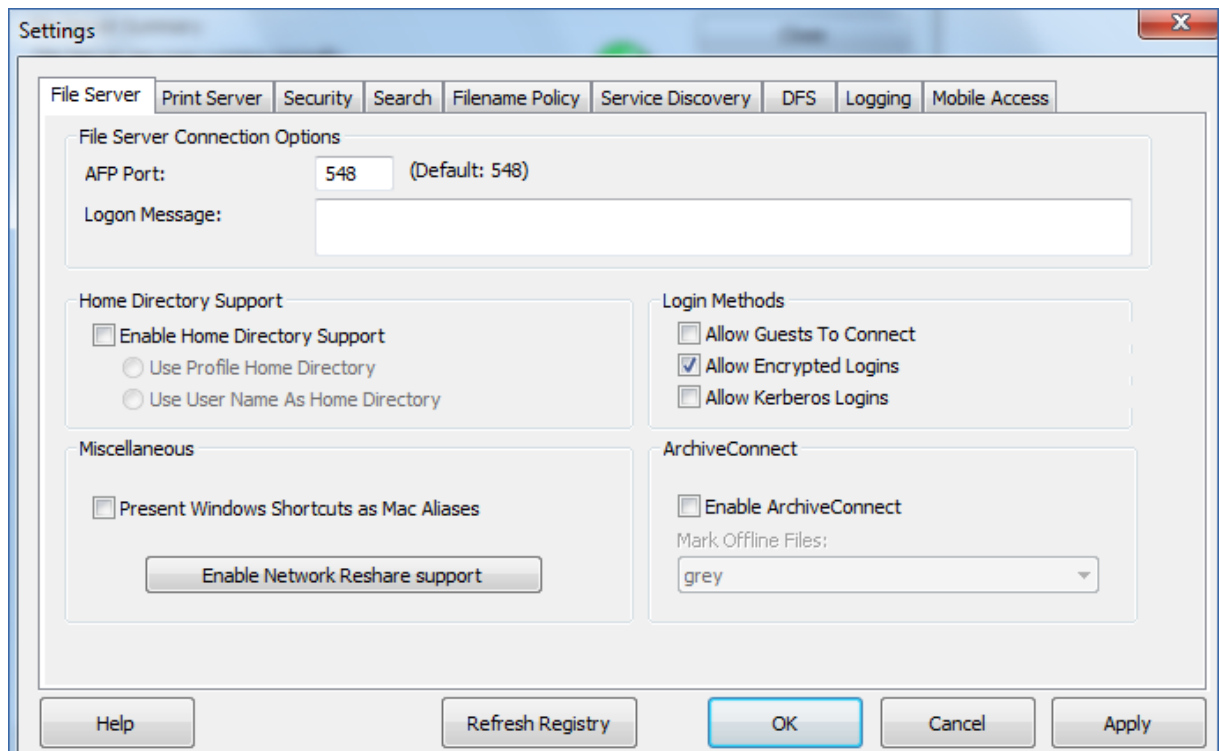
4. **Files Connect サーバーマシン**で、**[サービス]** コントロールパネルを開きます。

5. **Acronis Files Connect File and Print Server for Macintosh** のサービス名を右クリックして、サービスのプロパティを開きます。
 - a. **[ログオン]** タブを選択し、**[このアカウント]** ラジオボタンを選択します。
 - b. 手順 3 で使用したのと同じ AD サービス アカウントとしてログオンするようにサービスを構成します。**[サービス]** コントロール パネルは開いたままにしておきます。手順 7 で再び必要になります。



6. **[Network Reshare サポート]** をオンにします。
 - a. Files Connect Administrator アプリケーションを起動します。
 - b. **[設定]** ボタンをクリックします。
 - c. **[ファイルサーバー]** タブを開きます。
 - d. **[Network Reshare サポートの有効化]** ボタンをオンにします。
 - e. **[OK]** をクリックします。

f. **[閉じる]** ボタンを押して、Files Connect Administrator を閉じます。



7. **[サービス]** コントロールパネルで **[Acronis Files Connect File and Print Server for Macintosh]** サービスを再開します。

5.1.3.7 Network Reshare および Kerberos 認証

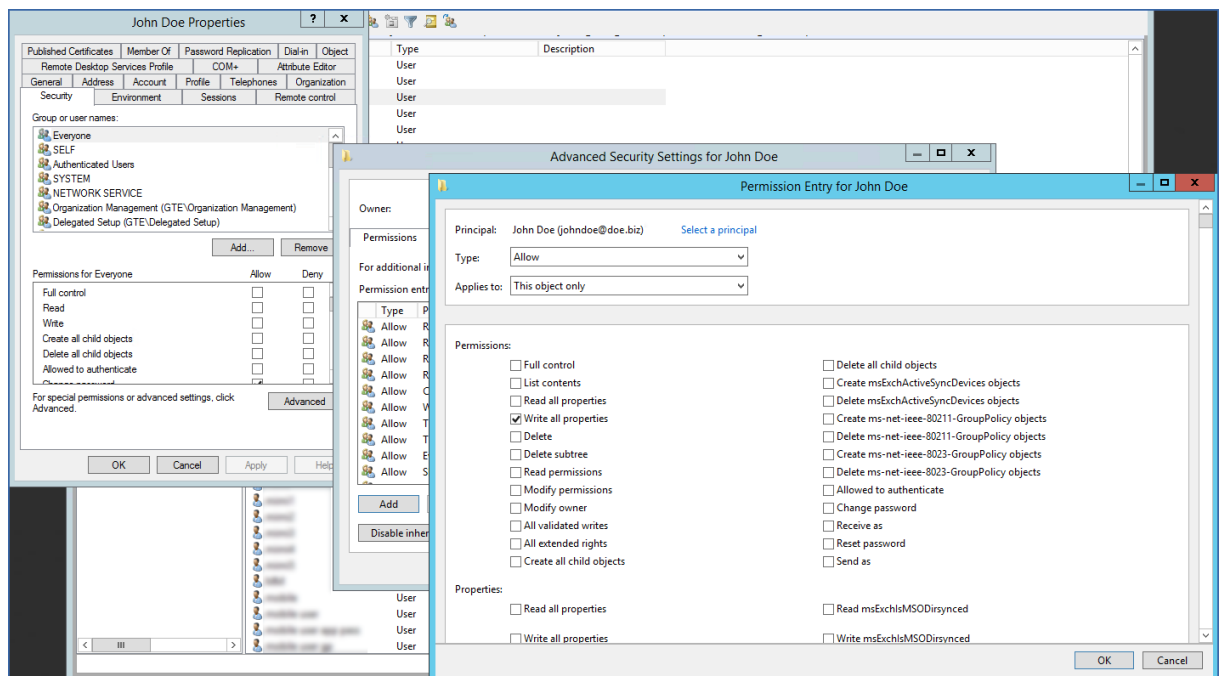
Kerberos を使用している Mac ユーザーは Files Connect を使用して SMB/CIFS Reshare (再共有) にアクセスできます。Network Reshare ボリュームに対する Kerberos 認証を有効にするには、次の手順に従います。

Active Directory アカウントのアクセス許可を構成する

1. **Active Directory ユーザーとコンピューター**を開いて、Files Connect 専用ユーザーアカウントオブジェクトを見つけます。
2. アカウントを右クリックし、**[プロパティ]** を選択します。
3. **[セキュリティ]** タブを開き、**[詳細]** を押します。

注意: **[セキュリティ]** タブが表示されない場合、**Active Directory ユーザーとコンピューター** > **[表示]** メニューで **[拡張機能]** を有効にしてから、再度 **Active Directory ユーザーとコンピューター**を開きます。

4. **[セキュリティの詳細設定]** ダイアログボックスが開いたら、**[追加]** を押します。
5. **[アクセス許可エントリ]** ダイアログボックスが開いたら、次のように入力します。
 - **[プリンシパルの選択]** をクリックして、同じユーザーオブジェクトの名前を入力します。
 - **[種類]** で **[許可]** を選択します。
 - **[適用対象]** で **[このオブジェクトのみ]** を選択します。



6. このダイアログボックスを一番下までスクロールして、アクセス許可の **[すべてクリア]** を選択してから、**[すべてのプロパティの書き込み]** チェックボックスのみをオンにします。
7. **[OK]** を押して、開いているすべてのダイアログボックスを閉じます。
8. **Files Connect** ファイルサーバーおよびプリントサーバーのサービスを再起動します。

Kerberos 認証を有効にする

1. Files Connect Administrator を開き、**[設定]** から **[ファイル サーバー]** を選択します。
2. **[Kerberos ログインの許可]** チェックボックスをオンにして、**[OK]** を押します。

この設定を有効にすると、Files Connect サービス専用、Active Directory ユーザーアカウントに関する SPN 属性 (afpserver/NetBIOSname および afpserver/FDQNname) が作成されます。

委任の設定

1. **[Active Directory ユーザーとコンピューター]** を開き、Files Connect がインストールされている Windows サーバーを見つけます。通常は、**Computers** コンテナにあります。

注意: Files Connect を実行しているサーバーのコンピューター オブジェクトが、Active Directory のデフォルトの **Computers** コンテナに見つからない場合は、ActiveDirectoryComputers レジストリキー 『215ページ』を編集して、Files Connect サーバーのコンピューター オブジェクトを正しく識別する名前が Files Connect サービスで作成されるようにする必要があります。キーを設定した後、Files Connect サービスを再起動し、次の手順を実行してください。

Files Connect サーバーのコンピューターオブジェクトがデフォルトの **Computers** コンテナに存在する場合は、このレジストリキーを設定する必要はなく、下記の手順に進むことができます。

2. Files Connect サーバーを右クリックして、**[プロパティ]** を選択します。
3. **[委任]** タブを開きます。
4. **[指定されたサービスへの委任でのみこのコンピューターを信頼する]** をオンにします。
5. **[任意の認証プロトコルを使う]** をオンにします。これは SMB サーバーとのネゴシエーションのために必要です。
6. 再共有を介してユーザーにアクセスさせるすべての Windows サーバーまたは NAS デバイスを追加します。 **[追加...]** をクリックして、Active Directory 内のそのような Windows コンピューターを検索して追加します。 **cifs** サービス タイプのみを選択します。
7. Kerberos 認証を有効化するすべての Files Connect サーバーで、これらの手順を繰り返します。

注意: これらの変更が Active Directory フォレスト全体に伝播するまで 15~20 分かかる場合があります。

注意: 複数の Active Directory サーバーがあり、ドメイン コントローラに Files Connect がインストールされている場合には、このセットアップで AD レプリケーションの問題が発生します。

5.1.3.8 Network Reshare ボリュームの構成

Network Reshare ボリュームを構成するには:

1. **Acronis Files Connect Administrator** を開きます。
2. **[ボリューム]** をクリックして、**[作成]** をクリックします。
3. **[別のサーバー上]** をクリックします。
4. Files Connect ボリュームとして再共有する SMB/CIFS ファイル共有の UNC パスを入力し、**[OK]** をクリックします。

この UNC パス、一般的な `\\servername\sharename` 形式です。たとえば、`\\nas.mycompany.com\myshare` とします。

注意: 必ず FQDN または NetBIOS 名を使用し、IP アドレスではないことを確認してください。そうしないと Kerberos ログインに失敗します。

また、分散ファイルシステム (DFS)UNC パスを Network Reshare ボリューム用に入力することもできます。DFS ターゲットの解決はすべて SMB 再共有レイヤで発生し、Mac は再共有 DFS リソースを参照およびアクセスできます。Network Reshare を使用した DFS の詳細については、「Files Connect Network Reshare を使用した DFS ファイルへのアクセス」を参照してください。

5. **[ボリューム プロパティ]** ダイアログボックスで必要に応じて **[ボリューム名]** を変更し、**[OK]** をクリックします。

注意: エラー文字列「指定されたパスは使用できません」が表示される場合、無効な UNC パスを入力したか、Network Reshare の初期構成 『119ページ』で選択したユーザーアカウントが、この UNC パスのこのファイル共有に対するフルコントロール アクセス権を持っていない可能性があります。これが Windows ファイル共有である場合、このユーザーアカウントにファイル共有への **共有** と **セキュリティ** の両方のアクセス許可があることを確認してください。

5.1.3.9 ファイルサーバーのミラーリングと SMB 共有

Files Connect は、ファイルサーバーをミラーリングするよう構成し、そのサーバー上のすべての SMB 共有が Files Connect の AFP ファイル共有ボリュームとして自動的に追加されるようにすることができます。自動実行されるようにセットアップすると、ミラーリングされるサーバー上で追加、変更、削除された SMB 共有は、設定された時間間隔内に Files Connect サーバー上で更新または削除されます。必要に応じて、ミラーリングを手動で強制実行することもできます。

注意: 複数のファイルサーバー、複数の NAS、または多数の SMB 共有があるサーバーをミラーリングする場合、Files Connect はそれらすべての共有に対してボリュームを作成します。共有の数、サーバーとネットワークのパフォーマンス、使用パターンによっては、Files Connect サーバーに重い負荷がかかる可能性があります。

特定の環境での最適な制限を判別するには、ミラーリングされるサーバーを段階的に追加するか、最初はテスト環境で追加します。

デフォルトではミラーリングは無効です。

ミラーリングを有効化するには:

1. [Files Connect Administrator] で **[設定] > [ファイルサーバー]** に移動し、**[Network Reshare サポート]** を有効にします。適切に実行されていることを確認します。
2. 次のレジストリキーを編集します。
 - **HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\ExtremeZ-IP\Parameters4\Refreshable\SupportServerMirroring** - これはミラーリング機能のメインのオン/オフスイッチです。有効化するには、このレジストリキーの値データを 1 に設定します。
 - **HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\ExtremeZ-IP\Parameters4\Refreshable\ServerMirroringInterval** - このキーは、ミラーリング対象の共有を更新する間隔を設定します。デフォルトは 900 秒 (15 分) です。この間隔を 0 に設定すると、自動更新が停止します。
3. [Files Connect Administrator] で **[設定]** に移動し、**[レジストリの更新]** をクリックします。

4. Files Connect Administrator を再起動し、**[ミラーサーバー...]** ボタンが有効であることを確認します。

ファイルサーバーをミラーリングするには:

1. [Files Connect Administrator] で、**[ボリューム]** に移動します。
2. **[ミラーサーバー...]** を選択します。
3. **[サーバーを追加...]** を選択し、ミラーリングするサーバーのアドレスを入力します。
4. このサーバーのカスタマイズした名前を追加し、目的の検索タイプとして **[Acronis Content Indexing]** または **[Windows Search]** を選択します。このオプションの名前は Mac クライアントに表示され、同じ名前の共有が多数ある場合に必要なものをユーザーが見つけるために役立ちます。
5. **[OK]** をクリックします。
6. 選択されたサーバーのすべての SMB 共有が Files Connect Administrator で通常のボリュームとして利用できるようになります。そこから、その設定を個別に管理できます。

ミラーリングされたファイルサーバーを削除するには:

1. [Files Connect Administrator] で、**[ボリューム]** に移動します。
2. **[ミラーサーバー...]** を選択します。
3. 削除対象のサーバーを選択して、**[削除...]** を選択します。

注意: ミラーリングされるサーバーから個別の SMB 共有を削除することはできません。可能なのは、サーバー全体を削除することにより、ミラーリングされている特定のサーバーのすべての SMB 共有を削除することのみです。

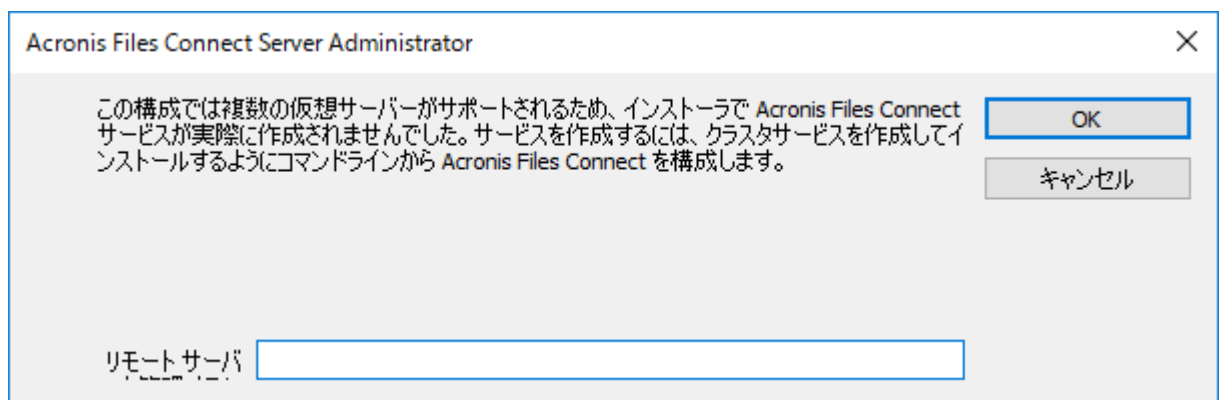
5.2 Files Connect のリモート管理

Files Connect がリモート コンピュータにインストール済みの場合、そのコンピュータで Files Connect を設定することができます。そのリモート コンピュータの Windows 管理者権限を持っている必要があります。リモート サーバーの管理は、ローカル サーバーの管理とほぼ同じです。ただし、**[管理者]** ダイアログ ボックスのタイトルが、Files Connect

サービスを設定するリモート コンピュータの名前または IP アドレスになっており、共有するフォルダを参照することはできません。その他の点では、ローカル サーバーとまったく同じようにリモート サーバーを設定できます。

リモート Files Connect サーバーを管理するには、次の操作を実行します。

1. **Control** キーを押しながら、Files Connect Administrator を起動します。Files Connect がローカルでインストールされていない場合は、Files Connect Administrator がリモート モードで直ちに開始されます。



2. リモート コンピュータの名前または IP アドレスを入力して、**[OK]** をクリックします。
3. Administrator は、サーバーへのログオンに Windows 資格情報を使用します。必要に応じて、別のユーザー名およびパスワードを要求するプロンプトが表示されます。

5.3 クライアント コンピューターでの Files Connect への印刷の設定

Files Connect の印刷機能を利用するには、クライアントがオペレーティングシステムに応じた特定の手順を実行する必要があります。**[Files Connect Administrator 印刷キュー]** ダイアログボックスを使用して印刷キューを追加すると、クライアントは直ちにそれらを印刷できるようになります。Files Connect をインストールすると、Mac クライアントのプリンタブラウザインストーラがサーバーのドライブにコピーされます。Mac クライアントは、Files Connect サーバーからオペレーティングシステム固有のプリンタブラウザインストーラをコンピューターにコピーしてインストールすることができます。また、Apple

Remote Desktop を使用して、インストーラパッケージを複数の Macintosh コンピューターに配置することもできます。

Macintosh ユーザーは、使用しているオペレーティングシステム、および必要な機能に応じて、印刷する Files Connect キューを複数の方法で選択できます。macOS を使用している場合、プリンタを設定する主要な方法は次のとおりです：

- Files Connect Zidget は、サブネット全体でのプリンタの検出、自動 PPD ダウンロード、および (Mac にもオプションの Files Connect 印刷コンポーネントがある場合に Print Accounting コードを要求するように設定された)キューの追加をサポートしています。また、任意のアプリケーション内から使用することもできるため、印刷が必要となった場合、現在のアプリケーションを終了せずにプリンタを設定できます。軽微な欠点としては、各 Mac へのインストールが必要となる点です。インストールは簡単ですが、追加の作業が必要になります。
- アプリケーションの印刷ウィンドウ内からの Bonjour 検出には、macOS ビルトインという利点があります。ネイティブ macOS Bonjour 検出も非常にシンプルに使えます。Bonjour の欠点は、自動 PPD ダウンロードや Print Accounting キューをサポートしていない点です。
- Files Connect プリンタ ブラウザは、Apple プリンタ セットアップ ユーティリティ内から動作します。サーバーからの自動 PPD ダウンロードをサポートし、Print Accounting コードを要求するように設定されたキューの追加に使用できます。カスタム Files Connect 印刷コンポーネントの欠点は、クライアントでの管理者権限を持つ人が手動で、または Apple Remote Desktop を使用してインストールする必要があることです。また、Zidget よりも多くのトレーニングが必要です。

Mac OS 9 の場合、高速印刷をサポートして TCP/IP プロトコルを使用する Files Connect IP プリンタの選択を使用してプリンタを設定する必要があります。

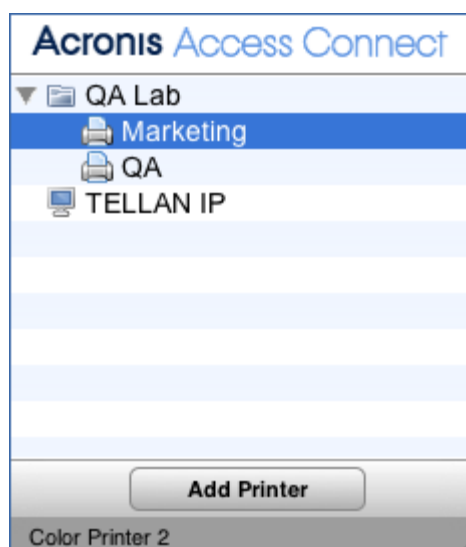
セクションの内容

Files Connect Zidget.....	131
---------------------------	-----

5.3.1 Files Connect Zidget

Files Connect Zidget は、Files Connect ファイルおよびプリントサーバーに接続するための新しい方法です。Zidget は、Mac ユーザーが、サーバーがユーザーのローカルサブネット内にあるかどうかにかかわらず、ファイルサーバーの検出および接続に使用できる Dashboard ウィジェットです。Zidget により、Mac ユーザーは Files Connect サーバーを介して共有される DFS 名前空間を参照することもできます。Zidget を使用して、Mac ユーザーは Files Connect プリンタを参照し、追加することもできます。Zidget は、プリンタ用の PPD を自動的にダウンロードし、印刷キューを設定するため、ユーザーはプリントセンターを使用する必要がありません。

Zidget では、ジョブが直接受信されるようにプリント サーバーでキューを追加したり、Files Connect サーバーでアドバタイズされつつもプリント サーバーでジョブがルーティングされないプリンタで直接印刷したりするのに使用することもできます。Zidget は Files Connect プライマリ サーバーと呼ばれるサーバーに接続して、組織内のすべての Files Connect サーバーのリストを取得します。次に、これらの各サーバーに接続して、それらのサーバーが単なるファイル サーバーであるか、またはプリント サーバーでもあるかを特定します。サーバーがプリントサーバーである場合は、そのサーバーのすべての印刷キューのリストを取得します。これらのサーバーおよびそれぞれの印刷キューをロケーションまたはゾーンに割り当てることができます。Zidget は、すべてのサーバーから情報を取得した後、それらをロケーションのリストに結合して、ユーザーが選択できるようにします。



多くの顧客は、より複雑なロケーション ベースの方法を使用して印刷キューを整理することができます。さらに、その他の任意の階層的配列 (カラー、白黒など)を使用することもで

きます。ロケーションベースの方法は階層的 (ビル、フロア、部屋など)にすることができます。

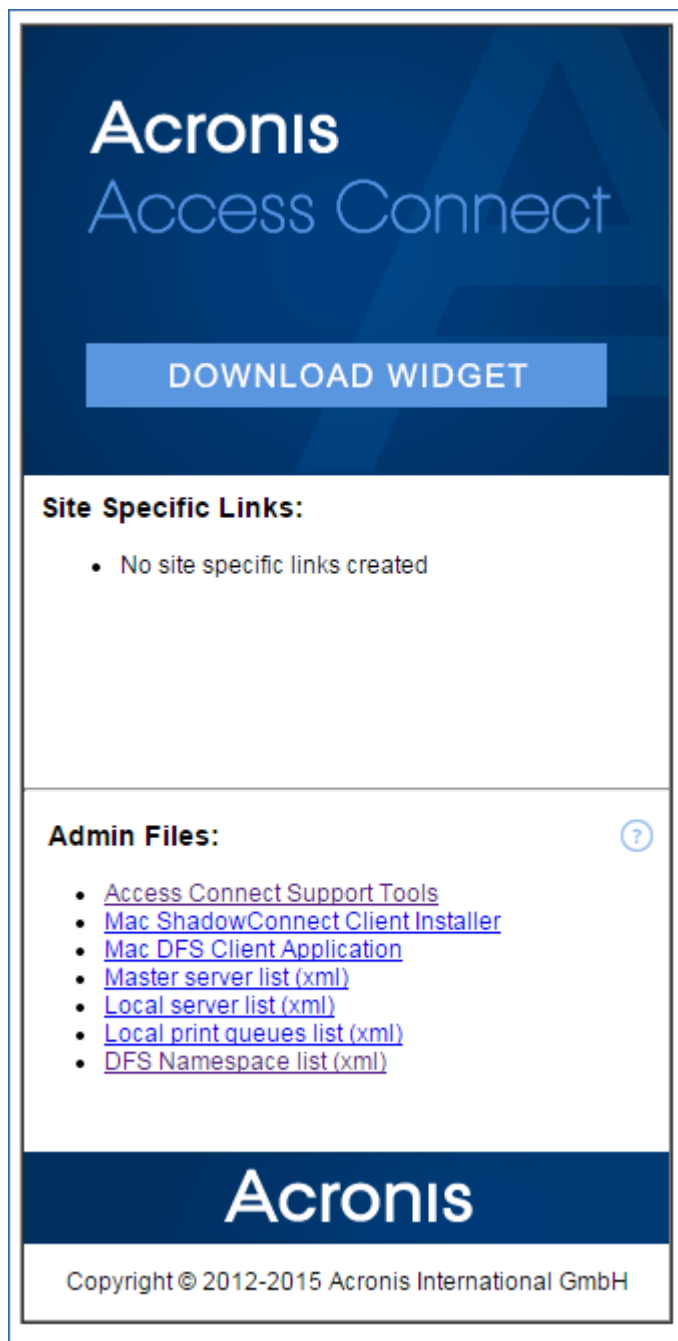
5.4 クライアントでの Zidget のインストールと構成

Zidget をできるだけ簡単に配置する方法として、Files Connect に組み込まれている HTTP サーバーから直接ダウンロードできます。Zidget の URL は、任意のウェブ ページからリンクしたり、電子メールで送信したり、ユーザーがウェブ ブラウザに手動で入力したり、適切と思われる他の方法で配布したりすることができます。Zidget は、企業の標準の配置の一部としたり、Apple Remote Desktop などのテクノロジーを使用して複数の Macintosh 上の /Library/Widgets にインストールしたりすることもできます。Zidget をまだインストールしていない場合、Files Connect サーバーで、Zidget を URL `http://yourserver:8081 http://yourserver/` から直接ダウンロードできます。

Zidget は HTTP ベースであるため、[Zidget のダウンロード] リンクを企業のイントラネットやサポート Web サイトに簡単に追加できます。Zidget を Safari でダウンロードする場合、インストールするかどうかを尋ねるダイアログがユーザーに対して自動的に表示されます。デフォルトでは、Zidget は DNS で `ExtremeZIPServerList.yourdomain.com` を解決して、利用可能なプリンタ サーバーとファイル サーバーのリストの取得元となるプライマリ サーバーを見つけます。デフォルト設定を使用し、Files Connect サーバーをポイントするこの DNS CNAME レコードを作成している場合は、Zidget のインストール後、Macintosh で Zidget をさらに構成する手順は必要ありません。

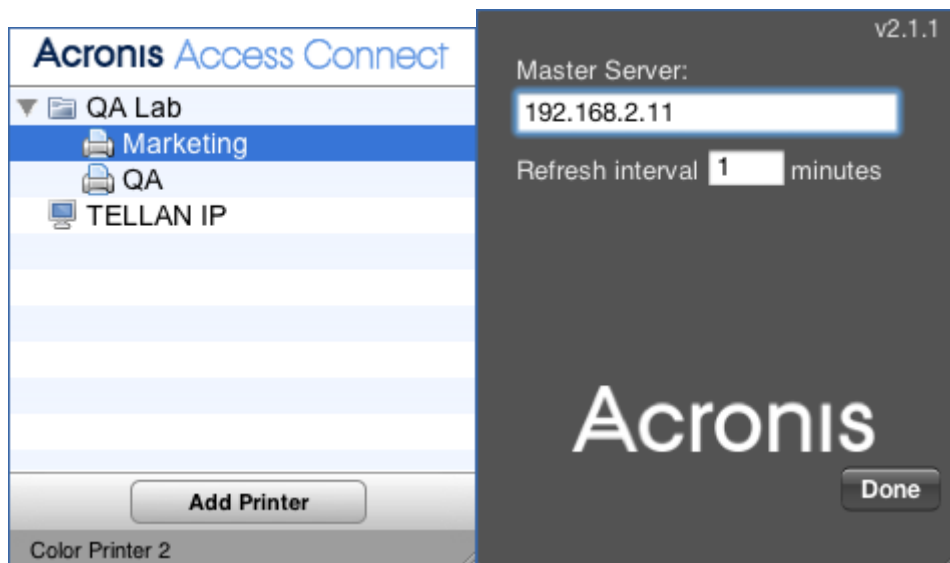
Macintosh クライアントに Zidget をインストールするには、次の操作を実行します。

1. Safari などのウェブ ブラウザで、Files Connect サーバーに移動します
(<http://your-server:8081> <http://your-server:8081/> など)。



2. [Zidget のダウンロード] リンクをクリックします。ファイル Zidget.wdgt.zip がダウンロードされます。
3. [インストール] をクリックして、Zidget をインストールするかどうかを尋ねるダイアログを確認します (Safari でウィジェットの自動インストールを無効にしていない場合)。

4. プライマリ サーバーがデフォルトの ExtremeZIPServerList 以外である場合は、「i」アイコンをクリックしてこの設定を変更します。[更新間隔] により、Zidget での使用可能なファイル サーバー、プリンタ、および DFS 名前空間が更新される間隔が決まります。



セクションの内容

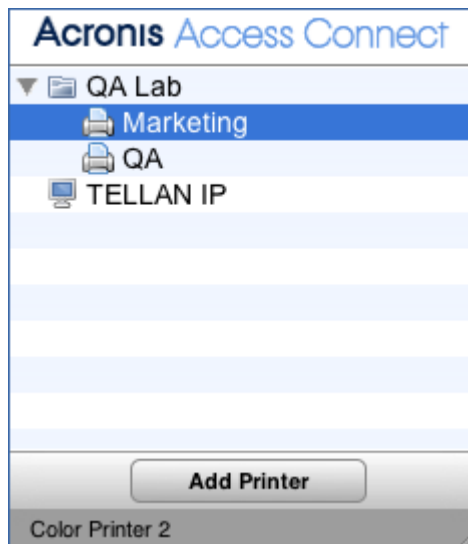
Zidget を使用したプリンタの追加	134
Zidget を使用した Files Connect 共有ボリュームのマウント.....	135
Zidget を使用した DFS 共有ボリュームのマウント.....	136
プリンタセットアップユーティリティ	137
プリント ダイアログでの Bonjour の使用.....	139
クライアントからの Print Accounting 機能の使用	143

5.4.1 Zidget を使用したプリンタの追加

Zidget を使用してプリンタを追加するには、次の操作を実行します。

1. **F12** キーを押し、**Dashboard** を呼び出します。

2. **[Files Connect Zidget]** を選択します。



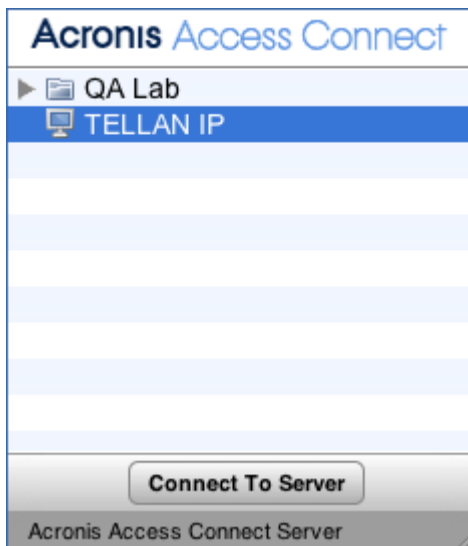
3. 必要に応じて、ロケーション/ゾーンをダブルクリックします。
4. ロケーション/ゾーンからプリンタを選択します。
5. **[プリンタを追加]** ボタンをクリックします。そのプリンタがサーバーから使用できる場合は、Macintosh に正しい PPD と共にプリンタが作成されます。
6. Zidget の [ステータス] セクションがアップデートされ、プリンタが正常に作成されたことが示されます。

5.4.2 Zidget を使用した Files Connect 共有ボリュームのマウント

Zidget を使用して共有ボリュームをマウントするには:

1. **F12** キーを押し、**Dashboard** を呼び出します。

2. **[Files Connect Zidget]** を選択します。

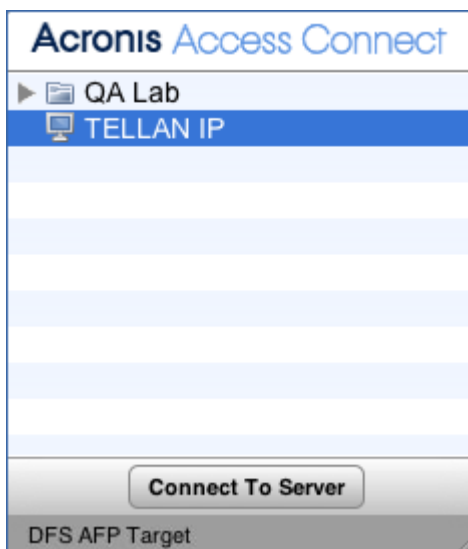


3. 必要に応じて、ロケーション/ゾーンをダブルクリックします。
4. ロケーション/ゾーンからサーバーを選択します。
5. **[サーバへ接続]** ボタンをクリックします。

5.4.3 Zidget を使用した DFS 共有ボリュームのマウント

DFS 共有ボリュームをマウントするには:

1. **F12** キーを押し、**Dashboard** を呼び出します。
2. **[Files Connect Zidget]** を選択します。



3. DFS ドメインまたはサーバーをダブルクリックします (この例では GROUPLOGIC)。
4. DFS ルートをダブルクリックします (この例では ProductionDFS)。

5. DFS ターゲットを選択します。
6. **[サーバへ接続]** ボタンをクリックします。

5.4.4 プリンタセットアップユーティリティ

プリンタセットアップユーティリティから 2 つの方法で Files Connect 印刷キューを追加できます。最も一般的な方法は、Files Connect に付属しているオプションの Mac 印刷コンポーネントを使用する方法です。ただし、Mac にその他のソフトウェアをインストールすることを希望しない場合は、組み込みの Bonjour 参照機能を使用してプリンタを追加できます。

セクションの内容

オプションの Files Connect の印刷コンポーネントを使用したプリンタの追加.....	137
プリンタ セットアップ ユーティリティから Bonjour を使用したプリンタの追加.....	138

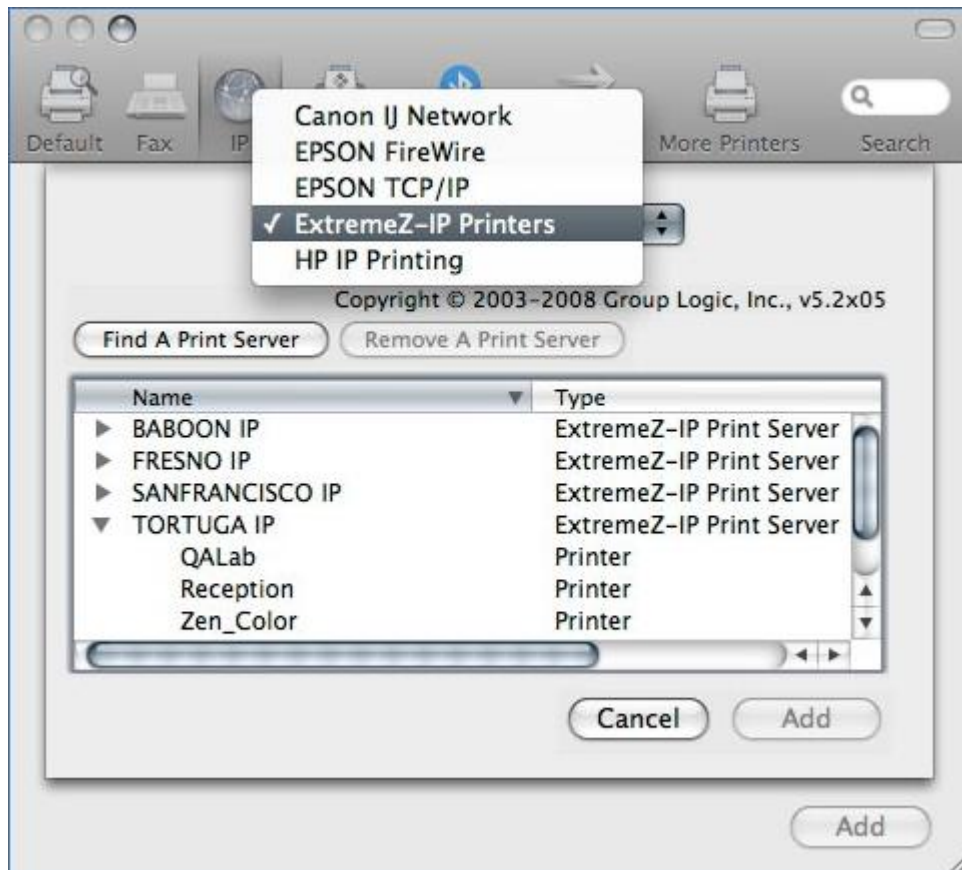
5.4.4.1 オプションの Files Connect の印刷コンポーネントを使用したプリンタの追加

Macintosh に Macintosh 印刷コンポーネントをインストールしている場合は、カスタム Files Connect プリンタを使用できます。

Files Connect コンポーネントを使用してプリンタを追加するには、次の操作を実行します。

1. **プリンタ参照モジュール** (PBM)を使用して Files Connect 印刷キューを探します。

2. ポップアップリストから **[Files Connect プリンタ]** を選択します。ネットワーク上の **Files Connect プリンタ** のリストが表示されます。



3. 使用するキューを選択します。
4. **[追加]** をクリックします。

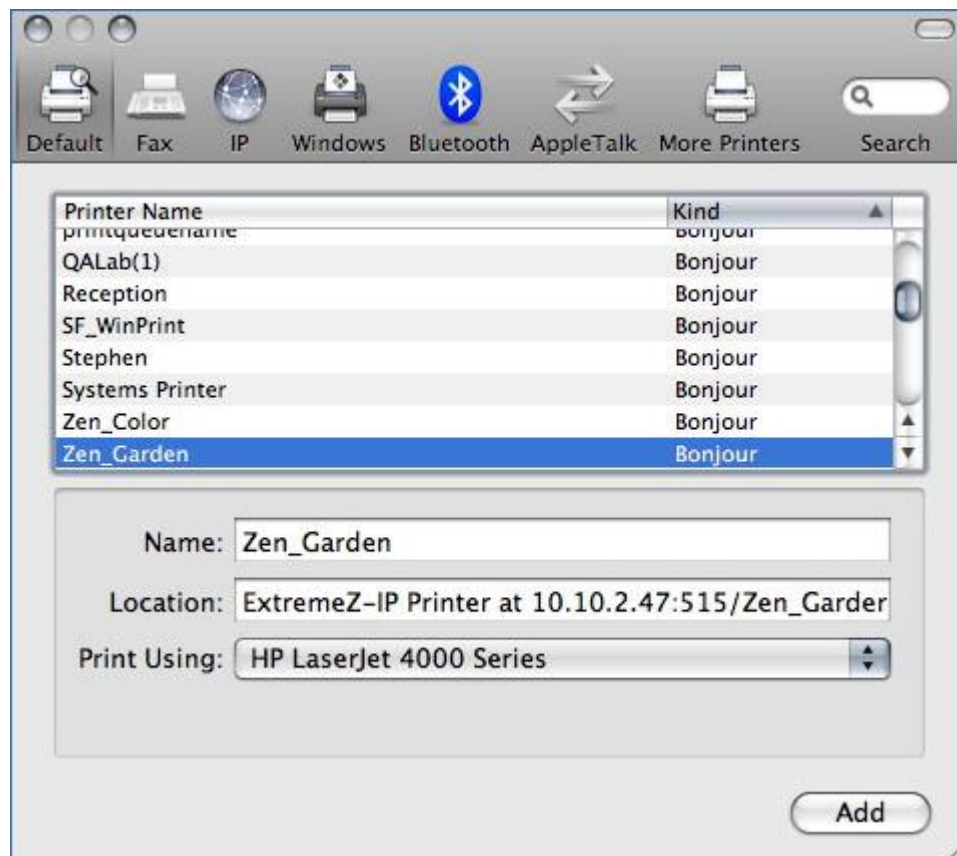
5.4.4.2 プリンタ セットアップ ユーティリティから Bonjour を使用したプリンタの追加

プリンタ セットアップ ユーティリティから Bonjour を使用してプリンタを追加するには、次の操作を実行します。

1. 使用している Mac OS X のバージョンに応じて、**[プリンタ セットアップ ユーティリティ]** または **[システム環境設定]** の **[プリントとファクス]** ペインを開きます。
2. **[追加]** を選択します。
3. **[プリンタ ブラウザ]** からプリンタを選択します。

注意: PPD がサーバーの Files Connect 印刷キュー構成に指定された場合、Files Connect はプリンタ PPD ヒントを Mac クライアントに送信します。Macintosh クライアントにプリンタ

IPの有効な PPD がある場合、ドロップダウンを使用する印刷は正しいプリンタ タイプに自動的に設定されます。



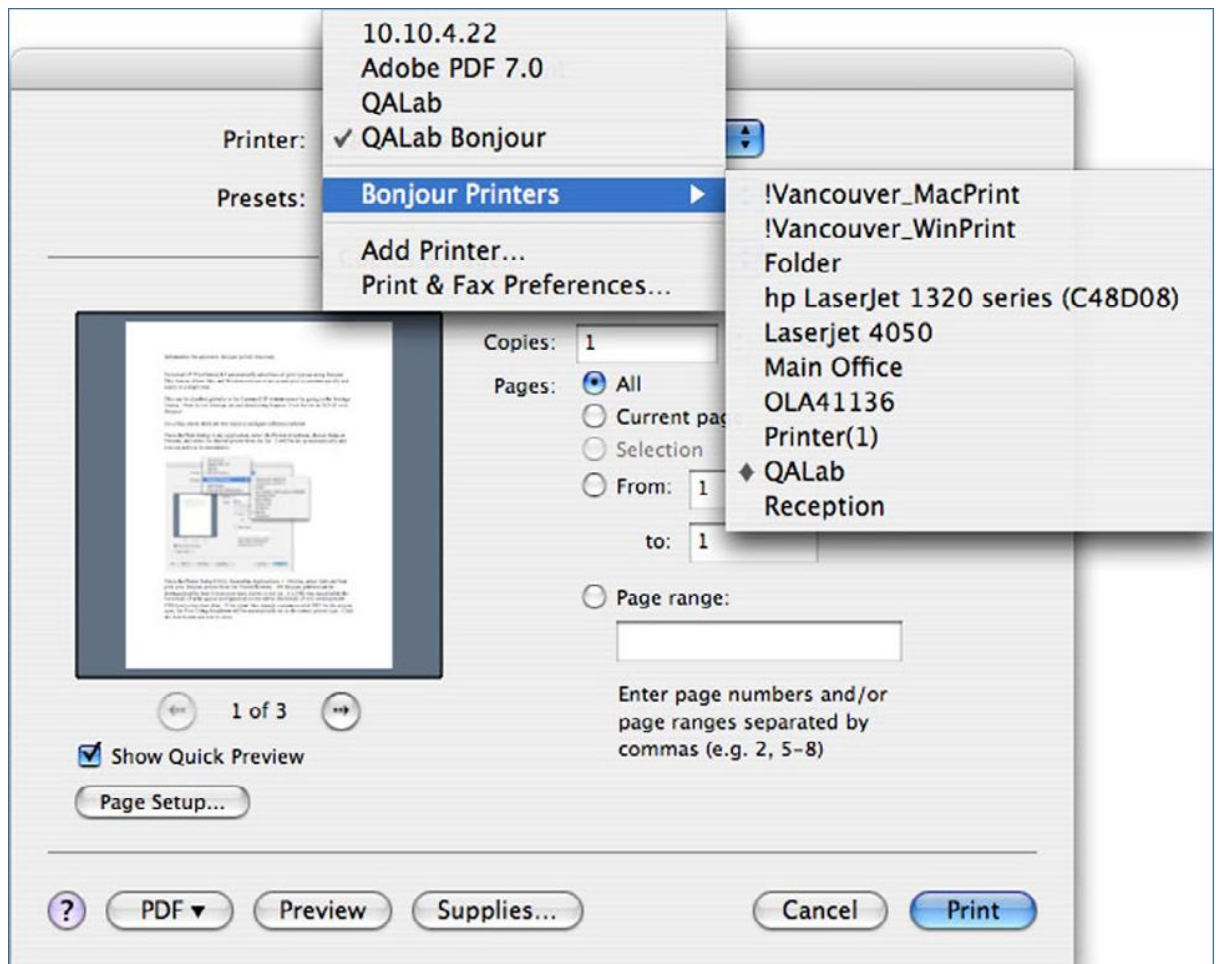
4. **[追加]** ボタンをクリックします。

5.4.5 プリント ダイアログでの Bonjour の使用

Mac OS 10.4 Tiger で Bonjour を使用してプリント ダイアログからプリンタを設定するには (Leopard では Apple によりこの機能は削除されました)、次の操作を実行します。

1. **[アプリケーションからプリント]** を選択します。
2. **[プリンタ]** ドロップダウン メニューから、**[Bonjour プリンタ]** を選択します。

3. リストから目的のプリンタを選択します。

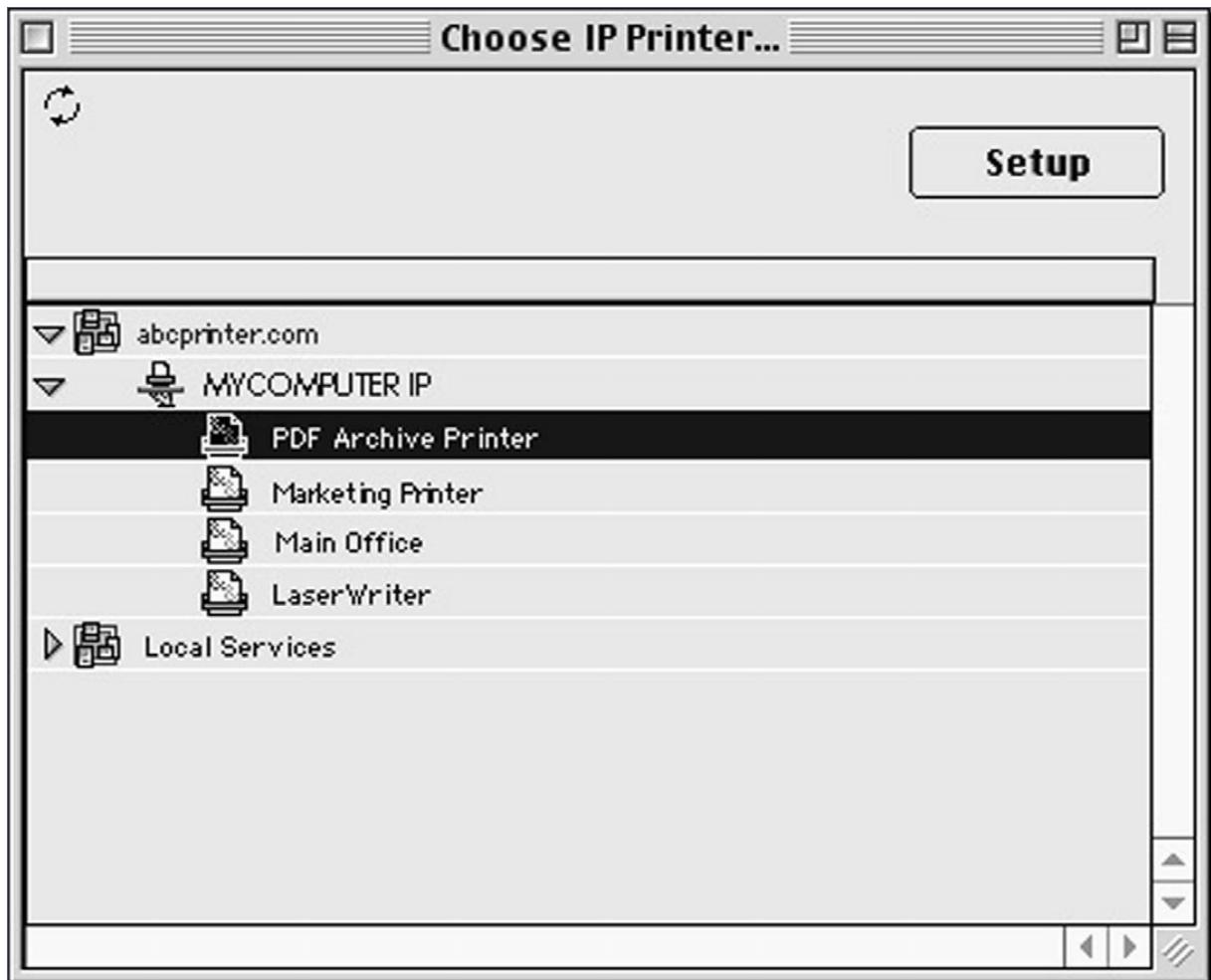


セクションの内容

Mac OS 9 を使用したプリンタの選択	141
Windows での Bonjour の使用	141

5.4.5.1 Mac OS 9 を使用したプリンタの選択

Mac OS 9 クライアントに IP プリンタの選択プログラムをインストールすると、Mac OS 9 クライアントは **Chooser** ではなく Apple メニューの **IP プリンタの選択** を使用して、Files Connect プリンタの検索とデスクトッププリンタの設定を行います。

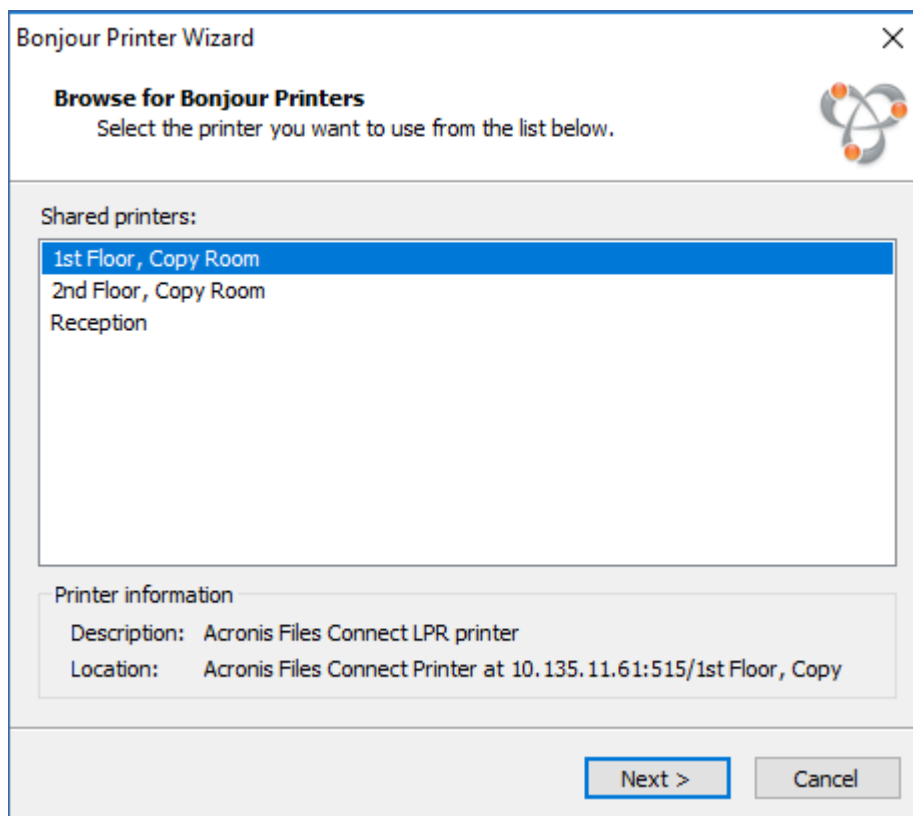


5.4.5.2 Windows での Bonjour の使用

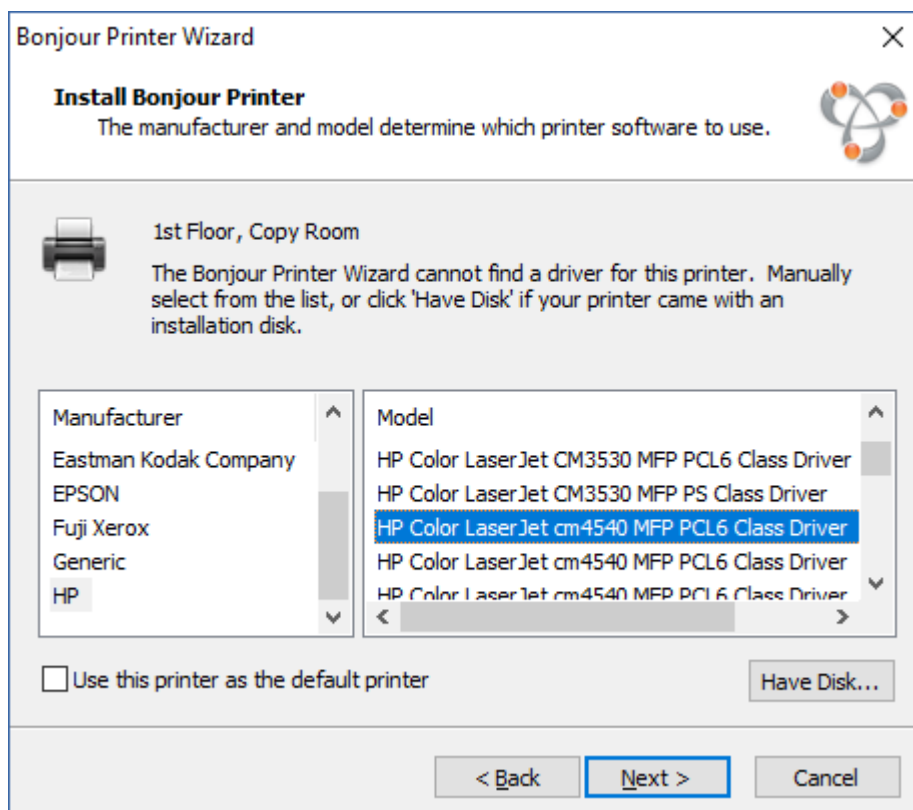
Windows から Bonjour プリンタを設定するには、次の操作を実行します。

1. Windows 用の Apple Bonjour をインストールします
(<http://www.apple.com/support/downloads/bonjourforwindows.html>
<http://www.apple.com/support/downloads/bonjourforwindows.html> から入手できます)。
2. インストールしたら、**Bonjour プリンタウィザード** を実行します。

3. [次へ] をクリックします。

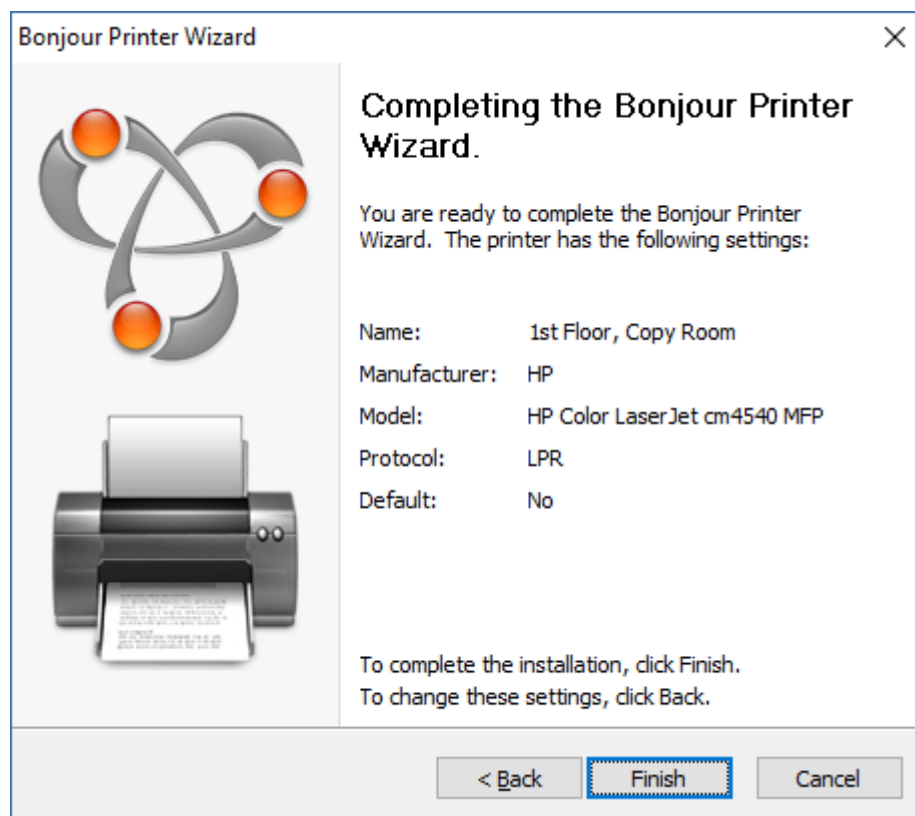


4. インストールするプリンタを選択して、[次へ] をクリックします。



PPD がサーバーの Files Connect 印刷キュー構成に指定された場合、Files Connect は、PPD に一覧表示されているプリンタモデルを Windows クライアントに送信します。Windows クライアントにプリンタタイプの有効なドライバがある場合は、プリンタの製造元とモデルが自動的に選択されます。

5. PPD が自動的に選択されない場合は、該当する製造元とモデルを選択して **[次へ]** をクリックします。



5.4.6 クライアントからの Print Accounting 機能の使用

Macintosh ユーザーがプログラムから印刷し、Files Connect Print Accounting を使用してコードを割り当てた印刷キューにジョブを送信すると、割り当てた情報が [プリント] ダイアログ ボックスに表示されます。

Print Accounting を使用するには、次の操作を実行します。

1. 使用可能な Files Connect プリント サーバー印刷キューに印刷します。Print Accounting がその印刷キューに対して有効な場合は、特別なダイアログ ボックスが表示されます。次に例を示します。

Printer: Color Proofer

Presets: Standard

Copies: 1 Collated Two-Sided

Pages: All
 From: 1 to: 1

ExtremeZ-IP Print Accounting

Copyright © 2003-2008 Group Logic, Inc., v5.2x05

Please enter valid information and press 'Print'

* Account: 105

* User: 20002

* Requires validation

? PDF ▼ Preview Supplies... Cancel Print

2. サーバーから要求された情報を入力します。上の例では、Files Connect Administrator は各フィールドの [参照] ボタンを有効にして、Macintosh ユーザーがそのフィールドのコード リストを参照できるようにしています。名前の前にアスタリスク (*)があるフィールドは必須フィールドで、ジョブを送信する前に入力を完了する必要があります。
3. [プリント] をクリックし、選択した印刷キューにジョブを送信します。

5.5 ウェブ ページからのプリンタの追加

Dashboard ウィジェットではオペレーティング システムと対話する機能が制限されており、Macintosh にネイティブにプリンタを追加できません。そのため、Zidget にはアプリケーション (Dashboard ウィジェットは Macintosh パッケージとして実装されます)が含

まれており、そのアプリケーションを起動して Macintosh に PPD をダウンロードしたり、プリンタを作成したりします。

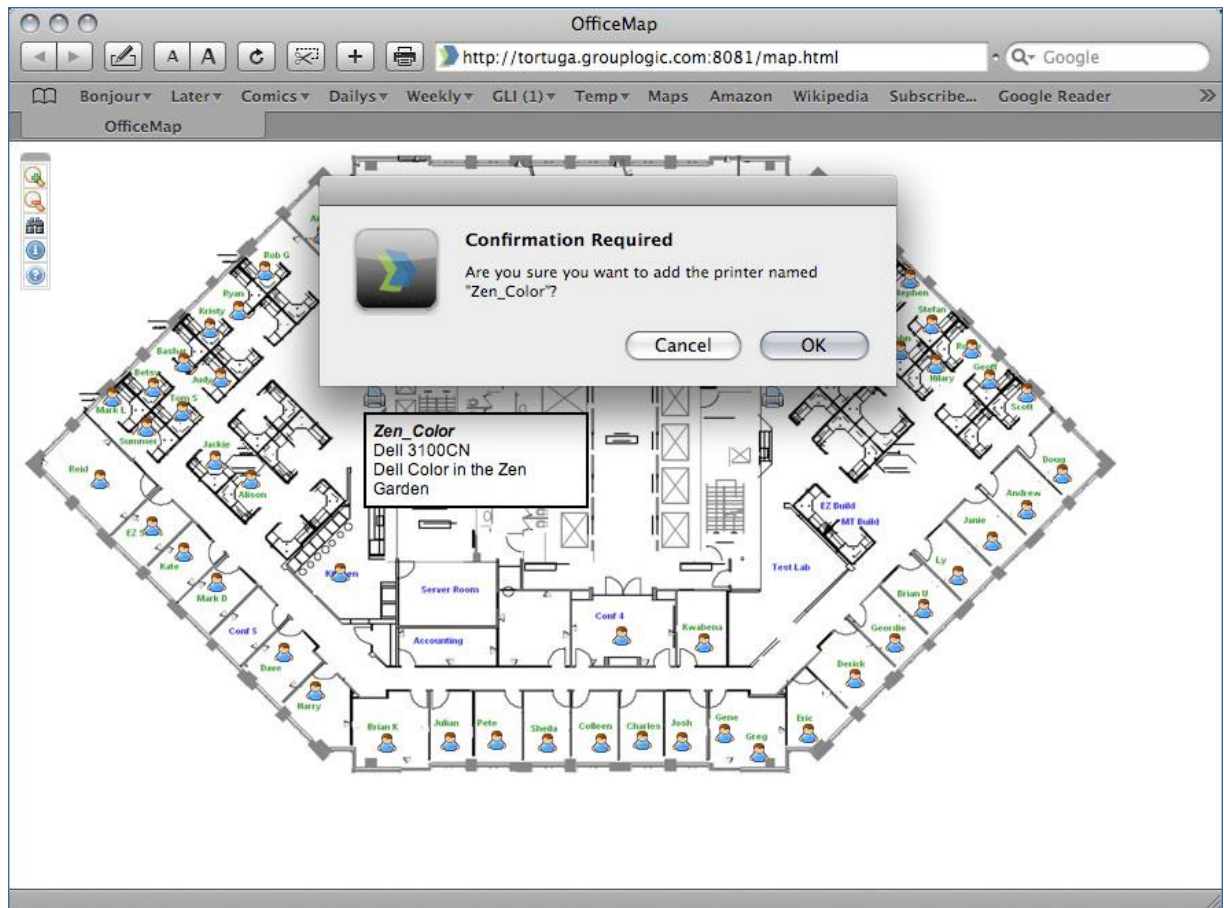
また、ヘルパー アプリケーションは、ezip://URL のインターネット プロトコル ヘルパーとして使用することもできます。これにより、標準ウェブ ページ (異なる領域へのリンクが記載されたオフィス マップなど) から特別な形式のリンクをクリックしたときに、Safari または他のウェブ ブラウザでプリンタを作成できるようになります。URL をクリックしてヘルパー アプリケーションを起動すると、プリンタを追加するかどうかを尋ねられます。Zidget によってヘルパー アプリケーションが起動されると、ヘルパー アプリケーションは暗黙的に動作します。

ウェブ ベースのプリンタ ロケーション マップを作成することは、プリンタを簡単に見つけて追加するための非常に効果的な方法です。マップのスキャンや Adobe Acrobat での PDF の作成は、フロア マップが記載されたウェブ ページを作成する簡単な方法の 1 つです。Acrobat を使用すると、HTML を理解していなくても画像領域にリンクを追加できます。

ウェブ ページからプリンタを追加するには、次の操作を実行します。

1. マップ上の一番近いプリンタのアイコンをクリックします。

2. **[OK]** をクリックし、プリンタの追加が必要かどうかを尋ねるダイアログを確認します。



ZidgetHelper.app をインターネット ヘルパーとして登録するために、アプリケーションフォルダへの追加が必要になる場合があります。

次の操作を実行します。

1. Zidget パッケージを右クリックし、[パッケージの内容を表示] を選択します。
2. ShellScripts フォルダを開きます。
3. アプリケーション フォルダに ZidgetHelper.app ファイルをドラッグします。

5.6 DFS サポートのための Mac クライアントの設定

Mac クライアントから Files Connect DFS ボリュームにアクセスするには、DFS リソースを適切に配置してマウントできるように各クライアントを構成する必要があります。Files

Connect Mac クライアントまたは Zidget をインストールすることにより、この構成を行うことができます。

注意: Zidget DFS サポートは、Mac OS X 10.4 以降と互換性があります。

Mac クライアントが、DFS ボリューム上にあるホームディレクトリを使用している場合は、Mac クライアントアプリケーションをインストールする必要があります。Zidget は、DFS ホームディレクトリをサポートしていません。

セクションの内容

Files Connect Mac クライアント.....	147
Files Connect Zidget オプション	148

5.6.1 Files Connect Mac クライアント

Files Connect Mac クライアントは、Files Connect サーバーで共有しているすべてのリソースに Mac ユーザーを接続するために最適の方法です。

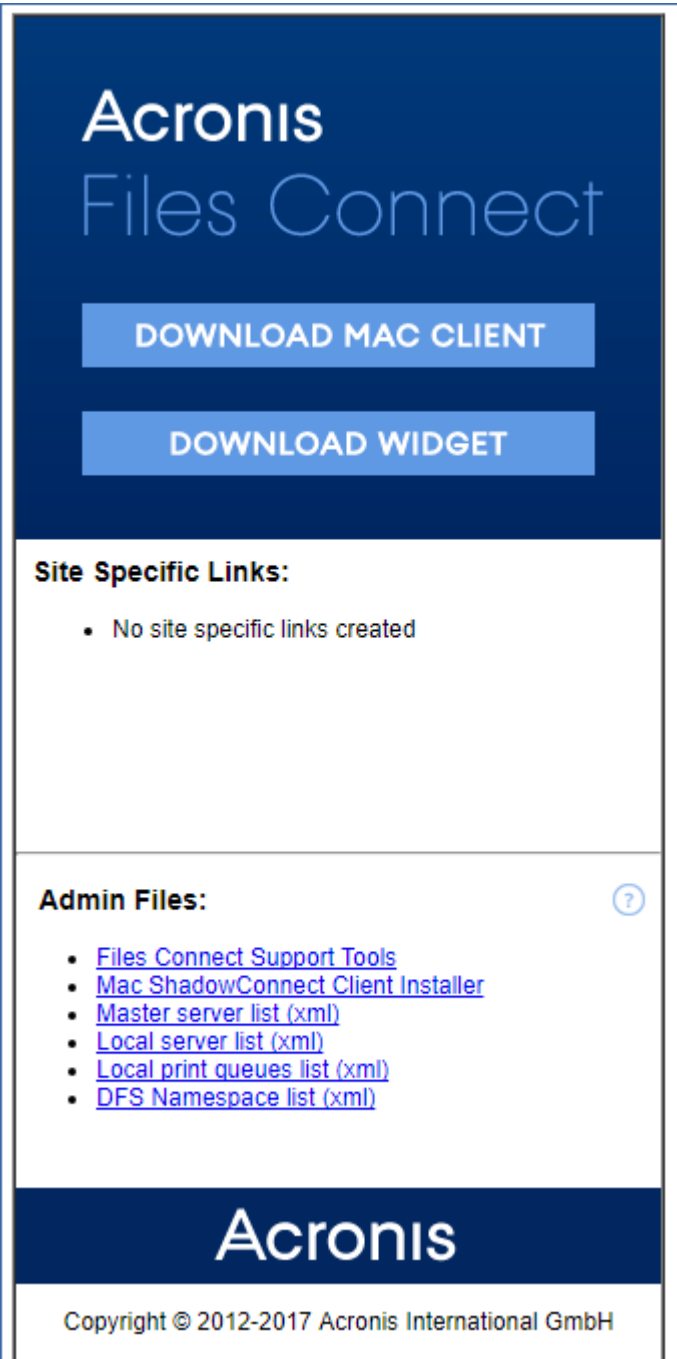
Mac クライアントは、ウィジェットに比べて多くの利点を持つ本格的なアプリケーションです。

- ファイルサーバーおよび共有の全体を検索できます。AFP ファイルボリュームに対して Spotlight 検索を実行する新しい検索機能です。SMB ファイル共有内のファイルに対して高速なフルコンテンツ検索を実行し、その検索結果を SMB 経由で Mac からアクセスできます。
- マウントせずに多数のボリュームを検索することができ、必要なボリュームやリソースだけをマウントすることができます。
- すべての利用可能なプリンタが、ユーザーフレンドリな方法で一覧表示されます。

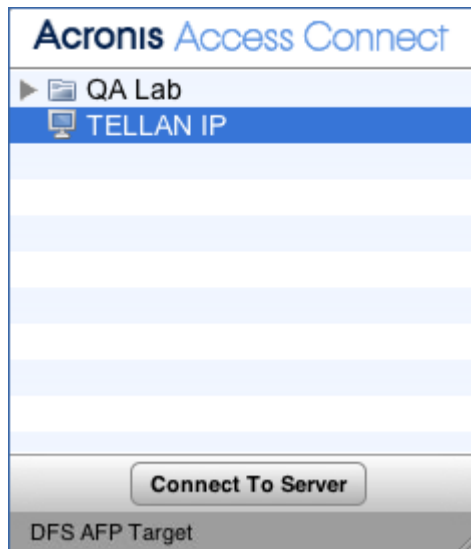
Mac クライアントの詳細と使用方法については、Mac クライアント 『17ページ』のセクションを参照してください。

5.6.2 Files Connect Zidget オプション

Files Connect Zidget は、DFS にアクセスするように Mac クライアントを構成するための簡単な方法です。Zidget を使用すると、Mac ユーザーは DFS 名前空間を参照したり、個別の DFS ターゲット ボリュームをマウントしたりすることができます。マウントすると、ユーザーは Finder を使用して、選択した DFS ターゲット ボリュームに従来の共有ボリュームと同じようにアクセスできます。Zidget を使用した DFS のインストール、構成、アクセスの詳細については、Zidget ヘルプを参照してください。



The screenshot displays the Acronis Files Connect interface. At the top, the Acronis logo is followed by 'Files Connect' in a large, light blue font. Below this, there are two prominent blue buttons: 'DOWNLOAD MAC CLIENT' and 'DOWNLOAD WIDGET'. Underneath the buttons, a section titled 'Site Specific Links:' contains a single bullet point: 'No site specific links created'. A subsequent section titled 'Admin Files:' includes a help icon (a question mark in a circle) and a list of five links: 'Files Connect Support Tools', 'Mac ShadowConnect Client Installer', 'Master server list (xml)', 'Local server list (xml)', 'Local print queues list (xml)', and 'DFS Namespace list (xml)'. The bottom of the page features the Acronis logo and a copyright notice: 'Copyright © 2012-2017 Acronis International GmbH'.



5.7 ライセンス プロダクトキーの追加

どのようなアップグレードの場合でも、Files Connect サービスを停止せずにプロダクトキーを入力できます。Files Connect サービスの実行中にプロダクトキーを入力しても、Mac クライアントは接続状態を保ち、Files Connect ボリュームを使用し続けます。

注意: 新しいライセンス プロダクトキーを追加すると、既存のキーが置換されます。

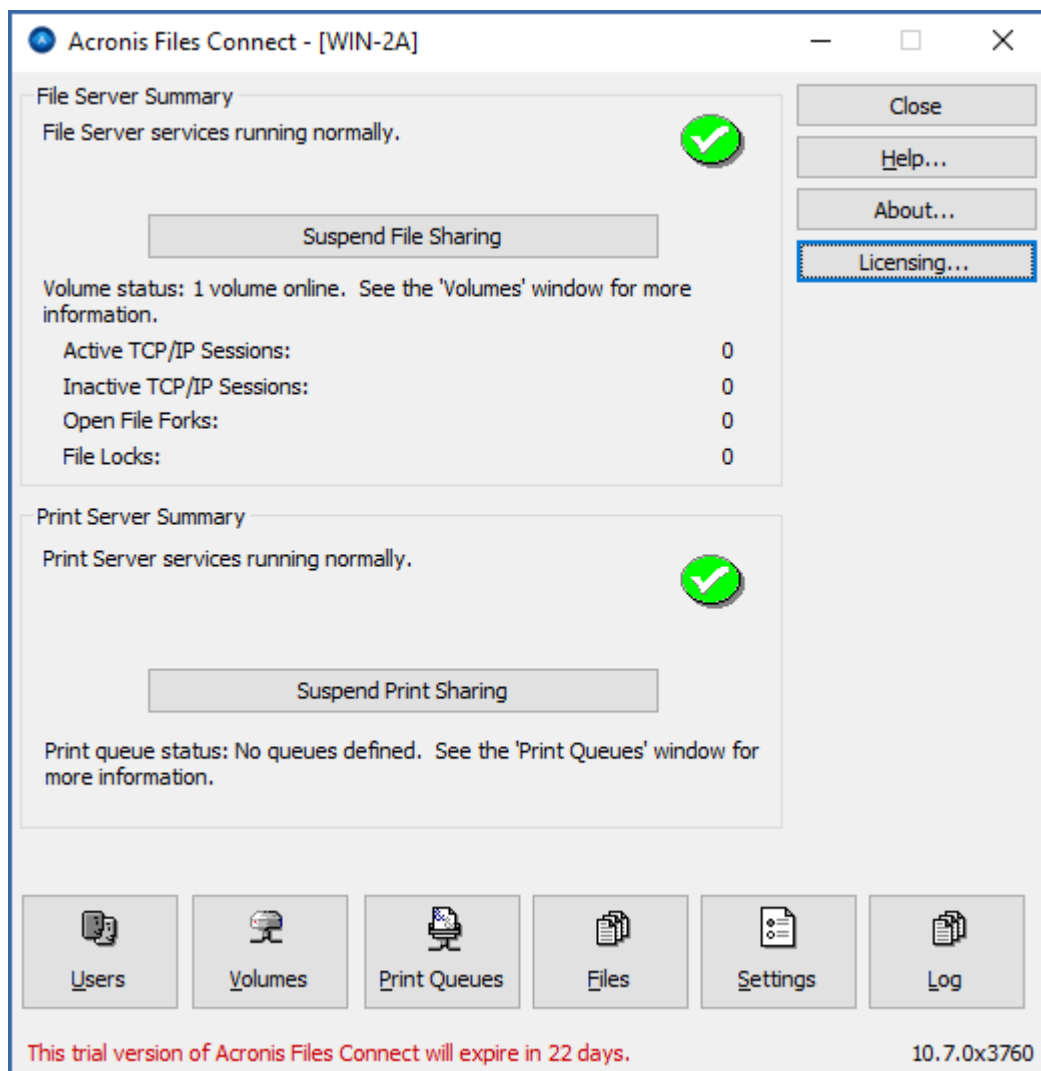
次の場合には新しいライセンス プロダクトキーを入力する必要があります。

- 試用版の Files Connect がインストールされており、製品のライセンスを購入する場合。
- クライアント数をアップグレードまたはダウングレードしている場合。
- ELP プロダクトキーは期限が切れているため、新しい ELP プロダクトキーを入力する必要があります。
- かなり前のバージョンからのアップグレードし、前の永久プロダクトキーが、現在のバージョンで使用できる新しいプロダクトキーに置き換えられました

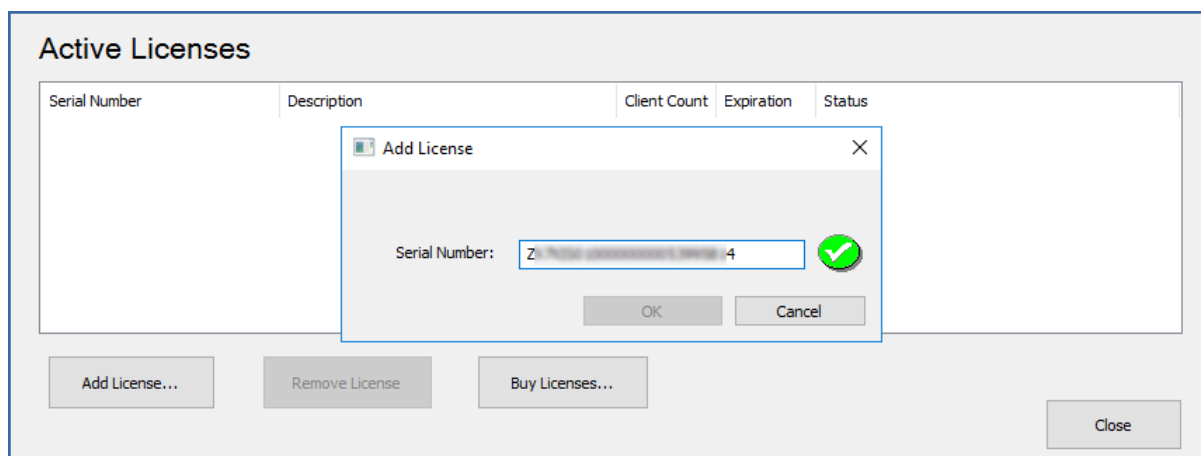
ライセンスプロダクトキーを追加するには

1. **Files Connect Administrator** を開きます。

-
2. [ライセンス] をクリックします。



-
-
3. [アクティブなライセンス] ウィンドウが開いたら、[ライセンスの追加] をクリックします。
4. プロダクトキーを入力して、[OK] をクリックします。



5. プロダクトキーが **[アクティブなライセンス]** リストに表示され、直ちに有効になります。
6. **[閉じる]** をクリックして **Files Connect Administrator** に戻ります。

6 Files Connect での検索

macOS では、列挙型検索、インデックス検索、および Spotlight 検索という 3 種類のファイル検索を実行できます。

セクションの内容

列挙型検索.....	151
カタログ検索.....	151
Spotlight 検索.....	152
検索インデックス ファイルの格納.....	153

6.1 列挙型検索

macOS が列挙型検索を実行する場合、ネットワーク上のフォルダおよびそのすべてのサブフォルダ内の各ファイルをスキャンします。列挙型検索は、ボリュームのサブフォルダを検索する場合、またはカタログ検索が無効になっている場合に実行されます。検索対象のフォルダの下のディレクトリ構造全体をクライアントが列挙するプロセスは、検索パフォーマンスが大幅に低下する結果となります。

6.2 カタログ検索

カタログ検索では、サーバー側で処理される単一の検索要求が発行されます。macOS は、Mac ユーザーがボリュームのルートを検索する場合にのみカタログ検索要求を発行します。Files Connect は、この検索を高速化するために検索インデックスを保持します。このインデックスには、Files Connect ボリューム上のすべてのファイルの名前が格納されています。サーバーでインデックス検索を有効にすると、Mac クライアントはビルトイン macOS 検索機能を使用して Files Connect ボリュームの高速検索を実行できます。クライアント側で構成や適用を実行する必要はありません。

Mac クライアントが検索要求を行うたびにサーバーのドライブをスキャンしたり、ボリューム内のすべてのファイルを調べたりする代わりに、Files Connect がファイル名インデックスをチェックして、検索結果を取得します。インデックス検索結果を提供できるのは、ボリュームのルートで開始された検索の場合のみです。ボリュームのルートの下で実行された検索はすべて、macOS により実行される列挙型検索となります。

注意: 最速な結果を得るために Files Connect ボリューム全体を検索することをユーザーに指示してください。

6.3 Spotlight 検索

Spotlight 検索を使用すると、ファイル名とファイル属性に加えて、コンテンツで検索してファイルを見つけることができます。有効になっている場合、Spotlight 検索が列挙型検索とカタログ検索の両方に置き換わり、ボリュームのルートおよびサブフォルダ内の両方で検索した場合の結果を提供します。

Spotlight 検索は、すべてのボリュームに対して有効にすることも、個々のボリュームに対して有効にすることもできます。

すべてのボリュームに対して Spotlight 検索を有効にするには:

1. **Acronis Files Connect Administrator** で **[設定]** を開きます。
2. **[検索]** タブで **[すべてのボリューム (グローバル)での Spotlight 検索の有効化]** チェックボックスをオンにします。
3. **[OK]** をクリックします。

注意: **[すべてのボリューム (グローバル)での Spotlight 検索の有効化]** の設定を有効にすると、個々のボリュームに対して Spotlight 検索を無効にすることはできません。

個々のボリュームに対して Spotlight 検索を有効にするには:

1. **Acronis Files Connect Administrator** で **[ボリューム]** を開きます。
2. 目的のボリュームを選択して、**[変更]** をクリックします。
3. **[検索]** で **[Spotlight 検索をサポートする]** を選択し、**[Acronis Content Searching]** と **[Windows Search]** のどちらかを選択します。
4. **[OK]** をクリックします。

6.4 検索インデックス ファイルの格納

Files Connect は、Files Connect ボリュームごとに個別の検索インデックス ファイルを作成します。これらの検索インデックス ファイルは、Files Connect indexes というフォルダに格納されます。インデックス ファイルをある場所に配置し、それらをスキャンから除外することで、ウイルス スキャン ソフトウェアやバックアップ アプリケーションでの問題を防ぐことができます。共有するボリュームを設定または変更するときに個々のボリュームのカスタム インデックス ファイル パスを指定できます。「ボリュームの作成 『156 ページ』」セクションを参照してください。

注意: ボリュームの検索インデックスを見つけやすくするために、Files Connect は各インデックス ファイル名の先頭を、そのファイルが属しているボリュームの名前にします。

カスタム パスを作成しない場合、検索インデックス ファイルは 2 つのロケーションのいずれかに格納されます。

- **Files Connect スタンドアロン サーバー:** 検索インデックス ファイルは、Files Connect アプリケーション フォルダ、または設定したカスタム グローバル ロケーション内の Files Connect Indexes というフォルダに格納されます。
- **Files Connect クラスタ:** 検索インデックス ファイルは、ボリュームが存在するドライブのルートにある Files Connect Indexes というフォルダに格納されます。

EZIP を初めて起動すると、ボリュームの検索インデックスは、特定のボリューム (1 つまたは複数) に個々のカスタム パスを設定している場合を除き、デフォルトのインデックス パスに作成されます。

7 Files Connect の使用

セクションの内容

Files Connect ファイルサーバーの使用.....	154
Files Connect ユーザー	173
ログの使用.....	178
Files Connect プリントサーバーの使用.....	182
Print Accounting の使用	191

7.1 Files Connect ファイルサーバーの使用

[Files Connect の設定] ダイアログボックスを使用してサーバー名、セキュリティ、その他の設定などを設定したら、共有するボリュームおよび Mac クライアントで使用するプリンタを作成できます。これらのタスクを完了すると、Mac クライアントはサーバーに接続し、設定したボリュームおよびプリンタを使用できるようになります。**[ユーザー]** および**[ファイル]** ダイアログボックスを確認すると、誰が接続しているか、どのファイルにアクセスしているかがわかります。また、メッセージを送信したり、ユーザーを切断したり、表示されているファイルからアイテムを削除したりすることができます。

セクションの内容

Files Connect で使用するボリュームの作成.....	154
----------------------------------	-----

7.1.1 Files Connect で使用するボリュームの作成

Windows システムにある NTFS ディレクトリを Mac ユーザー用に共有できます。Mac ユーザーが接続すると、これらのディレクトリがリモートの AppleShare ボリュームとして表示されます。Mac ユーザーと共有する個々のボリュームを作成、変更、削除するには、**[ボリューム]** ダイアログボックスを使用します。

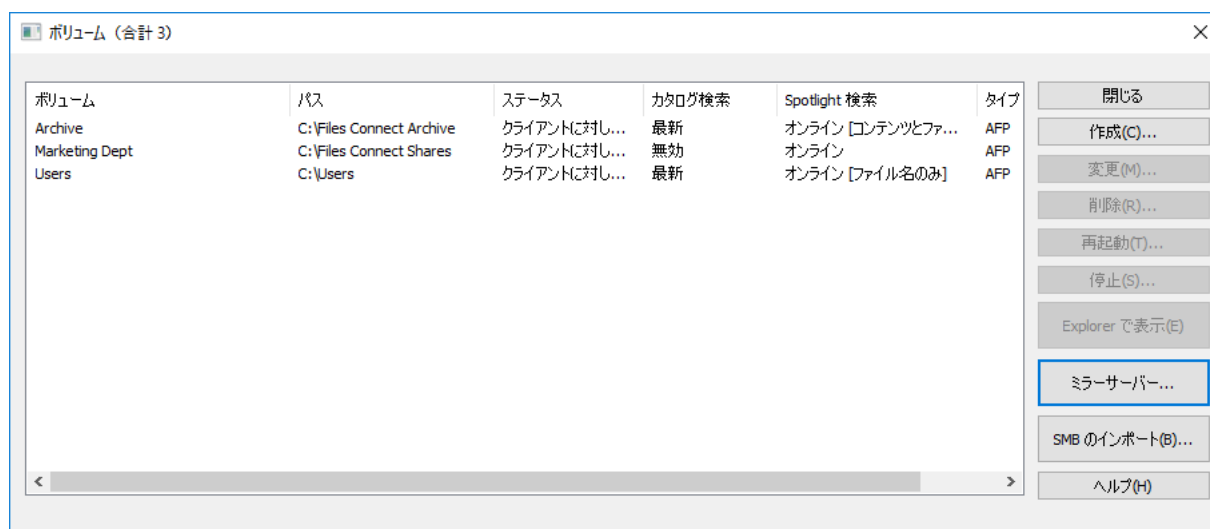
セクションの内容

ボリュームウィンドウの表示.....	155
ボリュームの作成	156

ボリュームプロパティ	159
カスタムクォータの使用.....	166
詳細ボリューム プロパティの使用.....	167
共有ファイルおよびフォルダの許可の変更.....	169
ボリュームのインポート.....	170
モバイルアクセスの使用.....	171

7.1.1.1 ボリュームウィンドウの表示

[管理者] ダイアログボックスで **[ボリューム]** をクリックし、**[ボリューム]** ダイアログを表示します。



- **作成:** ボリュームを作成します。
- **変更:** [ボリュームプロパティ] ウィンドウが表示されます。
- **削除:** 選択したボリュームを削除します。
- **再起動:** ボリュームを再起動します。
- **停止:** ボリュームを一時的にオフラインにして、クライアントが接続できないようにします。

注意: 停止中のボリュームは、Files Connect サービスを再起動するたびに再開されます。

- **Explorer で表示:** Windows ファイルエクスプローラでボリュームの親フォルダを表示します。
- **ミラーサーバー:** 1 つ以上のファイルサーバーのミラーを作成して、サーバー上のすべての SMB 共有が Files Connect の AFP ファイル共有ボリュームに自動的に追

加されるようにします。詳細については、「SMB ファイルサーバーのミラーリング『127ページ』」を参照してください。

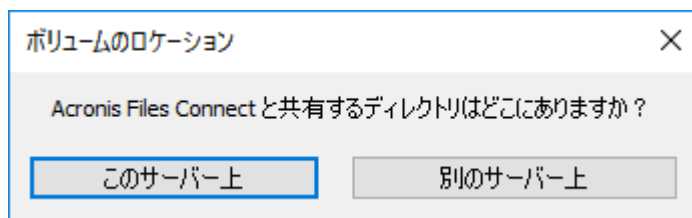
- **SMB のインポート:** Windows のファイル共有 (SMB) で共有されているすべてのフォルダを Files Connect でも共有します。

7.1.1.2 ボリュームの作成

フォルダが NTFS 形式のディスク上にある場合にのみ、Files Connect ボリュームとして共有できます。NTFS 形式のディスク上にないボリュームを作成しようとすると、Files Connect によってエラー メッセージが表示されます。

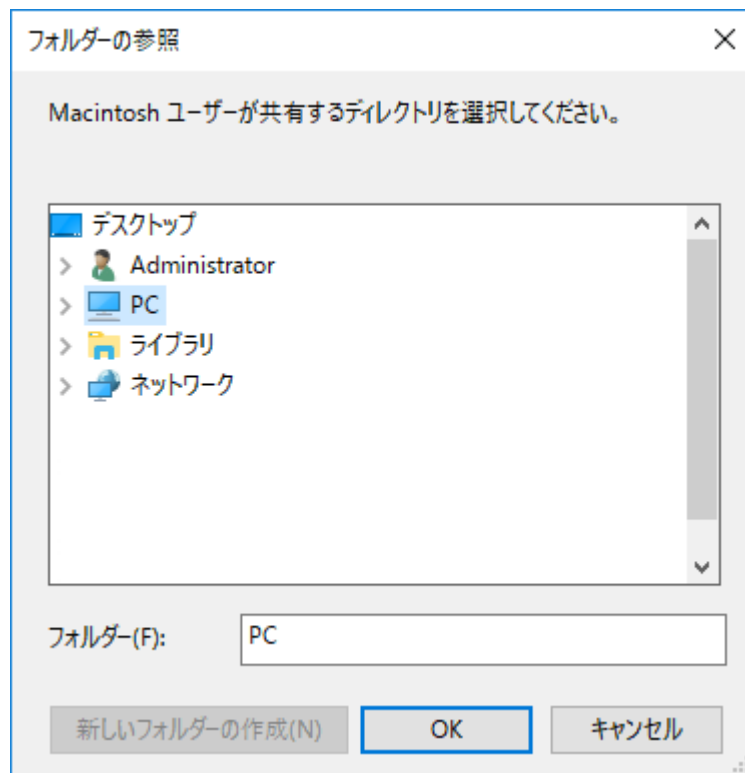
ボリュームの作成:

1. サーバー コンピューター上の NTFS 形式のボリュームに新しいディレクトリを作成するか、使用する既存のディレクトリを検索します。
2. [Files Connect Administrator] ウィンドウで、**[ボリューム]** をクリックします。
3. **[ボリューム]** ダイアログで、**[作成]** をクリックします。
4. **Network Reshare サポート** を有効にした場合、ボリュームの場所として **[このサーバー上]** または **[別のサーバー上]** を選択します。



5. 目的のディレクトリが別のサーバー上にある場合、次のダイアログでその UNC パスを入力します。

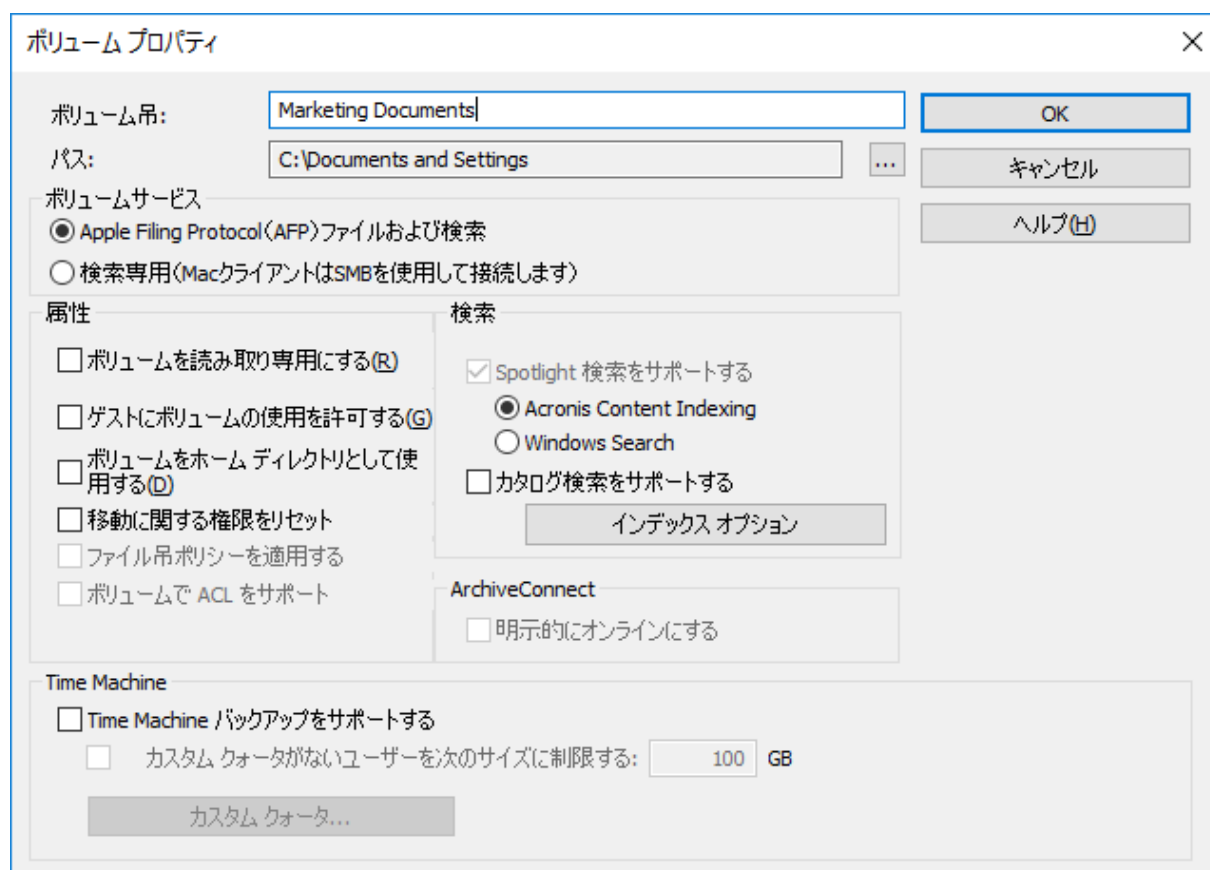
6. 目的のディレクトリがこのサーバー上にある場合、**[フォルダの参照]** ダイアログで場所を見つけて選択します。



注意: ボリュームとしてリムーバブル デバイスを使用することは、サポートされていません。
(例: フラッシュドライブ、USB ドライブなど)

7. **[OK]** をクリックすると、**[ボリューム プロパティ]** ウィンドウが表示されます。

注意: クラスタ化された環境で Acronis Content Indexing を使用している場合は、カスタムのインデックスファイルパスを共有 (フェールオーバー) ディスク上のフォルダに設定する必要があります。詳細については、「インデックスオプション」を参照してください。



8. 自動提案された名前を変更する場合、**[ボリューム名]** を編集します。

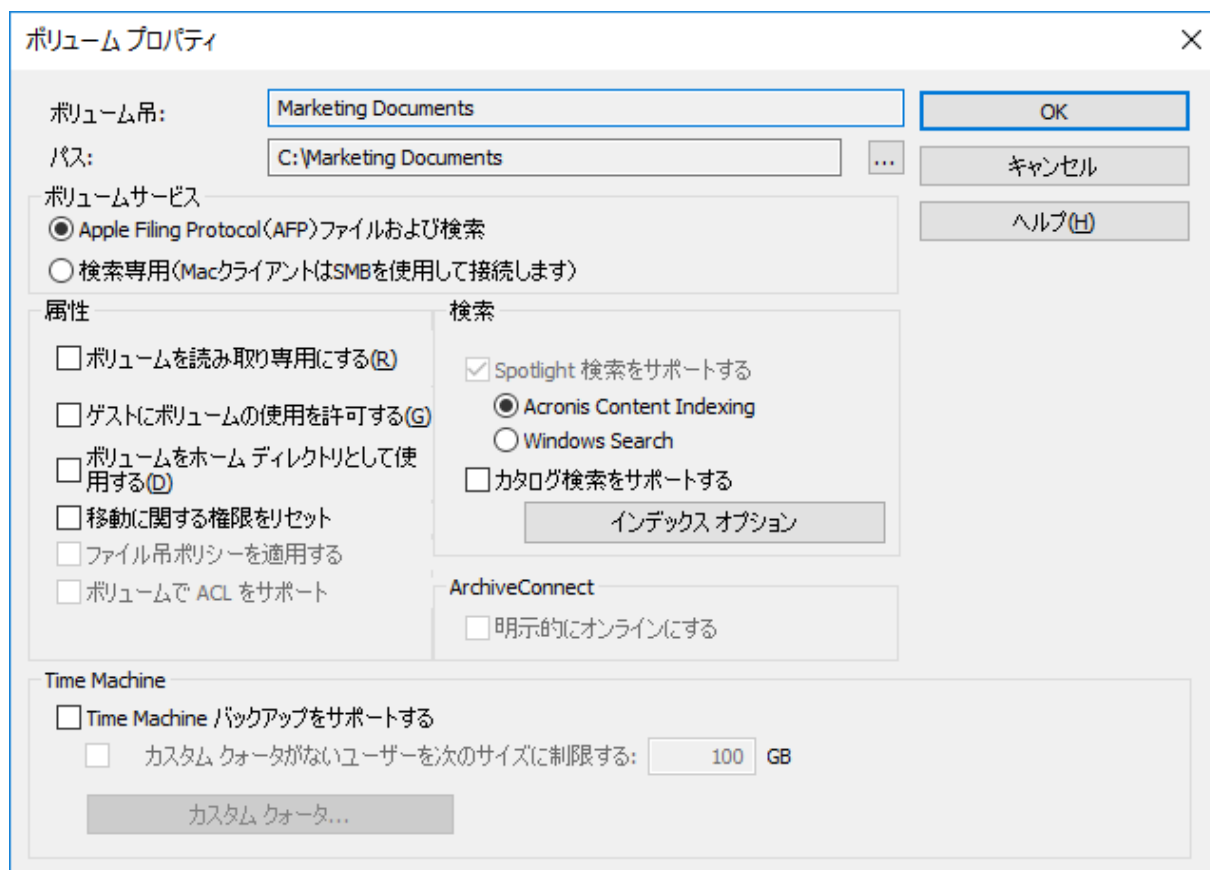
注意: ボリューム名を後で編集することはできません。編集が必要な場合、ボリュームを削除して、目的の名前で再作成する必要があります。

注意: Files Connect 8.0.4 以降では、UTF-16 で最大 127 文字、UTF-8 で最大 190 文字の名前を指定できます。これを超えた場合、Files Connect によって名前が切り詰められます。

9. 必要な追加設定を選択します。詳細については、「ボリュームプロパティ」を参照してください。
10. **[OK]** をクリックしてボリュームを作成します。

ボリュームのステータスがクライアントに対してオンラインになるとすぐに、Mac クライアントがそのボリュームを認識し、接続します。

7.1.1.3 ボリュームプロパティ



これらのボリュームプロパティは、ボリュームに接続しているモバイルクライアントには影響しません。カタログ検索設定のみが影響します。

- **Apple Filing Protocol (AFP)のファイルと検索:** これがデフォルトの設定で、AFPによってアクセス可能なボリュームが作成されます。このボリュームは、Files Connect Mac クライアントアプリと Mac Finder からアクセスおよび検索可能です。ファイルを開くときと作成されたボリュームを参照するときに、どちらの場合も Mac は AFP を使用して接続します。
- **検索専用 (Mac クライアントは SMB を使用して接続します):** このオプションを選択すると、ボリュームは Files Connect Mac クライアントアプリに表示されて検索可能になりますが、AFP ボリュームとして共有されることはありません。AFP を使用して Files Connect サーバーに接続する Mac には、このボリュームは表示されません。Mac は、Files Connect Mac クライアントアプリで検出された「検索専用」ボリュームとファイルに SMB を使用して自動的に接続します。この接続では、既存の Windows または NAS SMB ファイルサーバー共有ボリュームが使用されません。

ボリュームを読み取り専用にする

ボリュームを読み取り専用に設定すると、Mac ユーザーはボリューム上の文書の変更や、新しいファイルまたはフォルダの追加ができなくなります。

ゲストにボリュームの使用を許可する

Files Connect にゲストとしてログインする Mac ユーザーがボリュームにアクセスする場合は、このチェックボックスをオンにします。

ボリュームをホームディレクトリとして使用する

このボリュームのコンテンツをフィルタしてユーザーに自分のホームディレクトリのみが表示されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。また、この機能が機能するには、**[ファイルサーバーの設定]** ダイアログボックスのサーバー全体の **[ホームディレクトリのサポートを有効にする]** オプションを有効にする必要があります。「Files Connect ファイルサーバー 『84ページ』」の資料を参照してください。

移動に関する権限をリセットする

ファイルとフォルダの移動後に、これらの親フォルダから常に権限を継承する場合は、このチェックボックスをオンにします。

注意: 移動されるディレクトリに大量のサブフォルダがある場合は、権限のリセットに時間がかかることがあります。

ファイル名ポリシーを適用する

ファイル名ポリシーを適用すると、Mac クライアントは、管理者がグローバルの **[ファイル名ポリシー]** 設定に設定したファイル名ポリシーに準拠していないサーバーにはファイルを保存できなくなります。

検索設定

Spotlight 検索のサポート

Spotlight 検索は、Mac クライアントで個々のボリュームに対して有効化されます。該当するインデックス付けのタイプを選択する必要があります（デフォルトは Acronis Content Indexing）。

注意: 両方のタイプのインデックスで、Windows および Mac のファイルタグによる検索がサポートされるようになりました。Windows Search の場合は、追加的な構成がいくつか必要です。Windows Search インデックス 『99ページ』を参照してください。

Acronis Content Indexing

このタイプのインデックスは、Files Connect に組み込まれているため、特定のボリュームに対して有効にする前に **[設定]** ダイアログの **[検索]** タブで有効にするだけで済みます。

Windows Search

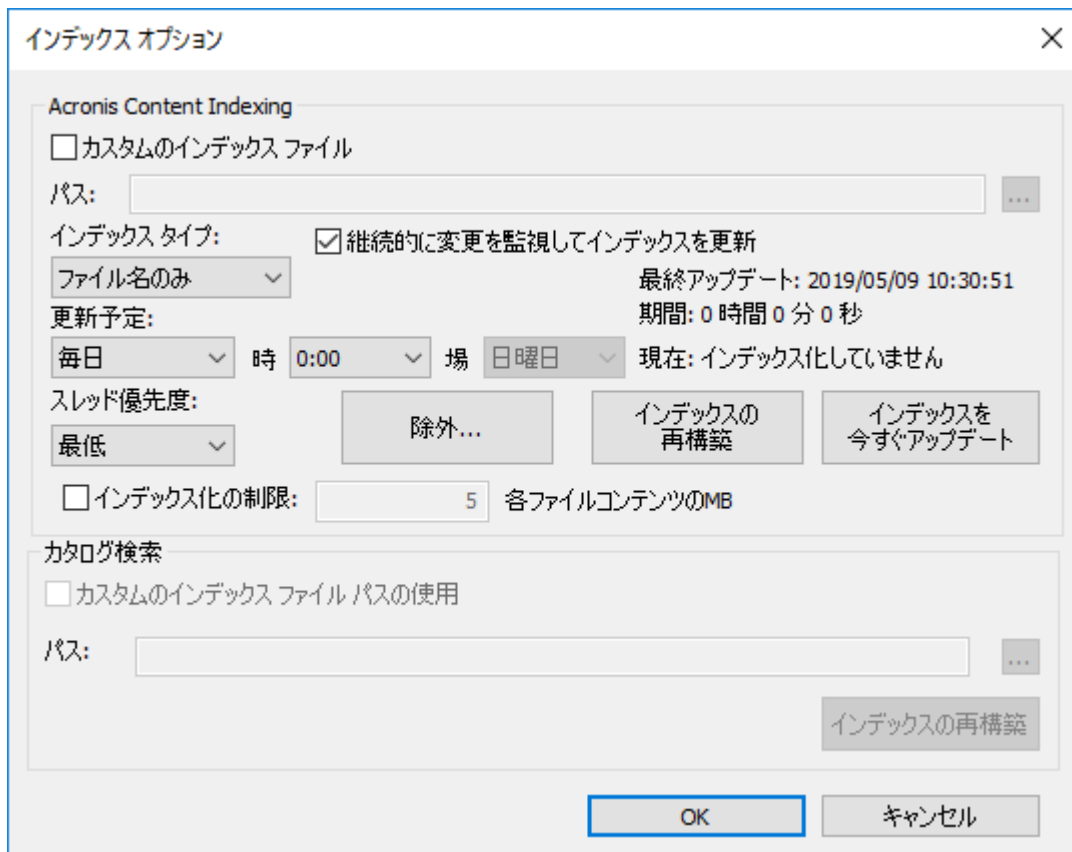
このタイプのインデックスは Microsoft Windows Search を利用します。Windows Search のインデックスを有効にするには、Microsoft Windows Search が Files Connect サーバーにインストールされていることを確認し、特定のボリュームに対して有効にする前に **[設定]** ダイアログの **[検索]** タブで有効にする必要があります。

カタログ検索をサポートする

個々のボリュームで、Spotlight 検索を有効にします。これは、デフォルトの組み込みの検索方法です。

ボリュームで ACL をサポートする

ボリュームでアクセス制御リストをサポートする場合は、このチェックボックスをオンにします。



Acronis Content Indexing

- **カスタムのインデックス ファイルパスの使用** - ボリュームの代替インデックスファイルロケーションを指定するには、このチェックボックスをオンにして、新しいインデックスファイルロケーションを選択します。

注意: クラスタ環境では、共有（フェールオーバー）ディスク上のフォルダを指定する必要があります。検索インデックスを保存するための専用のディスクを検討することもできます。

- **インデックス タイプ** - インデックス付けのタイプを次のように設定します。
 - **ファイル名のみ** - ファイル名のみでファイルをインデックス化します。このインデックス付けのタイプは、コンテンツベースのものよりも時間がかかりません。【**インデックス付けオプション**】の進行状況を確認したり、除外リストにいくつかのファイルやフォルダを追加したり、インデックス付けに使用する各ファイルの内容のサイズを制限したりすることで、インデックス付けの時間を短縮できます。
 - **コンテンツとファイル名** - ファイル名とコンテンツの両方でファイルをインデックス化します。このタイプのインデックス付けでは、優れた検索結果が得られますが、時間がかかります。上記のオプションですでに説明したのと同じ方法で、進行状況が追跡され、インデックス付けの時間が短縮されます。

- **継続的に変更を監視してインデックスを更新** - ローカル共有と Network Reshare の変更を継続的に監視して、即時にインデックスを更新します。スケジュール更新は継続的に実行されます。通知の欠落やサービス中断があった場合に、すべての変更ファイルを確実にインデックス付けするには、これが依然として推奨されます。
- **更新予定** - インデックスを更新するためのタイム スケジュールを設定します。インデックス作成の間隔に関するこの設定は、一部の変更が伝播されなかった場合や何らかのアイテムが自動的にインデックス化されなかった場合の二次的なプロセスとして使用されます。
- **スレッド優先度** - このボリュームにインデックス付けをするためのプロセス優先度を設定します。
- **除外** - 管理者は特定のフォルダやファイルをインデックスの作成から除外できます。これにより、インデックス付けのスピードが大幅に向上することがあります。

注意: 除外を追加するときに、Acronis Content Indexing の構文を使用してフィルタリングを向上させることもできます。複数のフィルタを使用するには、スペースで区切ります。**たとえば、filter1 filter2 とします。**

- ***ExampleFile*** は、ファイル名に **ExampleFile** を含む任意のファイルと一致します。
- ***¥ExampleFolder¥*** は、**ExampleFolder** という名前のフォルダ内の任意のファイルと一致します。パス内にスペースを含むフォルダの場合、引用符を使用する必要があります。たとえば、**"*¥Old Files¥"** とします。
- ファイル名フィルタ内の ***** は任意の数の文字と一致します。***.DOC** はすべての **.DOC** ファイルを除外します。
- ファイル名フィルタ内の **?** は任意の 1 文字と一致します。**file?.doc** は **file1.doc**、**file2.doc** を除外しますが、**file123.doc** は除外しません。
- **インデックスの再構築** - ボリュームに関する新しい検索インデックスの作成を開始します。新しいインデックス付けプロセスが完了するまで、検索要求を満たすために以前の検索インデックスが使用されます。
- **インデックスを今すぐアップデート** - 既存のインデックスのアップデートを直ちに開始します。

- **ファイルのインデックス付けの制限** - ドロップダウン メニューのオプションの 1 つを選択します。
 - **グローバル設定の使用 (X MB)** - ボリュームは、
Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Extreme Z-IP\Parameters4\Spotlight\Refreshable にある
「dtSearchIndexFileContentLimitGlobal」レジストリキー値で設定されている、既定のサーバー制限を使用します。
 - **各ファイル コンテンツのインデックス化の制限: X MB:** インデックス付けをファイルの内容の最初の X MB のみに制限することにより、カスタム値をこのボリュームにのみ使用します。
 - **無制限** - このボリューム内のファイルごとに、検索エンジンはサイズに関係なく、すべてのコンテンツとメタデータにインデックスを付けます。

カタログ検索

- **カスタムのインデックス ファイル パスの使用** - ボリュームの代替インデックスファイルロケーションを指定するには、このチェックボックスをオンにして、新しいインデックスファイルロケーションを選択します。
- **インデックスの再構築** - ボリュームに関する新しい検索インデックスの作成を開始します。新しいインデックス付けプロセスが完了するまで、検索要求を満たすために以前の検索インデックスが使用されます。

ArchiveConnect

明示的にオンラインにする

ArchiveConnect は、Mac クライアント側の別個のアプリケーションです。これを使用すると macOS クライアントはオフライン ファイルを取得せずにファイル アーカイブにアクセスできます。通常、ArchiveConnect は、ユーザーがオフライン ファイルを開くためにダブルクリックすると、これらのファイルを自動的に取得します。このオプションでは、ユーザーはオフライン ファイルを右クリックし、コンテキスト メニュー オプションを使用してファイルを明示的にオンラインにする必要があります。

Time Machine

Time Machine バックアップをサポートする

[Time Machine バックアップを許可する] ボックスをオンにすると、Mac クライアントは選択した Files Connect ボリュームを Time Machine バックアップ先として使用できます。ローカルネットワークで、Time Machine は、Bonjour を使用して Time Machine でサポートされるボリュームを検出します。Time Machine は、バックアップデータをスパースディスクイメージフォーマットまたは HFS+ として保存します。バックアップ先のボリュームを選択すると、Time Machine でバックアップのディスクイメージが作成されます。デフォルトでは、ボリュームに対して [Time Machine バックアップをサポートする] 設定が無効です。

注意: 読み取り専用またはホームディレクトリとして使用されているボリュームでは、[Time Machine バックアップをサポートする] を有効にできません。

[Time Machine バックアップをサポートする] を有効にすると、Files Connect では、[ボリュームを読み取り専用にする] および [ボリュームをホームディレクトリとして使用する] が無効になります。逆の場合もあります。

カスタムクォータがないユーザーを X GB に制限する

このボックスをオンにして値を入力し、各ユーザーの Time Machine バックアップのサイズを制限します。Mac クライアントが初めてサーバーに接続すると、クォータの設定に応じて使用可能な容量がドライブ上に表示されます。その後のログインでは、そのユーザーが他のバックアップで使用している容量と同じ容量が引かれて、クォータサイズとして使用可能な容量が表示されます。このクォータは、カスタムクォータが割り当てられていないすべてのユーザーに適用されます。

注意: Files Connect は、ユーザーがログインした場合、Time Machine が特定のバックアップファイルを開く前に Mac に使用可能な容量をすぐに指示する必要があるため、コンピュータベースではなく、ユーザーベースでクォータを適用します。ユーザーがデスクトップコンピュータとラップトップの両方をバックアップする場合、クォータは合算したバックアップサイズになります。

カスタムクォータ

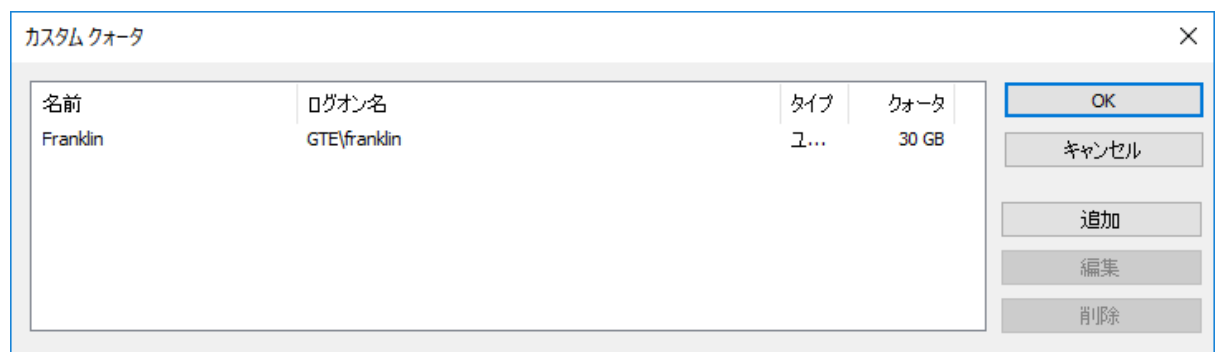
このボタンにより、[カスタムクォータ] ウィンドウが開きます。

7.1.1.4 カスタムクォータの使用

[**カスタムクォータ**] を使用し、ユーザーベースまたはグループベースの Time Machine バックアップクォータを定義できます。クォータは、サーバーにローカルに存在するユーザーとグループ、または Active Directory 内のユーザーとグループに割り当てることができます。カスタムクォータ設定は、常に**カスタムクォータがないユーザーを制限する**設定よりも優先されます。カスタムユーザークォータは、常にカスタムグループクォータよりも優先されます。

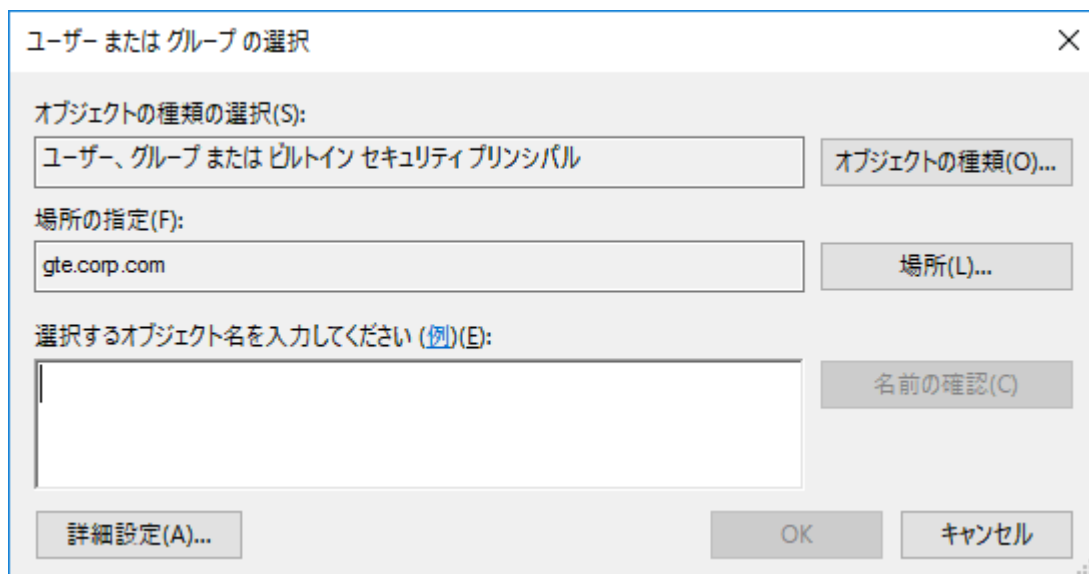
カスタムクォータを設定するには:

1. [**ボリュームプロパティ**] ダイアログボックスの [**カスタムクォータ**] ボタンをクリックし、[**カスタムクォータ**] ウィンドウを開きます。

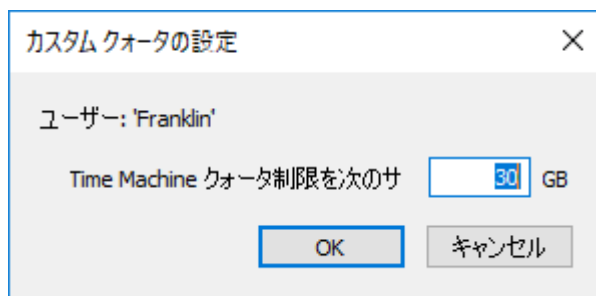


2. [**追加**] をクリックし、新しいユーザーベースまたはグループベースのクォータを追加します。

3. **[ユーザーまたはグループの選択]** ダイアログを使用して、クォータを適用するユーザーまたはグループを選択します。複数のユーザーまたはグループすべてに同じクォータ値を設定する場合は、一度に複数のユーザーまたはグループを選択できます。



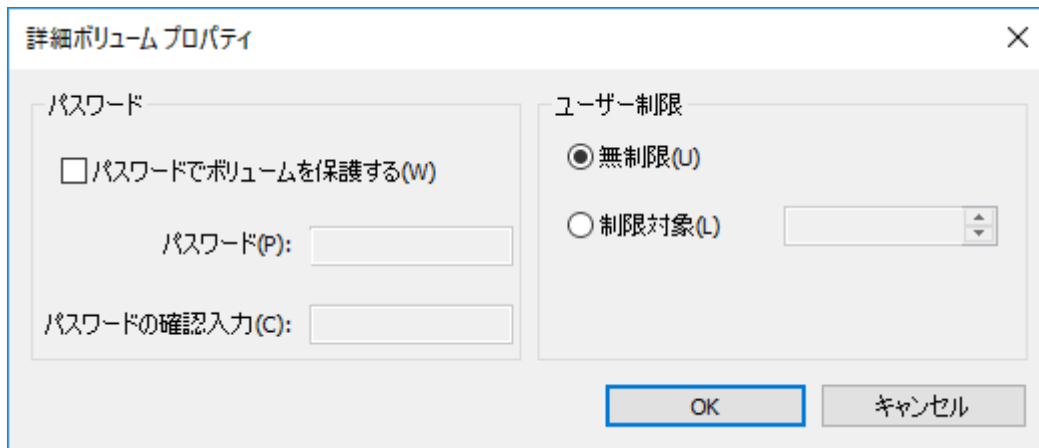
4. 設定するクォータ上限値を GB 単位で入力し、**[OK]** をクリックします。



7.1.1.5 詳細ボリューム プロパティの使用

ボリュームをマウントするときに、ログイン パスワードに加え、ユーザーに追加のパスワードの入力を要求することができます。これを設定するには **[詳細ボリューム プロパティ]** ダイアログボックスを使用できます。ここでは、特定の 1 つのボリュームを同時に使用できるユーザー数を制限することもできます。

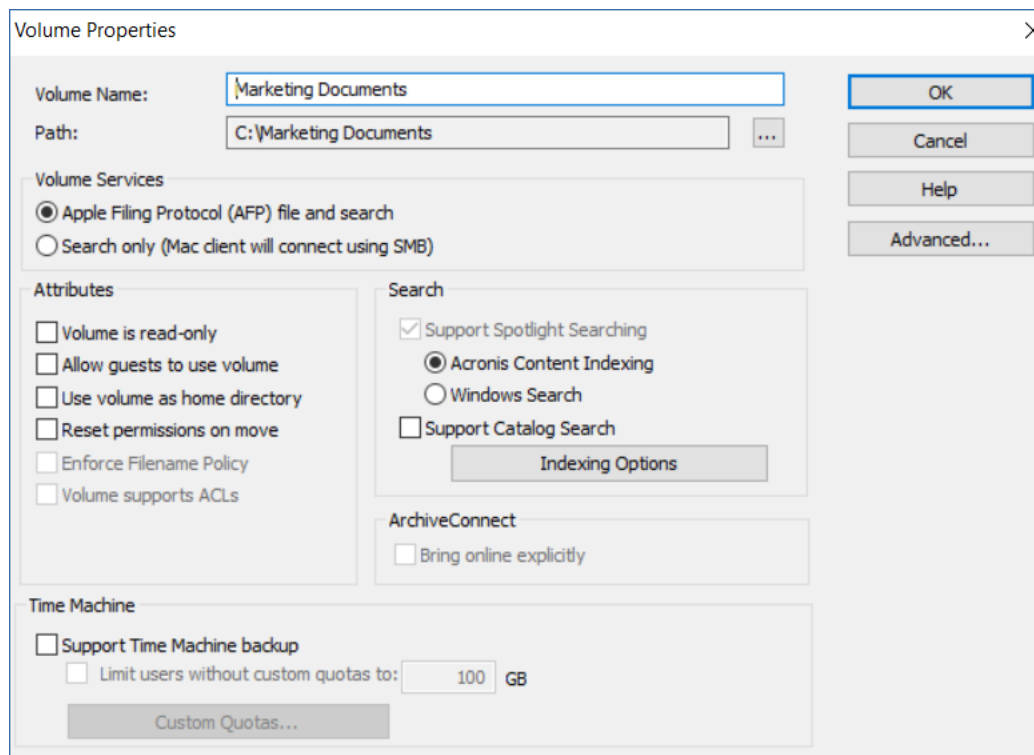
注意: OS X 10.11 以降では、ユーザーは保護ボリュームのパスワードを入力できません。これは、これらの OS バージョンでの問題です。



デフォルトでこの機能は無効になっています。使用するには、まず **[ボリューム プロパティ]** ウィンドウの **[詳細設定]** ボタンを有効にする必要があります。これを行うには、次のようにします。

1. レジストリキー **ShowVolumePropertiesAdvancedButton** を編集します。これは **HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\ExtremeZ-IP\Parameters4\NonRefreshable** にあります。ボタンを有効にするには、このキーの **[値のデータ]** を 1 に変更します。ボタンを無効にするには、**[値のデータ]** を 0 に戻します。
2. **サービス** コントロールパネルで、**[Acronis Files Connect File and Print Server for Macintosh]** サービスを再起動します。
3. **Files Connect Administrator** を再起動します。

これで、[詳細設定] ボタンが [ボリューム プロパティ] ウィンドウに表示されるようになります。

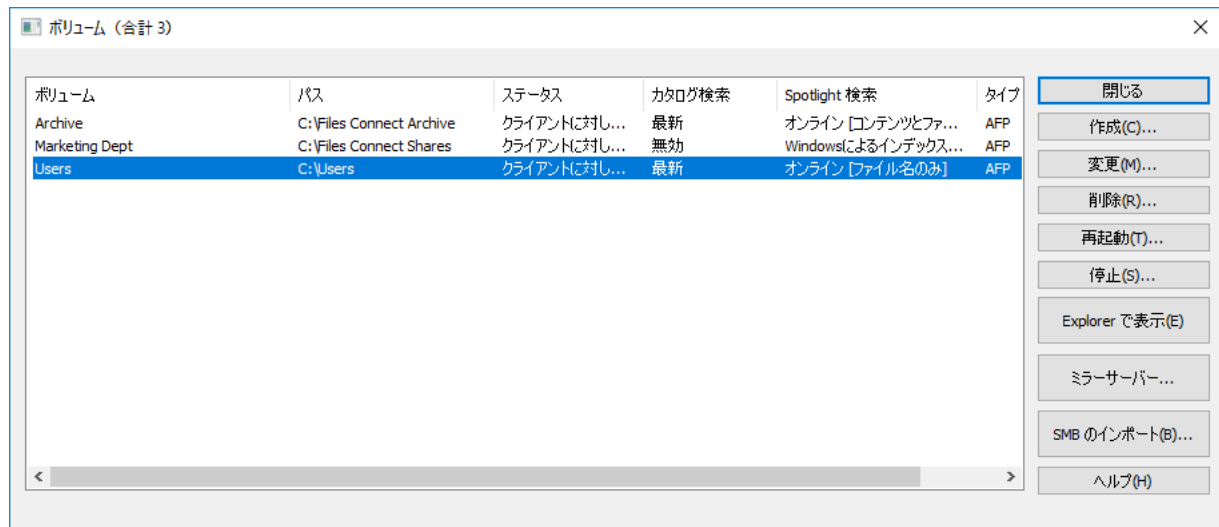


7.1.1.6 共有ファイルおよびフォルダの許可の変更

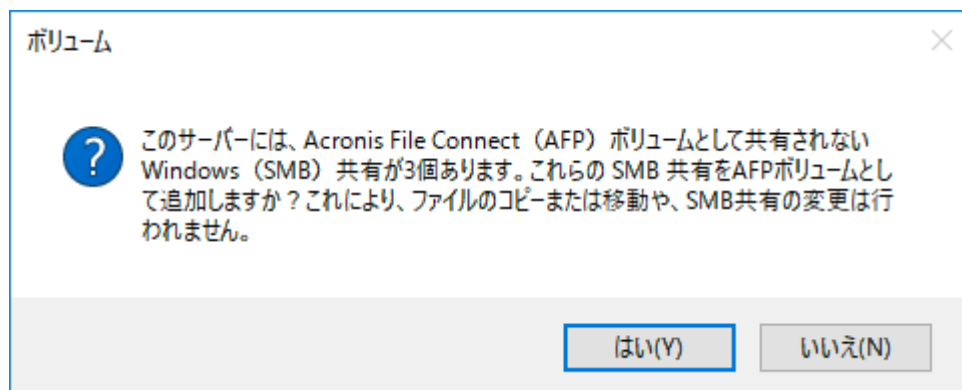
Files Connect は、既存の Windows のユーザー ログオンとパスワードを使用します。ACL サポートを有効にしない場合、Windows および Mac コンピュータではフォルダとファイルのプロパティが異なる仕方で処理されるため、一部の Windows アクセス情報が Mac に表示されなくなります。Files Connect では Windows セキュリティ設定が適用されるため、通常は Windows に組み込まれているツールを使用して、ディレクトリとファイルの許可を調整する必要があります。標準の Windows ツールは、セキュリティ ポリシーを設定するための最も柔軟な手段です。

7.1.1.7 ボリュームのインポート

[ボリューム] ウィンドウを開くたびに、Files Connect は、Files Connect ボリュームとして現在共有されていない SMB ボリュームがあるかどうか検査します。そのようなボリュームが見つかった場合、**[SMB ファイル共有のインポート]** ボタンが有効になります。



[SMB ファイル共有のインポート] をクリックすると、確認するよう求められます。



事前に存在する SMB 共有が Files Connect ボリュームとして使用可能になります。この手順は、Files Connect の初回起動時に使用した手順と同じです（「Files Connect の最初の起動 『36ページ』」の資料を参照）。

他のユーザーが SMB サービスにボリュームを追加したりボリュームを削除したりする可能性はいつでもあるので、**[ボリューム]** ウィンドウを再度開くときは、**[SMB ファイル共有のインポート]** ボタンの状態に注意してください。ボタンが無効になっている場合、追加された新しいボリュームはありません。対応する Files Connect ボリュームのいずれかが削除されている場合、ボタンは有効になります。

注意: このボタンは、[ボリューム] ウィンドウを開いたときにのみアップデートされます。[ボリューム] ウィンドウが開いたままの状態では、ファイル共有の変更内容はボタンの状態に反映されません。

7.1.1.8 モバイルアクセスの使用

Acronis Files モバイルクライアントにボリュームへの接続を許可するには、次の手順を実行します:

1. Files Connect Administrator を開きます。
2. **[設定]** メニューを開きます
3. **[モバイルアクセス]** タブを選択します。
4. **[Acronis Files モバイルアプリからボリュームへのアクセスを有効にする]** チェックボックスをオンにします。
5. ゲートウェイの IP アドレスまたは DNS アドレスを設定します。
6. ゲートウェイのポートを設定します。
7. SSL 証明書を選択します。デフォルト設定を使用できますが、実運用環境ではお勧めしません。
8. **[OK]** を押します。

モバイルクライアントでの接続

ゲートウェイサーバーに接続するには、モバイルアプリでゲートウェイサーバーを追加する必要があります。追加後は、1 回タップするだけで接続できるようになります。モバイルアプリの詳細な使用方法については、「クライアントガイド」を参照してください。

要件

社内 LAN の外部からモバイルクライアント経由で Files Connect ボリュームに接続できるようにするには、社内ネットワークへのネットワークアクセスをモバイルデバイスに提供

する必要があります。アクセスの提供は、VPN や HTTP のリバースプロキシ経由で実行するか、ファイアウォールのポートを開きます。

サポートされるデバイス:

- Apple iPad 第 4 世代以降
- Apple iPad mini 第 2 世代以降
- Apple iPad Pro 第 1 世代以降
- Apple iPhone 5 以降
- Apple iPod Touch 第 6 世代以降
- Android スマートフォンおよびタブレット (x86 プロセッサアーキテクチャのデバイスはサポートされていません)。
- Windows のスマートフォンおよびタブレット (Windows RT はサポートされていません)。
- 注意: Windows デバイスが Acronis Access サーバーのバージョン 6.0 以降で利用できるようになりました。

サポートされる OS:

- iOS 10 以降
- Android 2.2 以降 (x86 プロセッサアーキテクチャのデバイスはサポートされていません)。
- Windows 8.1 以降 (Windows RT はサポートされていません)。
- 注意: Windows デバイスが Acronis Access サーバーのバージョン 6.0 以降で利用できるようになりました。

Acronis Files アプリのダウンロード:

- iOS の場合 <http://www.grouplogic.com/web/meappstore>。
- Android の場合
<https://play.google.com/store/apps/details?id=com.grouplogic.mobilecho>。

iOS からの接続

1. **[ネットワーク]** セクションで**プラス記号 (+)のボタン**をタップします。
2. **[Files Advanced サーバーの追加]** を選択します。
3. Files Advanced **[サーバーアドレス]** を入力します。サーバーの FQDN または IP アドレスを入力することができます。
4. ネットワークフォルダおよびサーバーのリストからサーバーを見つけやすくするために、**[表示名]** を設定できます。表示名を設定していない場合、サーバーの**サーバーアドレス**が表示されます。
5. サーバーへの接続に使用するユーザー名および電子メールアドレスを入力します。
6. サーバーに接続するたびにパスワードを入力する必要があるようにパスワードを保存することができます。これを行うには、**[パスワードの保存]** を有効にします。
7. 新しいサーバーの構成が完了したら、**[チェック]** ボタンをタップします。

Android からの接続

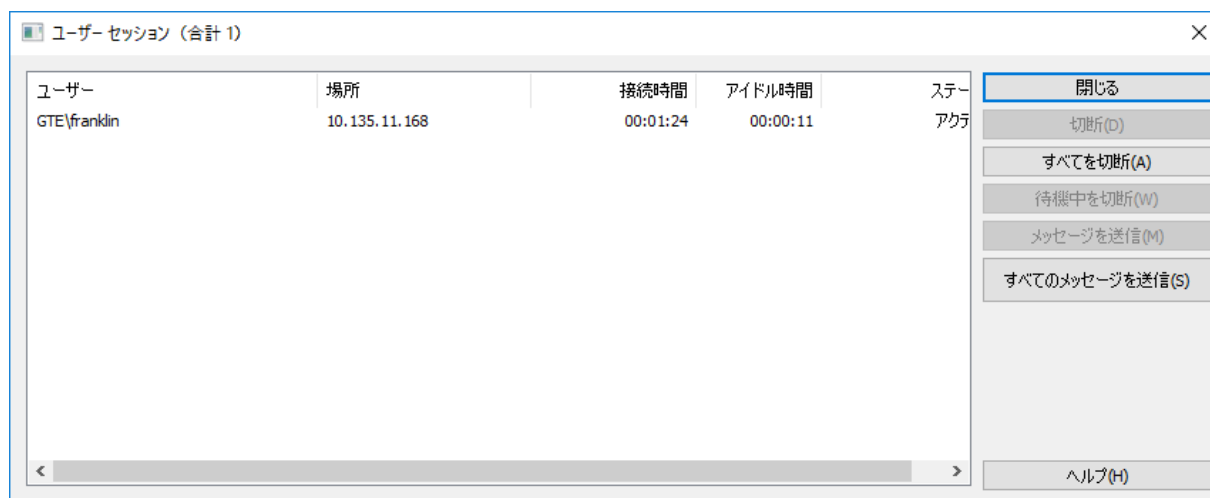
1. Acronis Files アプリを起動します。
2. **[ネットワーク]** セクションで**プラス記号のアイコン**をタップします。
3. **[サーバーの追加]** を選択します。
4. Files Connect の **[サーバーアドレス]** を入力します。サーバーの FQDN または IP アドレスを入力することができます。
5. サーバーへの接続に使用するログイン名および電子メールアドレスを入力します。
6. サーバーに接続するたびにパスワードを入力する必要があるようにパスワードを保存することができます。これを行うには、**[パスワードの保存]** を有効にします。
7. 新しいサーバーの設定が終了したら、**[チェック]** ボタン (タブレットでは **[保存]**)をタップします。

7.2 Files Connect ユーザー

[ユーザー] ダイアログボックスでは、サーバーに接続しているユーザーを表示したり、サーバーに接続しているユーザーを切断したり、ユーザーにメッセージを送信したりすること

ができます。ユーザー名とパスワードのエントリの詳細については、「Mac ユーザーの接続」のセクションを参照してください。[ユーザー] ダイアログボックスを表示するには、[Files Connect Administrator] ウィンドウで [ユーザー] をクリックします。

名前と IP アドレスによって、接続中のユーザーを特定できます。ユーザーの接続およびアイドル時間が表示されます。このダイアログは、自動的に更新されます。列のタイトルをクリックして、列を基準にしてリストを並べ替えることができます。



ステータスには、Mac クライアントがアイドル、スリープ、または再接続しているかどうかが表示されます。「削除されたユーザーセッションの再接続 『175ページ』」を参照してください。

注意: ユーザーアカウントは Windows で定義されます。Files Connect ではこの情報を使用して、ユーザーのアクセス権限を決定します。

接続解除: ハイライト表示されたユーザーまたはすべてのユーザーを切断します。

メッセージを送信: ハイライト表示されたユーザーまたは接続しているすべてのユーザーにメッセージを送信します。

注意: OS X 10.9 以降では、メッセージの送信はサポートされていません。

[ステータス] 列に、接続がアクティブ、スリープ、または再接続待機中かどうかが表示されます。

セクションの内容

Mac ユーザーの接続	175
Files Connect を使用して開いたファイルの表示	177

7.2.1 Mac ユーザーの接続

Files Connect では Active Directory がサポートされています。Mac ユーザーが Files Connect サーバーに接続する場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。Files Connect では、実行中の Windows コンピューターのプライマリドメインに対してこのアカウントが認証されます。このコンピューターがドメインのメンバーでない場合、アカウントは **Windows のユーザーマネージャ**に表示されるローカルアカウントのメンバーである必要があります。コンピューターがドメインのメンバーである場合、Macintosh ユーザーに付けたユーザー名がプライマリドメイン、ローカルアカウント、または信頼できるドメインのメンバーである必要があります。

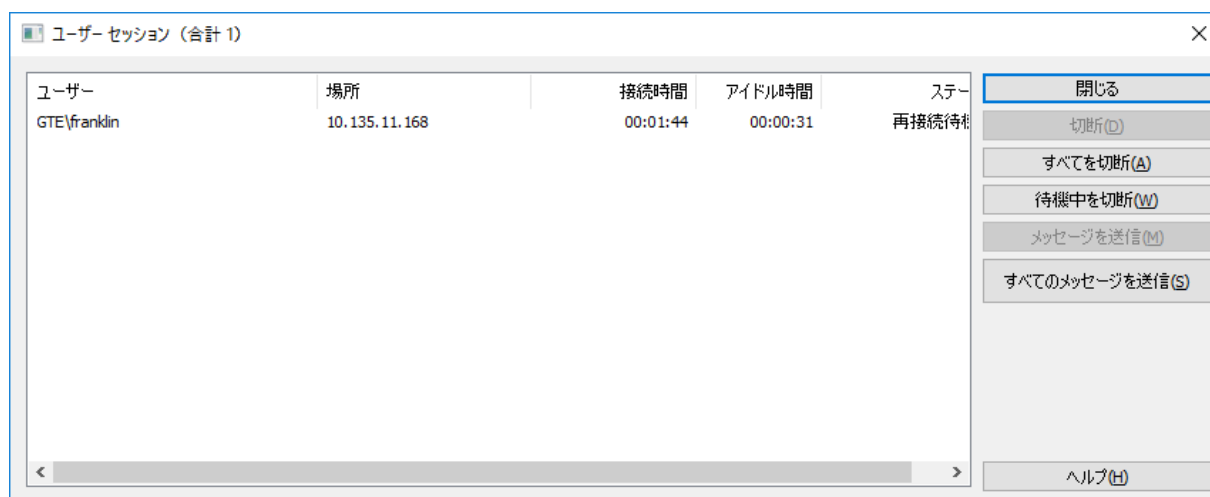
ユーザー名の前にドメイン名およびバックスラッシュ (¥)を付けて、特定のドメインに対して認証することを指定できます。たとえば、Marketing ドメインからユーザー名 Joe を認証するには、AFP クライアントログオンのユーザー名部分に「MARKETING¥joe」を入力します。

セクションの内容

削除されたユーザーセッションの再接続..... 175

7.2.1.1 削除されたユーザーセッションの再接続

Files Connect では、一時的にネットワークが停止した際のユーザーセッションの再接続がサポートされています。また、Mac クライアントがクラッシュまたは再起動した後の、ロックされたファイルの自動終了もサポートされています。



セクションの内容

セッションが削除された場合の再接続	176
Kerberos を使用した再接続	177

セッションが削除された場合の再接続

macOS X クライアントは、Files Connect に接続するとき、暗号化された再接続資格情報を受信します。サーバーへの接続が切断された場合、Files Connect はセッションを **[再接続待機中]** モードにすることによって、このセッションを保持します。このモードの間、セッションによって開かれたすべてのファイルとボリュームは開いたままです。クライアント コンピューターがサーバーとの接続を再確立するとき、クライアントはサーバーに再接続資格情報を (暗黙的に) 提供します。Files Connect は資格情報を復号化し、この資格情報を使用してユーザーを認証します。

認証に成功すると、クライアントはサーバーにログインします。コンピューターは、古いセッションを切断する要求と共にこのログインを追跡します。Files Connect は、古いセッションが見つかり、開いているファイルとボリュームを新しいセッションに転送し、古いセッションを削除します。新しいセッションは、古いセッションのアセットにアクセスできます。古いセッションがタイムアウトになったか手動で切断されたため、または Files Connect サービスが再起動されたかフェールオーバーされたため、古いセッションを使用できなくなった場合は、クライアントが古いセッションを切断しようとする、Files Connect はクライアントにエラーを返します。この場合、クライアント コンピューターは、古いセッションで開かれていたファイルおよびボリュームを再度開こうとしています。これらのファイルに書き込まれていたデータがディスクにフラッシュされていない場合、これらのデータは失われます。

ただし、新しいセッションはこれらのファイルに自動的にアクセスできます。Files Connect サーバーへの接続中に Mac クライアントが異常終了および再起動した場合は、上記の説明のように、古いセッションは **[再接続待機中]** モードになります。Mac クライアントが次にサーバーにログインすると、Files Connect は、クライアントの再起動が行われたことを検出して古いセッションを自動的に切断し、セッションで開いていたファイルを終了します。クライアントが再起動されたため、Files Connect は新しいセッションにファイルの転送を行いません。再起動により、クライアントから古いセッションの情報が消去されま

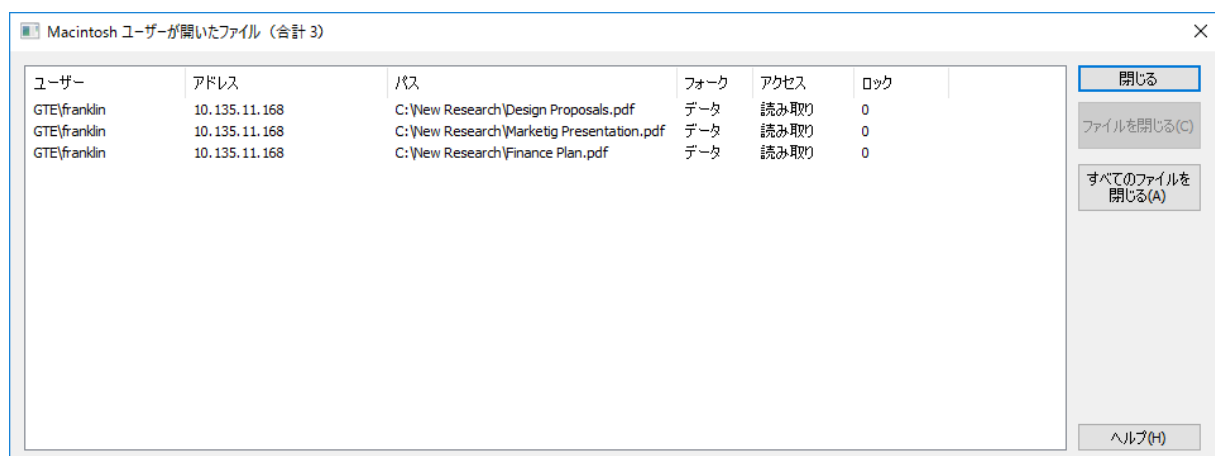
す。この機能により、クライアント側で異常終了が発生した場合も、サーバーでファイルが開いたままになる問題が軽減されます。セッションは、5 分間再接続待機状態になった後で自動的に切断され、開いているファイルは終了されます。この再接続タイムアウトは、レジストリ設定により設定できます。レジストリ キーを使用して、Files Connect がセッションを再接続する方法に影響を与えることができます。「付録 A: レジストリ キーの使用『200ページ』」を参照してください。

Kerberos を使用した再接続

Kerberos 認証は、セキュリティで保護されたネットワーク認証、およびネットワーク リソースへのシングル サインオンのサポートを提供するプロトコルです。「Kerberos の使用『58ページ』」を参照してください。Windows OS に制限があるため、Kerberos 認証を使用して最初にログインしたユーザーは、古いセッションが使用できなくなった場合は自動的に再接続することができません。そのため、クラスタのフェールオーバー後に、クリアテキストまたは DHX 暗号化パスワードを使用してログインしているユーザーが暗黙的に再接続する場合、Kerberos を使用してログインしているクライアントは切断される可能性があります。

7.2.2 Files Connect を使用して開いたファイルの表示

[Macintosh ユーザーが開いたファイル] ダイアログボックスには、現在使用中のファイルが表示されます。Macintosh ユーザーは、ファイルのデータまたはリソースフォークを開くことができます。**[Macintosh ユーザーが開いたファイル]** ダイアログボックスを表示するには、**Files Connect Administrator** ダイアログボックスの **[ファイル]** ボタンをクリックします。



新しいファイルが Mac ユーザーによって使用されていると、このダイアログによりダイアログ自体が更新されます。

ダイアログボックスには、使用中の各ファイルに関する次の情報が一覧表示されます：

- **ユーザー：** ファイルを使用している Mac ユーザーの名前。
- **アドレス：** ユーザーが接続している IP アドレス。
- **パス：** 使用しているファイルの名前。
- **フォーク：** ユーザーがアクセスしているフォーク（リソースまたはデータフォーク）。
- **アクセス：** アクセス情報（読み取りアクセスまたは書き込みアクセス）。
- **ロック：** 排他的アクセスを目的としてユーザーがファイルの一部をロックした場合の、そのファイルのロックされたセクションの数のカウント。排他的アクセスは、データベースプログラムでは頻繁に発生します。

注意： ユーザーがデータを失ったり、異常終了したりする可能性があるため、この方法でファイルを終了する場合は警告を使用する必要があります。代わりに、[ユーザー] ダイアログボックスを使用してユーザーを切断します。これにより、そのユーザーが開いたすべてのファイルが自動的に終了します。

7.3 ログの使用

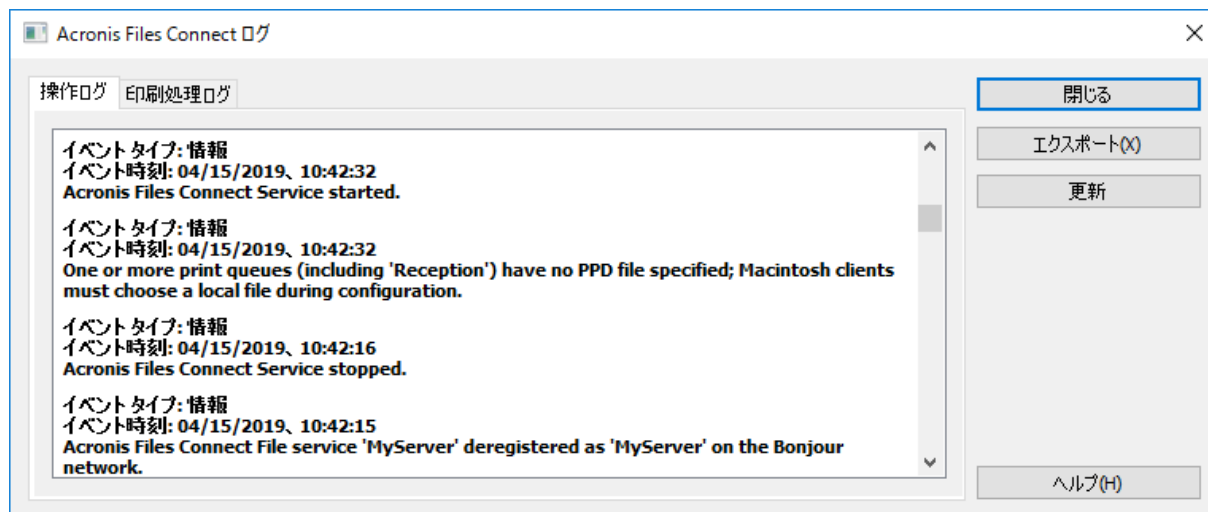
セクションの内容

操作ログによるアクティビティの追跡	178
印刷ログの使用	180

7.3.1 操作ログによるアクティビティの追跡

Files Connect Administrator では、Files Connect サーバーのアクティビティのログを記録できます。ログには、確立済みの接続に関する詳細が他の処理情報と共に記録されます。ログは、タブ区切りのテキストファイルにエクスポートして、他のプログラムで使用できます。ログをテキストファイルにエクスポートした後、ログの情報を利用するように設計されたスプレッドシートまたはシステムにそのファイルをインポートできます。

ログを表示するには、[Files Connect Administrator] ダイアログボックスの [ログ] ボタンをクリックします。



エントリのタイプ、エントリが作成された時間、およびエントリに関するメッセージを表示できます。

セクションの内容

操作ログのエクスポート..... 179

7.3.1.1 操作ログのエクスポート

ログは、次の 2 種類の方法でテキスト形式で保存できます：

Files Connect 内でログをエクスポートするには、次の操作を実行します。

1. Files Connect の [ログ] ウィンドウから、[エクスポート] をクリックして、ログをテキストとして保存します。
2. 名前および形式を入力します。
3. [保存] をクリックして、ログに戻ります。

コマンドラインからログをエクスポートするには、次の操作を実行します。

1. DOS プロンプトで Files Connect がインストールされているフォルダに移動します。
2. 「EZIPUTIL PRINT /EXPORT_LOG /PATH:fullpathoflog」と入力します。
fullpathoflog には、C:¥Logs¥file.txt のように、エクスポートするログファイルの場所

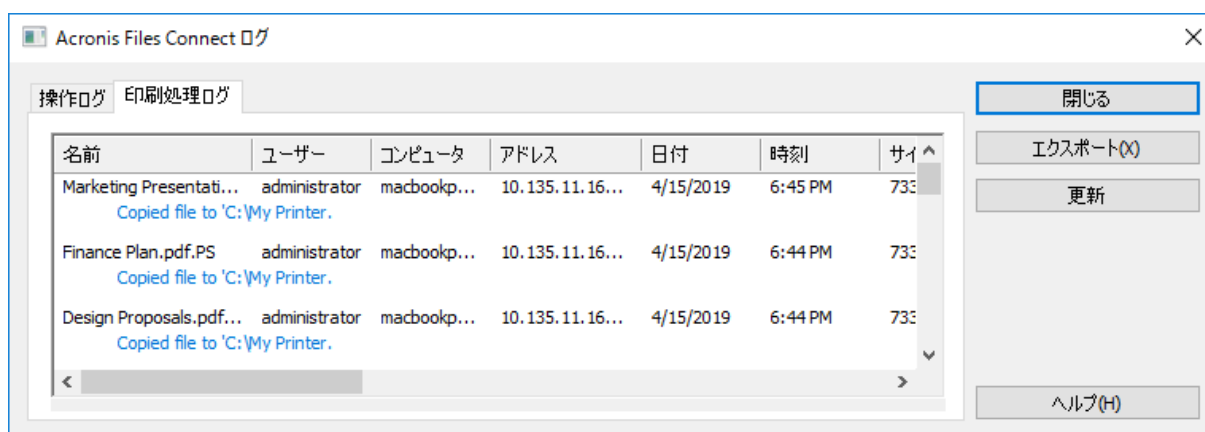
と名前を指定します。Files Connect に同梱されているサンプルのバッチファイル Export_Print_Log.bat を参照してください。

7.3.2 印刷ログの使用

Files Connect アクティビティのログを表示できます。ログには、印刷されたジョブおよびその他の情報が記録されます。

ログを表示するには、次の手順を実行します。

1. **[Files Connect Administrator]** ダイアログボックスの **[ログ]** をクリックします。
2. **[印刷処理ログ]** タブをクリックして表示します。**[印刷処理ログ]** には、標準の印刷情報が含まれています。列のタイトルをクリックすることにより、任意の列でログを並べ替えることができます。並び順を昇順と降順で切り替えるには、列のタイトルを 2 回クリックします。



レジストリキーを使用すると、各新規印刷ログエントリを指定のテキストファイルに自動的に追加できます。こちら 『200ページ』 をクリックして付録 A 「レジストリキーの使用」 を参照してください。

セクションの内容

Files Connect の [印刷処理ログ] の列のカスタマイズ	181
Files Connect からの印刷ログのエクスポート	181

7.3.2.1 Files Connect の [印刷処理ログ] の列のカスタマイズ

レジストリキーを使用して列を任意の順序で表示することにより、デフォルトの構成を上書きし、**[印刷処理ログ]** の表示をカスタマイズできます。ログを印刷すると、ログに表示されている列のみが印刷されます。別の列を表示および印刷するには、レジストリキーを変更します。手順については、ここ『200ページ』をクリックして付録 A「レジストリキーの使用」を参照してください。

注意: すべての列のデータが常に保存されています。別の列を表示すると、保存済みのデータにフィルタが適用されます。

Print Accounting を使用した場合は、Macintosh ユーザーに対して、印刷する前にコードフィールドに必要事項を記入するように要求できます。これらのフィールドは、**[印刷処理ログ]** に表示されます。Print Accounting については、次のセクションを参照してください。

7.3.2.2 Files Connect からの印刷ログのエクスポート

ログは、タブ区切りのテキスト ファイルにエクスポートして、他のプログラムで使用できます。ログをテキスト ファイルにエクスポートした後、ログの情報を利用するように設計されたスプレッドシートまたはシステムにそのファイルをインポートできます。

[エクスポート] ボタンを使用してログをエクスポートするには、次の操作を実行します。

1. Files Connect Administrator で [Files Connect ログ] ダイアログにアクセスします。
2. ログをエクスポートするには、そのタブ (**[印刷処理]** または **[操作]**) を表示し、**[エクスポート]** をクリックします。
3. **[保存]** をクリックして、ログを保存します。印刷ジョブをエクスポートした場合、ファイルは Files Connect Print Jobs.txt という名前になります。
4. **[閉じる]** をクリックして、Files Connect Administrator に戻ります。

コマンド ラインを使用していずれかのログをエクスポートするには、次の操作を実行します。

1. コマンド プロンプトで Files Connect がインストールされているフォルダに移動します。
2. 「EZIPUTIL PRINT /EXPORT_LOG /PATH:fullpathoflog」と入力します。
「fullpathoflog」には、C:¥Logs¥PrintAccounting.txt というように、エクスポートするログ ファイルの場所と名前を指定します。Files Connect に同梱されているサンプルのバッチ ファイル Export_Print_Log.bat を参照してください。

7.4 Files Connect プリントサーバーの使用

Files Connect プリントサーバーでは、IP をベースにした Mac コンピューターからの印刷をサポートしています。Mac クライアントでは、Zidget、Bonjour、または Print Center を使用して、プリンタを設定します。Mac OS 9 クライアントでは、Apple メニュー項目の**チューザー**または**IP プリンタの選択**を使用して、プリンタを設定します。

これらの印刷機能に加え、Mac クライアントは「**Files Connect ファイルサーバー**」の章の説明に従って共有ボリュームにアクセスできます。Files Connect プリントサーバーと共にインストールされる **Print Accounting** では追加の印刷機能がサポートされており、ユーザーが原価計算情報を印刷する際に各印刷ジョブでその情報をキャプチャ、検証、および追跡できます。

セクションの内容

プリント サーバーの動作	183
印刷キューの設定	183
処理方法の設定	185
ジョブの処理の制御	189
印刷キューの発行	190

7.4.1 プリント サーバーの動作

Mac から印刷ジョブを受信した後、Files Connect はいずれかの処理方法を使用して、その印刷ジョブを処理します。これらの処理方法には、Windows 印刷キュー、LPR プリンタ、「ホットフォルダ」（RIP サーバーや OPI サーバーなどの追加のソフトウェアで印刷ジョブを処理できる特別な出力ディレクトリ）などがあります。また、進行中の印刷ジョブを表示したり、ジョブの処理順序を入れ替えたり、リストからジョブを削除したりできます。Mac クライアントでは、IP を使用して、Files Connect プリント サーバーに印刷できます。

Files Connect プリント サーバーでは、ユーザーがサーバーに送信した印刷ジョブのさまざまな情報（ジョブ名、ジョブを送信したユーザーの名前、印刷日時、ページ サイズ、ページ数、ジョブ サイズ（バイト単位）、ジョブを印刷したコンピュータのアドレス、および使用された印刷キューの名前）がログに記録されます。このログは、会計システムやその他の原価追跡システムにインポート可能なテキスト ファイルに自動的にエクスポートできます。

Print Accounting では選択した内容の追加情報がキャプチャおよび追跡されるようになっており、キューに印刷する前に、設定する 1 つ以上の課金コードを Mac クライアントで入力する必要があります。会計情報は、印刷ジョブのログに追加され、標準の会計システムおよび原価追跡システムにインポートできます。Print Accounting の使用方法の詳細については、「Print Accounting の使用 『191ページ 』」を参照してください。ログの表示または取得の詳細については、「ログによるアクティビティの追跡 『178ページ 』」の資料を参照してください。

7.4.2 印刷キューの設定

印刷キューは、Mac ユーザーがアクセスできる仮想プリンタです。Mac ユーザーがファイルをいずれかのプリンタに印刷すると、その印刷ジョブはサーバーに配信され、そこで追跡および処理できます。印刷キューの作成に関するセクションを参照してから、Windows、LPR、ディレクトリ（ホットフォルダ）という 4 つのタイプの印刷キューに固有の設定を行うために後続の段落の該当するセクションを参照してください。

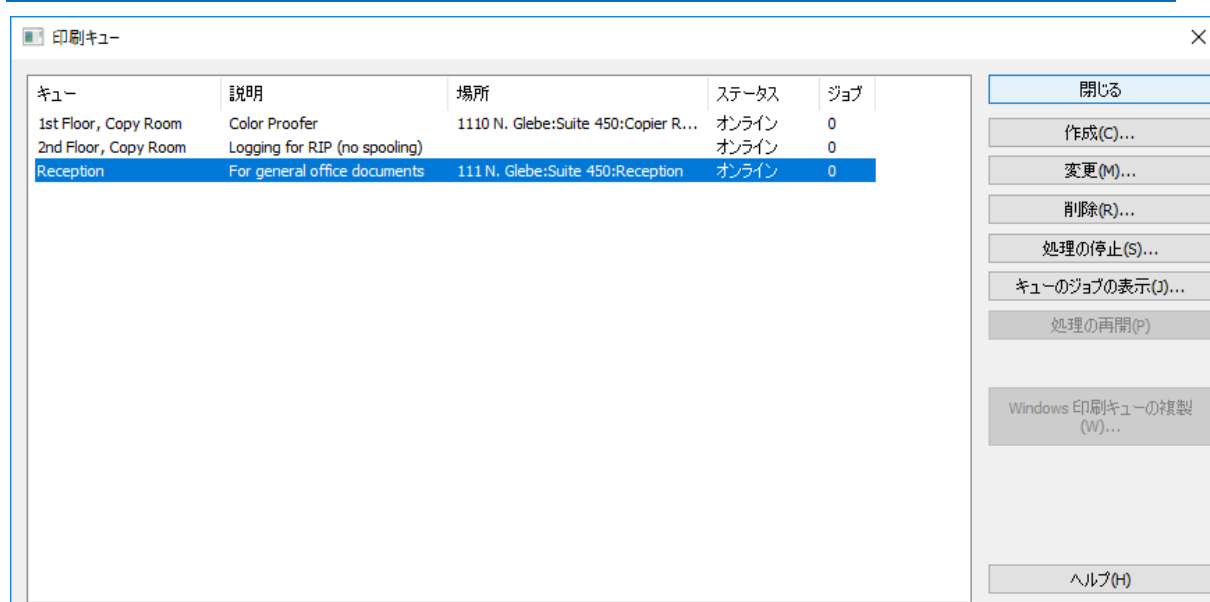
セクションの内容

7.4.2.1 印刷キューの作成

印刷キューを作成するには、次の操作を実行します。

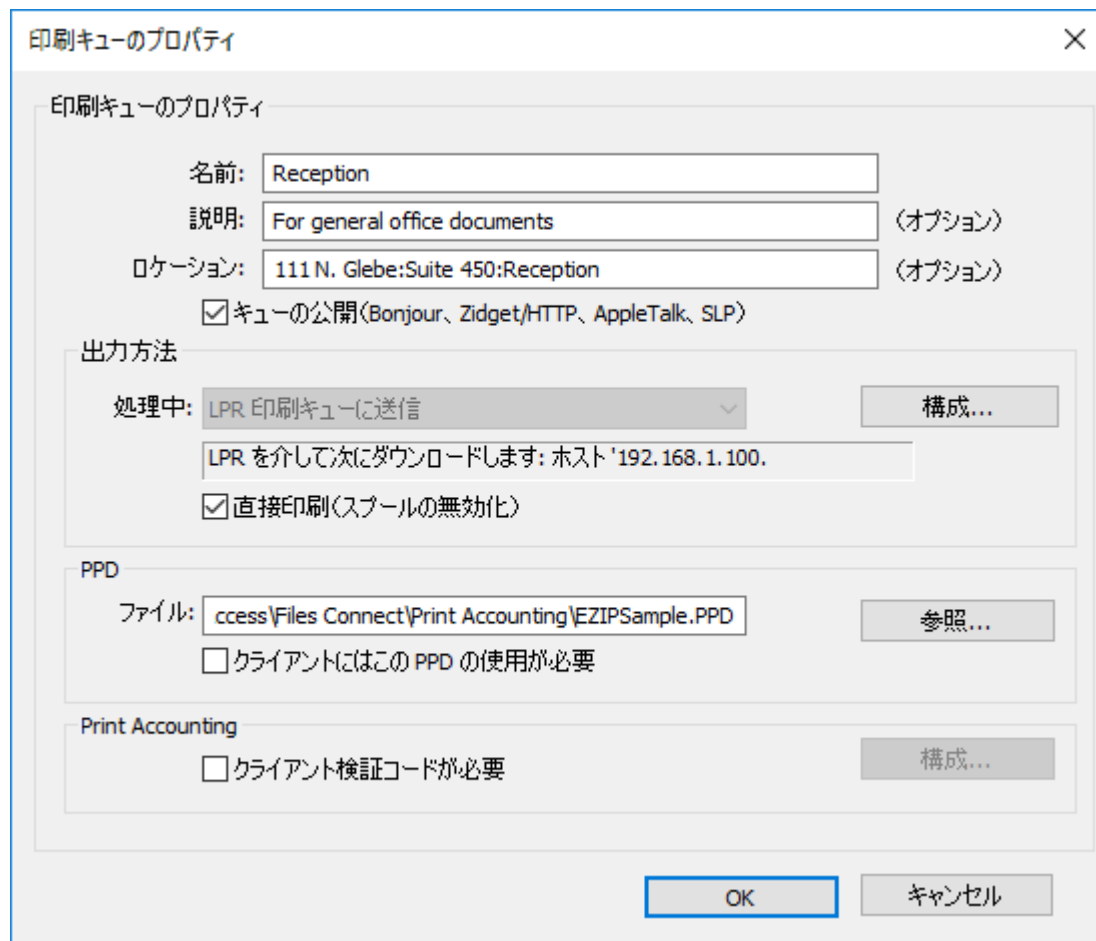
1. **[Files Connect Administrator]** ダイアログボックスで、**[印刷キュー]** をクリックします。

注意: 印刷キューのリストを並べ替えるには、列のタイトルをクリックします。



2. **[作成]** をクリックして、印刷キューを定義します。キューが中断されている場合、ジョブはサーバーによって受け付けられます。ただし、処理が再開されるまで、そのジョブはプリンタに送信されません。印刷キューを作成します。保留中のジョブのリストがあるウィンドウを開きます。このウィンドウから、印刷ジョブを開始、停止、または並べ替えることができます。既存の Windows 印刷キューを取得し、Files Connect キューとしても再発行します。

注意: Print Accounting を使用する場合は、クライアント検証コードの要求を許可するチェックボックスをオンにしてください。印刷キュー用に Print Accounting を設定する方法については、[ここをクリック](#)してください。



3. 設定する印刷キューの名前を入力します。
4. PPD ファイルをキューに関連付け、処理方法を選択します。処理方法ごとの手順については、下記のセクションを参照してください。

7.4.3 処理方法の設定

Files Connect では、クライアントからジョブを受信すると、そのジョブを Windows 印刷キュー、LPR プリンタ、またはディレクトリに出力できます。次のセクションでは、これらの各方法の設定方法について説明します。

セクションの内容

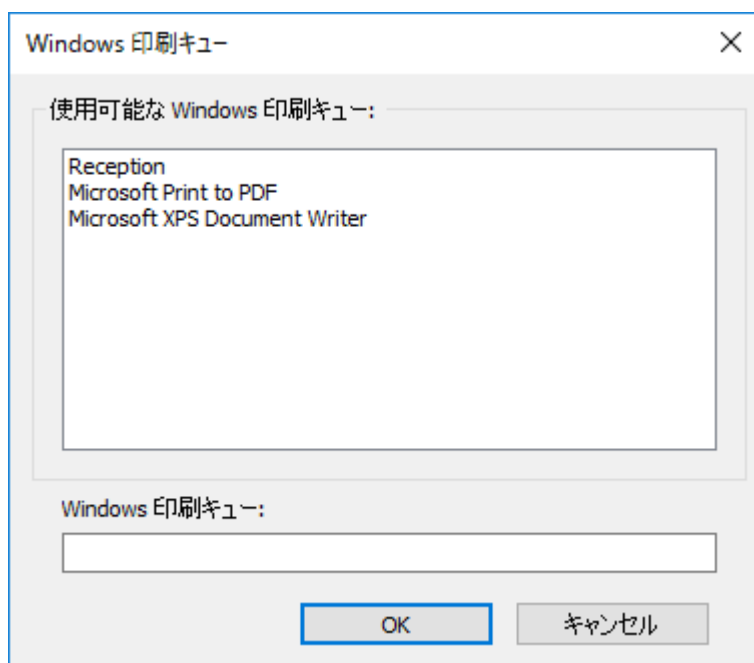
Windows 印刷キューへの送信	186
LPR プリンタ キューへの送信	186

指定のディレクトリ (ホット フォルダ)への送信	187
印刷キューへの PPD ファイルの関連付け	188

7.4.3.1 Windows 印刷キューへの送信

処理方法に Windows 印刷キューを選択するには、次の操作を実行します。

1. **[印刷キューのプロパティ]** ダイアログボックスの **[処理]** プルダウンメニューで **[Windows 印刷キューへの送信]** を選択します。



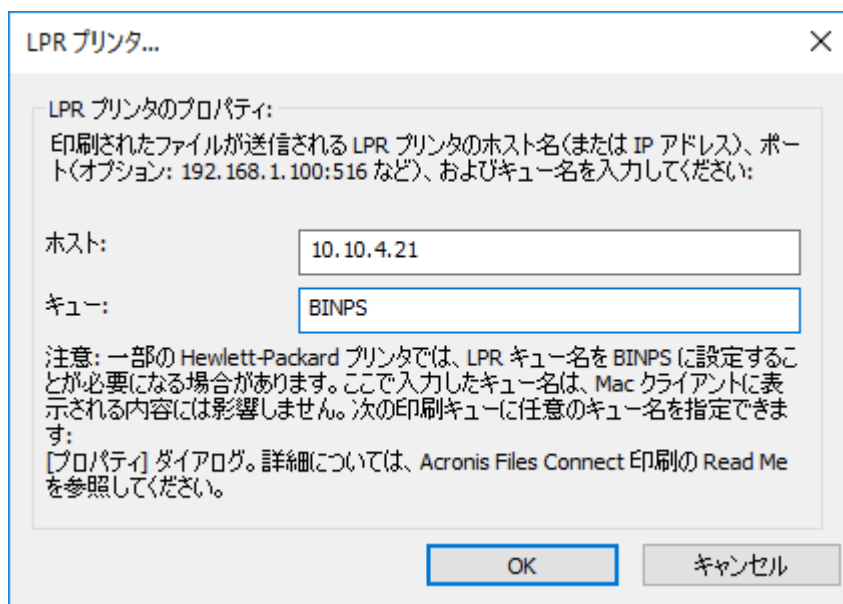
サーバー上で Windows クライアント用に既に共有している Windows プリンタのリストが表示されます。このキューへの印刷時にクライアントによって使用される PPD。Mac から印刷するときに表示される名前。受信後のジョブの Files Connect による送信先。Mac クライアントは、このキューに印刷するたびに、ジョブ追跡情報を提供する必要があります (追加の構成については、Files Connect のマニュアルを参照してください)。印刷キューがクライアントによって検出可能かどうか。

2. プリンタを選択します。このリストが空である場合は、Windows のプリンタ ウィザードで Windows プリンタを作成し、共有対象に設定する必要があります。

7.4.3.2 LPR プリンタ キューへの送信

処理方法に LPR プリンタを選択するには、次の操作を実行します。

1. **[印刷キューのプロパティ]** ダイアログボックスの **[処理]** プルダウンメニューで、**[LPR 印刷キューへの送信]**を選択します。
2. 設定する印刷キューの名前を入力します。キュー名は固有である必要があります。2 つのキューに同じ名前を指定することはできません。LPR 印刷キューの制御については、「LPR プリンタでの印刷の制御」セクションを参照してください。



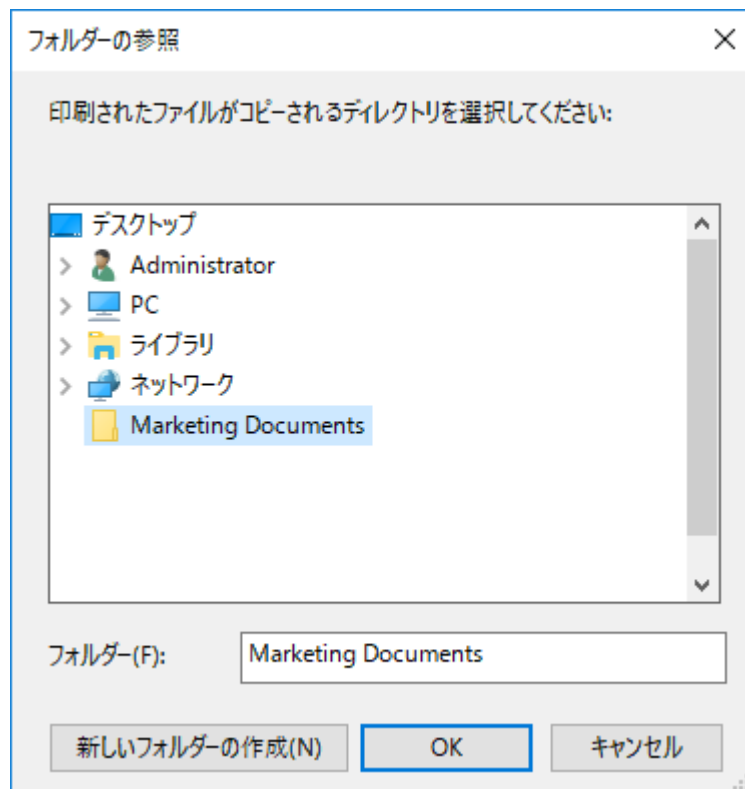
7.4.3.3 指定のディレクトリ (ホット フォルダ)への送信

ファイルを指定のディレクトリ (ホット フォルダ)に送信する印刷キューを作成できます。ローカル フォルダまたはネットワーク上のフォルダを選択できます。ネットワーク ロケーションの場合は、UNC パスを使用します。

注意: ネットワーク ロケーションを選択する場合、Active Directory のサーバーのコンピュータ アカウントには、リモート サーバー上のネットワーク ロケーションへのアクセス権が付与されている必要があります。コンピュータ アカウントにフォルダへのアクセス権を付与する手順は、ユーザー アカウントにフォルダへのアクセス権を付与する手順と同じように実行します。

処理方法として指定のディレクトリを使用するには、次の操作を実行します。

1. **[印刷キューのプロパティ]** ダイアログボックスの **[処理]** プルダウンメニューで、**[指定のディレクトリへの送信]** を選択します。



2. **[フォルダの参照]** ダイアログを使用して、ディレクトリを特定し選択します。
3. **[OK]** をクリックします。

7.4.3.4 印刷キューへの PPD ファイルの関連付け

PostScript プリンタ記述 (PPD)を各キューに関連付けることもできます。PPD は、プリンタの作成時に Macintosh で使用されます。印刷キューの PPD ファイルを提供した場合、Mac クライアントでは、あらかじめコンピュータに PPD をインストールしておくことなく、プリンタをダウンロードしてデスクトップで使用するよう構成できます。

Files Connect サーバーには、プリンタの作成時に指定の PPD を Mac ユーザーに自動的にダウンロードするオプションが用意されています。Mac ユーザーの期待に沿ったユーザーエクスペリエンスを実現する特別なアイコンなどの追加情報が含まれているため、Mac 上で作成された PPD ファイルを取得して使用してください。キューの設定時に PPD を指定した場合、PPD のダウンロードは可能になりますが、サーバーに PPD が存在しても印刷には影響を与えません。

PPD ファイルを印刷キューに関連付けるには、**[印刷キューのプロパティ]** ダイアログボックスの **[PPD]** セクションに PPD ファイルへのパスを入力するか、または **[参照]** ボタンを使用して正しい PPD を探します。

注意: これらのファイルは、サーバーからアクセス可能なディスクに存在する必要があります。

7.4.4 ジョブの処理の制御

Mac ユーザーが Files Connect サーバーに送信するジョブの処理を制御できます。**[印刷キュー]** ダイアログボックスで、次の操作を行うことができます:

- **[ステータス]** 列にキューでの各ジョブのステータスを表示します。
- 印刷キューでのすべてのジョブおよび印刷キューでの特定のジョブの処理を中断します。
- 必要に応じて処理を再開します。
- 最初にどのジョブを処理するかを制御します。
- ジョブを削除します。

[印刷キュー] ダイアログボックスにアクセスするには、**[Files Connect Administrator]** ウィンドウで **[印刷キュー]** をクリックします。このダイアログボックスには、Mac クライアントから使用可能な印刷キューが一覧表示されます。

セクションの内容

印刷ジョブの表示および管理 189

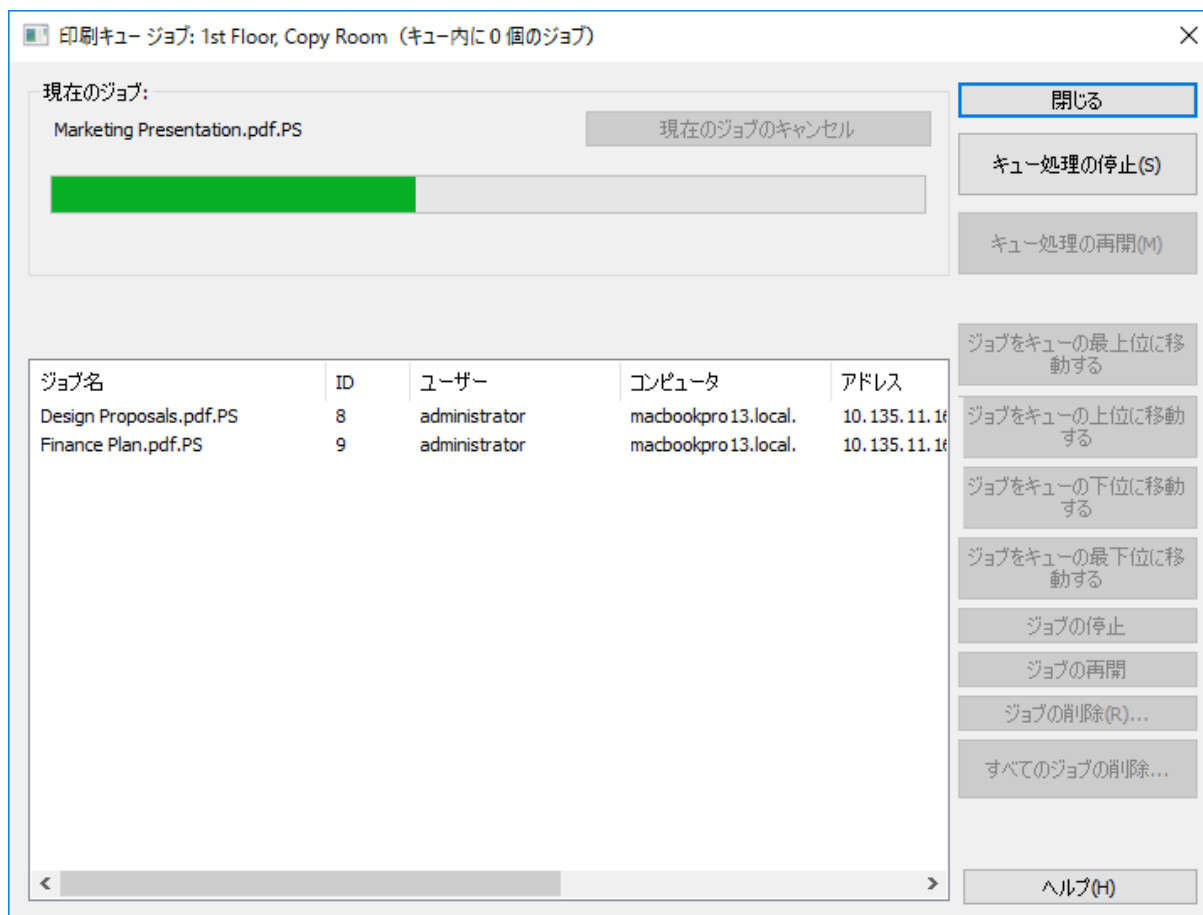
7.4.4.1 印刷ジョブの表示および管理

[印刷キュー ジョブ] ダイアログボックスで 1 つ以上の印刷キューを対象に同時に処理中のジョブを表示および管理できます。

印刷キューで処理中のジョブのリストを表示するには、次の操作を実行します。

1. **[印刷キュー]** ダイアログボックスで印刷キューをハイライト表示します。

2. **[キューのジョブの表示]** をクリックします。**[印刷キュー]** ジョブダイアログボックスに、処理中のジョブが一覧表示されます。ジョブが処理中の場合、進行状況インジケータおよび処理中のジョブの名前が表示されます。



7.4.5 印刷キューの発行

Files Connect プリント サーバーは、Bonjour、Zidget/HTTP、および AFP 経由ですべての印刷キューを自動的にアドバタイズします。Mac および Windows クライアントでは、1 ステップで Bonjour プリンタを設定して印刷できます。クライアントで Mac OS X 10.4.3 以降を使用している場合は、新しい Files Connect Zidget を利用できます。これらのいずれかの方法を使用してプリンタを選択すると、そのプリンタは印刷ダイアログでインストール済みプリンタとして使用可能になります。プリンタに印刷するたびにプリンタを設定する必要はありません。サーバー全体でグローバルに、またはキュー単位で、Bonjour、Zidget/HTTP、および AFP を経由したプリンタの自動アドバタイズを無効にできます。

アドバタイズ プロトコルを無効にするには、次の操作を実行します。

1. **Acronis Files Connect Administrator** で **[設定]** をクリックします。
2. **[設定]** ダイアログ ボックスで、**[サービスの検出]** タブをクリックします。
3. 使用しないサービスを無効にします。「サービスの検出 『108ページ 』」の資料を参照してください。また、キューの存在を知っているユーザーのみがそのキューを使用できるように、特定のキューの発行を無効にすることもできます。

7.5 Print Accounting の使用

Print Accounting では、ユーザーが原価計算情報を印刷する際に各印刷ジョブで原価計算情報を検証、キャプチャ、および追跡できます。**Print Accounting** から取得した情報は、他の情報と共に **[印刷処理ログ]** に記録されます。Print Accounting 情報は、これらのタスクと次のタスクに使用できます。

- クライアントとジョブ間の校正コストの割り当て。
- 共有印刷リソースの使用の追跡、部門およびジョブへのコストの適切な割り当て。
- 従業員、学生、またはプロジェクト間でのプリンタの使用の追跡。
- 認証ユーザーのみによる、特定のプリンタへの印刷。

プリンタが Mac ユーザーからジョブを受け付ける前に、Mac ユーザーに対して会計コードの入力を求めるように、印刷キューを設定できます。印刷キューごとに必要な会計コードの数、会計コードの名前、および会計コードをオプションにするか必須にするかを決定します。会計コードが必須の場合、Mac ユーザーは会計コードを入力するまでジョブを印刷できません。クライアントでは、有効な会計コードのリストを参照したり、クライアントコンピュータで最近使用した会計コードの中から選択したりできます。

各印刷会計コードは、有効なコードおよび説明(たとえば、従業員の番号/名前(2312、Jane Smith)や、プロジェクトの番号/名前(Q98331A、Acme Corp 年間レポートのモックアップ))が含まれているテキストファイルに関連付けられます。クライアントでは、キューに印刷するときに、サーバー上の設定に基づいて印刷会計コードを入力するように求められます。クライアントから印刷すると、このテキストファイルに対して検証が実行されるため、クライアントを再設定しなくても、サーバー上でこれらのコードおよび説明をアップデートできます。

セクションの内容

Print Accounting の設定	192
----------------------------	-----

7.5.1 Print Accounting の設定

Print Accounting では、Mac OS X 10.2.8 以降を使用する Mac クライアントがサポートされています。Print Accounting を使用する前に、Mac OS X で使用できるように PPD を変更する必要があります。PPD の変更手順については、「Print Accounting で使用するための PPD の変更 『196ページ』」を参照してください。Print Accounting は、Mac OS X 上の TCP/IP を介してサポートされています。Mac OS X の Classic モードで実行中のアプリケーションから印刷するときには使用できません。

また、Files Connect では Files Connect サーバー経由で Print Accounting をルーティングできる直接印刷と呼ばれるオプションがサポートされているのに対し、Mac では LPR/CUPS™ (Common UNIX Printing System)印刷アーキテクチャをサポートするプリンタにジョブが直接送信されます。

セクションの内容

お客様のコードのリストの作成	192
Print Accounting 情報を提供するための印刷キューの設定	193
Print Accounting で使用するための PPD の変更	196

7.5.1.1 お客様のコードのリストの作成

Print Accounting を使用するには、まず、コードおよび各コードの説明が含まれているテキスト ファイルを作成する必要があります。コードが会計システムなどの他のシステムに既に存在する場合は、それらのコードをタブ区切りのファイルとしてエクスポートし、Files Connect 形式に準拠するために必要な調整を加えることができます。Print Accounting を使用する印刷キューごとに、コードとその説明が含まれている各コード フィールドをタブで区切ったファイルをワープロやテキスト エディタで個別に作成します。ワープロ プログラムを使用する場合は、ファイルをテキスト ファイルとして保存する必要があります。

たとえば、次の方法で従業員を識別するための情報を入力します。

- 123 <タブ> Sue <リターン>
- 124 <タブ> Jim

注意: コードのテキスト ファイルを変更した場合、Files Connect ではファイルが自動的に再ロードされることはありません。変更を加えた後でコードを再ロードするには、Files Connect サービスを再開するか、またはコマンド ライン引数 `EZIPUTIL.EXE PRINT /REFRESH_CODES` を使用します。

7.5.1.2 Print Accounting 情報を提供するための印刷キューの設定

コードおよびコードの説明を定義した後、印刷キューを設定または変更する際に、そのコードおよび説明を印刷キューに割り当てます。印刷キューごとに検証コードを設定します。その印刷キューを使用するすべての Mac クライアントが同じフィールドを持つこととなります。

Print Accounting 情報を提供するように印刷キューを設定するには、次の操作を実行します。

1. **[Files Connect Administrator]** で、**[印刷キュー]** をクリックします。
2. 既存の印刷キューを選択して **[変更]** をクリックするか、または **[作成]** をクリックして新しい印刷キューを作成します。

3. [クライアント検証コードが必要] チェックボックスをオンにします。

印刷キューのプロパティ

印刷キューのプロパティ

名前: Reception

説明: For general office documents (オプション)

ロケーション: 111 N. Glebe: Suite 450: Reception (オプション)

キューの公開 (Bonjour、Zidget/HTTP、AppleTalk、SLP)

出力方法

処理中: LPR 印刷キューに送信 (構成...)

LPR を介して次にダウンロードします: キュー 'BINPS' 場所: ホスト '10.10.4.2'

直接印刷 (スプールの無効化)

PPD

ファイル: c:\access\Files Connect\Print Accounting\EZIPSsample.PPD (参照...)

クライアントにはこの PPD の使用が必要

Print Accounting

クライアント検証コードが必要 (構成...)

OK キャンセル

- 最初のコードを追加するには、**[構成]** をクリックします。コードの名前は、任意の名前に変更できます。この名前が、Mac の印刷ダイアログボックスのフィールドの横に表示されます。

印刷キュー検証コード

このキューに印刷するユーザーは、検証コードを入力するように求められます。コードは、サーバー印刷ログに指定および保存されているテキストファイルと比較して検証されます。詳細については、ユーザーマニュアルを参照してください。

OK
キャンセル
ヘルプ(H)

検証コード

Employee Number
Client Number
Job Number
Comment

追加
削除
上に移動
下に移動

デフォルトとして使用

検証コードの構成

コード名: Job Number

検証が必要

クライアントに保存するコードの数(なしの場合は0を入力してください): 0

ユーザーにコードの参照を許可する

コードのテキストファイルの場所: 参照...

- Mac ユーザーに対して印刷前にコードの値入力をオプションではなく必須にする場合は、**[検証が必要]** チェックボックスをオンにします。コメントなどの情報には、検証不要のフィールドを使用します。
- Mac ユーザーがコードリストを参照できるようにする場合は、**[ユーザーにコードの参照を許可する]** チェックボックスをオンにします。
- [参照]** をクリックして、以前に設定したコードが含まれているテキストファイルを探します。
- [OK]** をクリックして入力したコードを保存するか、または **[追加]** をクリックしてさらに別のコードフィールドを追加します。
- Files Connect サーバーに PPD を配置し、PPD を必要とするように印刷キューを構成して、Mac ごとに PPD を提供します。

7.5.1.3 Print Accounting で使用するための PPD の変更

Mac OS X では、印刷キューごとに選択された PPD を、サーバーの IP アドレスなどの追加情報が含まれるように変更する必要があります。Macintosh PPD は通常、`/Library/Printers/PPDs/Contents/Resources` フォルダにあります。Files ConnectSample.PPD という名前のサンプルの PPD がソフトウェアに同梱されています。

Print Accounting で使用できるように PPD を変更するには、次の手順に従います。

1. 変更する PPD を探します。
2. デフォルトの PPD は、gzip 形式で圧縮されています。その PPD をダブルクリックして展開します。
3. 解凍した PPD をテキスト エディタで開きます。
4. Files Connect サンプル PPD から次の行を PPD にコピーします。

```
*****
% Files Connect Print Accounting CUPS Filter
*****
*cupsFilter: "application/vnd.cups-postscript 0 Files Connect_filter"
*Files Connect_Print_Accounting_IP: "192.168.1.5"
*Files Connect_Print_Accounting_Queue_Name: "My Queue Name"
*****
% Files Connect Print registering UI element for plugin invocation
*****
*OpenUI *Files ConnectValidationRequired/ValidationRequired: Boolean
*DefaultFiles ConnectValidationRequired: False
*Files ConnectValidationRequired True/Required: ""
*Files ConnectValidationRequired False/Not Required: ""
*?Files Connect_Validation_Required: "query code"
*CloseUI: *Files ConnectValidationRequired
```

注意: 変更対象の PPD に既に CUPS フィルタがある場合は、Files Connect フィルタと競合する可能性があります。

5. 行 `Files Connect_Print_Accounting_IP` を、Files Connect サーバーの TCP/IP アドレスになるように変更します。
6. 行 `Files Connect_Print_Accounting_Queue_Name` を、Files Connect Administrator に指定されているキューの名前になるように変更します。
7. PPD のニックネームを変更します。*NickName で始まる行があるはずですが。

8. デスクトップ プリンタの作成中に選択されると、この名前が表示されます。ニックネームを変更せず、代わりにインストールされた元の圧縮された PPD のままにしておくと、変更後の PPD を選択できなくなります。
9. テキスト エディタで PPD を拡張子 .ppd で保存します。標準のテキストエディットアプリケーションにより、拡張子 .txt を付加するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。**[.txt を付加しない]** をクリックして、PPD が再び圧縮されないようにします。

8 バックアップとリカバリ

警告: この手順は、同じバージョンをバックアップおよび復元する場合にのみ機能します。例：
10.6.1 をバックアップし、再び 10.6.1 をインストールする場合にはリカバリを使用できますが、
10.6.3 をインストールする場合にはこの方法を使用できません。

バックアップ

現在の Files Connect の設定をバックアップするには、次の操作を行う必要があります:

1. レジストリエディタを開きます（コマンドプロンプトを開き、「regedit」と入力します）。
2. HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\ExtremeZ-IP\に移動します。
3. ExtremeZ-IP フォルダを右クリックし、**[エクスポート]** を押します。
4. サーバーの障害に備えて、安全な場所（他のコンピュータやフラッシュドライブなど）にレジストリのバックアップを保存します。
5. すべての共有フォルダをバックアップします（別のコンピュータなどにコピーします）。
6. プロダクトキーがある場合は、そのキーを書き留めます。Files Connect Administrator で **[ライセンス]** ボタンを押すと、キーを確認できます。

現在の Files Connect のクラスタ化設定をバックアップするには、次の操作を行う必要があります:

1. レジストリエディタを開きます（コマンドプロンプトを開き、「regedit」と入力します）。
2. HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\

注意: <instance>は、現在のサーバー上のクラスタ化された Files Connect インスタンスの名前に置き換える必要があります。

3. <instance>フォルダを右クリックし、**[エクスポート]** を押します。

4. サーバーの障害に備えて、安全な場所（他のコンピュータやフラッシュドライブなど）にレジストリのバックアップを保存します。
5. すべての共有フォルダをバックアップします（別のコンピュータなどにコピーします）。
6. プロダクトキーがある場合は、そのキーを書き留めます。Files Connect Administrator で **[ライセンス]** ボタンを押すと、キーを確認できます。

リカバリ

設定をリカバリするには、次の手順を実行します。

1. レジストリのバックアップをレジストリにインポートします。
2. 以前に共有していたフォルダを貼り付けます（または再度作成します。ただし、以前と同じ場所に同じ権限で作成する必要があります）。
3. Files Connect のフレッシュコピーを、以前と同じバージョンを使ってインストールします。
4. プロダクト キーを入力します。

9 付録

セクションの内容

付録 A: レジストリ キーの使用	200
付録 B: Files Connect の監視	204

9.1 付録 A: レジストリ キーの使用

Files Connect Administrator を使用して構成できるものの他に、Windows レジストリ キーを使用して、Files Connect の一部の設定を変更できます。

Files Connect サービスのレジストリ設定は、レジストリの `\HKLM\System\CurrentControlSet\Services\ExtremeZ-IP` セクションにあります。次の例では、これを `...¥RegistryKeyName` と短縮しています。レジストリ キーには主に更新可能と更新不可の 2 種類があります。更新可能なキーは、Files Connect Administrator で [レジストリの更新] ボタンをクリックすると有効になります。一方、更新不可のキーは、サービスが再開されるまで有効になりません。

9.1.1 切断したセッションの再接続

Files Connect では、ネットワークの停止、サーバーの異常終了、またはクラスタのフェールオーバーに備えて、ユーザー セッションの再接続がサポートされています。また、Mac クライアントが異常終了または再起動した後、ロックされたファイルを自動的に閉じるという操作もサポートされています。

次のレジストリキーを使用して、セッションの切断後に Files Connect が行う再接続の方法に影響を与えることができます。

`...¥Parameters4¥Refreshable¥`

- `ServerSupportsReconnectUAM`
- `ReconnectTimeout`
- `ServerSupportsAFP3Reconnect`

- ReconnectServerKeyLifetime
- ServerEmbedsPasswordInReconnectCredential
- MaxDuplicateSessionsWaiting
- ReconnectUAMExpirationInterval

9.1.2 セッション中のパスワード期限切れ通知の送信

初期ログインで Mac クライアントユーザーにパスワードの期限切れが近づいていることを通知できるほか、Files Connect はセッション中にユーザーに通知するように構成することもできます。セッション中に通知を行うには、初期ログインの通知が有効である必要があります。このためには、**Files Connect Administrator** の **[設定]** ダイアログボックスの **[セキュリティ]** タブにある **[パスワードの期限切れを Mac クライアントに通知する]** オプションを選択します。ここでは、期限切れになるまでの日数も指定します。

次に、次の場所にある **PasswordExpirationReminderInterval** という名前のレジストリキーを編集します。

...¥Parameters4¥Refreshable¥

このレジストリキーの値によって、クライアントが次のパスワード期限切れを通知する間隔（分単位）が決まります。間隔は、1~1440 分（1 日）の範囲で構成できます。

9.1.3 EZIPUTIL による再インデックス化のスケジュール

デフォルトでは、Files Connect はインデックス検索用にファイル エントリを自動的に再インデックス化します。バッチファイルまたはスクリプトで EZIPUTIL を使用して、勤務時間外に設定済みのスケジュールで再インデックス化をスケジュールし、任意のスケジュールサービスでその再インデックス化を開始することもできます。このツールの詳細については、EZIPUTIL コマンドラインのセクション『267ページ』を参照してください。

1. 最初に、自動再インデックスを無効化するため、**[検索設定]** ダイアログボックスの **[スパーインデックスを自動的に再構築]** チェックボックスをオフにします（詳しくは、設定セクションを参照してください）。

2. EZIPUTIL.exe は、サーバー上で Files Connect プログラムのインストール先として選択したディレクトリにあります。EZIPUTIL ユーティリティに含まれている次のコマンドを使用して、ボリュームの再インデックス化を手動で開始します。

また、このユーティリティをスクリプトまたはバッチ ファイルで使用して、勤務時間外に再インデックス化をスケジュールすることもできます。

```
EZIPUTIL VOLUME /REINDEX /NAME:volumename /PATH:root directory path  
[/SERVICENAME:servicename]
```

SERVICENAME が必要になるのは、Files Connect がクラスタで実行中の場合のみです。

9.1.4 テキスト ファイルへの印刷ログ エントリの追加

新規の各印刷ログ エントリを指定のテキスト ファイルに自動的に追加するように Files Connect サーバーを構成するには、次の操作を実行します。

..¥Parameters4¥PrintRefreshable

1. レジストリで PrintAccountingLogFilePath を変更します。
2. この値をログへのフルパス（たとえば、C:\Logs\Log.txt）に設定します。

9.1.5 Files Connect の [印刷処理ログ] の列のカスタマイズ

レジストリ キーを使用すると、デフォルトの構成を上書きし、さまざまな列が任意の順序で表示されるように [印刷処理ログ] の表示をカスタマイズできます。通常の Files Connect 印刷サポート用の IP Printing と、Print Accounting 用の Print Accounting の 2 つの形式があります。どちらの形式も同じように構成されていますが、Print Accounting の方がオプションの数が多く、特別な考慮事項もあります。[印刷処理ログ] の使用に関する手順については、「##」を参照してください。

9.1.6 列

レジストリの REG_SZ 文字列エントリによって、カスタム構成が制御されます。文字列は、データのタイプをフォワード スラッシュ「/」で区切って追加する形式になっています。形式は、文字列値のタイプの順序と数に従います。

たとえば、表示を job_name、job_dateandtime、および job_printer のみに制限する場合は、文字列値として「job_name/job_dateandtime/job_printer」を入力します。

- **job_id**: Files Connect によってこの印刷ジョブ用に生成された固有の ID
- **job_name**: 印刷対象のファイルの名前
- **job_user**: 印刷ジョブを生成しているユーザーの名前
- **job_ip**: 印刷ジョブを送信したコンピュータの IP アドレス
- **job_datetime**: ジョブが送信された月/日/年および時刻
- **job_size**: 印刷対象のファイルのサイズ
- **job_pagecount**: 印刷ジョブのページ数
- **job_pagesize**: ジョブが印刷される用紙のタイプ
- **job_numcopies**: この印刷ジョブの部数
- **job_queue**: 印刷ジョブを処理している印刷キューの名前
- **job_printer**: 印刷ジョブを処理しているプリンタの名前
- **job_date**: 送信された印刷ジョブの月/日/年
- **job_time**: ジョブが送信された時刻
- **job_imagesize**: 送信された印刷ジョブのサイズ (ピクセル単位)
- **job_code1** 印刷ジョブと共に送信された Print Accounting 情報
- **job_code2** 印刷ジョブと共に送信された Print Accounting 情報
- **job_code3** 印刷ジョブと共に送信された Print Accounting 情報
- **job_code4** 印刷ジョブと共に送信された Print Accounting 情報
- **job_code5** 印刷ジョブと共に送信された Print Accounting 情報

デフォルトでは、Files Connect には特定の列順序があります。レジストリ キーが存在しない場合には、その順序が使用されます。次の例では、デフォルトの列を設定するキーを示します。カスタマイズの起点として使用できます。..¥Parameters4 ¥PrintRefreshable

レジストリパス: PrintAccountingLogFormat

タイプ: REG_SZ

データ (デフォルト):

job_name/job_user/job_host/job_ip/job_date/job_time/job_size/job_pagecount/job_pagesize/job_imagesize/

job_numcopies/job_queue/job_printer/job_code1/job_code2/job_code3/job_code4
/job_code5

9.2 付録 B: Files Connect の監視

Files Connect では、管理者および Acronis のサポートスタッフが、Files Connect の内部を調べて、サーバーの負荷を監視し、共有および印刷キューの問題を検出し、パフォーマンスのボトルネックを診断できます。Files Connect では、Windows パフォーマンス モニタ、Microsoft Operations Manager (MOM)、および実働環境のアプリケーションを監視するための Microsoft の汎用的なインターフェイスである Windows Management Interface (WMI)をサポートするその他の計測プラットフォーム用に、それぞれカウンタがサポートされています。WMI 対応アプリケーションは、管理者にエラーを警告し、問題の診断を支援します。

Files Connect に用意されているカウンタのほとんどは、Files Connect インスタンスまたはサーバーに対してグローバルです。ただし、ユーザー カウンタおよびボリューム カウンタの中には、管理者が単一インスタンスの表示を選択できるものもあります。たとえば、「インスタンス」を個々のユーザーの 1 秒あたりのバイト数にすることができます。

Files Connect のパフォーマンスカウンタは、Windows 2003 Server、Windows Server 2008、Windows Server 2012、Windows XP、Windows Vista、Windows 7 の 32 ビット版と 64 ビット版の両方と互換性があります。

9.2.1 Files Connect ファイル サーバー用のカウンタ

- **ユーザー (合計):** アイドル状態またはスリープ状態のユーザーも含め、現在接続中のユーザーの数
- **ユーザー (アイドル状態):** 10 分以上アイドル状態になっている、現在接続中のユーザーの数
- **ユーザー (スリープ):** スリープ状態の現在接続中のユーザーの数
- **ユーザー (アクティブ):** アクティブな (アイドル状態でもスリープ状態でもない)現在接続中のユーザーの数

- **ユーザー（再接続待機中）**: 既に終了した接続であるものの、ユーザーが再接続の待機中である接続を表すセッションの数
- **返信済み AFP コマンド**: 返信済みの AFP コマンドの数
- **返信済み AFP コマンド/秒**: 1 秒あたりの返信済みの AFP コマンドの数
- **ボリューム（合計）**: Files Connect ボリュームの数
- **ボリューム（オフライン）**: 現在オフラインの Files Connect ボリュームの数
- **ボリューム（オンライン）**: 現在オンラインの Files Connect ボリュームの数
- **ユーザー切断**: ユーザーが正常な手順を踏まずにサーバーから切断された回数
- **失敗したログオン**: パスワード、ユーザー名、または Kerberos チケットが無効であるために、ユーザーがログインに失敗した回数
- **再接続**: ユーザーがサーバーに再接続した回数
- **開くファイルの最大数**: 任意のある時点で開かれたファイル フォークの最大数
- **ファイル ロックの最大数**: 任意のある時点で配置されたファイル ロックの最大数
- **ユーザー（アクティブ）の最大数**: 任意のある時点でアクティブであったユーザーの最大数
- **ユーザー（アイドル状態）の最大数**: 任意のある時点でアイドル状態であったユーザーの最大数
- **ユーザー（スリープ）の最大数**: 任意のある時点でスリープ状態であったユーザーの最大数
- **ユーザー（合計）の最大数**: 任意のある時点でログインしていたユーザーの最大数
- **ユーザー（再接続待機中）の最大数**: 任意のある時点でユーザーが再接続の待機中であるセッションの最大数
- **スレッド プール サイズ**: スレッド プールに存在するスレッドの総数
- **スレッド プール（動作中）**: サンプリングの時点でアクティブに動作していた、スレッド プール内のスレッドの数
- **スレッド プール（静止）**: 1 分以上何も行わなかった、スレッド プール内のスレッドの数
- **スレッド プール（ストール状態）**: タスクを 1 分以上処理している、スレッド プール内のスレッドの数

- **スレッド プールの最大サイズ:** 任意のある時点でのスレッド プール内のスレッドの最大数
- **スレッド プール (動作中)の最大数:** サンプルングの時点でアクティブに動作していた、スレッド プール内のスレッドの最大数
- **使用済みユーザー ライセンス:** 使用中のユーザー ライセンスの現在の数

9.2.2 Files Connect ファイル サーバー ユーザー用のカウンタ

- **開かれたフォーク** - 開かれたフォークの数
- **ファイル ロック** - ファイル ロックの数
- **受信バイト数/秒** - ネットワークから読み取られた、1 秒あたりのバイトの数
- **送信バイト数/秒** - ネットワーク上で送信された、1 秒あたりのバイトの数
- **受信コマンド数/秒** - サーバーによって受信された、1 秒あたりのコマンドの数
- **処理コマンド数/秒** - サーバーによって処理された、1 秒あたりのコマンドの数

注意: ユーザーのカウンタは、個々のユーザーまたはすべてのアクティビティの合計として表示できます。

9.2.3 Files Connect ファイル サーバー ボリューム用のカウンタ

- **キャッシュ ヒット率:** ノード テーブル キャッシュ ヒット率
- **読み取りバイト数/秒:** ディスクから読み取られてクライアントに返された、1 秒あたりのバイトの数
- **書き込みバイト数/秒:** ディスクから書き込まれた、1 秒あたりのバイトの数

注意: ボリューム カウンタは、ボリューム単位または合計で表示できます。

9.2.4 Files Connect 印刷用のカウンタ

- **印刷キュー:** 印刷キューの数
- **オンラインの印刷キュー:** 現在オンラインの印刷キューの数
- **オフラインの印刷キュー:** 現在オフラインの印刷キューの数
- **スプール中のジョブ:** スプール中の印刷ジョブの現在の数

- **印刷バイト数/秒:** 印刷された、1 秒あたりのバイト数

9.2.5 Files Connect 印刷キュー用のカウンタ

- **オフラインの印刷ジョブ:** 現在オフラインの印刷ジョブの数
- **ジョブ エラー:** Files Connect が起動してからの印刷エラーの数
- **印刷済みジョブ総数:** Files Connect が起動してから印刷されたジョブの総数
- **印刷済みページ総数:** Files Connect が起動してから印刷されたページの総数
- **キューのオンライン:** キューがオンラインかどうかの表示 (オンラインの場合は 1、そうでない場合は 0)

注意: 印刷キュー カウンタは、キュー単位またはすべてのキューの合計で表示できます。

10 補足資料

セクションの内容

TCP/IP ポート	208
Files Connect サポートツール	209
Files Connect 互換性情報	213
Windows レジストリ キー	214
Files Connect ストリーム	265
EZPUTIL コマンドラインツール	267
ローカル SYSTEM アカウントでの Network Reshare および Kerberos 認証	278

10.1 TCP/IP ポート

Files Connect では、次の TCP/IP ポートが使用されます。

- **TCP** ポート **311** (デフォルト) - Time Machine の TCP/IP ポート。
- **TCP** ポート **548** (デフォルト) - AFP 接続の TCP/IP ポート。
- **TCP** ポート **8081** (デフォルト) - 印刷構成の TCP/IP ポート。
- **TCP** ポート **8081** (デフォルト) - クライアント Web サービスの HTTP TCP/IP ポート。
- **TCP** ポート **8085** (デフォルト) - クライアント Web サービスの HTTPS TCP/IP ポート。
- **TCP** ポート **515** (デフォルト) - 印刷ジョブの TCP/IP ポート。
- **TCP** および **UDP** ポート 5353* - Bonjour。
- **TCP** および **UDP** ポート 5353* - Bonjour (大規模データリターン)。

*両方のポートの種類を追加する必要があります。

注意: Bonjour のポートを追加しない場合は、Acronis Files Connect 内で対応する機能を無効にする必要があります。

AFP ポートに関する補足注意事項

Files Connect のインストール時に別の AFP サーバーがポート 548 で既に動作中の場合、Files Connect ではその次に使用可能なポートが使用されます（通常は 549）。Mac クライアント コンピューターはデフォルトで、AFP ボリュームにポート 548 で接続します。

サーバー アドレスの一部として別のポートを指定することにより、そのポート上の共有ボリュームに接続できます。たとえば、ポート 549 で実行されている AFP サーバーには、macOS の **[サーバーへ接続]** ダイアログで「fileserver.example.com:549」と指定することにより接続できます。

Files Connect が 548 以外のポートで実行中の場合には、Files Connect Administrator のメイン ウィンドウに警告が表示されます。

10.2 Files Connect サポートツール

免責条項: これらのツールはサポート対象外であり、テスト目的に限定して使用されます。

セクションの内容

Mac サポート アプリケーションおよびツール	209
Mac のパフォーマンス テスト アプリケーション	210
Windows サポート ツールおよびスクリプト.....	211
Windows アプリケーション	212

10.2.1 Mac サポート アプリケーションおよびツール

GetMore Info: 「情報を見る」ユーティリティの拡張 - ダウンロード

このアプリケーションは、ファイルまたはフォルダに関する情報を取得します。収集される情報は、Finder の「情報を見る」コマンドで収集される情報よりも大幅に詳細であり、情報を設定するためにも使用することができます。

10.2.2 Mac のパフォーマンス テスト アプリケーション

Helios LanTest: ファイル転送テスト - ウェブ ページ

Helios LanTest は、AFP サーバーのパフォーマンスをテストするために使用できるアプリケーションです。サーバー同士を比較する際に役立ちますが、I/O の問題のトラブルシューティングにも使用することができます。

Free For All: ファイル転送テスト - ダウンロード

このアプリケーションを使用して、小さいファイルの作成、削除、および移動を簡単にテストします。

Mount Volume: クライアント ログオンとボリューム マウントのテスト - ダウンロード

このアプリケーションを使用して、指定のボリュームのマウントとアンマウントを行います。関連するパフォーマンス データを収集することもできます。

Play Catch: ファイル転送テスト - ダウンロード

このアプリケーションを使用して、ファイル データの読み取りと書き込み、および選択したフォルダ間でのファイルの転送をテストします。

Enumeration Performance: フォルダ列挙テスト - ダウンロード

このアプリケーションを使用して、フォルダ階層全体の列挙に関するパフォーマンス情報を収集します。

Performance Test: ファイル転送テスト - ダウンロード

このアプリケーションを使用して、ファイル転送のパフォーマンス情報を収集します。

Search Performance: ネットワーク ボリューム検索テスト - ダウンロード

このアプリケーションを使用して、カタログ検索のパフォーマンス情報を収集します。「名前に含まれる文字」での検索のみをテストします。

Exchange File: AFP 交換ファイル操作のテスト - ダウンロード

このアプリケーションを使用して、AFP 交換ファイル操作 (Macintosh アプリケーションにより使用されることのある操作)を実行します。

File Utility: ファイル転送テスト - ダウンロード

このアプリケーションを使用して、大量のファイルまたはフォルダあるいはその両方を作成または削除します。

Lock File: ファイルのバイト範囲のロックのテスト - ダウンロード

このアプリケーションを使用して、選択したファイルに対してバイト範囲のロックを実行します。

10.2.3 Windows サポート ツールおよびスクリプト

Files Connect デバッグ ログのレジストリ設定ファイル: ダウンロード

これらのファイルを使用して、さまざまな Files Connect デバッグ ログ オプションを有効または無効にできます。

Streams: ウェブ ページ

Files Connect では、代替データ ストリームを使用して Macintosh 固有の情報を NTFS ファイル システムに保存します。これらのストリームは、Windows SysInternals Streams コマンド ライン アプリケーションを使用して表示および操作できます。

10.2.4 Windows アプリケーション

Microsoft ネットワーク モニタ 3.1 OneClick: ウェブ ページ

Microsoft ネットワーク モニタは、サーバー上のネットワーク トラフィックをキャプチャするアプリケーションです。OneClick バージョンはスタンドアロン アプリケーションで、複雑なインストール プロセスやネットワーク プロトコルの知識を必要としません。このアプリケーションは、Microsoft のサポート チームがエンド ユーザーのパケット キャプチャを支援するために Microsoft が作成したものです。キャプチャ フィルタを使用して対象を絞り込んだパケット キャプチャを実行したい場合は、OneClick_ExtractOnly.exe に、Microsoft の Netmon 完全版インストーラ (64 ビット版と 32 ビット版の両方)が含まれています。Files Connect のトラブルシューティングによく使用されるキャプチャ フィルタは、TCP.Port == 548 または IPv4.Address == x.x.x.x、あるいはこの両方です。

Robocopy (Windows Resource Kit): ウェブ ページ

Robocopy は、ファイルをそのセキュリティ情報や代替データ ストリームと共にコピーすることができるコマンド ライン プログラムです (Files Connect では、代替データ ストリームを使用して、リソース フォークと Macintosh メタデータを保存します)。Robocopy は、Windows サーバー間で Macintosh データを直接移行するために使用することができます。その際、コピーを実行するのに Macintosh を中間に置く必要がありません。

TextPad および Wintail: TextPad のウェブ ページ/Wintail のウェブ ページ

TextPad および Wintail は、Files Connect デバッグ ログのような大規模なテキスト ファイルを扱うのに適したシェアウェア アプリケーションです。ログ ファイルの書き込み時の監視には、特に Baretail が適しています。

Process Monitor: ウェブ ページ

Microsoft のリンク先ページでの概要文: 「Process Monitor はファイル システム、レジストリ、プロセスおよびスレッドの活動をリアルタイムで表示する、Windows 向けの高度な監視ツールです。Sysinternals のレガシー ユーティリティである 2 つの機能、Filemon

と Regmon を組み合わせたものに、豊富な非破壊フィルタ、包括的なイベント プロパティ (セッション ID、ユーザー名など)、信頼性の高いプロセス情報、各操作に対する統合されたシンボル サポートを備えたフル スレッド スタック、ファイルへの同時ログ記録など、広範囲の機能拡張が追加されています。独創的で強力な機能を持つ Process Monitor は、システムのトラブルシューティングやマルウェア検出において中核的な役割を果たすツールキットとなるでしょう」

Process Explorer: ウェブ ページ

Microsoft のリンク先ページでの概要文: 「実行中のプログラムがどのファイルまたはディレクトリを開いているか、確認したくなかったことはありませんか。このツールを使用すれば確認できます。Process Explorer では、プロセスが開いたりロードしたりしたハンドルおよび DLL の情報を確認できます。

Process Explorer の表示は 2 つのサブウィンドウで構成されています。上部のウィンドウには、常に現在アクティブなプロセスのリストが、プロセスを所有するアカウントの名前と共に表示されますが、下部のウィンドウに表示される情報は、Process Explorer のモードに応じて異なります。Process Explorer がハンドル モードの場合は、上部のウィンドウで選択したプロセスが開いているハンドルが表示されます。Process Explorer が DLL モードの場合は、プロセスがロードした DLL およびメモリ マップ ファイルが表示されます。また、Process Explorer の強力な検索機能により、どのプロセスが特定のハンドルを開いているか、または DLL をロードしたかを素早く確認できます」

10.3 Files Connect 互換性情報

Microsoft ネットワーク ドメインのサポート

- Files Connect では、Microsoft Active Directory がサポートされています。Mac から Files Connect サーバーに接続するときは、通常、ユーザー名およびパスワードを入力します。Files Connect では、実行中の Windows コンピューターのプライマリ ドメインに対してこのアカウントが認証されます。このコンピューターがドメインのメンバ

でない場合、アカウントはユーザー マネージャに表示されるローカル アカウントのメンバーである必要があります。コンピューターがドメインのメンバーである場合、指定するユーザー名はプライマリ ドメイン、ローカル アカウント、もしくは信頼関係にあるドメインのメンバーのいずれかになります。

- ユーザー名の前にドメイン名およびバックスラッシュ (\) を付けて、特定のドメインに対して認証することを指定できます。たとえば、「MARKETING」ドメインに属するアカウント「rob」を使用して認証するには、AFP クライアント ログオンのユーザー名の部分に「MARKETING\rob」と入力します。
- Files Connect では、Finder を使用して共有情報内のフォルダの所有者およびグループにアクセスする場合にも同じ方法が使用されます。

既知の問題

- Files Connect 内で Kerberos サポートが有効になっているものの、Files Connect サーバーから Active Directory サービスにアクセスできないか、またはこのアクセスに長い時間がかかる場合には、起動に 1 分ほどかかることがあります。Kerberos が不要である場合は、Files Connect の **[セキュリティ設定]** ダイアログ ボックスの **[Kerberos ログインを許可する]** チェックボックスをオフにして、この遅延を回避できます。

10.4 Windows レジストリ キー

アドバンス機能およびデバッグ オプションの中には、Windows レジストリで設定できるものがあります。このような設定は上級ユーザーのみが行うことをお勧めします。

注意: 別途規定のある場合を除き、次のすべてのレジストリ キーはタイプ **DWORD** のものです。

以下のパラメータの多くはオン/オフ値であり、値を 1 にすると特定の機能が有効になり、0 にすると無効になります。レジストリ キーがまだ存在しない場合は、新しい DWORD キーを作成し、適切な値に設定します。

いくつかのキーは更新 (リフレッシュ) 可能です。Files Connect サービスの実行中にキーの状態を変更できます。

更新可能なキーは、**Acronis Files Connect Administrator** の **[設定]** ダイアログボックスの **[レジストリの更新]** ボタンをクリックしたとき、または Files Connect サービスの開始時に有効になります。

更新不可キーを有効にするには、Files Connect サービスの再起動が必要です。

キーは、次のセクションに編成されています。

セクションの内容

一般的なパラメータ レジストリキー - 更新不可.....	215
一般的なパラメータ レジストリキー - 更新可能.....	227
デバッグログ レジストリキー - 更新可能	245
デバッグログ レジストリキー - 更新不可	249
印刷パラメータ レジストリキー - 更新可能	250
印刷パラメータ レジストリキー - 更新不可	252
ファイル名ポリシー レジストリキー - 更新可能.....	253
HTTP 検出レジストリキー - 更新可能	257
Spotlight レジストリキー - 更新可能	259
HSM レジストリキー - 更新可能	263
VSS レジストリキー - 更新可能.....	264

10.4.1 一般的なパラメータ レジストリキー - 更新不可

次のキーは Acronis Files Connect の特定の機能または動作を制御します。

このセクション内のキーは更新（リフレッシュ）不可です。これらを有効にするには、Files Connect サービスの再起動が必要です。

レジストリのロケーション:

```
\HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services\ExtremeZ-IP\Parameters\NonRefreshable
```

ActiveDirectoryComputers

- **説明:** Network Reshare ポリリュームに対する Kerberos 制約付き委任をサポートするように Files Connect を構成している場合に、Files Connect を実行しているサーバーのコンピューター オブジェクトが Active Directory のデフォルトの「**Computers**」コンテナに配置されていない場合は、このレジストリキーを編集して、Files Connect がサーバーのコンピューター オブジェクトの正しい識別名を構築できるようにする必要があります。

Files Connect サービスは識別名のうちサーバーの共通名 (**CN**)とドメインコンポーネント(**DC**)のセグメントを識別できるため、**ActiveDirectoryComputers** レジストリキーは、識別名のうちカスタム組織単位 (**OU**)のセグメントを入力できる場所です。

例: Files Connect サーバーのコンピューターオブジェクトの正規名が

`yourdomain.com/Marketing/3rdFloor/importantComputer` である場合

識別名は `CN=importantComputer,OU=3rdFloor,OU=Marketing,DC=yourdomain,DC=com`

Files Connect は `CN=importantComputer` および `DC=yourdomain,DC=com` セグメントを識別できるので、`OU=3rdFloor` および `OU=Marketing` セグメントをだけ追加する必要があります。

この例では、Files Connect サービスが `importantComputer` コンピューターオブジェクトを操作できるようにするには、**ActiveDirectoryComputers** レジストリキーの値に `'OU=3rdFloor,OU=Marketing'` (引用符なし)を設定する必要があります。

- **デフォルト:**
- **タイプ:** string
- **更新可能:** 不可

AllowNonIndexedSearches

- **説明:** 条件の 1 つとして「名前」が含まれていない検索を許可するかどうかを指定します。このような検索は非常に低速になり、検索の実行時にサーバーによる CPU 使用率がきわめて高くなる場合があります。このキーをオフにすると、条件の 1 つとして「名前」が含まれていない検索要求は拒否され、このようなタイプの検索の実行を試みたユーザーにはサーバーから適切な警告メッセージが送信されます。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 不可

CheckNtfsLastAccessUpdate

- **説明:** サーバーが起動時に **NtfsDisableLastAccessUpdate** という Windows レジストリ設定のステータスをチェックするかどうかを指定します。このキーが有効で、**NtfsDisableLastAccessUpdate** がオフの場合、Files Connect は警告を Windows イベント ログに記録します。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 不可

ClientDisconnectAtShutdownTime

- **説明:** サーバーのシャットダウン時に応答がないクライアントの切断をサーバーが待機する秒数を指定します。この秒数を過ぎると、正常な手順を踏まずに接続が終了します。注意: この値は、**ClientDisconnectTime** よりも大きな値である必要があります。
- **デフォルト:** 35
- **更新可能:** 不可

ClientDisconnectTime

- **説明:** 応答がないクライアントの切断をサーバーが待機する秒数を指定します。この秒数を過ぎると、正常な手順を踏まずに接続が終了します。
- **デフォルト:** 30
- **更新可能:** 不可

CreateCrashDumps

- **説明:** サービスの異常終了が検出された場合に、サーバーがアプリケーション ディレクトリにクラッシュ ダンプ ファイルの作成を試みるかどうかを指定します。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 不可

CreatePrecomposedMacRoman

- **説明:** Files Connect がサーバー上で OS X MacRoman ファイル名を合成済みの Unicode に変換するかどうかを制御します。この機能を有効にすると、MacRoman ファイルを Windows Explorer に正常に表示し、Adobe Acrobat や Distiller などのサードパーティアプリケーションとの互換性を確保できます。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 不可

DebugLogFolder

- **説明:** ファイルサーバーは Files Connect ログをこのフォルダに書き出します。
- **更新可能:** 不可

DisconnectStalledSession

- **説明:** ストールしたセッションを自動的に切断するかどうかを指定します。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 不可

EntryExpirationTime

- **説明:** 変更通知を完全にはサポートしていないファイル システムに Files Connect がファイル システム情報をキャッシュする時間 (秒単位)。
- **デフォルト:** 15
- **更新可能:** 不可

GlobalDtSearchIndexPath

- **説明:** dtSearch インデックスを保存する場所を変更します。デフォルトでは、このレジストリキーが空の場合、インストールフォルダ '`<installationPath>\ExtremeZ-IP dtSearch Indexes\`' に保存されます。
- **デフォルト:**
- **タイプ:** string

- **更新可能:** 不可

GlobalSearchIndexPath

- **説明:** すべてのカタログ検索インデックスを配置するグローバルパスを指定します。
- **デフォルト:**
- **タイプ:** string
- **更新可能:** 不可

IPAddress

- **説明:** Files Connect で使用する 1 つ以上の有効な IPv4 アドレスのサブセットを指定します。このキーが存在しない場合、Files Connect はすべてのアクティブなサーバー IPv4 アドレスで機能します。このキーのタイプは REG_MULTI_SZ (**multi string**) であり、キーを追加するには「regedt32.exe」を使用する必要があります。キーの値は、ラインフィードで区切られた IPv4 アドレス (たとえば、「192.168.1.101」) のリストである必要があります。この設定は、Files Connect 5.2.2 以降を実行中のクラスター化されたサーバーでは適用されますが、それ以前のバージョンの Files Connect を実行中のクラスター化されたサーバーでは無視されます。
- **デフォルト:** 存在しない
- **更新可能:** 不可

IPv6Address

- **説明:** Files Connect で使用する 1 つ以上の有効な IPv6 アドレスのサブセットを指定します。このキーが存在しない場合、Files Connect はすべてのアクティブなサーバー IPv6 アドレスで機能します。このキーのタイプは REG_MULTI_SZ (**multi string**) であり、キーを追加するには「regedt32.exe」を使用する必要があります。キーの値は、ラインフィードで区切られた IPv6 アドレス (たとえば、「2001:1::6045:1ff7:ed9c:91b2」) のリストである必要があります。この設定は、クラスター化されたサーバーでは無視されます。
- **デフォルト:** 存在しない
- **更新可能:** 不可

IPv6Enabled

- **説明:** IPv6 スタックがサーバーにインストールされている場合、AFP と LPR の両方で IPv6 接続のサポートを有効にします。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 不可

IPv6Strict

- **説明:** IPv6 接続の保護レベルを制御します。有効な値は、10 (無制限)、20 (デフォルト)、および 30 (厳格)です。値を 30 (厳格)に設定した場合、同じサイトのローカルな IPv6 アドレスのみを接続できます。値を 20 (デフォルト)に設定した場合、同じサイトのローカルな IPv6 アドレスおよび外部の IPv6 アドレスの両方を接続できます。10 (無制限)に設定した場合、Teredo NAT Traversal アドレスも含め、任意の IPv6 アドレスを接続できます。
- **デフォルト:** 20
- **更新可能:** 不可

LogMemorySettingsNotOptimized

- **説明:** Files Connect が [このサーバーのメモリ設定は正しく最適化されません] というメッセージをログに記録するかどうかを制御します。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 不可

MaxOutstandingTickles

- **説明:** クライアントによる応答失敗が許容される tickle の最大数。この数を超えると、サーバーは接続を終了します。
- **デフォルト:** 5
- **更新可能:** 不可

MaxSearchIndexSize

- **説明:** インデックス検索のキャッシュに使用可能な RAM の最大容量 (メガバイト単位)。検索のパフォーマンスを最大限に高めるためには、システム RAM が使用可能である場合、これをサーバー上のすべての検索インデックス ファイルの合計サイズ以上に設定するのが最善です。ファイル数が 100 万のインデックス ファイルの場合、サイズは約 32 MB になります。この設定は、上限が RAM の容量になることに注意してください。サーバーに 20 MB のインデックス ファイルのみが含まれている場合、設定がデフォルトの 200 MB のままであっても、Files Connect 検索では 20 MB の RAM のみが使用されます。
- **デフォルト:** 200
- **更新可能:** 不可

MaxUnflushedIDs

- **説明:** 強制的にフラッシュを実行する前に、メモリに保存できるフラッシュ対象外の ID/インデックスのペアの数。
- **デフォルト:** 60
- **更新可能:** 不可

PerformanceCounters

- **説明:** Files Connect によってパフォーマンス データがログに記録されるたびに、ログに出力される Windows パフォーマンス カウンタ。この複数行文字列には複数の行を含めることができ、各行は <説明>,<カウンタのパス> となります。カウンタのパスには、キーワード「Backup & Recovery Online」を指定できます。これは、任意のサービス名に置き換えられます。この設定に入力された値でデフォルトのカウンタが置き換えられることに注意してください。
- **デフォルト:**
"ZIP CPU Usage", "\\Process(Backup & Recovery Online)\\% Processor Time"
"Handles", "\\Process(Backup & Recovery Online)\\Handle Count"
"Threads", "\\Process(Backup & Recovery Online)\\Thread Count"
"Pool Paged Bytes", "\\Memory\\Pool Paged Bytes"
"Pool Nonpaged Bytes", "\\Memory\\Pool Nonpaged Bytes"

"Page Faults/sec", "\Process(Backup & Recovery Online)\Page Faults/sec"

- **更新可能:** 不可

RenameLogAtStartup

- **説明:** Files Connect のデバッグログが、サービスのスタートアップのたびに名前変更され、保存されます。
- **デフォルト:** 1
- **更新可能:** 不可

RespondsToTickles

- **説明:** 別の tickle を保持するクライアントからの tickle にサーバーが応答するかどうかを指定します。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 不可

ServerLogsPerformanceStats

- **説明:** サーバーが起動時にパフォーマンス データ ヘルパー DLL をロードし、その DLL を使用してパフォーマンスの統計情報をログに出力するかどうかを指定します。この機能を無効にすると (デフォルトでは有効)、Files Connect が起動時に PDH.dll をロードしようとするとうとハングするという、あまり発生しない問題に対処できます。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 不可

ServerRevertsToSystemForAFPInfo

- **説明:** 特定のシステムで Finder 情報にアクセスするためのデフォルトのメカニズムが非常に遅いという、あまり発生しない問題を修復します。この問題は、パフォーマンスが非常に低下するという形で表れます (マウントしたボリュームのルートを表示するだけで数分ほどかかります)。このキーを有効にする前に、GroupLogic サポートにお問い合わせください。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 不可

ServerUsesDefaultTypeCreator

- **説明:** Files Connect 4.0.3 以前、タイプおよびクリエータの情報がないファイルには text/dosa のデフォルトのタイプ/クリエータが付与されていました。バージョン 4.0.3 では、タイプおよびクリエータが不明なファイルの場合、タイプおよびクリエータが空白になるように、このデフォルトの動作が変更されました。この変更の目的は、良好なパフォーマンスを得ることです。この結果、特にギガビットを超えるほど小さなファイルを多数コピーするときには、パフォーマンスが向上します。ただし、お客様が以前のデフォルトの動作を利用する場合もあり、その場合、不明なファイルはテキストとして表示されます。このようなお客様に対しては、**ServerUsesDefaultTypeCreator** レジストリ キーを有効にしてください。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 不可

StartFileServerAtStartup

- **説明:** サービスの開始時に Files Connect ファイル サーバーをオンラインにするかどうかを指定します。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 不可

StartPrintServerAtStartup

- **説明:** サービスの開始時に Files Connect プリント サーバーをオンラインにするかどうかを指定します。
- **デフォルト:** オン (プリント サーバーのライセンスがない以前のバージョンの Files Connect から Files Connect がアップグレードされた場合を除きます)
- **更新可能:** 不可

StartupDelaySeconds

- **説明:** このキーを設定した場合、Files Connect は、Windows サービスの開始後、指定された秒数だけ待ってから、Files Connect ファイルおよび印刷サービスを実際に開始します。これは、Files Connect の依存するネットワークまたはストレージのリソース

が、サーバーの起動時に使用可能になるまでに通常よりも時間がかかる場合に使用できません。

- **デフォルト:** 0
- **更新可能:** 不可

SupportAFP3

- **説明:** AFP 3.1 のサポートを有効にします (この機能を無効にすると、Files Connect では AFP 2.2 のみがサポートされます)。AFP 3.1 機能には、32 文字を超えるファイル名、2 GB を超えるファイル サイズ、および Unicode 文字列のサポートが含まれています。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 不可

SupportAFP32

- **説明:** AFP 3.2 のサポートを有効にします (この機能を無効にすると、AFP3 キーが有効になっている場合、Files Connect では AFP 3.1 がサポートされます)。AFP 3.2 機能には、アクセス制御リスト (ACL) および拡張属性のサポートが含まれています。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 不可

SupportAFP33

- **説明:** AFP 3.3 のサポートを有効にします (この機能を無効にすると、SupportAFP32 キーが有効になっている場合、Files Connect では AFP 3.2 がサポートされます)。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 不可

SupportFileIDs

- **説明:** 有効にすると、ファイルサーバーがファイル ID 操作をサポートするようになります。
- **デフォルト:** オン

- **更新可能:** 不可

SupportNetworkReshares

- **説明:** 有効にすると、ファイルサーバーではリモートサーバーおよび共有を再共有できるようにになります。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 不可

SupportUNIXPermissions

- **説明:** サーバーが UNIX パーミッションをサポートするかどうかを指定します。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 不可

TCP_SO_RCVBUF

- **説明:** ソケット受信バッファのサイズ。
- **デフォルト:** 65536
- **更新可能:** 不可

TCP_SO_SNDBUF

- **説明:** ソケット送信バッファのサイズ。
- **デフォルト:** 46720
- **更新可能:** 不可

ThreadPoolDefaultStackSize

- **説明:** スレッド プール内のスレッドのデフォルトのスタック サイズ (バイト単位)。値を 0 にすると、スレッド プールに作成されたスレッドでは、デフォルトのプロセス スタック サイズ (通常 1 MB)が使用されます。
- **デフォルト:** 0
- **更新可能:** 不可

ThreadPoolInitialNumberThreads

- **説明:** スレッド プールに当初割り当てられるスレッドの数。
- **デフォルト:** 50
- **更新可能:** 不可

ThreadPoolMaxNumberThreads

- **説明:** スレッド プールに配置できるスレッドの最大数。
- **デフォルト:** 500
- **更新可能:** 不可

ThreadStackSize

- **説明:** 新規に作成された各スレッドのスタック フレームに対応するために確保されるプロセス アドレス空間のフラグメントのサイズ (キロバイト単位)。この機能は、Windows XP および Windows Server 2003 でのみ使用可能です。このパラメータの有効な値は、256~1024 です。
- **デフォルト:** 1024
- **更新可能:** 不可

TickleTime

- **説明:** クライアント接続の存続を維持するために、サーバーが「tickle」パケットをクライアントに送信する頻度を秒単位で指定します。このパケットは、その時点でソケット上に他のトラフィックがない場合にのみ送信されます。
- **デフォルト:** 30
- **更新可能:** 不可

UseAutoReindexing

- **説明:** 1/3 が古いエントリになった後、スパス検索インデックスを自動再構築するかどうかを指定します。
- **デフォルト:** オン

- **更新可能:** 不可

UseLazyIndexing

- **説明:** 「遅延」検索インデックスの使用を指定します。これにより、インデックス化は中程度から高程度のサーバー負荷の下で長い時間がかかりますが、他のサーバー プロセスにあまり影響を及ぼしません。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 不可

UseMacStylePermissions

- **説明:** Mac スタイルの権限を有効にします。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 不可

UseSearchIndexing

- **説明:** 検索インデックスをグローバルに有効/無効にします。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 不可

10.4.2 一般的なパラメータ レジストリキー – 更新可能

次のキーは Acronis Files Connect の特定の機能または動作を制御します。

このセクション内のキーは更新(リフレッシュ)可能です。これは、**Acronis Files Connect Administrator** の **[設定]** ダイアログボックスの **[レジストリの更新]** ボタンをクリックしたとき、または Files Connect サービスの開始時に有効になります。

レジストリのロケーション:

```
\HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services\ExtremeZ-IP\Parameters\Refreshable
```

AccessRightsExpirationInterval

- **説明:** ディスクからユーザー アクセス権がリロードされる前に、Files Connect によってそのアクセス権がキャッシュされる長さ (分単位)。グループのメンバーシップの変更が通知対象となっている場合は、アクセス権が定期的にリロードされる必要があります。
- **デフォルト:** 5
- **更新可能:** 可能

AdjustModificationDates

- **説明:** このレジストリキーを「1」に設定すると、変更日が作成日より古いファイルがある場合、Files Connect は Mac クライアントに示される変更日を作成日と同じ日付に変更します。このキーを有効にしても、ディスク上の実際の変更日は変更されません。この機能を有効にすると、ワークフローに重大な影響が出る可能性があるため、十分にテストしてから使用することをお勧めします。
- **デフォルト:** 0
- **更新可能:** 可能

AllowClearTextLogin

- **説明:** このキーの値を 1 に設定すると、Mac ユーザーはネットワーク上をクリアテキスト形式でパスワードを送信することにより接続できるようになります。デフォルト値設定は 0 であり、Mac ユーザーはクリアテキストのパスワードの送信を禁止されます。

注意: クリアテキストのパスワードにはセキュリティ上リスクがある可能性があり、8 文字に限定されています。Mac OS X バージョン 10.5 以降ではクリアテキスト認証は許可されません。

- **デフォルト:** 0
- **更新可能:** 可能

AllowPartialHexFooMatch

- **説明:** Files Connect が OS-9 スタイル (「hex foo」)のファイル名の部分マッチングを実行するかどうか。6.0.3 より前の機能を復元する場合はこれを無効にできますが、無効にすると、特定の Mac アプリケーションで障害が発生する可能性があります。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

CopyFileExBypassCacheThreshold

- **説明:** サーバー側のコピーが実行されたときに、このサイズより大きいファイルはシステム キャッシュをバイパスします。
- **デフォルト:** 2000 [MB]
- **更新可能:** 可能

DefaultDomainName

- **説明:** **DefaultDomainName** は、1 つ以上のデフォルト ドメインの指定を許可します。ログイン時に、Files Connect により、リストの表示順で指定したドメインへのユーザーのログインが試行されます。
- **デフォルト:** オフ (空白文字列)
- **タイプ:** Multi-string
- **更新可能:** 可能

DefaultGlobalPermissions

- **説明:** UNIX パーミッションを変更するために、クライアント要求から追加する UNIX パーミッション ビット。たとえば、クライアントが UNIX パーミッションを 700 に設定しようとしており、**DefaultGlobalUmask** が 022 の場合、UNIX パーミッションは 722 に設定されます。
- **デフォルト:** 0
- **更新可能:** 可能

DefaultGlobalUmask

- **説明:** UNIX パーミッションを変更するために、クライアント要求から削除する UNIX パーミッション ビット。たとえば、クライアントが UNIX パーミッションを 777 に設定しようとしており、**DefaultGlobalUmask** が 022 の場合、UNIX パーミッションは 755 に設定されます。
- **デフォルト:** 0
- **更新可能:** 可能

DFSDownServerRecheckInterval

- **説明:** (DFS 対応サーバーのみ)Files Connect が、稼働状態としてマークされたサーバーがオフラインになったかどうかを確認する頻度 (秒単位)。稼働状態のサーバーは即座に応答するため、これは上記の **DFSUpServerRecheckInterval** と比較して頻繁に実行されます。
- **デフォルト:** 60
- **更新可能:** 可能

DFSSyncInterval

- **説明:** (DFS 対応サーバーのみ)DFS 名前空間が再列挙される頻度 (秒単位)。これが 0 の場合、TimeToLive の最小値が使用されます。
- **デフォルト:** 0
- **更新可能:** 可能

DFSUpServerRecheckInterval

- **説明:** (DFS 対応サーバーのみ)Files Connect が、停止状態としてマークされたサーバーがオンラインに戻ったかどうかを確認する頻度 (秒単位)。サーバーが依然として停止している場合は、タイムアウトの確認ため時間がかかります。そのため、通常これは次の **DFSDownServerRecheckInterval** よりも大きい値にする必要があります。
- **デフォルト:** 300
- **更新可能:** 可能

DFSUseAdminNamespaceName

- **説明:** Files Connect の DFS コードで、入力したとおりに名前空間の名前を使用するか（有効の場合）、DFS 列挙に表示されるように使用するか（無効の場合）。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

DisableKeywordsProvider

- **説明:** キーワードプロバイダは、Windows ファイル エクスプローラーのタグを Mac クライアントに提供する Files Connect の機能です。このレジストリキーを無効化すると、参照時にパフォーマンス上の大きな負荷がかかる可能性があります。Files Connect がすべてのファイルのタグを取得する必要があるからです。この設定を変更した後は、Acronis Content Indexing 検索インデックスの再構築が必要です。詳細については、「インデックスオプション」を参照してください。
- **デフォルト:** 1
- **更新可能:** 可能

DisplaySerialInUI

- **説明:** Files Connect Administrator（ローカルまたはリモート）により、[バージョン情報] ボックスおよび [ライセンス] ダイアログにプロダクト キーが表示されるかどうか。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

EnumerationPerformanceOnLocalVolume

- **説明:** ローカルボリュームでの列挙パフォーマンスを有効にします。有効にするには、1 に設定します。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

EventLogOnWrap

- **説明:** EventLogOnWrap は、変更ジャーナルのラップが発生するたびにメッセージがイベント ログに書き込まれるかどうかを決定します。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

ForcedPasswordChangePeriod

- **説明:** ユーザーのパスワードの期限が切れる前に、Files Connect がユーザーにパスワードの変更を要求する期間 (日単位)。これを使用して、期限が切れる前にユーザーが確実にパスワードを変更するよう促すことができます。
- **デフォルト:** 0
- **更新可能:** 可能

FullCrashDump

- **説明:** 「オン」に設定すると、より詳細なデバッグ情報を含む、より大きいクラッシュ ダンプが Files Connect によって生成されます。これらのサイズは通常 100~200 MB になります。この設定を「オフ」に設定した場合、2~12 MB になります。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

IdleTimeoutNoOpenForks

- **説明:** アイドル状態のユーザーがタイムアウトした場合 (上記参照)、フォークを開いていないアイドル状態のユーザーを切断するまでの Files Connect の待機時間を制御します。これを 0 に設定すると、フォークを開いていないアイドル状態のユーザーがタイムアウトされなくなります。この値は分単位で指定します。
- **デフォルト:** 360 (6 時間)
- **更新可能:** 可能

IdleTimeoutOpenForks

- **説明:** アイドル状態のユーザーがタイムアウトした場合（上記参照）、フォークを開いているアイドル状態のユーザーを切断するまでの Files Connect の待機時間を制御します。これらのユーザーはデータを失う可能性があります。これを 0 に設定すると、フォークを開いているアイドル状態のユーザーがタイムアウトされなくなります。この値は分単位で指定します。
- **デフォルト:** 1440 (24 時間)
- **更新可能:** 可能

IgnoreExchangeFileSecuritySwap

- **説明:** ExchangeFile 処理中にサーバーがアクセス制御リスト (ACL) をスワップするコードを無視するかどうか。この設定は、UNIX パーミッションのサポートが無効のときのみ適用されます。有効な場合、ファイル サーバーで Files Connect 5.1.3 以前の (不正な) 動作が再現されます。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

IgnoreOffspringCount

- **説明:** 「オン」に設定すると、列挙中に Files Connect で任意のフォルダ内の項目数がカウントされません。これにより、潜在的に列挙のパフォーマンス (速度) が上がりますが、一部のサードパーティ アプリケーションに影響を与える場合があります。この設定を有効にする前に、GroupLogic サポートに連絡することをお勧めします。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

KeepOwnerSetByWindows

- **説明:** Files Connect で、Windows で設定されたファイルの所有者が維持されるかどうか。無効な場合、Files Connect によって所有者がファイルを作成したユーザーに設定されます。Administrators グループのメンバーによって作成されたファイルには、

Windows によって所有者として「Administrators」が割り当てられるため、これは Windows で割り当てられた所有者とは異なる場合があります。

- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

LoginMsgW

- **説明:** ログイン後すぐにユーザーに送信されるログイン メッセージ。この設定は、通常は Files Connect Administrator で編集しますが、この設定を直接編集して、より長いログイン メッセージに対応することができます。OS 9 との互換性のため、Administrator ではログイン メッセージを 199 文字に制限していますが、このレジストリ値を直接編集することにより、メッセージ長を 1024 文字まで増やすことができます。注意: Files Connect は 1024 文字までのログインメッセージをサポートしますが、最新バージョンの Mac OS X では 500 文字を超えるメッセージが表示されない点にご注意ください。
- **デフォルト:** 空白
- **更新可能:** 可能

MappingFlushFrequency

- **説明:** Files Connect が新しい ID/インデックスのペアをディスクにフラッシュする頻度 (秒単位)。この設定の値を小さくするとパフォーマンスが低下しますが、サーバーが異常終了した場合に、新しく作成されたファイル ID がディスクにコミットされるようになります。
- **デフォルト:** 600 (10 分)
- **更新可能:** 可能

MaxDuplicateSessionsWaiting

- **説明:** 単一のユーザー名を使用して、単一の IP アドレスからの再接続を待機できるセッションの最大数。
- **デフォルト:** 5
- **更新可能:** 可能

MaxEnumerationListSize

- **説明:** Files Connect が列挙情報のキャッシュ専用とするメモリの最大量 (MB)。
- **デフォルト:** 32
- **更新可能:** 可能

MaxIdPathMapSize

- **説明:** ID/パスのマップの最大サイズ (MB 単位)。このメモリ内データ構造は、1 つ以上の Files Connect ボリュームが NTFS 以外のファイル システム上にある環境でのみ使用されます。
- **デフォルト:** 800
- **更新可能:** 可能

MaxIORequestsPerSession

- **説明:** 各セッションで一度に許容される未処理の I/O 要求の最大数。
- **デフォルト:** 250
- **更新可能:** 可能

MaxNodeTableSize

- **説明:** ノード テーブル キャッシュのサイズ (MB)。キャッシュには共有しているファイルに関する情報のリストが含まれます。異なるキャッシュ サイズに設定して、パフォーマンスとメモリ使用量のトレードオフを調整することができます。Files Connect により、指定した制限まで、最近アクセスしたファイルの情報が RAM に保持されます。Mac ユーザーがノード テーブル キャッシュにないファイルを要求した場合、Files Connect によってディスクで検索が行われて情報が取得され、ノード テーブルに格納されます。最大キャッシュ サイズに達した場合、Files Connect によってノード テーブル内の最も古いエントリが破棄されます。[ファイル サーバーの設定] ダイアログの [キャッシュ サイズ] テキスト ボックスに最大サイズを指定することができます。許容される最大サイズは 500 MB です。レジストリ キーからさらに大きいサイズを設定できますが、これより大きいサイズに設定すると重大な問題が発生する可能性があります。

す。500 MB より大きいサイズを試す場合は、GroupLogic サポートにお問い合わせください。

- **デフォルト:** 20
- **更新可能:** 可能

MigrateHiddenSMBShares

- **説明:** 無効な場合、ファイル サーバーで非表示の SMB ファイル共有が移行されません。
- **デフォルト:** 0
- **更新可能:** 可能

PasswordExpirationReminderInterval

- **説明:** 期限切れが近いパスワードが存在することを示すメッセージを、接続しているユーザーに送信する頻度（分単位）。この機能を有効にするには、「SendPasswordExpirationWarnings」の設定を有効にする必要があります。
- **デフォルト:** 0
- **更新可能:** 可能

PasswordExpirationWarningThreshold

- **説明:** 期限が切れる前に警告を開始する日数（値は 1~366 にする必要があります）。これは、Files Connect Administrator で設定することもできます。
- **デフォルト:** 14 日
- **更新可能:** 可能

PruningInterval

- **説明:** PruningInterval は、Files Connect が Mac ファイル ID のリストを走査して古いレコードを削除する頻度を指定します。
- **デフォルト:** 10080 (1 週間)
- **更新可能:** 可能

ReconnectServerKeyLifetime

- **説明:** 新しいキーが自動的に生成される前の再接続サーバー キーが有効である時間 (分単位)。
- **デフォルト:** 2 週間 (20160 分)
- **更新可能:** 可能

ReconnectTimeout

- **説明:** 切断される前の再接続を待機しているセッションの待機時間 (分単位)。
- **デフォルト:** 5 分
- **更新可能:** 可能

ReconnectUAMExpirationInterval

- **説明:** 期限が切れる前の再接続資格情報が有効である時間 (秒単位)。
- **デフォルト:** 2 日 (172800 秒)
- **更新可能:** 可能

ReindexOnWrap

- **説明:** `ReindexOnWrap` は、変更ジャーナルのラップが発生したときにボリュームが自動的に再インデックス付けされるかどうかを決定します。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

ReplayCacheSize

- **説明:** 再生キャッシュのサイズ (キャッシュされた応答要求の数)。
- **デフォルト:** 32
- **更新可能:** 可能

RetryOpeningReparsePoints

- **説明:** 再解析エラーが発生した場合に、Files Connect が再解析ポイントを開くよう再試行するかどうか。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

SendPasswordExpirationWarnings

- **説明:** パスワードの期限切れ通知を有効にします。これは、Files Connect Administrator で設定することもできます。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

ServerAllows8Dot3Names

- **説明:** サーバーのファイルが Windows 8.3 のファイル名を使用したファイルおよびフォルダのアクセスをサポートするかどうか。Files Connect では、これらの 8.3 のファイル名は Mac クライアントに伝達されませんが、Windows と Mac のコンポーネントを含む Prinerigy などのワークフローにより、Mac クライアントがこれらの名前でファイルおよびフォルダを要求できるようになります。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

ServerAllowsLargeEABuffers

- **説明:** Files Connect が 4 KB を超える拡張属性のバッファをサポートするかどうか。Mac OS X 10.5.6 以降では、拡張属性を含むファイルがリモート サーバーにある場合、「ditto」コマンドでこれらのファイルを複製することはできません。この設定を有効にすると、Files Connect でこのクライアント側の問題を回避できます。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

ServerConvertsShortcutsToLinks

- **説明:** サーバーが Windows ショートカット (.lnk) ファイルを Mac クライアントにシンボリックリンクとして表示するかどうか。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

ServerCreatesEmptyStreams

- **説明:** 移行するドット アンダースコア ファイルが存在しないというマーカーとして、サービスにより空の代替データ ストリームが作成されるかどうか。この機能は以前のバージョンの Files Connect で有効でしたが、空の代替ストリームを多数作成すると、Rampage などの Windows 側のアクティビティが妨げられる可能性があるため、この機能は無効になりました。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

ServerDeletesMigratedDotUnderscoreFiles

- **説明:** Files Connect により、リソース フォークおよび Finder の情報ストリームへの移行後に SMB ドット アンダースコア (.) ファイルが削除されるかどうか。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

ServerDisconnectsGhostedUsers

- **説明:** クライアントがログインしたときに、サーバーによってゴースト ユーザーが切断されるかどうか。ゴースト ユーザーは、ログイン ユーザーのコンピューターからログイン ユーザーと同じユーザー/ドメイン名でログインしたユーザーとして定義されています。この機能により、クライアントが再接続しない場合、再接続のタイムアウトが発生する前に、再接続を待機しているクライアントが切断されるようにすることができます。
- **デフォルト:** 1
- **更新可能:** 可能

ServerEmbedsPasswordInReconnectCredential

- **説明:** サーバーが再接続資格情報内にユーザーのパスワードを埋め込むかどうか。これを実行すると、すべての認証データが資格情報内に存在するため、サーバーが再起動された後も、ユーザーが再接続できるようになります。ただし、この機能を有効にすることは、すべてのユーザー パスワードが同じサーバー キーで暗号化されることを意味します。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

ServerIgnoresReadOnlyFolders

- **説明:** 有効な場合、Windows で「読み取り専用」とマークされていても、サーバーでフォルダがロック状態として表示されません。Windows の読み取り専用ディレクトリは名前変更、削除、およびファイルの追加と削除が可能であるため、Windows の読み取り専用属性は、実際には Macintosh のロック属性とは対応しません。フォルダにカスタム アイコンなどのカスタマイズされたビューがある場合、Windows で読み取り専用とマークされます。OS 10.4.6 以降では、ネットワークを経由したフォルダが、ロック状態として表示される場合があります。また、この設定を有効にすると、フォルダのロック ステータスを変更する要求がサーバーに無視されるようになります。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

ServerMigratesDotUnderscoreFiles

- **説明:** Files Connect により、SMB ドット アンダースコア (._)ファイルがリソース フォークおよび Finder の情報ストリームに移行されるかどうか。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

ServerNotificationTime

- **説明:** クライアントが開いたボリュームが変更されたという通知をサーバーがクライアントに送信する頻度 (秒単位)。サーバーの通知を無効にするには、0 に設定します。

- **デフォルト:** 10
- **更新可能:** 可能

ServerOpensExchangeFileHandlesByFullPath

- **説明:** ExchangeFiles 操作の実行中にサーバーが (ファイル ID ではなく)完全なパスを使用してフォルダを開くかどうか。この設定は Windows 2008 で役立ちます。Mac クライアントで ExchangeFiles コマンドを使用して、クライアント アプリケーションを介して Files Connect ボリュームにファイルを保存すると、Windows 2008 ではブルー スクリーンが発生する可能性があります。このコマンドは、Microsoft Word を含む多数のアプリケーションで使用されます。ExchangeFile 処理中に ID ではなく完全なパスを使用してフォルダを開くと、この Windows 2008 のバグをパイパスできます。この問題は Microsoft で確認されており、今後修正が発行される予定です。
- **デフォルト:** Windows 2008 以降ではオン、それより前のバージョンの OS ではオフ
- **更新可能:** 可能

ServerRemovesTemporaryItems

- **説明:** シャットダウン時に、Files Connect が「Temporary Items」フォルダと「.TemporaryItems」フォルダを削除するかどうか。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

ServerResetsPermissionsOnMove

- **説明:** フォルダの移動後にそのフォルダが新しい親フォルダからアクセス許可を継承するように、Files Connect がフォルダのアクセス許可をリセットするかどうか。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

ServerSupportsReconnectUAM

- **説明:** サーバーが Reconnect UAM をサポートするかどうか。
- **デフォルト:** オン

- **更新可能:** 可能

ServerTruncatesOS9Comments

- **説明:** OS 9 スタイルのコメントがデフォルトの 199 バイトではなく 127 バイトに切り詰められます。このキーを有効にすると、127 文字より多いコメントが作成されたときに異常終了するという、Photoshop CS2 のバグが修正されます。Photoshop CS2 が OS X アプリケーションである場合でも、OS 9 のコメントが求められます。これは Mac OS X 10.4.6 で発生する既知の問題です。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

ServerUsesRelativeHandles

- **説明:** Files Connect がフォルダ ハンドルに関連してファイル ハンドルを開くかどうかを制御します。CommVault の Simpana ソフトウェアのユーザーはこの設定を無効にする必要があります。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

SetEOFOnResize

- **説明:** SetEOFOnResize は、サーバーに書き込まれるファイルが書き込み中であるとして、ファイルの EOF がアップデートされるかどうかを規定します。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

ShowInaccessibleFiles

- **説明:** ユーザーが「属性の読み取り」以上を持たないファイルを、そのユーザーが表示できるかどうかを制御します。「属性の読み取り」プロパティは、ファイルを読み取ることができることを意味するわけではなく、ファイルのアクセス許可とその他の属性を表示できるだけです。
- **デフォルト:** オン

- **更新可能:** 可能

ShowInaccessibleFolders

- **説明:** ユーザーが読み取りアクセス権限も書き込みアクセス権限も持たないフォルダを、そのユーザーが表示できるかどうかを制御します。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

SleepTimeout

- **説明:** スリープ状態のセッションがタイムアウトするまでの時間（分単位）。
- **デフォルト:** 1440
- **更新可能:** 可能

SlowAFPCommandLogFrequency

- **説明:** 遅い AFP コマンドに関する情報をサーバーがログに記録する頻度（秒単位）。この値を 0 に設定すると、遅い AFP コマンドのログ記録は無効になります。
- **デフォルト:** 3600（1 時間）
- **更新可能:** 可能

SupportACLs

- **説明:** サーバーがアクセス制御リスト（ACL）をサポートするかどうか。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

SupportCopyFileEx

- **説明:** パフォーマンスの向上のため、サーバーが新しいサーバー側のコピー セマンティクスをサポートするかどうか。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

SupportSCP

- **説明:** サーバーがそのサーバー自体をサービス接続ポイント (SCP)として Active Directory に登録するかどうか。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

TimeoutIdleUsers

- **説明:** アイドル状態のユーザーが一定時間経過後にタイムアウトするかどうかを制御します。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

UNIXCalculatedPermissionsMode

- **説明:** まだ UNIX パーミッションが割り当てられていないファイルおよびフォルダに対する UNIX パーミッションの計算方法を決定します。0 の場合、Windows の `GetEffectiveRightsFromACL` の呼び出しを使用して UNIX パーミッションが決定されます。1 の場合、パフォーマンスを向上させることが可能であれば、`GetEffectiveRightsFromACL` の呼び出しが回避されます。2 の場合、明示的な UNIX パーミッションが割り当てられていないと、常に UNIX パーミッションが 777 (完全な権利)として返されます。
- **デフォルト:** 1
- **更新可能:** 可能

UNIXGroupPermissionsMode

- **説明:** まだ UNIX パーミッションが割り当てられていないファイルおよびフォルダに対するグループの UNIX パーミッションの計算方法を決定します。0 の場合、`UNIXCalculatedPermissionsMode` で設定された計算モードが使用されます。1 の場合、グループのパーミッションは、(プライマリ グループだけではなく)すべてのグループのパーミッションの合計になります。2 の場合、明示的な UNIX パーミッションが割

り当てられていないと、常にグループの UNIX パーミッションが 7 (完全な権利)として返されます。

- **デフォルト:** 0
- **更新可能:** 可能

UnixOwnerPermissionsMode

- **説明:** このレジストリキーは、製品で **[UNIX パーミッションと ACL のサポート]** が有効になっている場合にのみ機能します。所有者がいない、所有者が無効になっている、またはアクセスできないファイルに対して、管理者にフルコントロール権限を与えます。
- **デフォルト:** 7 (アップグレードすると 0 になります)
- **更新可能:** 可能

WriteFlushThreshold

- **説明:** Files Connect によって強制的にディスクにフラッシュされる前に、開かれたフォークに書き込むことができるデータのバイト数を指定します。この値を 0 に設定すると、これらのフラッシュは発生しません。値が小さいと、多数のフラッシュが強制的に実行されます。このようにすると、多数の書き込みに対応してフラッシュが実行されることで、ファイル システムの長時間の遅延が定期的発生することの防止に役立ちます。
- **デフォルト:** 0
- **更新可能:** 可能

10.4.3 デバッグログ レジストリキー – 更新可能

次のキーは Acronis Files Connect の特定の機能または動作を制御します。通常、これらはアクロニスサポートからの要請があった場合にのみ変更または有効化する必要があります。

このセクション内のキーは更新(リフレッシュ)可能です。これは、**Acronis Files Connect Administrator** の **[設定]** ダイアログボックスの **[レジストリの更新]** ボタンをクリックしたとき、または Files Connect サービスの開始時に有効になります。

レジストリのロケーション:

`\HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services\ExtremeZ-IP\Parameters4\DebugRefreshable`

AppleDoubleIntegrity

- **説明:** Files Connect が **AppleDouble** コードに対する追加ランタイム チェックを実行するかどうか。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

CopyDebugLog

- **説明:** エラー発生時またはユーザーが要求したときに、Files Connect が新しいデバッグ ログを作成できるかどうか。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

CriticalSectionMonitorLogFrequencyInMilliseconds

- **説明:** (有効の場合)重要なセクション監視のログ記録の頻度 (ミリ秒単位)。デフォルトは 1 分です。
- **デフォルト:** 60000
- **更新可能:** 可能

DebugLogLimit

- **説明:** 1~999 のログ ファイルの制限サイズ (MB)。
- **デフォルト:** 200
- **更新可能:** 可能

DebugLogThrowThreadException

- **説明:** DrWatson ログのテスト生成に対し、サーバーが例外をスローして異常終了します。使用方法については、GroupLogic にお問い合わせください。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

DisplayTimeAsNumeric

- **説明:** 時刻を数値で表示するか h-m-s-ms で表示するかを選択します。h-m-s-ms するには 0、数値するには 1 を選択します。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

EventLogNoFC

- **説明:** サービスがフルコントロール アクセス許可を持っていない場合にイベントログに情報を書き込みます。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

IdPathMapIntegrity

- **説明:** Files Connect が内部の ID/パスのマップに対する追加ランタイム チェックを実行するかどうか。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

MaxLogArchiveSize

- **説明:** 保持する古いログのサイズ (MB)。このサイズを超えると最も古いログが自動的に削除されます。ログが自動的に .zip ファイルにアーカイブされて容量が節約されます。これが 0 に設定されている場合は、アーカイブは実行されず、ログ ファイルの累積サイズも制限されません。

- **デフォルト:** 200 [MB]
- **更新可能:** 可能

NetworkReshareIntegrity

- **説明:** 有効にすると、実行時に Network Reshare ボリュームの整合性が確認されます。これはパフォーマンスに影響を与えます。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

RenameCopyDebugLog

- **説明:** 1 に設定すると、新しいログを作成するようユーザーが要求したときに、現在のログが名前変更されて新しいログが作成されます。0 に設定すると、現在のログは名前変更されずにコピーされます。このキーを有効にするには、**CopyDebugLog** を 1 に設定する必要があります。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

SpoolingLog

- **説明:** アクティブ ログがサイズ制限に達したときに、サーバーによって新しいログにスプールされます（上記の「**DebugLogLimit**」を参照）。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

SupportWER

- **説明:** Files Connect が Windows エラー報告 (WER)をサポートするかどうか。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

10.4.4 デバッグログ レジストリキー – 更新不可

次のキーは Acronis Files Connect の特定のデバッグログ機能を制御します。通常、これらはアクロニスサポートからの要請があった場合にのみ変更または有効化する必要があります。

このセクション内のキーは更新（リフレッシュ）不可です。これらを有効にするには、Files Connect サービスの再起動が必要です。

レジストリのロケーション:

```
\HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services\ExtremeZ-IP\Parameters4\DebugNonRefreshable
```

CompareMicrosecondsToTickCount

- **説明:** サーバーはスタートアップ時にタイミング統計をログに記録します。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 不可

DebugLogFolder

- **説明:** ログのサブフォルダが配置されるディレクトリ。
- **デフォルト:** Files Connect アプリケーション ディレクトリ
- **タイプ:** String
- **更新可能:** 不可

RenameLogAtStartup

- **説明:** 起動時に、Files Connect によって、アーカイブが簡単になるように現在の日時に既存のログが名前変更されます。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 不可

UseCriticalSectionMonitor

- **説明:** Files Connect 内の重要なセクションに関する詳細情報をログに記録します。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 不可

10.4.5 印刷パラメータ レジストリキー - 更新可能

次のキーは、Acronis Files Connect プリントサーバーがインストールされている場合、その特定の機能または動作を制御します。

このセクション内のキーは更新(リフレッシュ)可能です。これは、**Acronis Files Connect Administrator** の **[設定]** ダイアログボックスの **[レジストリの更新]** ボタンをクリックしたとき、または Files Connect サービスの開始時に有効になります。

レジストリのロケーション:

```
\HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services\ExtremeZ-IP\Parameters4\PrintRefreshable
```

IPPrintLPRPort

- **説明:** 受信 (LPR)印刷ジョブをリッスンする Files Connect で使用されるポート。
- **デフォルト:** 515
- **更新可能:** 可能

PersistentMappedNetworkFolderPrintQueues

- **説明:** **[指定のディレクトリへの送信]** が設定されており、パスがネットワーク フォルダである印刷キューは、ネットワーク フォルダをローカル ドライブにマッピングします。このマッピングは、Files Connect サーバーが稼働している限り維持されます。このレジストリ キーが 0 に設定されていると、マッピングされたネットワーク フォルダは各印刷ジョブに対してのみ維持されます。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

PostscriptCodePage

- **説明:** PostScript ファイルの解析時に使用される Macintosh コード ページ。デフォルトでは、この設定はシステムのレジストリ値「HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Nls\CodePage\MACCP」からコピーされます。
- **デフォルト:** 10000
- **更新可能:** 可能

PrintAccountingLogFilePath

- **説明:** Print Accounting のログ情報を出力するための完全なパス。
- **デフォルト:** N/A
- **タイプ:** String
- **更新可能:** 可能

ServerAutoDeleteOfflineJobsTime

- **説明:** ジョブをオフラインにすることができる時間（秒単位）。この時間を過ぎると、サーバーによってそのジョブが自動的に削除されます。オフラインのジョブの削除を無効にする場合は 0 に設定します。
- **デフォルト:** 0
- **更新可能:** 可能

ServerAutoRetryJobsFrequency

- **説明:** サーバーがオフラインのジョブを自動的に再試行する頻度（秒単位）。
- **デフォルト:** 300（5 分）
- **更新可能:** 可能

ServerCombinesLPRPackets

- **説明:** 有効な場合、以前に個別に送信された LPR パケットが Files Connect によって使用され、より大きなパケットに組み込まれます。

- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

ServerLogsJobErrorFrequency

- **説明:** オフラインのジョブの自動再試行中に発生したエラーをサーバーがログに記録する頻度 (秒単位)。
- **デフォルト:** 3600 (1 時間)
- **更新可能:** 可能

ServerPrintJobTimeout

- **説明:** リモート プリンタに送信中のジョブを「スタック」にすることができる時間 (ミリ秒単位)。この時間を過ぎると、プリント サーバーによってそのジョブがオフラインになります。
- **デフォルト:** 300000 (5 分)
- **更新可能:** 可能

ZidgetSupportsPrintAccounting

- **説明:** OS 9 Print Accounting のサポートと新しい Files Connect Zidget のサポートの競合のため、Files Connect 5.1 ではデフォルトで OS 9 Print Accounting のサポートが無効になっています。OS 9 Print Accounting のサポートを再度有効化する場合は、このレジストリ値を 0 に設定します。これにより、Zidget クライアントが Print Accounting のキューに適切にアクセスできなくなることに注意してください。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

10.4.6 印刷パラメータ レジストリキー - 更新不可

次のキーは、Acronis Files Connect プリントサーバーがインストールされている場合、その特定の機能または動作を制御します。

このセクション内のキーは更新 (リフレッシュ)不可です。これらを有効にするには、Files Connect サービスの再起動が必要です。

レジストリのロケーション:

`\HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services\ExtremeZ-IP\Parameters4\PrintNonRefreshable`

PrintSupportEnabled

- **説明:** プリント サーバーを有効にするかどうか。無効にするには、0 に設定します。無効な場合、Administrator を介して印刷することはできません。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 不可

SupportPrintAccounting

- **説明:** プリント サーバーが Print Accounting をサポートするかどうか。無効にするには、0 に設定します。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 不可

10.4.7 ファイル名ポリシー レジストリキー – 更新可能

次のキーは Acronis Files Connect ファイル名ポリシー機能の特定の機能または動作を制御します。

このセクション内のキーは更新(リフレッシュ)可能です。これは、**Acronis Files Connect Administrator** の [設定] ダイアログボックスの [レジストリの更新] ボタンをクリックしたとき、または Files Connect サービスの開始時に有効になります。

レジストリのロケーション:

`\HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services\ExtremeZ-IP\Parameters4\Refreshable\FilenamePolicy`

AppliesToAllVolumes

- **説明:** ファイル名ポリシーをすべてのボリュームに適用するかどうか。有効にするには、1 に設定します。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

AppliesToTemporaryItems

- **説明:** ファイル名ポリシーを一時項目フォルダに適用するかどうか。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

ErrorMessage

- **説明:** ファイル名ポリシーに違反したユーザーに送信するカスタムのエラー メッセージ。
- **デフォルト:**
- **タイプ:** String
- **更新可能:** 可能

EventLogMessageFrequency

- **説明:** 特定のユーザーがファイル名ポリシーに違反したときに、Files Connect が Windows イベント ログにメッセージを記録する頻度 (秒単位)。
- **デフォルト:** 600 (10 分)
- **更新可能:** 可能

GloballyEnabled

- **説明:** ファイル名ポリシー機能をグローバルに有効にするかどうか。有効にするには、1 に設定します。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

IllegalCharacters

- **説明:** ファイル名ポリシーでファイル名およびフォルダ名に許可しない文字のリスト。
- **デフォルト:**
- **タイプ:** String
- **更新可能:** 可能

IllegalExtensions

- **説明:** ファイル名ポリシーでファイル名に許可しない拡張子のリスト。
- **デフォルト:**
- **タイプ:** Multi-String
- **更新可能:** 可能

MaxLengthFileName

- **説明:** ファイル名の最大長。ファイル名ポリシーのルールを無効にする場合は 0 に設定します。
- **デフォルト:** 0
- **更新可能:** 可能

MaxLengthFolderName

- **説明:** フォルダ名の最大長。ファイル名ポリシーのルールを無効にする場合は 0 に設定します。
- **デフォルト:** 0
- **更新可能:** 可能

MaxLengthPathName

- **説明:** ファイルおよびフォルダの完全なパスの最大長。ファイル名ポリシーのルールを無効にする場合は 0 に設定します。
- **デフォルト:** 0
- **更新可能:** 可能

MaxViolationsReported

- **説明:** 1 ボリュームあたり報告される違反の最大数を設定します。
- **デフォルト:** 20000 (10 進数)
- **更新可能:** 可能

PreventDS_StoreFileCreation

- **説明:** 有効にすると、Files Connect は .DS_Store ファイルの作成を禁止します。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

RejectPolicyFailures

- **説明:** ファイル名ポリシーの違反が拒否される (値が 1 の場合)か、ユーザーに警告が表示されるが、操作は許可される (値が 0 の場合)か。
- **デフォルト:** 1
- **更新可能:** 可能

RestrictNonDisplayable

- **説明:** 有効にすると、ファイル名ポリシーにより、Windows エクスプローラーで表示できない文字が制限されます。有効にするには、1 に設定します。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

UserMessageFrequency

- **説明:** ファイル名ポリシーに違反したことを示すメッセージをユーザーに送信できる頻度 (秒単位)。
- **デフォルト:** 5
- **更新可能:** 可能

10.4.8 HTTP 検出レジストリキー – 更新可能

次のキーは Acronis Files Connect HTTP 検出機能の特定の機能または動作を制御します。

このセクション内のキーは更新(リフレッシュ)可能です。これは、**Acronis Files Connect Administrator** の **[設定]** ダイアログボックスの **[レジストリの更新]** ボタンをクリックしたとき、または Files Connect サービスの開始時に有効になります。

レジストリのロケーション:

```
\HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services\ExtremeZ-IP\Parameters4\Refreshable\HTTPDiscovery
```

HTTPDiscoveryDFSOption

- **説明:** 有効にすると、DFS ボリュームが HTTP 検出サービスによって検出されるようになります。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

HTTPDiscoveryDocumentRoot

- **説明:** HTTP サーバーの HTML ファイルの場所。これは、クラスターの異なるノードが同じ HTML ファイルを共有するように設定できます。
- **デフォルト:** 空白。これはファイルが ["<application directory>\HTML Files\"] (「C:¥Program Files¥Group Logic¥Files Connect¥HTML Files¥」など)から取得されることを示します。
- **更新可能:** 可能

HTTPDiscoveryExtraContentTypes

- **説明:** Files Connect の内部 Web サーバーがサポートする、関連する拡張子が付けられたコンテンツ タイプのリスト。拡張子の標準セット (html、xml、gif、jpg、ico、zip)が適切なコンテンツ タイプに自動的に割り当てられます。このレジストリ設定で

は、追加のコンテンツ タイプのカスタマイズを行うことができます。フォーマットは「拡張子,コンテンツ タイプ」で、各ペアがそれぞれ独自の行に含まれます。

- **デフォルト:** `css,text/css | js,application/x-javascript | pdf,application/pdf | doc,application/msword | htm,text/html`
- **更新可能:** 可能

HTTPDiscoveryFileOption

- **説明:** Files Connect ファイル サーバーが HTTP 経由で検出可能かどうか。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

HTTPDiscoveryMasterHostName

- **説明:** Files Connect の HTTP 検出プライマリ サーバーの名前。
- **デフォルト:** 「ExtremeZIPServerList」
- **タイプ:** String
- **更新可能:** 可能

HTTPDiscoveryMinimumZidgetVersion

- **説明:** 最小要件となる Zidget のバージョン番号。これより古いバージョンの Zidget と接続するクライアントには、アップグレードを要求するプロンプトが表示されます。クライアントに Zidget をアップグレードする許可がなく、アップグレードのプロンプトを無効にすることが求められる場合は、このバージョンの設定を使用できます。詳細については、GroupLogic のサポートにお問い合わせください。
- **更新可能:** 可能

HTTPDiscoveryPrintOption

- **説明:** Files Connect プリント サーバーが HTTP 経由で検出可能かどうか。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

HTTPDiscoveryServerPort

- **説明:** HTTP 検出用の TCP ポート番号。
- **デフォルト:** 8081
- **更新可能:** 可能

HTTPDiscoveryServerResolvesIPAddresses

- **説明:** クライアント (Zidget)が IP アドレスを介してサーバーに接続する場合、Files Connect がサーバー リストの XML ファイルに完全修飾名を埋め込もうとするかどうか。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

HTTPDiscoveryServerZone

- **説明:** HTTP 検出ゾーンの名前。
- **デフォルト:** 「Global」
- **タイプ:** String
- **更新可能:** 可能

10.4.9 Spotlight レジストリキー – 更新可能

次のキーは Acronis Files Connect Network Spotlight サポートの特定の機能または動作を制御します。

このセクション内のキーは更新(リフレッシュ)可能です。これは、**Acronis Files Connect Administrator** の **[設定]** ダイアログボックスの **[レジストリの更新]** ボタンをクリックしたとき、または Files Connect サービスの開始時に有効になります。

レジストリのロケーション:

```
\HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services\ExtremeZ-IP\Parameters\Spotlight\Refreshable\
```

dtSearchExcludeFromIndexingList

- **説明:** インデックス化しない文字列、パス、ファイルタイプをカンマ区切りのリストで指定します。
- **デフォルト:** ''
- **タイプ:** string
- **更新可能:** 可能

dtSearchIndexFileNameAndSize

- **説明:** 有効にすると、ファイルサイズ メタデータが Acronis Content Indexing インデックスに含まれます。これは**ファイル名のみ**のインデックスに適用されます。**コンテンツとファイル名**のインデックスには、常にこのメタデータが含まれます。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

dtSearchIndexFinderTags

- **説明:** 有効にすると、Finder タグメタデータが Acronis Content Indexing インデックスに含まれます。これは**ファイル名のみ**のインデックスに適用されます。**コンテンツとファイル名**のインデックスには、常にこのメタデータが含まれます。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

dtSearchIndexIsAccentSensitive

- **説明:** 有効にすると、発音区別記号 (アクセント、リング、カール、フック、チルダ、上付きドット、下付きドットなど)を含むテキストは、検索文字列内に正確に特殊文字を使用した場合にのみ検出されます。たとえば、単語 **façade**、**niño**、**ř eka**、**barbă**、**på**、**brød** は、**facade**、**nino**、**reka**、**barba**、**pa**、**brod** を検索した場合には検出されません。

無効にした場合、特殊文字は対応する基本文字 (ę =e、ü=u、č =c など)として扱われ、発音区別符号が省略されたり間違っていたりしてもファイルが検出されます。

目的の結果を得るには、この設定を変更した後 Acronis Content Indexing 検索インデックスを再構築する必要があります。詳細については、「インデックスオプション」を参照してください。

- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

dtSearchVerifyIndex

- **説明:** dtSearch インデックスの存在を確認するときにそれを検証するかどうかを制御します。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

NumSpotlightSearchResults

- **説明:** Spotlight 検索で返すことができる結果の最大数。0 の値は「無制限」を表します。
- **デフォルト:** 1000
- **更新可能:** 可能

SpotlightDefaultSearchIsBeginsWith

- **説明:** デフォルトの Spotlight 検索が「先頭の文字」検索であるか、「含まれる文字」検索（無効の場合）であるか。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

SpotlightEnabled

- **説明:** Network Spotlight 機能を有効にするかどうか。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

SpotlightEnabledAllVolumes

- **説明:** Spotlight のサポートをすべてのボリュームに対して自動的に有効にするかどうか。無効な場合、Spotlight のサポートがボリュームごとに設定されます。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

SpotlightIgnoresUnknownTerms

- **説明:** サーバーが理解しない Spotlight の検索条件を無視するかどうか。たとえば、この設定が有効である場合は、クライアントで「name = test and audio bit rate = 4096」を検索すると、サーバーでは「audio bit rate」の条件が無視されて、単純に「name = test」に一致する結果が返されます。この設定が無効である場合は、1 つ以上の不明な検索条件を含む検索では返される結果が自動的に 0 件になります。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

SpotlightKeypressDelay

- **説明:** Spotlight 検索の要求を処理するまでに待機する時間 (ミリ秒単位)。この遅延により、一連の検索の要求が生成されることなく、ユーザーが検索フィールドに入力できるようになります。たとえば、遅延がない場合、「test」と入力すると 4 つの検索が実行されます。その最初の 3 つ (「t」、「te」、「tes」) はすぐにキャンセルされ、最終的に「test」が検索されます。
- **デフォルト:** 150
- **更新可能:** 可能

SpotlightUsesWindowsKindClassification

- **説明:** Mac クライアントで Spotlight の「kind」検索を実行するときに、サーバーで Windows のさまざまな「種類」へのファイル分類が使用されるかどうか。たとえば、Mac クライアントで「kind = Movie」を検索する場合、サーバーで Windows の「video」の種類を使用して検索が実行され、適切な結果が返されます。この設定が 0 の場合、サーバーで Mac の「kind」が使用されて UTI にマッピングされて、UTI に一致するフ

ファイル拡張子のセットに基づいて検索が実行されます。たとえば、Mac クライアントで「kind = Movie」を検索する場合、これがサーバーで「public.movie」にマッピングされて、対応する拡張子 (.mov、.mpg など)を持つファイルが検索されます。Windows の種類を使用する利点は検索がより迅速であることで、欠点は Mac と Windows で別々にカテゴリ化されているファイル タイプがいくつか存在することです。たとえば、.m4p (iTunes)ファイルは Mac クライアントではオーディオと見なされますが、Windows では「不明」の種類に指定されます。

- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

10.4.10 HSM レジストリキー – 更新可能

次のキーは、Files Connect ArchiveConnect のサポートの特定の機能または動作を制御します。

このセクション内のキーは更新(リフレッシュ)可能です。これは、**Acronis Files Connect Administrator** の **[設定]** ダイアログボックスの **[レジストリの更新]** ボタンをクリックしたとき、または Files Connect サービスの開始時に有効になります。

レジストリのロケーション:

```
\HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services\ExtremeZ-IP\Parameters4\HSM\Refreshable\
```

AlwaysAttemptReadOnlyRecall

- **説明:** 有効にすると、Files Connect が読み取り/書き込みアクセス権でリコールハンドルを開くことに失敗した場合、読み取り/書き込みアクセス権のエラーとは無関係に、読み取りアクセス権でハンドルを開くことを常に試行します。有効にするには、1 に設定します。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

BringOnlineExplicitlyBlocksCopies

- **説明:** [明示的にオンラインにする] 機能によってファイルのコピーをブロックするかどうか。
- **デフォルト:** オン
- **更新可能:** 可能

HSMIntegrity

- **説明:** 有効にすると、HSM 処理の内部整合性が確認されます。これはパフォーマンスに影響する可能性があります。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

HSMSupportEnabled

- **説明:** ArchiveConnect のサポートを有効にするかどうか。
- **デフォルト:** オフ
- **更新可能:** 可能

OfflineColorLabel

- **説明:** オフラインのファイルに適用する色ラベル。指定できる値は「grey」、「green」、「purple」、「blue」、「yellow」、「red」、および「orange」です。
- **デフォルト:** grey
- **更新可能:** 可能

10.4.11 VSS レジストリキー – 更新可能

次のキーは Acronis Files Connect ShadowConnect サポートの特定の機能または動作を制御します。

このセクション内のキーは更新(リフレッシュ)可能です。これは、**Acronis Files Connect Administrator** の [設定] ダイアログボックスの [レジストリの更新] ボタンをクリックしたとき、または Files Connect サービスの開始時に有効になります。

レジストリのロケーション:

```
\HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services\ExtremeZ-IP\Parameters4\VSS\Refreshable\
```

VSSMaxPreviewFileSize

- **説明:** ShadowConnect クライアント モードによって自動的にプレビューするファイルの最大サイズ (MB 単位)。
- **デフォルト:** 20
- **更新可能:** 可能

10.5 Files Connect ストリーム

Files Connect では、Windows NTFS 代替データストリームを使用して、Mac クライアントにファイルを提供するために必要な情報を保存します。通常、代替データ ストリームは Windows では表示できないため、cpstream と delstream の 2 つのコマンドライン ユーティリティが Files Connect に含まれています。これら 2 つのユーティリティにより、NTFS ボリュームの代替データ ストリームにアクセスできるようになります。これらのコマンドライン ユーティリティは低レベル ツールであり、具体的な問題に対してのみ使用する必要があります。通常は、これらを使用する前に、GroupLogic に連絡することをお勧めします。

- cpstream では、セカンダリ ストリームを第 2 の表示可能な場所にコピーすることができます。
- delstream では、NTFS ファイルまたはディレクトリのセカンダリ ストリームを削除することができます。

Files Connect によって使用される最も重要なセカンダリストリームは「GLIAFP_Mapping」というストリームです。このストリームは NTFS ファイル ID と Mac ファイル ID の間のマッピングを保存するために使用されます。これは、Mac 共有の最上位のディレクトリ

にあります。たとえば、Macintosh ユーザー用のボリュームとしてディレクトリ「D:¥Macintosh Files」を共有している場合は、Files Connect によってこのディレクトリに非表示の NTFS セカンダリ ストリームが作成されます。

- Files Connect ボリュームへのアクセス時に問題が発生した場合、このストリームのコピーを作成して GroupLogic に送信することをお勧めします。
 - これを行うには、cpstream を使用して表示可能な場所にコピーします。上記の例では、cpstream "D:¥Macintosh Files:GLIAFP_Mapping" "EZIPINDEX" というコマンドを発行して、「EZIPINDEX」というストリームの表示可能なコピーを作成します。次に、「EZIPINDEX」ファイルを GroupLogic に送信することができます。このファイルは、GroupLogic による問題の診断に役立ちます。
- インデックス ストリームの問題を修正するには、インデックス ストリームの削除が必要になる場合があります。
 - これには、「delstream」ユーティリティを使用できます。インデックス ストリームを削除する前に、[サービス] コントロール パネルで Files Connect サービスを停止します。Files Connect の稼働中にインデックス ストリームを削除しないでください。Files Connect の停止後に、delstream "D:¥Macintosh Files:GLIAFP_Mapping" というコマンドを発行し、インデックス ストリームを削除します。Files Connect を再起動したら、インデックス ストリームの再構築を開始します。これで、発生した問題を解決できます。Files Connect では、マッピング ストリームに加えて、マッピングも定期的に排除されて、古い無効なデータが削除されます。排除中にサーバーが停止した場合、「GLIAFP_MappingPruned」というセカンダリ ストリームが存在します。元のマッピングを削除するときに、ユーザーはこのマッピングも削除して、確実にすべてのストリームが削除された状態にする必要があります。たとえば、delstream "D:¥Macintosh Files:GLIAFP_MappingPruned" を使用します。

10.6 EZIPUTIL コマンドラインツール

EZIPUTIL を使用すると、コマンドラインで Files Connect を使用し管理することができます。このツールの使用を開始するには、コマンドラインで Files Connect インストールディレクトリに移動し、追加引数を指定せずに EZIPUTIL を実行します。これにより、4つの主要カテゴリ、つまり **サーバー**、**ボリューム**、**印刷**、**セッション**に関する詳細情報が得られます。これらのいずれかを選択すると、使用可能なコマンドと例のリストがさらに表示されます。

注意: コマンドラインで使用する各オプションの前にスペースを追加する必要があります。

次の例を参考にしてください。C:\Program Files (x86)\Acronis\Access\Files Connect>eziputil volume /edit /name:1 /support_acls:false

使用可能なすべてのコマンドを以下に示します。

サーバー

Files Connect を開始するには:

EZIPUTIL SERVER /START

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

Files Connect を停止するには:

EZIPUTIL SERVER /STOP

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

ファイルサービスを中断するには:

EZIPUTIL SERVER /SUSPEND

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servername] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

[/DELAY:minutes] - 分単位の遅延 (1 から 60 分)。デフォルトは 2 分です。

[/MESSAGE:message] - クライアントに送信するメッセージ

[/ALLOW-LOGIN] - スケジュールされた中断中にクライアントがログインできるようにする

スケジュールされた中断をキャンセルし、ファイルサービスを再開するには:

EZIPUTIL SERVER /RESUME

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servername] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

Files Connect からサーバー統計を取得するには:

EZIPUTIL SERVER /INFO

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servername] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

Files Connect のオープンファイルのリストを取得するには:

EZIPUTIL SERVER /FILES

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servername] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

Files Connect から現在ログインしているユーザーのリストを取得するには:

EZIPUTIL SERVER /USERS

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servername] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

レジストリの設定の最新表示を得るには:

EZIPUTIL SERVER /REFRESH_REGISTRY

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

Files Connect のサービス接続ポイントを管理するには:

EZIPUTIL SERVER/SCP

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

[/N = 完全修飾ドメイン名] (デフォルト = ローカルマシン名)]

[/I] SCP をインストールする (以前に定義された SCP はすべて上書きされます)

[/U] SCP をアンインストールする

[/D] SCP を表示する

[/Q] 「quiet」モード - 出力やプロンプトがウィンドウに表示されません

[/L] 操作結果を実行ファイルのディレクトリの「.%EzScpManager.log」に記録します

[/S = サービス名] インストール時に SCP に保管された 'ExtremeZ-IP' を上書きします

注意: /I、/U、/D は同時には使用できません。

デバッグログをスプールするには:

EZIPUTIL SERVER /SPOOL_LOG

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

すべてのボリューム IDIndexMaps を排除するには:

EZIPUTIL SERVER /PRUNE

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servername] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

Files Connect からサーバステータスを取得するには:

EZIPUTIL SERVER /STATUS

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servername] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

ボリューム

ボリュームを追加するには:

EZIPUTIL VOLUME /ADD

/NAME:ボリューム名

/PATH:ルートディレクトリのパス

[/READONLY:TRUE|FALSE] - デフォルトはFALSE

[/GUESTSALLOWED:TRUE|FALSE] - デフォルトはTRUE

[/PASSWORD:パスワード] - デフォルトはパスワードなし

[/MAXUSERS:number|UNLIMITED] - デフォルトは UNLIMITED

[/PERSIST:TRUE|FALSE] - デフォルトはTRUE

[/HOMEDIRECTORY:TRUE|FALSE] - デフォルトはFALSE

[/SEARCHINDEX:TRUE|FALSE] - デフォルトはTRUE

[/SEARCHINDEXPATH:インデックスパス] - デフォルトはボリュームのルート

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servername] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

ExtremeZ-IP 5.2 以降で使用可能:

[/RESET_PERMISSIONS:TRUE|FALSE] - デフォルトはFALSE

[/FILENAME_POLICY:TRUE|FALSE] - デフォルトはFALSE

[/IS_TM_VOLUME:TRUE|FALSE] - デフォルトはFALSE

[/USE_TM_QUOTA:TRUE|FALSE] - デフォルトはFALSE

[/TM_QUOTA:number] - デフォルトは 100

[/SUPPORT_ACLS:TRUE|FALSE] - デフォルトはFALSE

[/SUPPORT_SPOTLIGHT:TRUE|FALSE] - デフォルトはFALSE

ボリュームを編集するには:

EZIPUTIL VOLUME /EDIT

/NAME:ボリューム名

[/PATH:ルートディレクトリのパス]

[/READONLY:TRUE|FALSE] - デフォルトはFALSE

[/GUESTSALLOWED:TRUE|FALSE] - デフォルトはTRUE

[/PASSWORD:パスワード] - デフォルトはパスワードなし

[/MAXUSERS:number|UNLIMITED] - デフォルトは UNLIMITED

[/HOMEDIRECTORY:TRUE|FALSE] - デフォルトはFALSE

[/SEARCHINDEX:TRUE|FALSE] - デフォルトはTRUE

[/SEARCHINDEXPATH:インデックスパス] - デフォルトはボリュームのルート

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

ExtremeZ-IP 5.2 以降で使用可能:

[/RESET_PERMISSIONS:TRUE|FALSE] - デフォルトはFALSE

[/FILENAME_POLICY:TRUE|FALSE] - デフォルトはFALSE

[/IS_TM_VOLUME:TRUE|FALSE] - デフォルトはFALSE

[/USE_TM_QUOTA:TRUE|FALSE] - デフォルトはFALSE

[/TM_QUOTA:number] - デフォルトは 100

[/SUPPORT_ACLS:TRUE|FALSE] - デフォルトはFALSE

[/SUPPORT_SPOTLIGHT:TRUE|FALSE] - デフォルトはFALSE

ボリュームを削除するには:

EZIPUTIL VOLUME /REMOVE

`/NAME:ボリューム名`

`[/DISCONNECT:TRUE|FALSE]` - デフォルトは **FALSE**。TRUE の場合、接続されたユーザーの接続が解除されます

`[/SERVERNAME:servername]` - ローカルではない場合

`[/SERVICENAME:servicename]` - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

ボリュームを中断するには:

EZIPUTIL VOLUME /SUSPEND

`/NAME:ボリューム名`

`[/DISCONNECT:TRUE|FALSE]` - デフォルトは **FALSE**。TRUE の場合、接続されたユーザーの接続が解除されます

`[/SERVERNAME:servername]` - ローカルではない場合

`[/SERVICENAME:servicename]` - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

ボリュームを再開するには:

EZIPUTIL VOLUME /RESTART

`/NAME:ボリューム名`

`[/DISCONNECT:TRUE|FALSE]` - デフォルトは **FALSE**。TRUE の場合、接続されたユーザーの接続が解除されます

`[/SERVERNAME:servername]` - ローカルではない場合

`[/SERVICENAME:servicename]` - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

ボリュームの検索インデックスを再構築するには:

EZIPUTIL VOLUME /REINDEX

`/NAME:ボリューム名`

`[/SERVERNAME:servername]` - ローカルではない場合

`[/SERVICENAME:servicename]` - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

ボリュームの ws 検索インデックスを再構築するには:

(Files Connect 10.6.4 以降で使用可能)

EZIPUTIL VOLUME /WS_REINDEX

/NAME:ボリューム名

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

ボリュームの Acronis Content Indexing 検索インデックスを再構築するには:

(Files Connect 10.6.4 以降で使用可能)

EZIPUTIL VOLUME /ACI_REINDEX

/NAME:ボリューム名

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

ボリュームの Acronis Content Indexing 検索インデックスを更新するには:

(Files Connect 10.6.4 以降で使用可能)

EZIPUTIL VOLUME /ACI_UPDATE

/NAME:ボリューム名

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

ボリュームのリストを取得するには:

EZIPUTIL VOLUME /LIST

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

ボリュームのオプションを設定するには:

EZIPUTIL VOLUME /SET

/NAME:ボリューム名

/OS9ICON:OS 9 アイコンへのパス]

/OSXICON:OS X アイコンへのパス]

/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

SFM 共有を移行するには (ExtremeZ-IP 5.2 以降で使用可能):

EZIPUTIL VOLUME /MIGRATE_SFM

/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

SMB 共有をレプリケートするには (ExtremeZ-IP 5.2 以降で使用可能):

EZIPUTIL VOLUME /REPLICATE_SMB

/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

ファイル名ポリシー違反レポートを生成するには:

EZIPUTIL VOLUME /FNPVR

/NAME:ボリューム名] またはすべてのボリュームを対象にする場合 '*' (アスタリスク)
(デフォルト)

/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

印刷

印刷キューを追加するには:

EZIPUTIL PRINT /ADD

/NAME:キューの名前

/METHOD:方法 - 処理方法 (下記参照)

[/PPD:PPD ファイルパス]

[/PPD_ONLY_FROM_SERVER:TRUE|FALSE] - デフォルトはFALSE

[/PERSIST:TRUE|FALSE] - デフォルトはTRUE

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

/ADD コマンドを使用する場合、処理方法を指定するため次のオプションを渡すことができます。

/METHOD:WINDOWS /PRINTER:プリンタ

/METHOD:LPR HOST:ホスト **[/QUEUE:キュー]**

/METHOD:DIRECTORY /PATH:ディレクトリへのパス

印刷キューの名前を変えるには:

EZIPUTIL PRINT /RENAME

/NAME:キューの名前

/NEWNAME:新しいキューの名前

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

印刷キューを削除するには:

EZIPUTIL PRINT /REMOVE

/NAME:キューの名前

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

印刷キューのリストを取得するには:

EZIPUTIL PRINT /LIST

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

すべてのキューの検証コードテキストファイルを最新表示に更新するには:

EZIPUTIL PRINT /REFRESH_CODES

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

印刷処理ログをテキストファイルにエクスポートするには:

EZIPUTIL PRINT /EXPORT_LOG

[/CLEARLOG:TRUE|FALSE] - デフォルトはFALSE

/PATH:ログファイルのフルパス

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

印刷キューを再開するには:

EZIPUTIL PRINT /RESTART

/NAME:キューの名前

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

印刷キューを中断するには:

EZIPUTIL PRINT /SUSPEND

/NAME:キューの名前

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

共有 Windows キューをレプリケートするには (ExtremeZ-IP 5.2 以降で使用可能):

EZIPUTIL PRINT /IMPORT:WINDOWS

/NAME:キューの名前

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

プリントサーバーを無効にするには (プリントサーバーを明示的に再開するまでそのまま):

EZIPUTIL PRINT /STOP

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

プリントサーバーを有効にするには (プリントサーバーを明示的に停止するまでそのまま):

EZIPUTIL PRINT /START

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

セッション

接続された Mac クライアントにメッセージを送信するには:

EZIPUTIL SESSION /SEND_MESSAGE

/MSG:メッセージ - 送信するメッセージ

[/USER_NAME:ユーザー名] ユーザー名またはすべてのクライアントを対象にする場合
'*' (アスタリスク) (デフォルト)

[/SERVERNAME:servername] - ローカルではない場合

[/SERVICENAME:servicename] - 'ExtremeZ-IP' ではない場合

10.7 ローカル SYSTEM アカウントでの Network Reshare および Kerberos 認証

Network Reshare ボリュームにアクセスする際、専用 Active Directory ユーザーアカウントではなく Windows ローカル SYSTEM アカウントで実行される Files Connect サービスを使用するように、Files Connect と Kerberos 認証を構成できます。

警告このようなセットアップは最高基準のセキュリティ標準を満たさないため、実運用環境にはお勧めしません。ただし、厳密にこのタイプの構成が必要な場合は下記の手順に従ってください。

Network Reshare の構成

リモート SMB 共有サーバーで

1. Windows スタートメニューで **Windows 管理ツールからコンピューターの管理** > **[ローカル ユーザーとグループ]** > **[グループ]** を開きます。
2. **[Administrators]** をダブルクリックして、**[追加]** を押します。
3. **[オブジェクトの種類]** で **[コンピューター]** チェックボックスがオンになっていることを確認します。
4. Files Connect サーバーマシンのオブジェクト名を入力して、**[OK]** を押します。
5. **[OK]** を押して、開いているすべてのダイアログボックスを閉じます。

注意: このコンピューター オブジェクトに、リモート SMB 共有でのフルコントロール アクセス許可があることを確認してください。EMC Isilon で真の「フルコントロール」を付与するには、専用アカウントに Isilon の権利 Run as root を付与する必要があります。NetApp で真の「フルコントロール」を付与するには、専用アカウントを NetApp の Administrators グループのメンバーにする必要があります。

一部の NAS デバイスでは、SMB 共有に対するフルコントロールをコンピューターオブジェクトに付与できない場合があります。その場合、Active Directory グループを作成してそこに特定のコンピューター オブジェクトを追加し、その新しく作成した AD グループ自体へのフルコントロール権限を付与します。

注意: Time Machine がリモート SMB 共有で機能するためには、コンピューターオブジェクトに (グループの一部としてではなく) 明示的なフルコントロール アクセス権限が必要です。そうしない場合、そのボリュームのマウントはできますが、バックアップが失敗し、エラーメッセージ「ファイルが見つかりません」がログに追加されます。

Files Connect サーバマシンで

1. **Acronis Files Connect Administrator** で **[設定]** を選択します。
2. **[ファイル サーバー]** タブで **[Network Reshare サポートの有効化]** をクリックします。**[Network Reshare サポートの有効化]** ボタンは **[その他]** セクションにあります。
3. Files Connect サービスを再起動します。
4. **Acronis Files Connect Administrator** で **[ボリューム]** を選択します。
5. **[ボリューム]** ダイアログボックスで **[作成]** をクリックして、**[別のサーバー上]** を選択します。
6. 目的の SMB Reshare への UNC パスを入力して、**[OK]** を押します。

注意: 必ず FQDN または NetBIOS 名を使用し、IP アドレスではないことを確認してください。そうしないと Kerberos ログインに失敗します。

Kerberos 認証を有効にする

Files Connect サーバマシンで

1. **Acronis Files Connect Administrator** で **[設定]** を選択します。
2. **[ファイルサーバー]** タブで **[Kerberos ログインの許可]** チェックボックスをオンにして、**[OK]** を押します。**[Kerberos ログインの許可]** チェックボックスは **[ログイン方式]** セクションにあります。

Active Directory で

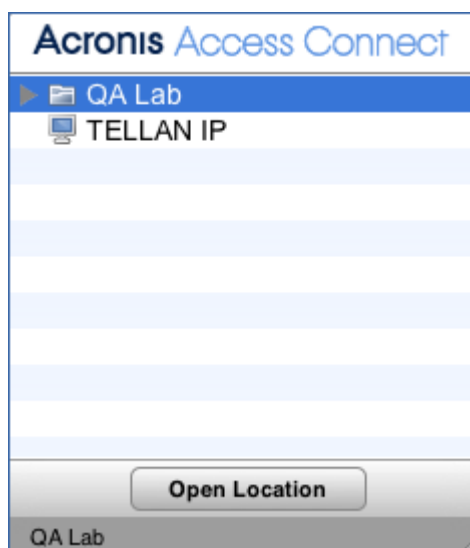
1. ドメインコントローラにログインして、**[ユーザーとコンピューター]** を選択します。

2. Files Connect サーバーコンピューター オブジェクトを右クリックして、**[プロパティ]** を選択します。
3. **[委任]** タブで **[指定されたサービスへの委任でのみこのコンピューターを信頼する]** ラジオボタンをオンにして、**[任意の認証プロトコルを使う]** を選択します。
4. **[追加]** を押して、目的の SMB Reshare ターゲットマシンを見つけます。
5. **[サービスの追加]** ダイアログボックスでサービスタイプ **[cifs]** を選択します。
6. **[OK]** を押して、開いているすべてのダイアログボックスを閉じます。

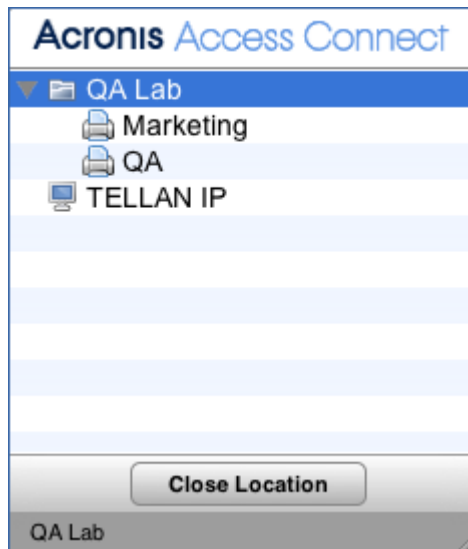
注意: Windows ローカル SYSTEM アカウントから専用 Active Directory アカウントに切り替える場合、まず Acronis Files Connect Administrator で **[Kerberos ログインの許可]** チェックボックスをオフにしてください。それから Network Reshare の初期設定 『119ページ』に進みます。

11 Zidget ヘルプ

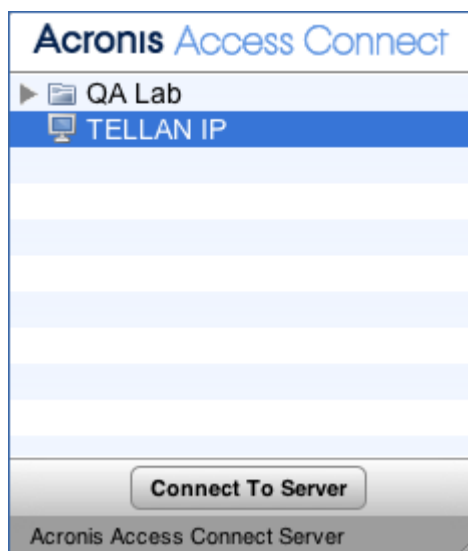
Files Connect Zidget は、Dashboard のウィジェットです。ネットワーク上の Files Connect のファイル サーバーとプリンタの場所を特定しやすくなります。



Zidget では、システム管理者による Files Connect の設定方法に応じて、グループ単位かグループなし、またはその両方の組み合わせでファイル サーバーおよびプリンタを表示できます。上記の例では、最初のリスト **[Support]** はグループです。**[Support]** を選択し、**[Open Location]** ボタンをクリックするか、またはこのグループをダブルクリックして、グループを展開できます。

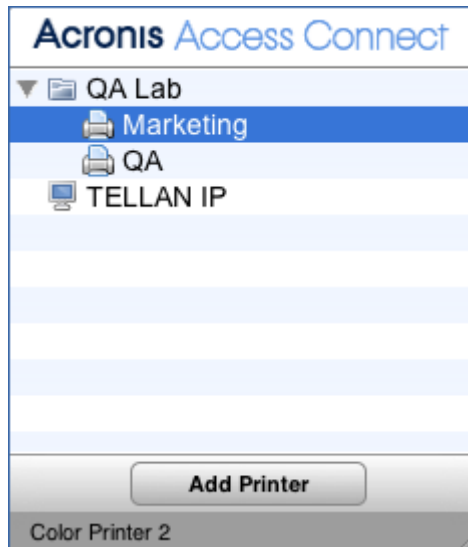


グループを展開すると、グループ内にファイル サーバー、プリンタ、およびサブグループが存在していることがわかります。システム管理者は、これらのグループを使用して、場所、部門、目的などでリソースを編成することもできます。

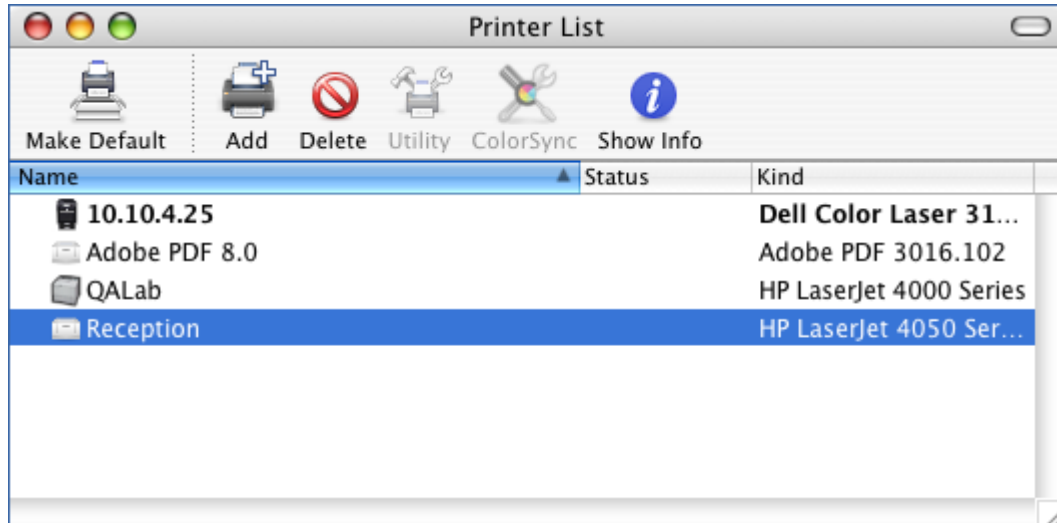


ファイルサーバーに接続するには、そのサーバーをダブルクリックするか、または単にそのサーバーを選択し、**[Connect To Server]** ボタンをクリックします。Dashboard はすぐに最小化され、Mac OS X サーバーのログイン ダイアログが表示されます。

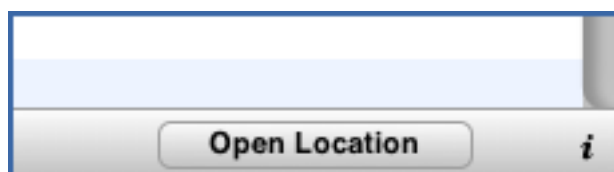
注意: グループ、ファイル サーバー、またはプリンタを選択すると、Zidget の最下部にあるステータスバーに、システム管理者が任意に作成した説明が表示されます。



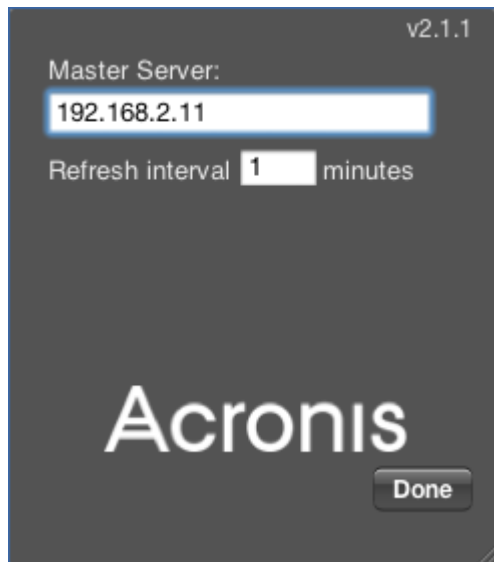
プリンタを追加するには、そのプリンタをダブルクリックするか、または単にそのプリンタを選択し、**[Add Printer]** ボタンをクリックします。ダッシュボードは表示されたままですが、Zidget の最下部にあるステータスバーに、**[Printer Added]** という確認が表示されます。



プリンタは、直ちに使用可能になり、Mac OS X プリンタ セットアップ ユーティリティに表示されます。



Zidget は、ネットワーク上の特定のサーバーからファイル サーバーおよびプリンタに関する情報にアクセスするように構成されている必要があります。このサーバー名は、ほとんどの場合、システム管理者によって事前に構成されています。この設定の変更が必要になった場合は、Zidget の右下にある **[i]** ボタンをクリックして、構成オプションにアクセスします。ここで、**[Primary Server]** 設定を変更できます。



12 既知の問題

Files Connect の機能が一部失われることのある、ソフトウェアまたは構成の既知の問題をすべて以下に掲載します。

- 複数の Active Directory サーバーを使用していて、Files Connect をドメインコントローラにインストールしている場合、Network Reshare と Kerberos 認証ステップを実行すると、AD レプリケーションで問題が発生します。
- ユーザーは、Mac OS X 10.11 以降を実行するコンピューターで、保護されたボリュームのパスワードを入力できません。これは Mac OS X 10.11 以降での問題です。
- Files Connect でボリュームパスワードが設定されたボリュームを Finder.app でマウントすることはできません。また、それが配置されたサーバーを参照することは禁止されます。

注意: ボリュームパスワードは、ユーザーがサーバーへのアクセスに必要とするパスワードとは異なります。

- Files Connect は AFP 接続したクライアントにメッセージを送信できますが、OS X 10.9 以降では、これらのサーバーメッセージがネイティブには表示されません。
- 10.6.3 より前のバージョンでは、ファイル名ポリシー違反レポートがカタログインデックスに依存していますが、これは Reshare ボリュームには存在しません。
- Files Connect サービスでは、DFS レプリケーションジョブが実行されているデータを同時に共有することができません。それを行うと、データが破損する危険性があります。
- Print Accounting は 64 ビットオペレーティングシステムではサポートされません。
- 印刷サービスでは、双方向通信はサポートされていません。Files Connect が単方向の印刷ドライバを検出できない場合は、Files Connect の印刷サービスを使用できません。
- ローカルドライブが Files Connect で共有されているときに、そのドライブを拡張することはできません。推奨する手順は、該当するすべての Files Connect ボリュームを Files Connect から削除し、目的のドライブを拡張してから、再度 Files Connect にボリュームを追加することです。
- Files Connect Network Reshare 機能を使用して DFS 名前空間を共有しているとき、フォルダをあるルートフォルダから別のルートフォルダに移動しようとするエラーが発生します。

13 新機能

最新リリースおよび過去のリリースの詳細については、Acronis Files Connect リリース履歴

『<https://www.acronis.com/en-us/support/documentation/AcronisFilesConnectReleaseHistory>』を参照してください。